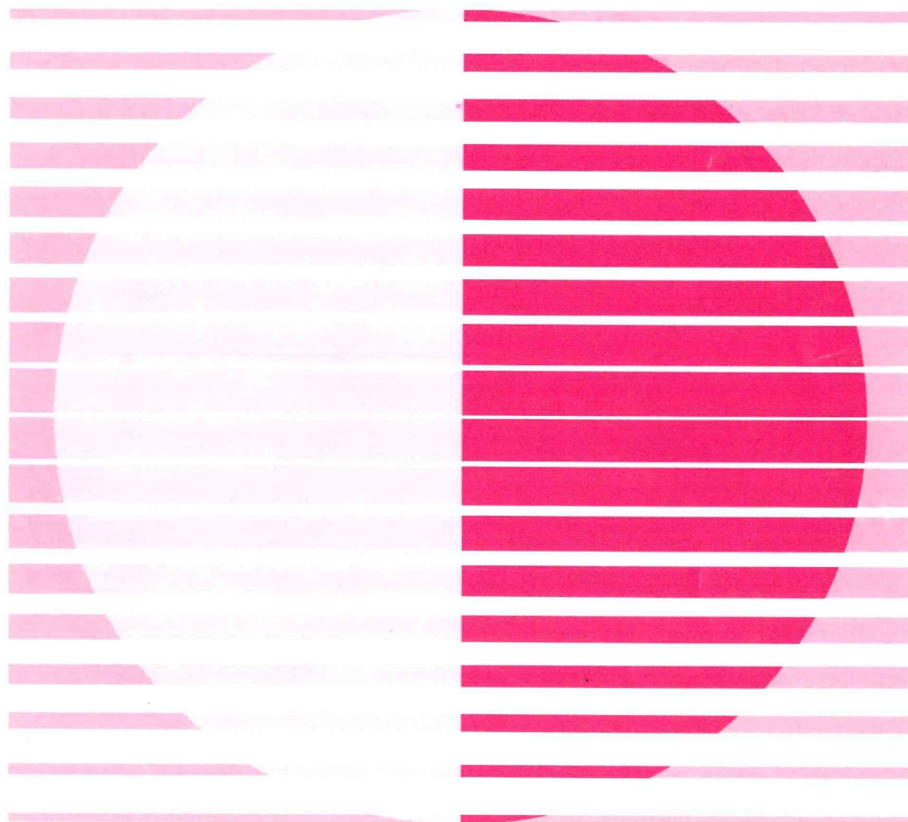


72

日本学校歯科医会会誌

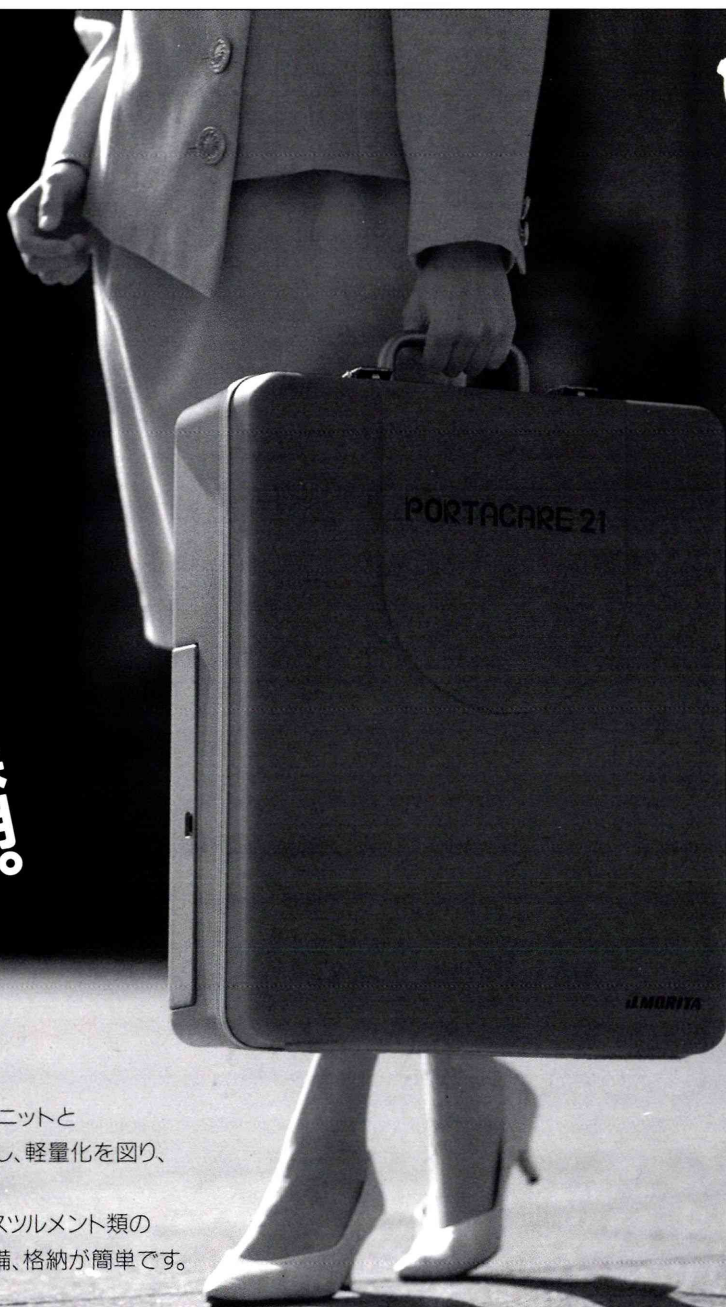
平成 7 年



もくじ

巻頭言	1	小学校部会	87
目次	2	中学校部会	123
第58回全国学校歯科保健研究大会		高等学校部会	139
開催要項	4	口腔機能部会	149
プログラム	10	研究協議会報告・全体協議会	171
第33回全日本よい歯の学校表彰校	18		
シンポジウム	27	加盟団体・本会役員名簿	175
幼稚園・保育所(園)部会	49	編集後記	178

小型・軽量・スイングアーム採用。



診療ユニット本体の機能をユニットと
小型コンプレッサーとに分割し、軽量化を図り、
持ち運びしやすくなりました。
スイングアームの採用でインスツルメント類の
操作性が良くなり、診療の準備、格納が簡単です。

歯科用ポータブル診療ユニット

ポータケア-21

■承認番号 (02B) 第1519号
※受注生産品



資料請求券
ポータケア-21



お口の健康に奉仕する

株式会社 **モリタ**

東京本社・東京都台東区上野2丁目11番15号 電話 ☎ 03-3834-6161
大阪本社・吹田市垂水町3丁目33番18号 電話 ☎ 06-380-2525

株式会社 **モリタ製作所**

本社工場 京都市中京区東山町6番地 電話 ☎ 075-411-2121
久御山工場 京都府久美郡久美山町大字南田小字新保城19号 電話 ☎ 0774-43-7534

株式会社 **モリタ東京製作所**

本社工場 埼玉県野市上池台三丁目1番24号 電話 ☎ 048-852-1315
M I C 埼玉県北足立郡伊奈町小倉729番地 電話 ☎ 048-852-1315

※写真はフル装備
仕様です。

ごあいさつ

社団法人
日本学校歯科医会

会長
加藤 増 夫

1995年の新春を会員の皆様ご健勝でお迎えいただき、心よりお慶び申し上げます。しかしながら1月17日未明の阪神大地震により、多数の方々がご逝去され真に哀悼哀惜に堪えず謹んで深く弔意を表しますとともに30余万人にも及ぶ被災者の方々に対し、心より深くお見舞い申し上げます。

本誌は昨年9月29日、30日の2日間にわたる第58回全国学校保健研究大会にかかわる詳細をまとめました。

富山県は学校歯科保健については全国的に先進県で、遠く大正10年4月富山市歯科医師会では市の委嘱をうけて市内11校の小学校児童12,000人について2ヵ月間にわたり歯科健診・指導が行われました。大正14年からは富山県歯科医師会がこの事業を富山市内全小学校で実施しており、昭和33年にはユニークな形で富山県よい歯の学校運動が展開されており昭和36年には富山県歯科医師会は多年の活動が認められて第3回奥村賞受賞の栄に輝いております。

「前人樹を植えれば後人涼し」との古諺の如く先輩諸兄の学校歯科保健への熱情が赫々たるものであり、昭和39年9月18日、19日には第28回全国学校歯科医大会が富山市で開催されており第58回大会は2度目にあたるところで、今大会は素晴らしい成果を得ましたことに対し富山県学校歯科医会並びに富山県歯科医師会に深甚なる敬意と感謝を表します。

平成6年度文部省学校保健統計によれば12歳児一人平均DMFT数は4.00（男3.69 女4.27）となり、10年前の昭和59年の同保健統計では4.75（男4.37 女5.19）で、このペースではWHO1981年提唱の2000年までの歯科保健目標の数値のクリアは仲々に至難であり、学校歯科医に課せられた使命を痛感する次第であります。

今般「学校保健法施行規則の一部を改正する省令」の施行により本年4月1日から実施となるもので、従来使用していた3号様式は廃止となり、新たに、児童生徒健康診断票（小・中学校用）・生徒学生健康診断票（高等学校用）・幼児健康診断票の3種類となります。

学校歯科医が中心になって記載する部分（歯・口腔）と学校医が中心になって記載する一般の部分は1枚の用紙の表裏または見開きで左右に、となり児童生徒健康診断票は小学校及び中学校の9年間連続して使用することになります。未処置歯の記述は従来のC₁～C₄からCのみとし、新たに要観察歯（CO）を記入するようになりました。

プライバシーの保護・事後措置など近年の児童・生徒・学生・幼児の健康上の問題変化、医療技術の進歩、地域における保健医療の状況の変化などを踏まえて、児童生徒等の健康診断の検査項目等の見直しが行われました。本会はこのため中央研修会を行います。加盟団体でも伝達指導をよろしくお願い申し上げます。ごあいさつと致します。

●巻頭言	1
------	---

第58回全国学校歯科保健研究大会 4

開催要領	4
メインテーマ	8
プログラム	10
全国学校歯科保健研究大会年次表	17
第33回全日本よい歯の学校表彰校	18
文部大臣賞受賞校プロフィール	20
第33回全日本よい歯の学校表彰審査を終えて	24
記念講演	26

シンポジウム 27

座 長 ●	日本大学松戸歯学部教授	森本 基	28
シンポジスト ●	日本体育大学教授	吉田瑩一郎	31
	文部省体育局学校健康教育課教科調査官	戸田 芳雄	35
	富山県上市町立宮川小学校長	廣田 功	39
	沖縄県歯科医師会学校歯科担当理事	宮城 正廣	47

公開授業(保育)/領域別研究協議会 49

幼稚園・保育所(園)部会 49

座 長 ●	日本大学松戸歯学部教授	森本 基	50
助 言 者 ●	文部省体育局学校健康教育課教科調査官	戸田 芳雄	54
発 表 者 ●	大阪府和泉市北池田保育園看護婦	紀之定美津代	61
	東京都練馬区歯科医師会理事	中田 郁平	71
	富山県八尾町立杉原幼稚園園長代理	中川 悦子	77

小学校部会 87

公開授業校 88

座 長 ●	明海大学歯学部教授	中尾 俊一	92
助 言 者 ●	日本体育大学教授	吉田瑩一郎	96
発 表 者 ●	福井県福井市立東郷小学校教務主任	村上恵美子	102
	山口県阿武町立奈古小学校学校歯科医	和田 忠子	104
	富山県砺波市立砺波北部小学校教諭	貝淵 悦子	111

中学校部会123

公開授業校.....124

座 長 ●	日本学校歯科医会常務理事	中脇 恒夫.....126
助 言 者 ●	日本学校歯科医会副会長	西連寺愛憲.....128
発 表 者 ●	東京都江戸川区立葛西中学校養護教諭	西 恵子.....130
	滋賀県大津市立田上中学校養護教諭	松崎 典子.....133
	富山県氷見市立八代中学校養護教諭	高澤登志子.....135

高等学校部会139

座 長 ●	東京医科歯科大学歯学部教授	岡田昭五郎.....140
助 言 者 ●	青森県学校歯科医会常務理事	奥寺 文彦.....142
発 表 者 ●	鹿児島県立鹿屋高等学校学校歯科医	川本 陽一.....144
	富山県立伏木高等学校学校歯科医	四日 隆夫.....146

口腔機能部会149

座 長 ●	東京医科歯科大学歯学部教授	黒田 敬之.....150
助 言 者 ●	東京医科歯科大学歯学部病院長	大山 喬史.....152
発 表 者 ●	新潟大学歯学部助手	山村 千絵.....155
	日本大学歯学部教授	赤坂 守人.....161

研究協議会報告171

全 体 協 議 会172

●加盟団体名簿・日本学校歯科医会役員名簿.....175

●編 集 後 記.....178

第58回
全国学校歯科保健
研究大会

開催要項

1 趣 旨

生涯を通して自分の身体に合った歯科管理の方法を身につけることの重要さは言うまでもありませんが、学校における保健活動はその基礎形成に大きな役割を担っております。

また、8020運動を推進する学校歯科保健の立場からも、一層の向上・発展が求められているところであります。

このため本研究大会は、多年にわたる研究・実践の成果を基に学校歯科保健の包括化を主題とし「発達段階に即した歯科保健活動の生活化達成をめざして」について、より広い視点から研究協議を深めて、学校・家庭・地域社会が一体となって進める学校歯科保健活動の推進に寄与することを目的として開催するものであります。

2 主 題

学校歯科保健の包括化

—— 発達段階に即した歯科保健活動の生活化達成をめざして ——

3 主 催

日本学校歯科医会、日本学校保健会、富山県学校歯科医会、富山県歯科医師会、富山県、富山県教育委員会、富山市、富山市教育委員会

4 後 援

文部省、厚生省、日本歯科医師会、日本歯科衛生士会、富山医科薬科大学口腔外科学教室、富山市歯科医師会、富山県学校保健会、富山市学校保健会、富山県医師会、富山市医師会、富山県薬剤師会、富山県学校薬剤師会、富山県市町村教育委員会連合会、富山県国公立幼稚園長会、富山県私立幼稚園協会、富山県小学校長会、富山県中学校長会、富山県高等学校長協会、富山県私立高等学校長協会、富山県国公立幼稚園教育研究会、富山県小学校教育研究会、富山県中学校教育研究会、富山県高等学校教育研究会、富山県保健会保健主事会、富山県学校保健会養護教諭会、富山県PTA連合会、富山県高等学校PTA連合会、富山県歯科技工士会、富山県歯科衛生士会

5 期 日

平成6年9月29日(木)～30日(金)

6 会 場

▶第1日

◎式典, 表彰式, 記念講演, シンポジウム

富山県民会館

〒930 富山市新総曲輪4-18 TEL 0764-32-3111

◎懇親会

富山第一ホテル

〒930 富山市桜木町10-10 TEL 0764-42-4411

▶第2日

◎公開授業

(1) 小学校部会: 富山市立東部小学校

〒930 富山市石金1丁目5-44 TEL 0764-21-3445

(2) 中学校部会: 富山市立芝園中学校

〒930 富山市芝園町3丁目1-26 TEL 0764-41-4638

◎領域別研究協議会

(1) 幼稚園, 保育所(園)部会: 北日本新聞ホール

〒930 富山市安住町2-14 TEL 0764-45-3300

(2) 小学校部会: 富山県民会館大ホール

〒930 富山市新総曲輪4-18 TEL 0764-32-3111

(3) 中学校部会: 富山県農協会館 8階ホール

〒930 富山市新総曲輪2-21 TEL 0764-45-2051

(4) 高等学校部会: 富山県民会館 401号室

〒930 富山市新総曲輪4-18 TEL 0764-32-3111

(5) 口腔機能部会: 富山県民会館 304号室

〒930 富山市新総曲輪4-18 TEL 0764-32-3111

◎研究協議会報告, 全体協議会, 閉会式

富山県民会館大ホール

〒930 富山市新総曲輪4-18 TEL 0764-32-3111

7 参 加 者

学校歯科医, 歯科医師, 歯科教育関係者, 都道府県市町村教育委員会関係職員, 学校・幼稚園・保育所の教職員, 学校医, 学校薬剤師, 歯科技工士, 歯科衛生士, PTA会員, その他歯科保健関係者

8 日程及び内容

日 / 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
29日 (木)		受 付	開会式・表彰式	昼 食	記念講演	シンポジウム	シンポジウム	移動	懇親会	(第一ホテル)

30 日 (金)	幼稚園・ 保育所部会	希望する公開 授業に参加し てください。	受 付	研究協議会 (北日新聞ホール)	昼 食	研究 協議 会 報 告	全 体 協 議 会	閉 会 式	
	小学校部会	受 付	公開授業 (東部小)	研究協議会 (県民会館ホール)					
	中学校部会	受 付	公開授業 (芝園中)	研究協議会 (農協会館ホール)					
	高等学校部会	希望する公開 授業に参加し てください。	受 付	研究協議会 (県民401)					
	口腔機能部会	受 付	研究協議会 (県民304)	希望する部会 協議に参加し てください。					

(1) 開会式・表彰式

(2) 記念講演

演 題 「人生みな恩人」
講 師 富永 一朗先生

(3) シンポジウム

テ ー マ 「発達段階に即した歯科保健活動の生活化達成をめざして」
座 長 日本大学松戸歯学部教授 森本 基
シンポジスト 日本体育大学教授 吉田瑩一郎
文部省体育局学校健康教育課教科調査官 戸田 芳雄
富山県上市町立宮川小学校校長 廣田 功
沖縄県歯科医師会学校歯科担当理事 宮城 正廣

(4) 公開授業 (30日 9:30~10:15)

- 小学校 富山市立東部小学校 (県民会館→学校→県民会館とバスあり)
- 中学校 富山市立芝園中学校

(5) 領域別研究協議会 (30日 11:00~13:00)

① 幼稚園・保育所(園)部会

座 長	日本大学松戸歯学部教授	森本 基
発 表 者	大阪府和泉市北池田保育所看護婦	紀之定美津代
”	東京都練馬区歯科医師会理事	中田 郁平
”	富山県八尾町立杉原幼稚園園長代理	中川 悦子
助 言 者	文部省体育局学校健康教育課教科調査官	戸田 芳雄

② 小学校部会

座 長	明海大学歯学部教授	中尾 俊一
発 表 者	福井県福井市立東郷小学校教務主任	村上恵美子
”	山口県阿武町立奈古小学校歯科医	和田 忠子
”	富山県砺波市立砺波北部小学校教諭	貝淵 悦子
助 言 者	日本体育大学教授	吉田瑩一郎

③ 中学校部会

座 長	日本学校歯科医会常務理事	中脇 恒夫
発 表 者	東京都江戸川区立葛西中学校養護教諭	西 恵子
”	滋賀県大津市立田上中学校養護教諭	松崎 典子
”	富山県氷見市立八代中学校養護教諭	高澤登志子
助 言 者	日本学校歯科医会副会長	西連寺愛憲

④ 高等学校部会

座 長	東京医科歯科大学歯学部教授	岡田昭五郎
発 表 者	鹿児島県立鹿屋高等学校学校歯科医	川本 陽一
”	富山県立伏木高等学校学校歯科医	四日 隆夫
助 言 者	青森県学校歯科医会常務理事	奥寺 文彦

⑤ 口腔機能部会 (9:30~11:00)

座 長	東京医科歯科大学歯学部教授	黒田 敬之
発 表 者	新潟大学歯学部助手	山村 千絵
”	日本大学歯学部教授	赤坂 守人
助 言 者	東京医科歯科大学歯学部病院長	大山 喬史

(6) 研究協議会報告、全体協議会、閉会式 (30日 14:00~16:30)

メインテーマ

学校歯科保健 の包括化

過去、日本学校歯科医会の大会は、昭和45年までは毎回当面する学校歯科保健の諸問題の中から主題を設け開催されてきたが、昭和46年の第35回大会では、「保健管理と保健指導の調和」をメインテーマとして研究協議と実践を重ね、学校歯科保健活動の推進に大きく貢献してきたところである。

とりわけ、昭和53年には『小学校 歯の保健指導の手引き』が文部省から発行され、その実践上のモデルとなる「むし歯予防推進指定校」が全国各県に設けられるなど、保健管理と保健指導の調和を目指した活動は小学校を中心に大きく前進するに至った。

しかし、幼・小・中・高校を一貫した歯科保健指導の系統や、学校・家庭・地域社会との連携の在り方など、多くの問題が残されている。

このため、「保健管理と保健指導の調和」のテーマは、学校歯科保健での永遠の課題でもあるが、これを発展的に捉え、第51回大会を期して「学校歯科保健の包括化」とし、研究と実践を重ね、課題解明に取り組んできたところである。

この度（平成4年）前述の『小学校 歯の保健指導の手引き』が改訂され発達段階に即した理解を通して、歯や口の健康を自ら育てる態度・習慣づけの大切さや、生涯を通じて健康な生活を送るための基礎としての歯科保健の必要性が指摘されている。

ここに、日本学校歯科医会は、時代の要請に対応しながら、来るべき世紀に向けて、わが国の学校歯科保健の一層の充実発展と、この活動を通じて「心豊かでたくましく生きる人間の育成」を願うものである。

◇主 題

学 校 歯 科 保 健 の 包 括 化
—発達段階に即した歯科保健活動の生活化達成をめざして—

◇シンポジウム

発達段階に即した歯科保健活動の生活化達成をめざして

1. 学校歯科保健指導の目標と学習内容の関連
2. 学校歯科保健指導計画と指導の重点
3. 学校と家庭、地域との連携の在り方
4. 学校歯科保健における学校歯科医の役割

◇部会別課題

(幼稚園・保育所部会)
幼稚園・保育所における
歯科保健指導の実践

(小学校部会)
小学校における
歯科保健指導の実践

(中学校部会)
中学校における
歯科保健指導の実践

(高等学校部会)
高等学校における
歯科保健指導の実践

(口腔機能部会)
口腔機能の健全な
育成をめざして

◇研究の
内容

① 幼児の発達段階からみた歯科保健指導の目標と内容について

② 幼児の自主性を育て習慣化を図る指導計画と指導の在り方

③ 保護者の理解を深めるための家庭との連携の在り方

④ 幼稚園・保育所における歯科保健指導での園歯科医の役割とかかわり方

① 小学生の発達段階からみた歯科保健指導の目標と内容について

② 小学生の自発性を育て習慣化を図る指導計画と指導の在り方

③ 学校と家庭、地域社会との連携の在り方

④ 小学校における歯科保健指導での学校歯科医の役割とかかわり方

① 中学生の発達段階からみた歯科保健指導の目標と内容について

② 中学生に知的理解を図りながら習慣化をめざす指導計画と指導の在り方

③ 学校と家庭、地域との連携の在り方

④ 中学校における歯科保健指導での学校歯科医の役割とかかわり方

① 高校生の発達段階からみた歯科保健指導の目標と内容について

② 高校生に知的理解を図りながら習慣化をめざす指導計画と指導の在り方

③ 学校と家庭、地域との連携の在り方

④ 高等学校における歯科保健指導での学校歯科医の役割とかかわり方

生 活 化

第58回
全国学校歯科保健
研究大会

プログラム

- 期日 平成6年9月29日(木)・30(金)
- 場所 富山県民会館 他
公開授業指定校

第1日
9月29日
(木)

受付開始 9:30～

司会(フリーアナウンサー) 境 井 智 子

1 開会式・表彰式

(10:00～12:00)

(1) 開 会 式

開 会 宣 言

富山県学校歯科医会副会長

永 森 尚 之

国 歌 斉 唱

物故者への黙禱

(2) 開 会

開会のことば

富山県学校歯科医会会長

黒 木 正 直

挨 拶

日本学校歯科医会会長

加 藤 増 夫

富山県歯科医会会長

藤 井 弘

(3) 祝 辞

文部大臣

与謝野 馨

厚生大臣

井 出 正 一

衆議院議員(地元選出)

綿 貫 民 輔

参議院議員(地元選出)

永 田 良 雄

参議院議員

井 上 裕

参議院議員

柳 川 覺 治

参議院議員

大 島 慶 久

富山県知事

中 沖 豊

富山市長

正 橋 正 一

日本歯科医師会会長

中 原 爽

日本学校保健会会長

村 瀬 敏 郎

(4) 来 賓 紹 介

(5) 表 彰 式

・感謝状贈呈

日本学校歯科医会会長

加 藤 増 夫

前回開催地代表

埼玉県歯科医師会会長

蓮 見 健 壽

・全日本よい歯の学校表彰

審 査 報 告 全日本よい歯の学校審査委員長 西連寺 愛 憲
賞状授与式

・文 部 大 臣 賞 文部大臣 与謝野 馨
〈受 賞 校〉

山形県 西村山郡大江町立本郷東小学校
横浜市 横浜市立千秀小学校
長野県 長野市立鍋屋田小学校
愛知県 常滑市立大野小学校
福井県 福井県立福井南養護学校
富山県 富山市立安野屋小学校

・日本歯科医師会特別賞 日本歯科医師会会長 中 原 爽
〈受 賞 校〉

群馬県 高崎市立養護学校
千葉県 千葉市立本町小学校
山梨県 山梨大学教育学部附属小学校
静岡県 引佐郡引佐町立田沢小学校
岐阜県 恵那市立中野方小学校
京都府 京都市立伏見板橋小学校（代表受賞校）
大阪市 大阪市立晴明丘南小学校
鹿児島県 川辺郡知覧町立霜出小学校

・よい歯の学校表彰 日本学校歯科医会会長 加 藤 増 夫
受賞校代表 東京都 中央区立常盤小学校

・受賞校代表謝辞 山形県 大江町立本郷東小学校長 寒河江 明 雄

(6) 祝 電 披 露

(7) 次回開催地決定報告 日本学校歯科医会会長 加 藤 増 夫

(8) 学校歯科の鐘引き継ぎ 富山県学校歯科医会から愛知県歯科医師会へ

(9) 次回開催地代表挨拶 愛知県歯科医師会会長 宮 下 和 人

(10) 閉 会 の 言 葉 富山県学校歯科医会副会長 成 瀬 達 雄

— 昼 食 —

・アトラクション（12：20～12：50）

「越中おわら節」

2 記念講演

(13:00~14:20)

- ・演 題 「人生みな恩人」
- ・講 師 富永 一朗先生
- ・謝 辞 富山県学校歯科医会専務理事 金 森 安 信

— 休 憩 —

3 シンポジウム

(14:30~16:30)

- ・テ ー マ 「発達段階に即した歯科保健活動の生活化達成をめざして」
- 座 長 日本大学松戸歯学部教授 森 本 基
- シンポジスト 日本体育大学教授 吉 田 瑩一郎
- 文部省体育局学校健康教育課教科調査官
- 戸 田 芳 雄
- 富山県上市町立宮川小学校校長 廣 田 功
- 沖縄県歯科医師会学校歯科担当理事
- 宮 城 正 廣

— 移 動 —

4 懇 親 会

(17:00~19:00)

- (1) 開宴のことば 富山県学校歯科医会副会長 永 森 尚 之
- (2) 挨 拶 富山県学校歯科医会会長 黒 木 正 直
- 日本学校歯科医会会長 加 藤 増 夫
- (3) 乾 杯 富山県教育委員会教育長 吉 枝 信 朗
- (4) アトラクション 越中五箇山「麦や節」
- (5) 次回開催県挨拶 愛知県歯科医師会会長 宮 下 和 人
- (6) 閉宴のことば 富山県学校歯科医会副会長 成 瀬 達 雄

第2日

9月30日

(金)

1

公開授業・領域
別研究協議会

(9:30~13:00)

●幼稚園・保育所(園)部会

北日本新聞社ホール

- 研究協議会 (11:00~13:00) 北日本新聞社北2階ホール

テーマ 「幼稚園・保育所における歯科保健指導の実践」

座長 日本大学松戸歯学部教授 森本 基

発表者 大阪府和泉市北池田保育園看護婦 紀之定 美津代

東京都練馬区歯科医師会理事 中田 郁平

富山県八尾町立杉原幼稚園園長代理 中川 悦子

助言者 文部省体育局学校健康教育課教科調査官 戸田 芳雄

●小学校部会

富山市立東部小学校

富山県民会館大ホール

- 公開授業 (9:30~10:15) 富山市立東部小学校

全校全クラスの授業公開

- 研究協議会 (11:00~13:00) 富山県民会館大ホール

テーマ 「小学校における歯科保健指導の実践」

座長 明海大学歯学部教授 中尾 俊一

発表者 福井県福井市立東郷小学校教務主任 村上 恵美子

山口県阿武町立奈古小学校学校歯科医 和田 忠子

富山県砺波市立砺波北部小学校教諭 貝 淵 悦子

助言者 日本体育大学教授 吉田 瑩一郎

●中学校部会

富山市立芝園中学校
富山農協会館 8 階ホール

- 公開授業（9：30～10：15） 富山市立芝園中学校
●研究協議会（11：00～13：00） 富山農協会館 8 階ホール

テーマ 「中学校における歯科保健指導の実践」

座長	日本学校歯科医会常務理事	中 脇 恒 夫
発表者	東京都江戸川区立葛西中学校養護教諭	西 恵 子
	滋賀県大津市立田上中学校養護教諭	松 崎 典 子
	富山県氷見市立八代中学校養護教諭	高 澤 登志子
助言者	日本学校歯科医会副会長	西連寺 愛 憲

●高等学校部会

県民会館 401号室

- 研究協議会（11：00～13：00） 県民会館 401号室

テーマ 「高等学校における歯科保健指導の実践」

座長	東京医科歯科大学歯学部教授	岡 田 昭五郎
発表者	鹿児島県立鹿屋高等学校学校歯科医	川 本 陽 一
	富山県立伏木高等学校学校歯科医	四 日 隆 夫
助言者	青森県学校歯科医会常務理事	奥 寺 文 彦

●口腔機能部会

県民会館 304号室

- 研究協議会（9：30～11：00）

テーマ 「口腔機能の健全育成をめざして」

座長	東京医科歯科大学歯学部教授	黒 田 敬 之
発表者	新潟大学歯学部助手	山 村 千 絵
	日本大学歯学部教授	赤 坂 守 人

助言者 東京都医科歯科大学歯学部病院長 大 山 喬 史

— 県民会館大ホールへ移動し昼食 —

2 研究協議会
報告

(14:00~15:00)
富山県民会館ホール

・座 長	日本大学松戸歯学部教授	森 本 基
◆報 告 者		
・シンポジウム	日本大学松戸歯学部教授	森 本 基
・幼・保部会	日本大学松戸歯学部教授	森 本 基
・小学校部会	明海大学歯学部教授	中 尾 俊 一
・中学校部会	日本学校歯科医会常務理事	中 脇 恒 夫
・高等学校部会	東京医科歯科大学歯学部教授	岡 田 昭五郎
・口腔機能部会	東京医科歯科大学歯学部教授	黒 田 敬 之

— 休 憩 —

3 全体協議会

(15:00~16:00)

・司 会	日本学校歯科医会副会長	西連寺 愛 憲
・議 長 団	日本学校歯科医会副会長	木 村 慎一郎
	前回開催地代表（埼玉県歯科医師会会長）	
		蓮 見 健 壽
	次回開催地代表（愛知県歯科医師会会長）	
		宮 下 和 人
	今回開催地代表（富山県学校歯科医会会長）	
		黒 木 正 直
・報 告		
	第57回大会採択事項の処理報告	
	埼玉県歯科医師会会長	蓮 見 健 壽

・議 事

第1号議案 地方交付税積算基準による学校医等の手当ての完全支給を要望する。

代表提案者 青森県学校歯科医会

第2号議案 CO・GOならびに咀嚼機能の問題について教育的周知徹底を要望する

代表提案者 福島県歯科医師会

第3号議案 学校保健委員会の設置ならびに活動の充実を強く要望する

代表提案者 富山県学校歯科医会

・大会宣言起草

(起草委員会を組織)

・大会宣言

・閉会のことば

4 閉 会 式

(16:00~)

富山県学校歯科医会理事

吉 田 茂



▶▶▶全国学校歯科保健研究大会年次表

回	開催地	年 月 日	回	開催地	年 月 日
①	東 京	昭和 6 年 4 月 6 日	③①	大 阪	昭和41年11月19～20日
②	東 京	昭和 7 年 4 月 8 日	③②	名古屋	昭和42年11月11～12日
③	福 岡	昭和 8 年 5 月20～22日	③③	熊 本	昭和43年11月10～12日
④	名古屋	昭和 9 年 5 月20～22日	③④	滋 賀	昭和44年 9 月21～22日
⑤	東 京	昭和10年 5 月19～20日	③⑤	静 岡	昭和45年10月25～26日
⑥	山 梨	昭和11年 5 月 3 ～ 5 日	③⑥	千 葉	昭和46年10月28～29日
⑦	大 阪	昭和12年 5 月16～18日	③⑦	秋 田	昭和47年10月10～11日
⑧	静 岡	昭和13年 5 月 1 ～ 3 日	③⑧	東 京	昭和48年11月17～18日
⑨	京 都	昭和14年 9 月13～15日	③⑨	京 都	昭和49年10月12～13日
⑩	宮 崎	昭和15年 5 月11～13日	④①	香 川	昭和50年11月15～16日
⑪	秋 田	昭和16年 6 月14～16日	④②	栃 木	昭和51年10月30～31日
⑫	兵 庫	昭和17年 5 月 9 ～10日	④③	神奈川	昭和52年 9 月30日～10月 1 日
⑬	東 京	昭和18年 5 月16～17日	④④	大 阪	昭和53年11月17～18日
⑭	名古屋	昭和25年10月21日	④⑤	兵 庫	昭和54年11月 9 ～10日
⑮	福 岡	昭和26年10月 5 日	④⑥	鹿児島	昭和55年11月14～15日
⑯	宮 城	昭和27年 8 月 3 日	④⑦	東 京	昭和56年11月13～14日
⑰	香 川	昭和28年11月14～15日	④⑧	愛 媛	昭和57年10月15～16日
⑱	島 根	昭和29年10月 8 日	④⑨	福 岡	昭和58年11月25～26日
⑲	東 京	昭和30年11月23～24日	⑤①	山 形	昭和59年 9 月28～29日
⑳	北海道	昭和31年 8 月 5 ～ 6 日	⑤②	奈 良	昭和60年10月25～26日
㉑	岐 阜	昭和32年 7 月21～22日	⑤③	岩 手	昭和61年 9 月19～20日
㉒	栃 木	昭和33年10月24～25日	⑤④	岐 阜	昭和62年10月23～24日
㉓	青 森	昭和34年10月11～12日	⑤⑤	青 森	昭和63年10月14～15日
㉔	和歌山	昭和35年 9 月25～26日	⑤⑥	和歌山	平成元年10月27～28日
㉕	神奈川	昭和36年11月12～14日	⑤⑦	広 島	平成 2 年10月19～20日
㉖	京 都	昭和37年11月23～24日	⑤⑧	宮 城	平成 3 年10月18～19日
㉗	山 形	昭和38年10月 5 ～ 6 日	⑤⑨	徳 島	平成 4 年11月13～14日
㉘	富 山	昭和39年 9 月18～19日	⑤⑩	埼 玉	平成 5 年12月 2 ～ 3 日
㉙	東 京	昭和40年10月17～18日	⑤⑪	富 山	平成 6 年 9 月29～30日

第33回

全日本よい歯の 学校表彰校

よい歯の学校表彰を受けた学校の内、最優秀6校に対し文部大臣賞と副賞が、特別賞受賞校には日本歯科医師会より会長賞が授与された。

最優秀受賞校

- 山形県 西村山郡大江町立本郷東小学校
- 横浜市 横浜市長千秀小学校
- 長野県 長野市立鍋屋田小学校
- 愛知県 常滑市立大野小学校
- 福井県 福井県立福井南養護学校
- 富山県 富山市立安野屋小学校

特別賞受賞校

- 群馬県 高崎市立養護学校
- 千葉県 千葉市立本町小学校
- 山梨県 山梨大学教育学部附属小学校
- 静岡県 引佐郡引佐町立田沢小学校
- 岐阜県 恵那市立中野方小学校
- 京都府 京都市立伏見板橋小学校
- 大阪府 大阪市立晴明丘南小学校
- 鹿児島県 川辺郡知覧町立霜出小学校

表 彰 校

青 森 県 八戸市立松館小学校
 岩 手 県 胆沢郡衣川村立衣川小学校
 宮 城 県 亘理郡亘理町立高屋小学校
 宮 城 県 栗原郡栗駒町立烏矢崎小学校
 宮 城 県 紫田郡紫田町立東船岡小学校
 秋 田 県 由利郡鳥海町立笹子小学校
 茨 城 県 西茨城郡岩間町立岩間第三小学校
 茨 城 県 鹿島郡鹿島町立豊郷小学校
 栃 木 県 佐野市立植野小学校
 群 馬 県 吾妻郡長野原町立応桑小学校
 群 馬 県 高崎市立六郷小学校
 千 葉 県 船橋市立若松小学校
 千 葉 県 市川市立真間小学校
 千 葉 県 市川市立国分小学校
 千 葉 県 柏市立十余二小学校
 埼 玉 県 南埼玉郡宮代町立東小学校
 埼 玉 県 浦和市立常盤小学校
 埼 玉 県 越谷市立大袋小学校
 埼 玉 県 大宮市立桜木小学校
 東 京 都 世田谷区立三軒茶屋小学校
 東 京 都 中央区立常盤小学校
 東 京 都 江東区立水神小学校
 東 京 都 江東区立扇橋小学校
 東 京 都 大田区立清水窪小学校
 東 京 都 豊島区立高田小学校
 東 京 都 豊島区立目白小学校
 東 京 都 北区立滝野川小学校
 神 奈 川 県 厚木市立鳶尾小学校
 神 奈 川 県 平塚市立港小学校
 神 奈 川 県 横須賀市立豊島小学校
 神 奈 川 県 横須賀市立走水小学校
 横 浜 市 横浜市立能見台小学校
 横 浜 市 横浜市立南台小学校
 新 潟 県 西蒲原郡分水町立分水小学校
 静 岡 県 静岡市立城内小学校
 静 岡 県 静岡市立竜南小学校
 静 岡 県 静岡市立清沢小学校

名 古 屋 市 名古屋市立牧野小学校
 名 古 屋 市 名古屋市立豊田小学校
 岐 阜 県 瑞浪市立土岐小学校
 岐 阜 県 岐阜市立厚見小学校
 三 重 県 久居市立桃園小学校
 石 川 県 金沢市立菊川町小学校
 滋 賀 県 八日市市立布引小学校
 和 歌 山 県 和歌山市立中之島小学校
 奈 良 県 吉野郡川上村立川上西小学校
 京 都 府 綴喜郡宇治田原町立田原小学校
 京 都 府 京都市立六原小学校
 大 阪 府 大阪府立和泉養護学校
 大 阪 府 和泉市立南横山小学校
 大 阪 府 堺市立上神谷小学校
 大 阪 府 箕面市立萱野北小学校
 大 阪 府 箕面市立萱野小学校
 大 阪 市 大阪市立海老江西小学校
 大 阪 市 大阪市立中津南小学校
 兵 庫 県 姫路市立野里小学校
 神 戸 市 神戸市立泉台小学校
 岡 山 県 御津郡建部町立福渡小学校
 広 島 県 安芸郡音戸町立早瀬小学校
 広 島 県 佐伯郡大柿町立大君小学校
 広 島 県 東広島市立小谷小学校
 島 根 県 八束郡玉湯町立玉湯小学校
 山 口 県 山口大学教育学部附属山口小学校
 愛 媛 県 伊予三島市立豊岡小学校
 愛 媛 県 今治市立桜井小学校
 愛 媛 県 松山市立小野小学校
 徳 島 県 麻植郡鴨島町立鴨島小学校
 香 川 県 香川郡塩江町立安原小学校
 福 岡 県 北九州市立鳴水小学校
 福 岡 県 北九州市立祝町小学校
 福 岡 県 春日市立春日野小学校
 福 岡 県 大牟田市立川尻小学校
 福 岡 市 福岡市立赤坂小学校
 熊 本 県 八代市立昭和小学校

第 33 回
全日本よい歯の学校
文部大臣賞受賞校
プロフィール

山形県西村山郡大江町立本郷東小学校

〒990-11

山形県西村山郡大江町大字本郷678番地

TEL 0237-62-2821

●校長 寒河江 明 雄

●学校歯科医 五十嵐 雄 一

本校は明治7年に創立され、今年で120周年を迎える歴史と伝統のある学校である。

J R山形駅よりローカル線、^{あてらざわ}左沢線の終着駅より西へ約2 km、雄大な朝日連峰、月山を背景に、最上川の支流布川のほとりに真新しい校舎が建っている。

現在、本校では、学校保健目標「自分の身体や健康に関心を持ち、清潔で健康な生活に取り組める児童の育成」をふまえ、5つの点について歯科保健に工夫・努力している。

- ① どこで、どのような歯科保健指導ができるかを見極め、年間指導計画の中に位置づける。
 - ・教科 特別活動 課程外活動
- ② 保健室での指導・相談活動
 - ・個に応じた歯科指導
- ③ 日常の学校生活に浸透した指導
 - ・給食後の歯みがき 週1回のフッ素洗口、朝の会健康観察時の指導
- ④ 児童の活動の場を大切にした実践
 - ・児童会活動の活発化、全校児童の啓発、食べ物調査、質問ポストの設置と回答
- ⑤ 家庭や地域への啓発
 - ・学校保健委員会での結果を学年の保護者へ、そして実践へ
 - ・広報活動 歯科医の指導・助言

そして、昭和55年のDMF2.62（6年4.93）であったのが今年度は0.90（6年1.81）まで下がっている。

神奈川県横浜市立千秀小学校

〒244

横浜市栄区田谷町1832

T E L 045-851-6950

●校 長 安 西 貞 子

●学校歯科医 永 淵 弥 生

創立118年の歴史と伝統を持つ本校は、横浜市の南西部に位置し鎌倉市と隣接している。

現在の児童数は278名、12学級である。

昭和62年「神奈川県よい歯の学校表彰」を受けたことを契機に、以来歯科保健活動を着実に実践するよう努力を重ねた。その成果として、平成元年・2年「神奈川県よい歯の学校表彰」、3年「神奈川県最もよい歯の学校表彰」、5年「神奈川県よい歯の最優秀校表彰」などを受けている。

本校では学校教育目標の具体化のために
強調目標

よく考え自ら学ぶ子

明るく思いやりのある子

丈夫でがんばりぬく子

を掲げて教育活動を行っている。この目標には、健康な体づくりを基盤として実践力のある人間性豊かな児童に育てほしいとの願いがこめられている。

学校保健活動はこれらの目標や願いをふまえて実践されているが、中でも歯科保健活動は、むし歯予防を核として、個別指導・学級活動・学校行事・歯科健診・学校保健委員会・職員や児童の保健委員会などの取り組みを通して、むし歯予防についての基礎的知識や歯みがきの習慣、口腔内の健康に対する意識の高揚に努めている。

長野県長野市立鍋屋田小学校

〒380

長野県長野市大字鶴賀上千歳町1365-2

T E L 0262-34-2185

●校 長 丸 山 恒 男

●学校歯科医 内 田 稔

今年度、本校は創立90周年を迎えた歴史と伝統のある学校である。長野市の中心地に位置し商店街に隣接している。校地内に一步入れば緑豊かな自然にかこまれている。

学校教育目標は、「心・身・頭ともにすこやかな子どもを育成する—ねばり強い子、思いやりのある子、美しさを求める子」と定め、その具現に向けて努力している。

本校は、昭和61年度から歯の保健指導に取り組んできている。平成4年度には「むし歯予防推進指定校協議会全国大会」を、5年度には、県健康推進学校表彰で県代表校になり、また、朝日新聞社主催の全日本健康推進学校表彰で全国優秀校として「すこやか賞」を受賞した。

本校の保健指導は、「自ら気づきねばり強く実践するすこやかな子ども」を目標に、健康づくり、体力づくり、心づくりの三視点から研究実践している。

健康づくりでは、歯科保健・性教育・生活のリズムづくりの三本柱で進めているが、最も中核となって日々の実践に取り組んでいるのは歯科保健であり、それを他の分野にも拡大すべく努力しているところである。自ら意欲を持って実践化をはかるために、日常指導をはじめ実際授業において展開している。

愛知県常滑市立大野小学校

〒479

愛知県常滑市大野町10-70

T E L 0569-42-1011

- 校 長 佐 藤 利 光
- 学校歯科医 久 野 明
久 野 昌 士

現在、歯科保健のテーマを「自分の歯に合ったみがき方ができる子を育てるために」として、歯の衛生に関する知識を深め、歯みがき習慣の定着と自ら健康増進に取り組む児童の育成に努めている。

日常は、給食後の歯みがきタイムに、児童・教職員ともに歯みがきに励んでいるが、特に工夫・努力している内容は下記の通りである。

(1) 第2学年におけるむし歯予防活動

①担任にむし歯予防指導

- ・むし歯予防の知識習得への支援・歯科衛生士の協力による歯垢の染め出しと歯みがき指導
- ・わが子の染め出し状況チェック等

②フッ素塗布（希望者一ほぼ全員）

③学校歯科医による活動

- ・第一大臼歯の歯科健診・歯科相談

(2) 児童保健委員会の活動

- ・歯みがきカレンダー・歯ブラシ点検・歯みがきタイム強調週間・よい歯の児童表彰等

(3) 各学年の学級活動における保健指導

- ・学級活動の時間のうち、健康に関する指導や学校給食に関する指導の中で、歯の健康について取り扱う

(4) 家庭・地域への啓発

- ・学校保健委員会、保健日より、治療のすすめ、個別指導・歯垢染め出し錠を使用した親子歯みがき点検、長期休業中の親子歯みがき等

この実践の結果、歯みがき習慣が定着してきて、う歯なし児童の割合15.3%、DMF指数1.75となるなど、大きな成果を上げている。

福井県立福井南養護学校

〒910

福井県福井市南居町82

T E L 0776-36-7631

- 校 長 岩 端 幸 雄
- 学校歯科医 山 崎 龍 庵

本校は、福井市の南部に位置し、昭和48年10月、知的発達に遅れのある児童・生徒を対象とした、初めての県立養護学校として設立された。

学校歯科保健活動は、次のように進められている。

① 基本的な生活習慣としての歯みがきを、子どもたちの生活に根づかせる。

- ・毎給食後、担任による一人ひとりに応じた歯みがき指導の実施
- ・寄宿舎、家庭での実施
- ・休業中「歯みがきカレンダー」の実施

② 歯に関する知識を持ち、むし歯予防に自発的に取り組み、また、個に応じた歯の磨き方を身につかせる

- ・全校保健指導で、むし歯予防、歯の磨き方の指導
- ・体重測定後の保健指導で、カラーテストにより、一人ひとりに応じた歯の磨き方の指導、歯ブラシ検査
- ・生徒保健委員会によるポスター作成、寸劇、むし歯のない児童・生徒の表彰
- ・子どもたちの発達に合わせた教材（ビデオなど）の作成

③ 学校・家庭・寄宿舎が連携し、歯科保健の向上に努める

- ・保健だよりによる啓蒙
- ・学校保健委員会で対策を検討

歯科保健は、知的発達に遅れのある児童・生徒にとって、取りかかりやすい活動である。この活動から、保健活動に広がり、健康・安全指導へと充実してきている。

富山県富山市立安野屋小学校

〒930

富山県富山市安野屋町1-1-42

TEL 0764-32-4658

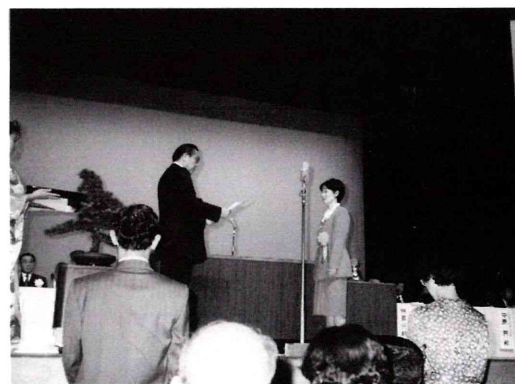
●校長 白山明子

●学校歯科医 柚木邦夫

本校は昭和3年に開校し、本年で創立66周年を迎えた学校である。5月1日現在の児童数252名、11学級（精薄1・言語1）教職員数21名である。

理科教育の研究推進の一方、校訓「明るく・正しく・強く」の具体化として、心と体の健康教育にも重点を置き、昭和48年から健康づくりの一環として、積極的な体力づくり活動やよい歯をつくる活動、奉仕の活動等をPTAと一体になって取り組んできた。そのために、教科年間計画や学校運営計画を改善し児童・教師が丸となって健康づくりに挑戦する教育活動を展開した。また、強い歯を育成するために「フッ素洗口」の導入も図った。

その結果、健康に対する児童の一人ひとりの意識が高まり、自ら進んでスポーツに取り組んだり、食後の歯みがきや、清掃美化活動に励んだりする姿が学内はもちろん家庭においても定着し、平成3年には富山県準健康推進学校、また、昭和63年、平成元年及び平成5年には、富山県よい歯の学校表彰で県1位を受けるなど成果をおさめてきている。



第33回 全日本よい歯の学校表彰 審査を終えて

本年は全国学校歯科保健研究大会が9月末に開催されるため、「全日本よい歯の学校表彰」の応募締切も1ヵ月早めて6月末としたため、もしかしたら日程が苦しくて応募が減るのではないかと心配しておりましたが、加盟団体の選考を経て全国から88校の応募があり、7月6日に予定通り審査委員会を開催することができ、全国の学校をはじめ学校歯科保健関係者の熱心さを改めて痛感し感激すら覚えたところであります。

●審査の概要

この審査委員会では入念な書類審査を行いました。応募されてきた学校においては、学校保健（安全）計画が策定されているだけでなく、その計画の中に歯科保健が明確に位置づけられておりました。またDMF歯数も3以下で、高度のむし歯もきわめて少ない優秀な学校でありましたので、審査委員会全員一致で88校すべてを「全日本よい歯の学校表彰」として表彰することに決定いたしました。

次いで最優秀候補校および特別賞の選定に入り、審査委員の持ち点数制による投票が行われ、5点満点で5点が5校、4点が4校、3点が5校の計14校に絞られました。この14校について再度慎重に審査いたしました結果、5点満点の5校と4点の4校のうちで審査委員の評価が最も高かった1校の計6校を最優秀候補校とし、惜しくも最優秀候補校とならなかった残り8校については、全国的に見ても優秀であり最優秀候補校と比較しても優劣つけ難く、奨励の意味も込めて特別賞として日本歯科医師会会長賞に決定いたしました。

全日本よい歯の学校表彰審査委員会

委員長 西連寺 愛 憲



●最優秀校の決定に当たって

最優秀候補校の6校へは、7月14日、16日、18日、8月29日、9月1日、8日にそれぞれ数名の審査委員が学校へ伺い、実地審査を行いました。実地審査では「学校歯科保健の位置づけ」、「学校保健への取り組み」など書類、授業風景から学校全体について詳しく見せていただき、また学校関係者や保護者の学校歯科保健に対する意識を拝聴するなどの審査を行いました。最優秀候補校においては、歯科保健指導の内容が児童の実態に応じて年々改訂され、充実してきており、児童も自ら意欲を持って歯の健康増進に取り組み、自らの健康を自分で守るという自律的管理が定着しておりました。

その後、9月9日にそれぞれの実地審査の結果を持って最終審査委員会を行い、この6校すべてを最優秀校に決定したうえ文部省に推薦、「文部大臣賞」として本日に至った次第であります。



●テーマ●
人生みな恩人

漫画家

富 永 一 朗



●略 歴

大正14年京都市生まれ。

母の里会津田島で育ち、父の里大分県佐伯市で小学校、中学校（現 佐伯鶴城高）を終えた後、昭和18年台湾に渡り、昭和20年台南師範学校を卒業。

郷里佐伯で4年間の教職を経て昭和26年に上京、現在に至る。

漫画集「一朗忍者考」にて、昭和61年には第15回日本漫画家協会賞“大賞”を受賞。

平成4年紫綬褒章を受賞。

平成6年4月、富山県利賀村に「富永一朗とが漫画館」をオープン。

シンポジウム

テーマ

発達段階に即した歯科保健活動の生活化達成をめざして

座長 ● 日本大学松戸歯学部教授

森本 基

シンポジスト ● 日本体育大学教授

吉田瑩一郎

文部省体育局学校健康教育課教科調査官 戸田 芳雄

富山県上市町立宮川小学校長

廣田 功

沖縄県歯科医師会学校歯科担当理事

宮城 正廣



座 長

●発表要旨

シンポジウムを進めるに当たって

座長／日本大学松戸歯学部教授 森 本 基

第58回全国学校歯科保健研究大会が、富山市において、『学校歯科保健の包括化』—発達段階に即した学校保健活動の生活化達成をめざして—を主題として開催されることとなった。

このシンポジウムは本大会全体の構成の中核となるシンポジウムであり、本大会全体を把握するために極めて重要な位置にある。そこで、本大会の経緯とシンポジウムの意義について若干の解説をしておくこととする。

1 「全国学校歯科医大会」から 「全国学校歯科保健研究大会」へ

本研究大会は、昭和6年（1931）に学校歯科医としての身分が文部省によって明確に位置づけられたことから、同年の4月には、第1回の「全国学校歯科医大会」が帝国学校衛生会と東京市学校歯科医会の共催で開催された。その後、第2次大戦の戦中および戦後の一時期には残念ながら中断をしなければならない時代もあったが、多くの先達の決断と継続への努力によって、今回をもって、58回目という学校保健の領域にあっては他に類例をみない長い伝統と歴史をもって大会が開催されることとなった。

本大会も、昭和49年（1974）には、「全国学校歯科保健研究大会」と名称が改められ、大会参加

者が学校歯科医だけでなく学校長、教頭、養護教諭、学級担任など学校関係者をはじめ教育委員会の学校歯科保健担当者も含めて参加することとなり、大会が名実ともに拡大と内容の充実が図られることとなり、学校歯科保健管理から学校歯科保健教育の領域へも内容を広めることとなり、大会の活性化がいっそう強力に図られることとなった。

昭和50年（1975）からは、昭和46年（1971）の大会の主題であった「保健指導と保健管理の調和」をメインテーマとすることと決定して、毎年サブテーマを決めて、この実現をめざして努力してきた。この進め方は昭和61年（1986）まで12年間にわたって継続された。

昭和56年（1981）の大会では「全国学校歯科保健研究大会」と大会名に「研究」の2字が加えられることとなり、学校における研究活動についての成果の発表にも力が注がれることとなり、ますます、大会の内容も充実して、意義ある大会として画期的な進展をみることとなった。

その上、昭和53年3月には、文部省は『小学校歯の保健指導の手引き』を出し、小学校において歯の保健指導を積極的に進めることとして、その普及と内容の充実を図るため、文部省は同昭和53年度から「むし歯予防推進指定校」としての研究活動を全国的に展開することとなった。小学校

での学級活動を中心として歯科保健指導の実践研究がダイナミックに展開されることとなり、今日なおこの研究活動は継続されている。これらの研究の成果については、ここでは記さないが驚くべき進歩を示したことだけは確かである。

2 「保健指導と保健管理の調和」から「学校歯科保健の包括化」へ

「保健指導と保健管理の調和」を主題として取り上げた時代は、学習指導要領に新しく特別活動の内容として「保健指導」が位置付けられ、授業としての保健指導が強力に進められようとした時代であった。

この時代は、わが国の戦後の経済の高度成長もかなり進み、安定期に入ってきた時代でもあった。価値観は多様化し、核家族化し、情報化や都市化が非常に進んだ時期とも言うことのできる時代であった。

学校歯科保健の立場からは、口の中の汚れはひどく、むし歯は多発して、そのむし歯は、高度に進み、手の打ちようも無かった時代でもあった。日本学校歯科医学会では「むし歯半減運動」を全国的に積極的に進めてはみるものの、むし歯はますます増加してくるという時代であった。戦後は終わったと言われた時代で経済的にも安定したわが国にあって、甘味についても、代用甘味料の全盛から、全てを砂糖の使用にと変換された時代であり「全糖」という表示が流行した時代であった。むし歯の増加が、ますます進むこととなった。

このような時代背景の中で、児童・生徒のう蝕有病率はどんどん上昇を続け、学校においては、もちろん、家庭にあっても、なんとか刷掃指導を軸に歯科保健対策と取り組まなければならない状況下にあった。

このような状況下にあつてのことか学校での保健活動の重点目標にむし歯予防を取り上げる学校も少なくなく、刷掃指導を軸とした歯科保健活動

を積極的に取り上げる小学校が多くなってきて、年毎に、その内容も高度となり、成果も認められるようになってきた。この頃になると、ただ、歯科保健の向上ということだけでなく、児童の日常生活にも変化が見られるようになり、学習態度にも変化が起こり、教育的効果の大きいことも実践活動を通じて証明されるようになってきた。

ここに進められてきた学級における歯科保健指導の実践とその充実は大きく学校を変えることとなり、歯科保健における「指導と管理の調和」に関する実践的研究は飛躍的に改善することとなった。そして新しく歯科保健と取り組む学校に対しても勇気と活力を与えることとなった。

その上、この活動が、ただ、学校における活動に止まるだけではなく、小学校での活動が、幼稚園から小学校へ、小学校から中学、高等学校へと活動の一貫性が求められるようになり、また、この活動の展開が、学校・家庭・地域との連携によって、より強く、確実に進められることとなった。このことは日本学校保健会による「むし歯予防啓発推進事業」によって強く支えられている。

ここに、本大会の主題としてきた「指導と管理の調和」が初期の目標に達したとして総括し、昭和62年（1987）に開催された第51回大会からメインテーマを「学校歯科保健の包括化」として、毎年サブテーマを示して大会が開催されてきている。

3 「発達段階に即した学校歯科保健指導」をサブテーマとして

第51回大会より第55回大会までのメインテーマとして、「学校歯科保健の包括化」が取り上げられ、「発達段階に即した学校歯科保健指導…」をどのように進めるかを具体的に毎年のサブテーマを付して開催されてきた。毎年の大会がサブテーマで取り上げた内容を具体的にどのように展開するかを、まず、大会「シンポジウム」で全体問題

として討議して、それぞれの内容を具体的に「領域別協議会」、すなわち、幼稚園・保育所部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会に受け継ぎ、一貫した課題研究として研究協議が進められてきている。毎年、毎年の研究協議の成果を眺めてみると、その内容の進歩と充実を着々と進めてきていることは確実である。

5回の大会を経て、日本学校歯科医会では大会のメインテーマの「包括化」を始め大会の在り方について検討した。その結果、年年の成果の向上は極めて大きいものがあったが、未だ十分には初期の目的を達成してはいないとの判断から、あと5ヵ年間はメインテーマとしての「包括化」を継続して初期の目的達成に向けて努力することを決定し、鋭意努力が続けられてきている。

健康についての考え方、取り組み方は時代とともに変化してくる。特に、従来の健康管理と言われた領域であっても常に疾病を前提として組み立てられており、疾病を軸として考えられてきた。しかし、今日に至って、地域における歯科保健の

取り組みが疾病志向から健康を軸とした健康志向に変わってきた。歯科保健の取り組みも、展開も健康を基礎とした、歯・口腔の機能を基本とした問題を中心として、その機能の正常発育をめざした方向がとられるようになってきた。日本学校歯科医会においても口腔機能を検討する委員会ももたれており、日本学校保健会においても口腔機能発達を研究する委員会がもたれるような時代となり、従来の歯・口腔の疾病を中心としたものから人の健康、歯・口腔の健康、つまり、人の歯や口腔の機能を重視したものの考え方が一般化してきている。そこで、本大会においても全体シンポジウムとは直接かわりのある領域ではないが、昨年から口腔機能の健全な育成をめざした「口腔機能部会」がもたれるようになった。全国学校歯科保健研究大会の将来の方向性を示す重要な部門であるので是非参加され、学校歯科保健の新しい考えを十分に堪能してもらえれば有り難いと考えている。



●発表要旨

学校歯科保健指導の目標と 学習内容の関連について

日本体育大学教授 吉 田 瑩一郎

本シンポジウムは、「発達段階に即した歯科保健指導の生活化達成をめざして」をテーマに、4つの課題が設定されている。演者はそのうちの「1. 学校歯科保健指導の目標と学習内容の関連」について提言しようとするものである。

1 教育における目標の意味

学校においては、どのような教育活動を行う場合でも、何らかの目標を設定し、その達成を目指している。しかし、実際にはその目標の意味や目標そのものが明確でなかったりする場合がないとはいえない。

そこで、改めて教育における目標の意味に目を向けて見ると「教育という行為ないし実践において、教育する側が教育される者の中に実現しようとする価値¹⁾」としてとらえられている。そして、このような教育的に見て望ましいと思われる価値としての目標は、教育実践を方向づけ、教育の内容や方法を選択させ、また、その成果を評価する時の基準として機能するものでなければならぬのである。

2 学校における歯科保健指導の目標

このことについては、『小学校 歯の保健指導の手引き（改訂版）』（文部省 平成4年2月）²⁾に次のように述べられている。

- (1) 歯・口腔の発育や疾病・異常など、自分の歯や口の健康状態を理解させ、それらの健康を保持増進できる態度や習慣を身に付ける。
- (2) むし歯や歯肉の病気の予防に必要な歯のみがき方や望ましい食生活などを理解し、歯や口の健康を保つのに必要な態度や習慣を身に付ける。

この目標は、小学校の6ヵ年間で達成すべき目標であるから、かなり長期的で小学校における歯科保健指導の方向を示した「方向目標」といえるものである。

また、指導内容のところで次のような目標が述べられている。

(1) 自分の歯や口の健康状態の理解

歯・口腔の健康診断に主体的に参加し、自分の歯や口の健康状態について知り、健康の保持増進に必要な事柄を実践できるようにす

る。

- 歯・口腔の健康診断とその受け方
- 歯・口腔の病気や異常の有無と程度
- 歯・口腔の健康診断の後にしなければなら
ないこと。

(2) むし歯や歯肉の病気の予防に必要な歯のみ がき方や食生活

- ① 歯や口を清潔にする方法について知り、
常に清潔に保つことができるようにする。
 - 歯のみがき方とうがいの仕方
- ② むし歯や歯肉の病気の予防、さらに歯の
健康に必要な食べ物について知り、歯の健
康に適した食生活ができるようになる。
 - むし歯や歯肉の病気の原因
 - 咀嚼と歯の健康
 - 歯の健康に必要な食生活
 - 間食のとり方、選び方

これらの指導内容も、6ヵ年間を通じてのもの
であるが、それぞれの領域ごとに目標も述べられ
ている（一の部分）。このような指導内容に述べ
られている目標は、教師が学習者に働きかける意
図や内容を表した「指導目標」といえるものであ
り、かなり長期的な目標といえる。

3 発達段階に即した歯みがきの 到達目標

『小学校 歯の保健指導の手引き』（改訂版）
では、「発達段階に即した歯みがきの到達目標」
を例示している（33ページ 別掲参照）。

すなわち、小学校第1学年では「第一大臼歯の
かみ合わせ面がきれいにみがける」（ぶくぶくう
がいが上手にできる。歯垢の染め出し、観察がで
きる）といったように、どの歯のどの歯面を磨く
のかを、学習者の立場に立って明らかにしてい
る。つまり、学習者が学習によって最終的にどの
ような事柄を身につければよいかを行動的な言葉

で表現していることから「行動目標（目標行動）」
（behavioral objective）といえるものである。

このような方向目標や指導目標は、長期的で、
しかも包括的・抽象的であるのに対し、行動目標
・目標行動は短期的で、しかも具体性があり、学
習によってどのような行動形成が図られればよい
かが明確化されている。

したがって、このように到達目標が行動目標の
形で明文化されていると、それが実は学習内容に
なっていくことになり、成果の評価目標にもなっ
ていくことになるのである。

4 歯科保健指導の行動目標の設 定—生活化達成からの要請

- (1) 学校における歯科保健指導は、保健指導
（health guidance）の一環として、特別活
動の学級活動やホームルーム活動を中心に行
われるものである。とすれば、「ガイダンス
とは、選択や適応をしたり、問題を解決する
ときに、人が人に与える援助である。ガイダ
ンスとは、受ける人が自己に責任をもつ独立
心と能力を養うことを目指すものである。³⁾」
という学校における保健指導の本質に立って
行われるものでなければならない。
- (2) 学校における保健指導においては、児童生
徒が現在当面しているか、ごく近い将来当面
するであろう健康の問題が「学習内容」にな
ることから、児童生徒の発達段階における歯
科から見た問題（学習要求）に即して行動目
標の形で具体的に設定される必要がある。
- (3) 行動目標とは、目標になる行動ということ
であり、「…ができる」「…が分かる」と
いった行動の言葉で明確に表したもので、
「学習者が学習の最終点において表現できる
ようになってほしい行動⁴⁾」のことである。
言ってみれば、学習によって身につけてほし
い目標のことをいうものである。その場合、

〈発達段階に即した歯みがきの到達目標〉

学年	平均的萌出部位	歯みがきの到達目標	疾患の特徴
小学校 1 学年	$\begin{array}{ccc ccc} & 6 & & & & 6 \\ \hline 6 & & 2\ 1 & 1\ 2 & & 6 \end{array}$	第一大臼歯のかみ合わせ面がきれいにみがける。 (ぶくぶくうがいができる) (歯垢の染め出し、観察ができる)	第一大臼歯のむし歯
2 学年	$\begin{array}{ccc ccc} & 6 & & 1 & 1 & 6 \\ \hline 6 & & 2\ 1 & 1\ 2 & & 6 \end{array}$	前歯の外側がきれいにみがける。 (歯みがきの基本、歯ブラシの毛先の使い方がわかる)	〃
3 学年	$\begin{array}{ccc ccc} & 6 & & 2\ 1 & 1\ 2 & 6 \\ \hline 6 & & 2\ 1 & 1\ 2 & & 6 \end{array}$	前歯の内側がきれいにみがける。 (合せ鏡で歯の内側が観察ができる)	〃
4 学年	$\begin{array}{cccc cccc} & 6 & 4 & 2\ 1 & & 1\ 2 & 4 & 6 \\ \hline 6 & & 4\ 3\ 2\ 1 & & 1\ 2\ 3\ 4 & & 6 \end{array}$	小臼歯がきれいにみがける。 (上下、外内、かみ合わせ面に歯ブラシの毛先が届く)	上の前歯のむし歯 不正咬合の顕在化 歯肉炎
5 学年	$\begin{array}{cccccc cccccc} & 6 & 5 & 4 & 3 & 2\ 1 & & 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 \\ \hline 7 & 6 & 5 & 4 & 3 & 2\ 1 & & 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 \end{array}$	第一、第二大臼歯がきれいにみがける。 (上下、外内、かみ合わせ面に歯ブラシの毛先が届く) 犬歯がきれいにみがける。 歯みがきで歯肉炎が改善できる。	上の前歯のむし歯 第二大臼歯のむし歯 歯肉炎
6 学年	$\begin{array}{cccccc cccccc} & 7 & 6 & 5 & 4 & 3 & 2\ 1 & & 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 \\ \hline 7 & 6 & 5 & 4 & 3 & 2\ 1 & & 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 \end{array}$	すべての歯をきれいにみがくことができる。 歯みがきで歯肉炎が改善できる。	第二大臼歯のむし歯 歯肉炎
中学校 高 校	〃	〃	永久歯のむし歯 歯肉炎

小林一也らは次のような5つの条件を満たすことが必要であるとしている。

- ① 学習者を主体として表現する。
- ② だれにも観察可能な行動の言葉で表現する。
- ③ 容易に評価が導き出せるように表現する。
- ④ 学習内容のレベル（くわしさ、深さ）を明示するように表現する。
- ⑤ 学習方法、手段も示すように表現する。

（注）別掲4）学校教育目標 P192より引用

- (4) 行動目標を設定する場合の手がかりは、当然のことながら指導目標とかかわって示されている「指導内容」である。
- ① 「自分の歯や口の状態」「歯のつくりと働き」「歯や歯肉の病気」「歯のみがき方」「食生活とそしゃく」といった観点から発達段階ごとに問題の所在を浮き彫りにする。

- ② 学校歯科医から、発達段階における歯・口腔の発育や疾病異常の特徴や課題を、定期健康診断の結果などから提示してもらうようにする。

- ③ 児童生徒の意識や行動の実態から解決を図るべき問題を発達段階別に明らかにする。

- ④ 解決を図るべき問題に即して、学習指導によって身につけてほしい目標を設定する。

このようにして設定された「行動目標」が「学習内容」になっていくのである。

＜引用文献＞

- 1) 山村賢明：教育目標 教育学大辞典第2巻，pp 261～262，第一法規，1978.
- 2) 文部省：小学校歯の保健指導の手引き（改訂版），東山書房，平成4年2月.
- 3) A. J. Jones（井坂行男訳）：Principles of Guidance（生活指導の原理）P17，文教書院，1968.
- 4) 小林一也他編：学校教育目標（現代学校教育全集第3巻）P190，ぎょうせい，昭和57年.
- 5) 吉田・西連寺編：歯の保健指導の授業と展開，pp19～20，ぎょうせい，平成元年.



●発表要旨

学校における 歯科保健指導計画の作成と指導の重点

文部省体育局学校健康教育課教科調査官 戸田 芳雄

1 はじめに

児童生徒の健康教育の重要性から、学習指導要領の総則において、健康・安全を含む体育に関する指導は、①学校教育活動全体を通じて適切に行い、②生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならないとしている。

そのためには、各学校の歯科保健を含めた健康教育を教育課程に適切に位置づけ、意図的、計画的に実践し、家庭や地域との連携を図りながら効果的に推進しなければならない。

また、学級活動・ホームルーム活動や学校行事での計画的な指導のためには、必要な指導時数の確保が必要であり、学校週5日制の実施に伴う教科、特別活動等の見直しや精選が求められている現状でもあり、一層保健指導計画の作成・確立が求められている。

2 学校における歯の保健指導計画

1. 全体計画

学校歯科保健活動の推進充実を図るためには、関連教科、特別活動での学習及び活動時間を確保しなければならない。

したがって、学校教育目標の具体化の視点を踏まえ、学校歯科保健に関する全体計画を作成し、教職員の共通理解を図る必要がある。

その際、学校における歯の保健指導は、教育活動全体を通じて行われることとなるので、相互の関連を十分に図り、指導の効果を高めることができるよう年間を通じて、対象、目標や内容、指導者等を明確にしておくことが必要となってくる。

全体計画作成上必要な事項で、主なものは次のとおりである。

- ① 教育目標の具体化の視点から歯科保健指導を通じて目指す子ども像を明らかにする。
- ② 教育活動のどの場面・機会での歯の保健指導に当たるかを明らかにする。
- ③ 学級活動・ホームルーム活動で取り扱う時間数と目標・内容を明らかにする。
* 弾力的な運用等による短い時間の指導を含む。
- ④ 学校行事または学校裁量等の時間で行う指導時間数及び目標・内容を明らかにする。
* 健康診断を含む。
- ⑤ 日課に歯みがきの時間を位置付けるなど日常の指導を計画する。
- ⑥ 学校歯科医が行う健康相談及び養護教諭が行う個別指導を計画する。
- ⑦ 児童・生徒会活動における歯科保健活動を

- 位置づける。
- ⑧ 学校保健委員会などの組織活動や教職員、保護者等の研修を位置づける。
- ⑨ 広報活動の計画をする。
- ⑩ 洗口場、歯ブラシ等の管理や整備。
- このような内容について、十分に検討し、歯・口の衛生週間、校内外の関連行事などとの関連を図り、限られた時間で効率的、かつ効果的に実施できるよう工夫して計画を作成する。表1を参考にされたい。

表1 歯の保健指導の全体計画例（小学校）

項 目	内 容	位 置 づ け	時 期
歯の健康に関する意識を高める	1 年	学 級 活 動	6 月 12 月
	おく歯（第1大臼歯）のみがき方		
	おやつをじょうずにたべよう		
	2 年		
	前歯をきれいにみがこう		
	よくかんでたべよう		
	3 年		
	新しくはえた歯をだいじにしよう		
	おやつのとりを方をくふうしよう		
	4 年		
	みがき残しのないみがき方を考えよう		
	むし歯の進み方を知ろう		
5 年	健康な歯肉をつくろう		
	体の成長と歯の発育について知ろう		
6 年	大切な奥歯を正しくみがこう		
	歯の健康によい食べ物について考えよう		
健 康 診 断	●むし歯の発見 ●口腔内の病気の発見 ●個別指導者の抽出	学 校 行 事	4 月（定期） 12 月（随時）
歯垢染め出し検査	●歯の汚れやすいところ ●歯みがきの状況の確認	学 級 活 動	6 月
歯 ブラ シ 点 検	●使えなくなった歯ブラシ ●歯ブラシの扱い方	日 常 指 導	
歯ブラシ保管庫の管理	●保管庫の消毒	児 童 会 活 動	毎 月
給食後の歯みがき	●手洗い→残さず食べる→きれいにみがく、を一連の行動として習慣づける	日 常 指 導	
きゅうしょく歯みがき カレンダー	●給食を残さず食べる ●歯みがきの習慣化	児 童 会 活 動	学 期 1 回
施 設 設 備 の 管 理	●水道の使い方 ●石けんの使い方	日 常 指 導	
広 報 啓 発	●保健だより ●よい歯の表彰 ●ポスター	広 報 活 動	年間を通して
歯の衛生週間行事	●学校歯科医の講話 ●全校集会（劇、クイズ、放送）	学 校 行 事 児 童 会 活 動	6 月
職 員 研 修	●歯のみがき方	研 修	随 時
家 庭 と の 連 携	●保健だより ●講演会 ●親子カラーテスト		随 時
個 別 の 指 導	●個々の問題の解決	健 康 相 談 （保 健）	随 時

（注）東京都千代田区立神田小学校長 森 正康による。

表2 歯の保健指導に関する学級活動年間計画例

青森市立筒井南小学校

歯の保健指導	月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
食後かならず、 歯をみがこう	4	(S) 給食後、楽しく歯をみがこう	(S) 食べたらみがこう	(S) 歯ブラシの働きと持ち方	(S) 歯のみがき方の順序を知ろう	(S) 順序よく歯をみがこう	(S) どんなハブラシがいいのかな
自分の歯について知ろう	5	(S) わたしの歯は、だいじょうぶかな	(S) むし歯は、どこにあるのかな	(S) 自分の歯を知ろう	(S) 自分の歯を知ろう	(S) 自分の歯のようすを知ろう	(S) 自分の歯のようすを知ろう
ていねいな歯の みがき方を知ろう	6	(L) 歯の王様6歳臼歯をみがこう ●6歳臼歯がむし歯になりやすいわけを紙芝居を通して知り、みがき残しをしないみがき方を見つけることができる。	(L) みがき方発見 ●自分の前歯をよく観察することによってその特徴にきづき、奥歯の形にあったみがき方をする事ができる。	(L) 自分にあったみがき方をしよう ●みがき残しやすいところを確かめ順序よくすみずみまできれいにみがく方法を話し合うことにより、自分にあったみがき方ができる。	(L) 歯をていねいにみがこう ●染めだしをして磨き残しやすい部分を知ることによって自分にあったみがき方でていねいにみがくことができる。	(L) 歯みがき名人になろう ●歯のみがき方について、グループで話し合う活動を通して、自分の歯や歯ぐきにあった正しい方法がわかり、実践することができる。	(L) 歯みがきの達人になろう ●歯のみがき方について問題点を話し合う活動を通して自分の歯や歯ぐきにあった方法で工夫してみがくことができる。
早くむし歯を治療しよう	7 8	(S) 家ではどうやって歯みがきをしているのかな	(S) 家ではどうやって歯みがきをしているのかな	(S) 一学期の歯みがきをふりかえろう	(S) 一学期の歯みがきをふりかえろう	(S) 早くむし歯を治療しよう	(S) 早くむし歯を治療しよう
おやつを取り方を考えよう	9	(L) おやつをじょうずに食べよう ●むし歯のもとになるミュータンスの存在を知ることによっておやつのとり方を工夫することができる。	(L) どんなおやつがいいのかな ●おやつの献立作りを通してむし歯になりやすいおやつにきづき、おやつのとり方を工夫することができる。	(L) おやつのじょうずなとり方を考えよう ●むし歯の原因を考えるを通して、おやつの上手なとり方を工夫することができる。	(L) おやつのじょうずなとり方を考えよう ●自分の食べているおやつに含まれている砂糖の量を調べることによって、むし歯にならないようじょうずなおやつのとり方を考え実践することができる。	(L) おやつとむし歯について考えよう ●おやつとむし歯の関係について話し合う活動を通して、上手なおやつのとり方について考え、実践することができる。	(L) おやつとむし歯について考えよう ●炭酸飲料等には砂糖が多く含まれていることを知り、むし歯にならない生活の仕方を考え実践することができる。
むし歯、歯周病の予防について考えよう	10	(L) どの歯もピッカピカ ●カラーテスターを使ってみがき残しのあるところをみつけ、汚れがとれるまでみがくことができる。	(L) どうしてむし歯になるのかな ●むし歯のできるわけを知り、むし歯を予防する方法を話し合うことを通して歯みがきのめあてをもつことができる。	(L) むし歯を早くなおそう ●むし歯の進み方とその害について調べる活動を通して、進んでむし歯の治療を受ける態度を身につけることができる。	(L) 歯の健康につとめよう ●じぶんの歯や口の中の様子をすることによって、むし歯の進み方や歯周病について知りそれらの予防に努めることができる。	(L) 君の歯ぐきはだいじょうぶかな ●歯肉炎の予防について話し合うことを通して、よい歯ブラシでていねいに磨くと歯肉炎をふせげることがわかり、自分の歯みがきのめあてをもつことができる。	(L) 12歳臼歯を守ろう ●12歳臼歯について調べ、その大切さを話し合う活動を通して、奥歯のみがき方を工夫し、実践することができる。
むし歯になるわけを考えよう	11	(S) むし歯はこわいぞ	(S) むし歯はどんなふうになるのかな	(S) むし歯のできるわけ	(S) むし歯の進み方と歯肉炎	(S) 歯や歯肉の病気と予防	(S) むし歯のひきおこす病気
冬休み歯みがきをがんばろう	12 1	(S) 家ではどうやって歯みがきをしているのかな	(S) 冬休みのめあてをつくらう	(S) 冬休みの歯みがきを考えよう	(S) 冬休みの歯みがきを考えよう	(S) 二学期の歯みがきをふりかえろう	(S) 二学期の歯みがきをふりかえろう
歯によい食べ物や、食べ方を知ろう	2	(L) 好ききらいしないでなんでも食べよう ●食品を3つの栄養群に分ける活動を通してながら、丈夫な歯や体をつくるためには、好ききらいなく何でも食べるこの大切さに気づくことができる。	(L) よくかんできれいな歯ならびにしよう ●歯ならびのよい人と悪い人を比べてよい歯ならびにするために進んで歯ごたえのある食品をとったり、よくかもうという意欲をもつことができる。	(L) よくかんでおいしく食べよう ●するめを何回もかむことを通してかめばかむほどおいしく感じられ、よくかんで食べることは、歯や体に良いということを理解することができる。	(L) 歯を丈夫にする食べ物を知ろう ●歯によい食べ物とむし歯になりやすい食べ物があることを知ることにによって、好き嫌いがなく、食べることができる。	(L) よくかんで食べよう ●歯並びと食べ物との関係を話し合う活動を通して、歯やあごを丈夫にする食べ物や食べ方をしり、実践することができる。	(L) 健康な歯や、体を作る食事をとろう ●基礎食品群をもとに、自分の食事をふりかえることを通して、健康を保つためにバランスの取れた食生活を考えることができる。
一年間の歯の健康について反省をしよう	3	(S) 歯みがきの反省をしよう	(S) 歯みがきの反省をしよう	(S) 一年間の歯みがきの反省をしよう	(S) 一年間の歯みがきの反省をしよう	(S) 一年間の歯の健康について反省をしよう	(S) 六年間の歯の健康について反省をしよう

(S)…20分程度の短い時間 (L)…1単位時間

2. 年間指導計画

1で述べた全体計画を、年間計画に具現化したものが歯の保健指導年間計画である。

全体計画に盛り込んだ内容について、「時期」「機会・場」などを考慮しながら、内容によっては、毎日継続して、また、重点的に扱うなどの工夫が必要である。

さらに、マンネリを防ぐ意味合いを含めて「鉈（なた）」と「剃刀（かみそり）」をつかい分けることも配慮した計画を作成したい。

その際、学校保健計画に含んだ形で概要を示し、さらに、学級活動・ホームルーム活動等の個別の計画を作成することなどが考えられる。

次に、学級活動の年間計画例（小学校）を示す。（表2）

3. 実施計画例

学校行事及び学級活動単位時間指導計画等年間指導計画をより具体的に示した、指導の細案ともいえるべき計画である。以下に一例を示す。（表3）

表3 歯の衛生週間の実施計画例

項目	内 容	4 (火)	5 (水)	6 (木)	7 (金)	8 (土)	10 (月)	活動の場と 位置づけ
歯 の 保 健 指 導	1年	週内に各学級で時間を設けて指導する						学 級 活 動
	2年							
	3年							
	4年							
	5年							
	6年							
講話	●よくかむことと健康づくり（学校歯科医）	○						学 校 行 事
集会	●かめよ、かめ、かめ二亀の子（児童保健委員会）		○					児 童 集 会
歯みがき	●全校一斉の染め出し検査 ●歯みがき実技教室（該当児童） ●親子歯みがき教室			○	○	○	○	給 食 後 PTAとの共催
広活 報 動	●保健だより ●歯の健康ポスター	○ ○						
そ の 他	●歯の健康相談（学校歯科医） ●校内放送 ●よい歯の表彰	○	○		○			

進んでよい歯をつくる宮川っ子をめざして

富山県中新川郡上市町立宮川小学校長 廣 田 功

1 はじめに

豊かな心でたくましく生きる子供を育てるには、まずは健康で、生涯を通して積極的に自分の健康づくりに取り組める基礎を身につけることが重要視されている。

食生活が豊かになり、医学の発達が目覚ましい今日だが、児童生徒の健康状態には、深刻な問題もあり、中でも歯の健康にかかわる問題が学校保健の重要な課題となっている。

本校では、平成5・6年度文部省「むし歯予防推進校」の指定を受けた。これを機に、生涯にわたる健康生活の基礎づくりの立場で、歯の大切さを理解し、正しい歯みがきの習慣を身につけ、進んで健康の保持増進に向けて実践する子供の育成をめざして、学校・地域をあげてささやかな研究を進めている。

2 本校の概要

富山市の東部、東に立山連峰の霊峰剣岳を仰ぎ、不動明王魔崖仏の大岩山日石寺や穴の谷霊水で知られる上市町、その近郊の農村地帯にあって、児童数276名・11学級の中規模校である。

十数年前に体力づくり推進校として、健康優良学校の全国表彰を受賞した経緯もあり、今回の研

究推進にも地域の関心が深く協力的である。

3 本校の歯の保健指導の全体計画

1. 指導目標及び指導内容

- ① 歯・口腔の発育や異常など、自分の歯や口の健康状態を理解させ、それらの健康を保持増進できる態度や習慣を身に付ける。

歯・口腔の健康診断に主体的に参加し、自分の歯や口の健康状態について知り、健康の保持増進に必要な事柄を実践できるようになる。

- ② むし歯や歯肉の病気の予防に必要な歯のみがき方や望ましい食生活などを理解し、歯や口の健康を保つのに必要な態度や習慣を身に付ける。

歯や口を清潔にする方法について知り、常に清潔に保つことができる。

むし歯や歯肉の病気予防、さらに歯の健康に必要な食べ物について知り、歯の健康に適した食生活ができるようになる。

2. 歯や口の保健指導の全体構想

3. むし歯予防推進の研究構想

4. 歯の保健指導要素表

5. 研究内容

- ① 意欲を高める支援と資料・教材の工夫
 - 歯に関する実態調査と問題把握
 - 発達段階に応じた系統・発展的指導
 - 教材・教具の作成と効果的な活用
 - 指導案と実践記録の累積
- ② 主体的に取り組む児童活動・学校行事
 - 意識を高め、自主的に活動する児童会・委員会・係活動
 - 役割を持って工夫する集会活動
- ③ 習慣化と実践化につながる日常活動
 - 給食後の歯みがき指導
 - 歯の健康カードの活用
- ④ 家庭・地域社会との効果的な連携

- 学校保健委員会
- 学習参観、講演会
- 広報活動
- 治療カード、歯の健康カード

4 実践活動

- 実践例 1** 第2学年 学級活動（保健指導）
- 主題名▶** ピカピカ前歯をつくろう
- ねらい▶**
- 前歯の汚れに気がついて、自分に合ったみがき方でみがこうという意識を持つ。
 - 自分の見つけたことを絵や言葉で表わすことができる。

表 1

	学 習 活 動	教師の働きかけ	資 料
	ピカピカ前歯をつくろう		
問題の意識化	1 前歯の健康観察をしよう。 ① 口歯鏡を使って <ul style="list-style-type: none"> ● きれいだな。 ● おや、みがき残しがあるよ。 ● 歯の裏がちょっと汚いな。 	● 見付けたことを自分の前歯のプリントに書くように言う。 絵や言葉で書き表してよいと知らせる。	前歯のプリント 口歯鏡
	② 染め出し剤を使って上下4本の前歯を染めてから鏡を使って <ul style="list-style-type: none"> ● 歯と歯の間に真っ赤になったよ。 ● 歯と歯ぐきの境目が汚れているよ。 ● 歯の裏が汚いよ。 ● 思ったより汚いな。 ● あまりみがき残しなかったよ。 	● ②の活動前に①の結果を先に位置付けることで②と比較できるようにする。 ● あらかじめ染め出し剤は、溶かし分けておく。	綿棒 染め出し剤 タオル 歯ブラシ コップ 牛乳パック
	2 見付けたことを発表しよう。 3 みがき残し0にするやり方を考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 歯と歯の間は、ブラシを立ててするといいよ。 ● 歯と歯ぐきの境目はブラシを横にしてみがくといいよ。 ● 歯の裏は、ブラシを立てて前にかき出すようにする。 	● 一つのやり方に限定しないでいくつもの考えを認める。 ● 実際に模型を使ってやることで具体的なイメージが持てるようにする。	前歯拡大図 前歯の立体模型 大きな歯ブラシ
解決の方法	4 みんなで見付けたやり方でみがいてみよう。	● 一人一人が自分にあったやり方を見付けられるように支援する。	
実践への意欲化	5 前歯をみがく時の自分の目当てを書こう。		

展開▶ 表1のとおり。

〈指導後の反省と問題点〉

染め出しをしたことは、子供たちが歯を磨かざるをえないような気持ちにしたと考えられる。1時間の授業の中に、磨く時間（実体験）を設定したことが、児童の気持ちにそってよかった。必要に迫られてこそ意欲的な活動ができるとわかった。

大きな模型を使うことは、具体的なイメージをつかむのによい。しかし、前歯の様子（歯並び、萌出状態）は一人ひとり違うので、それぞれに対応できる模型があったらもっと細かなみがき方が話し合えたのではないかな。

児童は前歯だけをみても以前より多様なみがき方をするようになった（以前は歯ブラシを歯に平行にあて上下か左右のどちらかに動かすことが多

かったが隙間や境目を磨くとき歯ブラシを立てたり、細かく動かしたりする児童が増えた）。しかし、全体的には、まだまだみがき残しが多く、歯みがきの癖（磨きの足りないところも同じ）も抜けていない。今後は、前歯での経験を他の部位のみがき方にも生かせるように指導していきたい。

実践例2 第5学年 学級活動（保健指導）

主題名▶ 歯周病ってなんだろう

ねらい▶ ●歯周病は、歯肉の病気であることに気づき、歯周病を防ぐ方法を考えることができる。
●進んで口腔内の清潔に努め、歯を大切にすることを身につけることができる。

展開▶ 表2のとおり。

表2

	学 習 活 動	教師の働きかけ	資 料
	歯 周 病 っ て な ん だ ろ う		
問題の意識化	1 2枚の写真を見て、気づいたことを発表する。 ●健康な方は、ピンク色だけど健康でない方は、赤くはれている。	●2枚の写真を比べて見ることによって学習問題の意識化を図る。	歯肉炎の写真 ミュートランス（歯の記録カード）
問題の原因の追求	2 今までに、自分や家の人で歯ぐきをはれて困った経験がないか話し合う。 ●風邪をひいたとき等。 ●むし歯になっているところから、うみがでてきた。	●身近な体験を想起することによって歯肉の病気の意識化を強める。	
問題の解決方法	3 歯周病について、調べてきたことを発表し原因を考える。 ●歯周病は、病気だ。 ●歯肉炎と歯槽膿漏がある。 ●歯周病の原因は歯垢と歯石である。 ●歯肉炎が進むと歯槽膿漏になり、歯が抜け落ちる。	●歯周病を調べることによって、口の中の健康に対する意識を高める。	
実践への意欲化	4 歯周病を防ぐには、どんな方法があるか考える。 ●食べたらずぐに歯みがきをする。 ●歯みがきの仕方を工夫して歯と歯の間をしっかりとみがく。 ●みがき残しをしない。	●養護教諭の専門的な知識を導入し、理解を深める場を設ける。 ●子供たちが、今までに学習したことや体験したことを想起するよう助言する。	
	5 歯肉の健康観察の観点で歯肉の状態を観察する。	●前時に行った健康観察の観点を想起するよう助言する。	
	6 今までの自分の歯みがきを見直し、気づいたことをミュートランスに書く。	●日常の歯みがきを見直して、初めて知ったことやなるほどと思ったことなども考えるよう助言する。	

〈指導後の反省と問題点〉

歯周病というあまり知られていない病気を取り上げるので、写真を使うことによって子供の興味や関心を高めることができた。

また、養護教諭から歯周のポケットができる過程の説や正しい歯ブラシの使い方を教えてもらい、意欲的に歯みがきをしている。子供たちは、しっかり歯垢をとるみがき方をしないと自分も歯周病になる危険性があるということが分かり、真剣に取り組んでいた。

この学習の後には、子供たちの歯みがきもみがき残しをしないようにと努力していたが、日が経つにつれてみがき方が乱暴になったり歯肉のチェックを忘れがちなので、なぜ歯をみがかなければいけないのかを再確認しながら、この問題に取り組んでいきたい。

5 日常生活における指導例

子供たちが、自分の健康づくりに目を向け、日常生活の中で主体的な実践を継続的に行えるように、歯みがきタイムを見直したり、ランチルームの活用・保健室での個別指導やさわやかチェック等を取り入れた。

1. 給食後の歯みがきタイムの見直し

① ねらい

- 歯をいつもきれいな状態に保っておくために、「食べたら、磨く」というよい生活習慣の定着を図る。
- 授業で学んだことを生かせるよう、一人ひとりが自ら、日常生活で着実に実践できる場を確保する。

② 方法

これまででは、給食を食べ終わった児童から、洗口場へ行って、各自歯を磨くという方法だったが、徹底が不十分であった。そこで、「給食後の歯みがきを忘れずに、しっか

り行うためには、どんな方法がよいだろうか」の課題を投げかけ、児童会で作り上げたのが『歯みがき宮川っ子方式』である。

各教室で、一斉に音楽テープに合わせて、どの部位ももれないよう順序を決め楽しく磨く。また、デンタルミラーを使って、磨く部位にきちんと歯ブラシがあたっているかを確認しながら、自分の歯に合ったみがき方を工夫するもので、歯みがきタイムが見違えるようになった。

2. 毎月8の日『歯の日』の設置と活用

① ねらい

学級の自主的な係活動を生かしながら、児童自らが、歯や口の健康に関する問題を、発見したり、判断したり、処理して行く能力を身につける機会とする。

② 内容

- 自分や家族の歯ブラシチェック
- 歯みがき実行委員によるモデルみがき

3. 気になる児童の個別指導

月例体重測定の後、養護教諭によって『さわやかチェック』を実施しているが、手足の清潔検査に併せて歯みがきチェックを行っている。この時の記録簿をもとに、自分だけで解決できず歯肉炎のおそれのある児童を対象に個別・グループ指導を行っている。

① ねらい

- みがき残しの部分を知り、自分の歯に合ったみがき方ができる。(下学年)
- 自分の歯肉チェックを行い、歯肉炎を予防する正しい歯みがきができる。(上学年)

② 実践例—歯肉の健康が気になるグループ指導(5年生)—

- 手鏡やデンタルミラーで自分の歯肉の健康状態を観察する。(色、状態など)
- 日ごろの歯みがきを自己評価し、歯垢をき

ちんととるみがき方を工夫する。

- 観察ノートに記録をとり、継続して取り組むことで、自らの手で解決したという成就感を味わわせ、その自信と喜びを今後の健康づくりへの意欲につなぐことができた。

4. 学校給食を通した指導

① 食べ物と栄養の関係を知る。

- 赤・黄・緑の食品群の働きに目を向けてもらおうと給食委員会では、「3つの食品群」「病気にまけない体をつくろう」など栄養面から見た手作り掲示物や飾り付けを工夫している。教室やランチルームの掲示物を見て、「今日の赤の食べ物は○○だね」「○○が足りないと病気になりやすいんだね」「○○は黄色の食べ物の仲間だね」など栄養面の関心を高めるのに役立っている。

② 歯の健康と食べ物

- 歯によい食べ物・おやつ調べをして、全校集会で発表している。
- 学校給食で週1回固いものを取り入れた「かみかみデー」を設け、噛むことの効用のPRに努めている。

6 家庭・地域との連携活動

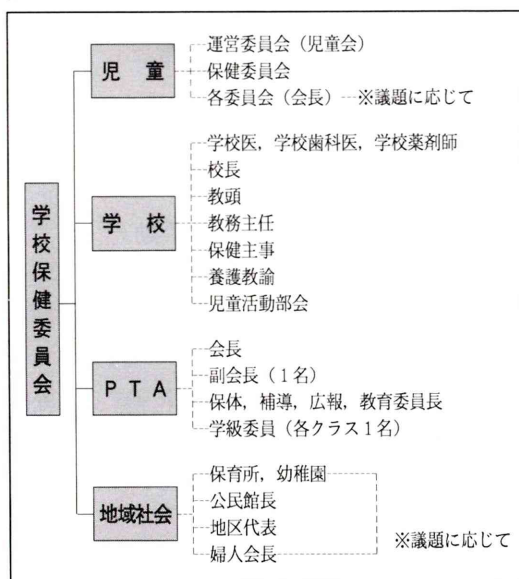
1. 学校保健委員会の活用

① 基本的な考え方

心身ともに健康な子供の育成を願い、学校・家庭・地域社会が一体となり児童の健康・安全についての諸問題を取り上げ推進していかなければならない。その活動の推進の母体が学校保健委員会であり、学校三師、PTA、児童が相互に関わりながら協議したことを、全教育活動に生かし、計画的に指導援助することにより実践化を図ることを願っている。

② 組織と運営

図1



③ 前年度の取り組み例

第1回学校保健委員会（1学期）

〔議題〕

- 本校のむし歯予防推進の研究構想について
- 宮川っ子の体位について
- 定期健康診断を終えて
- 児童会活動の歩みと親子歯みがきががんばり週間について

第2回学校保健委員会（2学期）

〔議題〕「からだに良いおやつのととり方を考えよう。」

- おやつのととり方アンケート報告
- 児童活動の取り組みについて
“歯みがき宮川っ子方式”の実践
親子歯みがきががんばり表より
- 第2回歯科健診を終えて
むし歯保有率の実態、治療状況

② 事後の取り組み

協議したことは、『PTA会報』や『学校保健委員会だより』を通じて、児童や家庭に知らせ、意識化を図り実践を促している。特

に、おやつの問題では、関心が高く、学級でも真剣に話し合われ、親に協力を願わなければならないことはどんなことか…等自分達では解決できない面もたくさん出てきた。そのために、その後のPTA学級懇談会の議題としても話し合われ、家庭に広がった。

2. PTA会員の研修と実践活動

① 学習参観

これまででも、特に、家庭や親子共通課題となる内容を意図的に学習参観に取り入れていたが、今回は、歯の保健指導に関する学級活動を参観していただき、さらに親子活動を盛り込んだりして家庭との連携を深めることができた。

〔事例1〕3年「はじめて作った大切な歯」

自分の歯を手鏡で観察したり、父母に見てもらったりしながら、親子で紙粘土で歯の模型づくりを試みた。

「どうして、4番・5番・6番目の歯は四角形で溝があるのかな?」「前歯と奥歯の形は、どうしてちがうのかな?」「あっ、4番の歯が顔をだしてるよ。ねえ、お母さんみて!」…一緒に作り上げていく過程で、様々な疑問や新しい発見の“親子のつぶやき”が聞かれ、学習の広がりが見られた。親子で考えながら作り上げた自分の歯列模型はこれから学習を進めていく上で、理解力や思考力を助ける効果的な教材として活用された。

② 教育講演会

学習参観のあと、児童と父母を対象に、学校歯科医を講師とする「むし歯と歯肉の病気の成因およびその予防」と題した講演会が持たれた。児童にも理解できる内容にということで、子供達の質問や意見を取り入れ、とても分かりやすく好評であった。

③ 親子ふれあい活動

6月の学習参観の後、親子ふれあい集会和

親子バザーが行われた。

『強い歯をつくろう! ピカピカ集会』では、保健委員会の“歯の国の探検・けんちゃんの歯”の寸劇や給食委員会の給食クイズ、親子で行う“ウンパッパ体操”などで心地よい汗を流した。

その後、本校PTA名物の親子バザーで和やかなひとときを過ごした。今回は、特に役員の皆さんの協力で、「歯によい食物コーナー」や児童の「歯に関する体験コーナー」など歯の健康づくりに役立った。

④ 祖父母交流学习会

11月祖父母から学ぶ恒例の学習会では、今回は、祖父母から歯に関する苦労話を聞いたり、自分達の歯の学習を話したりして交流を深めた。3年生では、昔の石うすでもち米の粉ひきをし、だんご汁作りを通して、「石うすの上下の合わさる部分が、ぎざぎざなのは、おくの歯のかみ合わせと似ているよ」など話題が広がった。

3. 家族ぐるみの歯みがき実践活動

毎月の第2週・3週を親子の歯みがきががんばり週間とし、児童会の保健委員会が作った『親子歯みがきががんばり表』を配布している。家庭では、児童が先生になって、家族に“歯みがき宮川っ子方式”を広めたり、家の人たちの歯ブラシチェックもしたりして子供たちの自主性や意欲を高めている。

4. 広報活動

① 「学年だより」「保健だより」

毎月1回発行の学年だよりは、各学級での取り組みの様子や、歯の学習を終えて…等必要に応じて子供たちの健康面にかかわる内容を盛り込むよう配慮している。

保健だより「すこやか」は、主に子供たちの心と体の健康面にかかわる内容を掲載して

家庭に通信するもので、特に、「歯の健康」を意図的に盛り込み、家庭への啓発に役立てている。

② PTA会報「みやかわ」

PTA会報は、毎学期末に発行し、4月の速報と合わせて年4回発行している。学校が推進している「むし歯予防の取り組み」や学習参観・教育講演会の内容を特集したりして啓発につとめている。

③ ファミリー新聞の活用

毎月8の日を「歯の日」とし、学校での活動と共に、家庭での家族のふれあいを大切にしている。この日には、各家庭で歯に関するファミリー新聞を作成し、掲示や紹介をしているが、徐々に内容も豊富になり、意識の高まりが感じられる。

7 実践の成果と今後の課題

1. 実践の成果

① 学級活動・宮川タイムでの取り組み

- 指導要素表をもとに学年ごとに指導計画を立てて、実践することによって、教師自身の歯の保健に関する認識が高まった。
- 子供たちが、自分自身の実態や自分で調べたことなどを資料として授業に生かすことによって、生き生きと意欲的に取り組むことができた。
- 教師の手作りの歯列模型や歯ブラシ、学級の実態を表した図、表・グラフ、専門の医師にインタビューしたVTRなどの資料や教具を活用することによって、問題点が明確になり、問題解決への意欲化を図ることができた。
- 本時にいたるまでの日常生活での問題や経験を生かすことによって、意欲的に問題に取り組もうとする態度が見られた。

② 児童の活動

- 児童会が中心になって学校生活の中から問題点を上げ、各学級で話し合った。各学級では、「歯みがきの順番を決める」実行委員を選出することでまず歯への関心を持つことができた。また、各学級の実行委員は、根拠に基づいた意見を実行委員会に伝え、そこで十分な話し合いをし、話し合いで決まったことの理由づけを明確にして学級へ伝える。みんなに選ばれた実行委員が責任を果たすことによって、一人ひとりが歯みがきの順番を決める理由、決め方に関心を持つことができ、できあがった「歯みがき宮川っ子方式」は一人ひとりの意見が煮詰められた結果となった。

③ 日常の実践活動

- 給食後、みんなで考えた「歯みがき宮川っ子方式」で音楽に合わせて歯みがきを行い、みがき残しの部位のないみがき方ができるようになってきた。また、1ヵ月に1度「歯の日」に、歯みがき実行委員が歯のみがき方をテレビで全校に広めた。
- 1ヵ月に10日間ほど、家族の歯みがきがんばり表をつけ、歯みがきの習慣化を図ってきた。毎月続けることによって、歯みがきへの意識が高まってきた。保護者も歯みがきに対してだんだん細かい見方をするようになり、みがき方を工夫する家族も見られるようになった。
- 毎月「8」の日を「歯の日」と定め、各学級でテーマを決めて歯の問題に取り組み始めた。

④ 環境の整備

- 歯みがき戸棚の中に各自のデンタルミラー、廊下には「さわやかミラー」を取り付け、歯みがきの時や歯の学習ではすぐ自分の歯を観察できるようにした。進んで歯の健康状態をチェックしたり、歯みがきの様子を確かめたりするのに効果があった。

- 歯の学習室を設置し、戸棚には歯列模型や子供たちが作った歯の模型を陳列することによって、だれもが歯の様子を観察したり、学習に役立てたりできるようになった。

⑤ 家庭・地域との連携

- 学校保健委員会を1学期に1回開き、学校三師、保護者、児童が相互に関わりあいながら、1つのテーマのもとに協議したことは、各者の意見を聞き今後の課題を明らかにするのに大変大切な機会であった。

また、学校保健委員会の内容を、学校保健委員会だよりなどで家庭に知らせたり、話し合いの内容をもとに学年懇談会を開いたりして、保護者の歯の健康管理に対する意識を高めることができた。

- 親子ふれあい活動や学習参観では、親子と一緒に歯の健康について考え、親子ともに今後の学習への意欲をもつことができた。
- PTA会報や保健だより「すこやか」などの広報活動を通して、学校での取り組みの様子や児童の実態などを家庭や地域に知らせた。また、親子で歯のファミリー新聞を作成することによって、親子で1つのテーマについて考え、お互いに歯の健康に対する意識を高め合った。

2. 今後の課題

① 一人ひとりの意識を高める指導のあり方

- 一人ひとりが自分の問題として、必要感に立った学習を進めることが大切である。そのために、子供の体験や経験をもとに一人ひとりの問題点を明確にして授業を進めて

行かなければならない。

- 学級活動、宮川タイム、学校行事、児童会活動、各教科などの相互の関連を図りながら、児童一人ひとりの関心を高めるような配慮が必要である。
- 教師による評価…子供のつかんだものや問題意識をとらえ、次の学習展開に生かすため、活動状況の観点を明確にしたり、子供の意識の過程が残るノートの活用の工夫をしたりすることが必要である。
- 子供による評価…子供自身が自分の健康状態を正しく判断できる観察力を育てるために、自分を振り返る場の設定の工夫が必要である。

② 食生活の見直し

- むし歯や歯肉の病気の予防に必要な食習慣の実態を把握し、食生活を見直し、バランスのとれた食事ができるように、指導内容を考えていかなければならない。
- 成長期の児童には、おやつ役割は大きい。歯の健康上、おやつの選び方、食べ方、食べた後の処置など児童及び家庭の理解と実践が大切である。
- 堅い食べ物を噛むことの効用について、周知徹底を図り、食事の献立を工夫することが必要である。

以上、残された課題については、今後とも検討を加え、研究・実践を進めていきたい。そして、子供たちが歯に関心を持ち、自分のこととして歯の問題をとらえ、自分で解決していこうとする自己指導能力を育成していきたい。

顎口腔系の健全な発達を考えた 歯科保健指導を……

沖縄県歯科医師会学校歯科担当理事 宮 城 正 廣

1 はじめに

最近の学童の口腔状況を考えたとき、はたして、この子どもたちが将来にわたって健康で豊かな生活を営むことができるか、疑問と危機感さえ覚えるものである。

厚生省歯科疾患実態調査の結果では、全国的に幼少児を中心にう蝕の量的な減少が認められると同時に、質的な変化（軽症化）も起こってきており、また、処置率も増加してきている。う蝕に関しては、歯科医の増加と相まって徐々に改善傾向にあることは学校健診時においても実感するところである。しかし、歯周疾患、不正咬合は年々増加傾向にある。

また、保健関係者からは食物を噛むことや吞み込むことの下手な子が多くなってきているという報告や、口を開けさせるとぎくしゃくしながら開けるという報告もある。普通の子どもであれば、あたりまえに食事はできるものであって、口をスムーズに開けられない、食物を噛みくだけないということは、従来は考えられなかったことである。咀嚼機能のような生まれつきと考えられていたものが、実際は出生後に獲得していくものだと理解されてきており、多くの研究報告もある。

現在、沖縄県は“長寿日本一”といわれているが、高良のアンケート調査によると、学童の好き

な食べ物はハンバーグ、スパゲッティ、カレーライスというように洋食が中心で、本土の子どもと大差はなく、長寿食として評価の高い沖縄料理をあげる子どもは少ない。また、前述の食べ物のほとんどが軟らかい物で出来ており、顎口腔系の発達に重要な影響を与えている。

2 児童の口腔状況

小学校歯科健診において子どもたちの口腔状態をよく診ると、それだけで保護者の歯科保健への関心度や子どもの自己管理能力の程度、また食生活環境など、その子の背負ってきた口腔内の歴史がそこに集約されていることが理解される。特に不正咬合、乳歯う蝕および早期喪失、晩期残存による咬合の変化、永久歯との交換異常、小帯異常、悪習癖等が多く見られ、ほとんどが歯牙の位置異常や咬合の乱れを伴っている。また、最も重要な問題は、それらがほとんど放置されているということである。その原因として、学校健診で異常を見つけて治療を勧告したにもかかわらず、保護者の歯科保健への関心の低さから放置されている場合と、歯科校医のう蝕中心の健診、う蝕中心の治療、さらに従来のう蝕中心の学校歯科保健教育に起因しているように思われる。

3 口腔内の管理の重要性

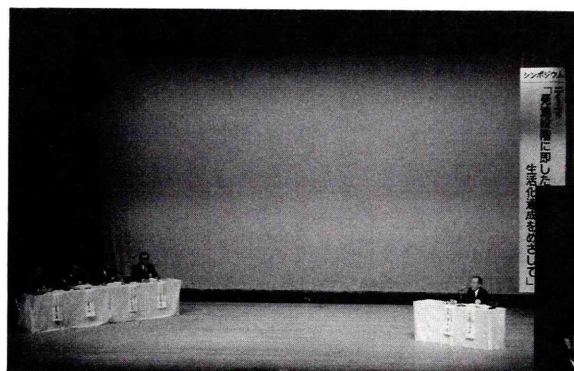
歯科保健にとって口の管理は重要であり、また、管理が十分できない子どもを下記の3つのタイプに分類できる。

- (1) 過去の歯科保健指導等により、保健への自発的行動はもっているが、不正咬合やその他の異常が原因で十分管理ができない子ども。
- (2) 保健への自発的行動が形成されていないため、管理がなされていない子ども。
- (3) 保健への自発的行動が形成されてなく、さらに、不正咬合や他の異常がある子ども。

上記3つのタイプの中で、特に注意すべきタイプは③で、このタイプの子どもの種々の問題を解決しないで放置された場合、成長発育の過程でさらに口腔環境は悪化し、疼痛などの急性症状として顕在化し、また、咀嚼機能障害を伴い、種々の疾患の Sever Case となるのである。

4 今後の課題

最初に述べたように子どもたちの口腔状況は決して好ましいものではない。当地においては、現在、那覇市学校歯科保健大会や日常の種々の機会をとらえて“口”の健康の重要性を訴えている。世の中が発展するにつれ、また生活に便利さが増すにつれ、その代償として、人間にとって好ましい生活環境は崩されてくる。私は職業柄、その代表的なものが口腔に表れているように思われてならない。健康的な歯牙と整った歯並び、そして確かな咀嚼力、これこそ人々が健康で文化的な生活を営むことを可能にする源である。治療から予防へ、さらに健康増進へ、本来あるべき姿に人々を位置づけるのは、一にわれわれ学校保健関係者の努力にかかっている。



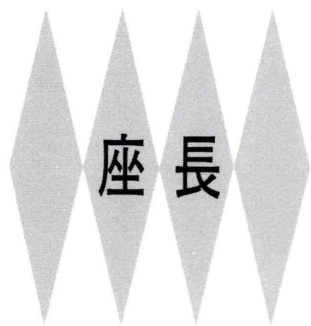
幼稚園・保育所(園) 部会

テーマ

幼稚園・保育所(園)における歯科保健指導の実践

- | | | |
|-----|----------------------|---------|
| 座長 | ● 日本大学松戸歯学部教授 | 森本 基 |
| 助言者 | ● 文部省体育局学校健康教育課教科調査官 | 戸田 芳雄 |
| 発表者 | ● 大阪府和泉市北池田保育園看護婦 | 紀之定 美津代 |
| | 東京都練馬区歯科医師会理事 | 中田 郁平 |
| | 富山県八尾町立杉原幼稚園園長代理 | 中川 悦子 |





座長

幼稚園・保育所における 歯科保健指導の実践

日本大学松戸歯学部教授

森 本 基

1. はじめに

幼稚園・保育所における歯科保健活動には残念ながら現時点では比較できない大きな格差がある。全く歯科保健活動のなされていない所から、先進的な園にあっては、完璧な驚くほどの活動実践をしているところまで、つまり、口腔の清掃状態だけでなく、むし歯も極めて少なく、保健行動も十分にできあがっているところまである。そのような園にあっては世界保健機関が国際歯科連盟と協同で提案した「2000年の口腔保健目標」の第1番目である「5-6歳児のむし歯の無い者を50%以上としよう」を既に達成しているところも少なからず出現してきている。

しかし、少なくともとは言え、まだ「乳歯は、どうせ生え変わるものであるから、そんなに気にしなくとも良い」との昔からの考えが無くなったとは言い難い状態にある。残念ながら幼児歯科保健には未だに問題を抱えていると言うことが現状である。今こそ、より積極的に、改善を目指して乳幼児歯科保健と取り組まなければならない時であると思考している。

現在、わが国では、80歳になった時に20本の自分の歯を保有して、何でも十分に食べられるということを目指した「8020運動」が展開されている。

この目的は成人になってからの歯科保健問題ではなく、永久歯がどんどん形成されている乳幼児期からの継続的な努力が極めて大切であることは言うまでもない。そして、この実践を通じての生活化が将来大きく歯科保健状態の改善と確保に貢献するはずである。より充実した歯科保健活動の実践を進めるためのディスカッションを大いにやっておく必要がある。

2. 幼児期の健康づくり目標

健康な人間として生涯を送るための基礎づくり

の時期として、幼児期は極めて重要な時期であり、十分に計画した継続的な実践活動によって、発育と発達確保がなされなくてはならない。ここで幼稚園における教育と保育所における保育活動について、若干考えておく必要がある。

(1) 幼稚園教育と保健活動

幼児期が生涯を通じての人間形成の基礎づくり時期に当たり、幼児一人ひとりの特性を十分に配慮して、発達、発育の状況に応じて健康で安全な生活ができるよう基本的生活習慣と取り組む態度を育て、自立と協同、道徳性の芽を育て、日常生活から身近なものへの興味や関心を育てるなどを幼稚園教育は目標としている。

この中で、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだせるよう、毎日の生活活動を通じて身につけさせることは重要な目標の1つである。このねらいを達成させるためには日常の健康生活からのアプローチとして歯の保健指導とその実践が非常に役立つものである。身をもって体験させて理解を深めさせて欲しいものである。

(2) 保育所の保育活動と保健指導

保育所とは「日々保護者の委託を受けて、保育に欠ける乳児または幼児を保育することを目的とする」と規定される機関であり、基本的には幼稚園教育とは異なる目的をもっている。しかし、保育は飲ませたり、食べさせたりすることが主たる目的とするものでなく、心身の発達に伴っての養護と基本的生活習慣や社会的態度の獲得など乳幼児の発達に応じて行う保育活動である。

(3) 幼稚園および保育所での歯科保健活動

幼稚園にあっては、幼児の心身の発達に応じて自らの健康を守り育てることをねらいと

した教育活動を行う場であるから、自分の健康については、積極的に関心をもたせ、進んで病気の予防に取り組むような活動を教育活動として行うものである。

保育活動は保育に欠ける児童の保育が主たる目的であったとしても、健康に関心をもって良いわけではなく、保育指針にも示されているように、歯科健康診断が定められており、この時、乳幼児の取り扱いに習熟して、熱意と理解のある歯科医師を選ぶよう定められている。

以上のことからしても、幼児の心身の健全な発育、発達を考えた保健指導、食事指導、刷牙指導を始めとした歯科保健指導は欠くことのできない重要事項であり、それぞれの教育や保育の目標の問題でなく、人としての健康にして安全に生活するための基本的生活習慣を身につけさせるための教育活動であると同時に、歯科保健の立場からも、欠くことのできない生活上の必須活動でもある。

3. 幼児の発達段階と歯科保健活動

幼児は生涯を通じて最も発達の著しい時代であり、心身の発育も大であり、運動量もますます大となる時である。この時、運動に応じて怪我をしたり、病気になったり、健康上の対応も非常に重要となるときである。

歯も乳歯列が完成しており、食の傾向からう蝕にも注意していないと多発してしまい、手のうちようがなくなってしまう危険性もある。したがって、幼児の心身の発達に応じて、歯・口腔の定期検査や保健指導、特に、刷牙指導も欠かせない重要な歯科保健指導の1つである。

斎藤(1987)の生活習慣の指導開始時期についての調査結果の、3-4歳からできて欲しい項目では、

下着を取り替える (61.4%)

歯を磨く (60.2%)

好き嫌いをしない (59.1%)

朝、顔を洗う (57.4%)

ありがとう、ごめんなさいを言う (53.8%)

などがあげられている。

この時期の基本的生活習慣を身につけさせたい親の気持ちが示されており、同時に歯みがき習慣についてもかなり高いランクを示しており、保護者の幼児に対する期待がうかがわれる。

4. 幼児期の歯科保健指導の課題とねらい

幼児期における歯科保健指導の問題点はなにか、どのように進めたらよいか、課題とねらいについて簡単に述べる。

(1) 歯・口腔の発育状況

2-3歳では、全ての乳歯が生え揃い、乳歯列が完成しているのが普通である。そして、4歳を過ぎる頃になると、顎の発育の関係から、特に、前歯を中心に歯と歯の間に隙間ができてくる。これは永久歯の出る場所を確保するためのものであり、異常では決してないので母親の常識として教えておく必要がある。

6歳前後になると第一大臼歯が生えてくる。この歯は生涯を通じて使用する永久歯列の基礎となる歯であるので大切にしたい。この第一大臼歯を咬合の鍵と言われるゆえんである。ここでは歯列や咬合の大切さを十二分に指導しておく必要がある。

(2) 歯・口腔の疾患および異常

最近では、歯科保健指導の機会もふえ、保護者の関心も高くなり、幼児のう蝕も少なくなり、乳前歯の隣接面や乳臼歯の咬合面や隣接面のう蝕をみかけることも少なくなった

が、これらの場所ほう蝕の発生しやすい場所であるだけに保護者による観察や刷掃の励行が望まれるところである。

先天異常としての口蓋裂や口唇裂は決して多発するものではないが、発見したときにはできるだけ早いうちに専門医の診断を受けて適切な処置をうけるようにしてほしい。これは早ければ早いほど良いことなのである。

保護者や指導者には強調しておきたい。また、歯の数や形の異常、癒合歯などについての情報も十分にもってほしい。

(3) 保健指導のねらい

幼児にとっては歯や口腔が正常機能をもっているのがふつうである。なかった場合は、早く見付けて対処する必要がある。

異常がないのが普通であるから、歯・口腔の機能、食べる、噛む、飲み込む、唾液が十分に出る、消化をする、話をする、正しい発音を覚える、歯と表情との係わりを考える等々、を十分に理解し発育・発達について考え、大切に指導を忘れてはならない。

特に、食べる機能は歯・口腔の基本的機能であり、食べることは、口の中を汚すことであるので、時折、保護者が幼児の口の中を観察して、歯垢の付着があればブラッシングをすることが大切であり、幼児にたいして、積極的に自ら刷掃するよう指導しておく必要がある。

良く噛むことは歯がきれいになることを観察によって理解させ、食物の種類によって汚れもちがうことなどを認識させることは保健指導の実践としても大切なことである。

(4) いつも歯をきれいに

常に清潔に保つという習慣は努力によって獲得するものである。物を食べたら口の中は汚れることは、先に示した経験でも知っている。食べたら、ぶくぶくうがいをする、うが

いだけでは、十分にきれいにはならないので、できるだけ歯ブラシを使用することが大事であることを教育しなければならない。しかし、歯ブラシの使い方は、自分で思っているほど簡単でないで、保護者による仕上げ磨きを並行して徹底していくことが大事であろう。

(5) 家庭との連携の重要性

幼児にとって、家庭にいる時間が最も長い時間であり、園での指導を十分に徹底させるためには、常に家庭との連携には手落ちのないようにして、習慣形成を進めていかねばならない。

幼稚園、保育所と家庭との連携を強化して協調体制をとることによって初めて成果が期待できることを強調しておく必要がある。



助言

幼稚園、保育所における 歯科保健の進め方

文部省体育局学校健康教育課教科調査官

戸田 芳雄

1. はじめに

(1) 幼稚園教育要領等に示された幼児教育・保育の基本的な考え方

人間は生まれながらにして、自然に成長していく力と同時に周囲の環境に対して自分から能動的に働きかけようとする力をもっている。自然な心身の成長に伴い、人がこうした能動性を発揮して環境とのかかわりあう中で、生活に必要な能力や態度などを身に付けていく過程を発達と考えることができる。

これまで、能力や態度などを身に付けるに当たっては、どちらかというと大人に教えられたとおり幼児が覚えていくという側面が強調されていたが、現行の教育要領では、幼児自身が環境（物、人、自然、社会事象等）に自発的、能動的にかかわりながら、生活の中で状況と関連付けながら身に付けていくという側面が重視されている。発達に応じた環境からの刺激、能動性を発揮できる信頼関係を築くことがその基礎となる。

この考え方は、幼稚園教育要領に沿って改訂された「保育指針」にも生かされており、当然のことながら、歯科保健の指導に当たっても十分配慮されなければならない。

(2) 幼稚園教育の目標

「幼稚園は、幼児が生涯にわたる人間形成の基礎を培う時期であることを踏まえ、幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して、幼稚園教育の目標達成に努めなければならない」とし、次の5つの目標が示されている。

- ① 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培うようにすること。
- ② 人への愛情や信頼関係を育て、自立と協同の態度及び道徳性の芽生えを培うように

すること。

- ③ 自然などの身近な事象への興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うようにすること。
- ④ 日常生活の中で言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うようにすること。
- ⑤ 多様な体験を通じて豊かな感性を育て、創造性を豊かにするようにすること。

(3) 歯科保健に関連の深い領域

幼稚園教育の領域は、心身の健康に関する領域「健康」、人とかかわりに関する領域「人間関係」、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」の5つであり、その中で、特に歯科保健に関連の深い領域は、「健康」である。

領域「健康」の3つのねらいのうち、「(3)健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける」、また、9つの内容のうち「(8)自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う」が、直接、歯科保健と関連が深いものと考えられる。保育指針にも同様の内容が含まれている。

幼稚園及び保育所においては、これらのことから、積極的に歯科保健を含む保健指導の充実に努める必要がある。

2. 幼稚園、保育所部会の研究内容に沿って

(1) 幼児の発達段階からみた歯科保健活動の目標と内容について

- ① 健康な生活に必要な習慣や態度を身に付ける

幼稚園における健康教育は、子ども達に健康な生活を続けていくために、必要な習

慣や態度を身につけるということが最も大切なねらいである。

手を洗う。うがいをする。はなをかむ。汗をふく。衣服を清潔にする。水吞場・足洗場を上手に使う。履物の区別をする。ちらかさない。ハンカチ・ちり紙を持つ。むやみに物を舐めたり、口に入れない。不潔なものに気が付く。よい食べ物、悪い食べ物の区別ができる。正しい食事の仕方。食事の手伝い、後片付け。食後の休憩。我慢しないで便所に行く。などは、生涯の生活基盤を確立していくためのアプローチで、そのねらいを明確にしながら、指導(教育)上のポイントを整理しておくことが大切である。

歯科保健に関連する問題で「うがい」について考えてみると、

〈ねらい〉

- うがいをしなければならないわけを知る。
- ガラガラうがい(喉のうがい)とブクブクうがい(口腔内の清掃)の違いを知る。
- 自分で進んでうがいをする。

〈導入〉

- 風邪とウイルスとうがいの関係。
- 食物残渣とむし歯とうがいの関係。

〈指導のポイント〉

- なぜうがいをするか理解し、進んでうがいをすることを身につける。
- 正しいうがいの仕方を知る。
- いやいやうがいするのではなく、やらなければ気持ちが悪いと感性を育てるために時々刺激を与えることが大切である。これらが身につけていない幼児が多い。WHOの提唱である幼児のう歯患者率50%を目標に、食事指導を含めた保健教育が望まれる。

- ② 健康診断のねらい

- 健康診断の大切なことを知る。
- 自分の友達の身長、体重、健康な歯の数やむし歯の数などに興味をもつ。
- 医師の前で固くならず診てもらい、診断を受ける順番を静かにきちんと待つ。

〈指導のポイント〉

- 洋服の脱ぎ着、たたむことができる。
- 自分や友達の身体の成長を喜ぶ。
- 医師の前でも、普通に身体を楽にし診てもらう態度ができる。
- 大きな口をあけることができる。
- いろいろな身体の人がいることが分かる。
(太っている、痩せている、背が高い)
- 丈夫な身体になるにはどうしたらよいかを知って、がんばることができる。

〈指導上の留意点〉

- 診断の前に幼児なりに納得のいくように十分話をし、医師に対して緊張がほぐれるようにする。
- 順番の待ち方、洋服のまとめ方などを覚えさせる。
- 診断の結果を幼児に分かるように知らせる。

〈家庭との連絡〉

- 前日に入浴し、脱ぎ着のしやすい洋服を着て来ること。
- 異常のある場合は、連絡を密にする。
- 食事は自身の責任において食べること、嫌いなものでも我慢して少しずつ食べると丈夫な身体になることを幼児に納得させる。
- よい歯が健康に大切なことを知らせる。
- むし歯の放置は、歯の生涯保健に悪い結果をもたらすことを知ってもらう。
- ③ デンタルヘルスの指導(教育)

〈歯口清掃指導〉

- 家庭のしつけ
小児における歯口刷掃の定着は、その個

人の歯科的健康を左右するものである。習慣化という面では成人より小児の方がより定着しやすく、教育効果も優れている。元来、歯口清掃そのものは、保護者によって日常の家庭生活で常識的な習慣として営まれるべきであるが、そのしつけが実行されていないために小児う蝕の多発につながってきている。

○園における指導(学習)

こどものよい習慣の獲得は、学習としつけによって行われる。

したがって次のようなことに留意して保育にあたる必要がある。

- ① 反復して体得させる(学習)こと。
- ② こどもの運動機能や知能の発達段階によく合っていること。
- ③ 自発的に喜んで行えるように環境づくりをすること。
- ④ 先生がまず手本を示すこと。

園児によく理解させ、幼稚園、保育所全体で環境づくりをしなければならぬ。

現実に歯ブラシを口腔内に入れることを拒否する小児がいる。園での指導(学習)やその役割がいかに大切かが分かる。

○歯みがきのポイント

- ① 上手な歯みがきは、園児自身が歯に付く汚れ(歯垢)を確認することから始まる。

奥歯の噛み合わせ、歯と歯肉の境目、歯と歯の間の汚れは「歯垢染め出し液」を使うと簡単に調べられる。

- ② 歯ブラシの毛先を使って磨く。

歯垢をとる目的を明確にし、毛先の圧力は100g～200g(調理用ハカリの上で確認)位にし、1本1本丁寧に時間をか

けることが大切である。こどもが歯みがきを拒否する場合は400g～500gの毛圧がかかっている場合が多い。つまり痛いから拒否するのである。

◎ 毛先のあて方

歯の形態(丸みをおびている)に合わせて、それぞれの面に直角になるようにあて、細かく動かす。奥歯の噛み合わせは、溝の中の汚れをかき出すようにする。

④ 教育(保育)と歯科健康管理

○ 萌出準備期(新生児期・乳幼児期前半)

この期は、口腔内の所見としては無菌期にあたる。

〈口腔内の問題点〉

無菌期であるので、この期に歯科医を訪れることはほとんどない。しかし、また先天性歯、それに連なるRiga-Fede病がある。また、まれに上皮真珠が出現することがある。

〈母親との関係〉

核家族化の傾向が強いために、育児の経験に乏しくて、自信がなく、育児書への過信によって、画一的な育児法に陥ることがある。また、人工栄養の価値の過大評価傾向が大きく、母乳保育が減少し、単に栄養上の問題だけでなく、スキンシップの不在などによって児の情緒の発達にも知らず知らずのうちに大きな影響を与えている。

この期は離乳開始期(体重7kgに達すると離乳を開始する)にあたり、人口乳の蔗糖の多添加とともに離乳食の糖添加がう蝕発病環境と関連して問題となる。

〈この期の留意点〉

適切な育児、とくに母乳栄養による保育が望まれる。また、適切な離乳開始により栄養不全や口腔のう蝕環境の悪い布石にな

らないことが望まれ、そういった視点から妊娠中に引き続いての母親教育が必要である。

〈乳歯萌出時期(乳児期後半～幼児期前半)〉

この期は、下顎乳中切歯の萌出にはじまる乳歯萌出期で、乳歯列の完成期である2歳半～3歳まで続く。児の発育もめざましい時期である。

〈口腔内の状態〉

乳歯の萌出期に、哺乳ビンう蝕 bottle mouth caries の発生がみられるようになる。この哺乳ビンう蝕というのは、哺乳ビンの中の砂糖を多く含んだミルクや乳酸飲料などによって起こる乳前歯(特に上顎)の唇面および舌面に発生する急性汎性う蝕のことである。

この年齢層の歯科治療は知的発達や行動から見ても困難であり、う蝕予防対策が最も望まれている。

また、う蝕による歯質崩壊、悪習慣(拇指吸引、弄舌、異常嚥下など)によって起こる乳歯列の後天的な不正咬合が早くも見られるようになる時期でもある。

〈この時期の留意点〉

- 母親の育児態度がその児の人格形成に大きな影響を与える。
- 乳歯の萌出とともにう蝕罹患が始まり、萌出歯の増加(加齢)とともに罹患率が高まる。
- 母親の手による児の歯口清掃が最も必要な時期である。

○ 乳歯列期(幼児期)

乳歯の萌出がすべて完了し、第一大臼歯の萌出するまでの3～3.5年間は、乳歯列の安定期であると同時に乳歯う蝕の罹患率がピークに達する時期である。

〈口腔内の状態〉

この時期のう蝕は、5歳児前後にピークになり、う蝕の被害が最も大きい。咀嚼不全は全身的発育の現在形成されつつある永久歯の石灰化にも影響する。う蝕による乳歯の崩壊や早期抜去は、乳歯列自体の不正咬合と、咬合異常につながっていく。

また拇指吸引癖や吸唇癖などの悪癖は、不正咬合や顎の変形などを起こすことになりかねない。

〈母親との関係〉

母親への依存性の強かった時代から、自己主張がでてきて、何でもイヤイヤという時代に入ってくる。(第一反抗期)

4～5歳になれば、自己主張の選択ができて友達づきあいを通じて社会性が備わってきて、大人の話がよく理解できるようになるが、その反面、自己の欲しいことは頑強に抵抗するので、この時期に歯科医や、母親がこどもの取り扱いを誤ると、いっそう歯科治療時の取り扱いの困難な患者に仕上げてしまう恐れがある。

〈この時期の留意点〉

- おとなの言葉がよく理解できるようになる反面、自己主張が強くなる。
- 歯科治療にあたっては、安易に妥協することなく、母子ともに歯科治療の重要性を認識するようにしなければならない。
- 母親にたいして、う蝕予防のための歯口清掃の重要性を教育し、早期のしつけによって、これらの習慣を定着に向ける指導が必要である。

しつけは“仕立てること”といわれ

- ① 反復すること
- ② 例外を許さないこと
- ③ 機能や知能の発達時期に合致すること
- ④ こどもが自発的に喜んでできる環境をつくること

⑤ 手本を示してやらせることが成功のための条件

と、いわれている。

このような条件づけによって、自然にしつけを行うように、家庭と協力して指導したいものである。

ある心理学者は衛生的行動の開始期を、

- 手を洗う(2歳半)
- 口すすぎ(3歳)
- 鼻をかむ、歯を磨く、うがい、洗顔をする。(4歳)
- 髪をとく、入浴時自分で洗う(5歳)と述べている。1つの参考となるものと考えられる。

(2) 幼児の自主性を育て、習慣化を図る指導計画と指導の進め方

幼稚園、保育所における歯の保健指導は、家庭との連携を図りながら、計画的に進めることによって、習慣化できるようになるものと考えられる。

そのために必要な事柄としては、次のようなことが上げられる。

- ① 日課の中に歯みがきの時間を位置づける。
- ② 年間の教育計画に歯の保健指導の重点指導の時間を設定して、指導を行う。
- ③ 6月の「歯・口の衛生週間」や健康診断の時期に、重点指導を実施する。
- ④ 幼稚園、保育所の行事等に歯の保健指導に関する楽しい活動を企画する。
- ⑤ 子どもの特性に応じて個別指導を実施し、ほめ、励まししながら指導する。
- ⑥ 紙芝居や音楽などを活用し、楽しい雰囲気の中で指導する。
- ⑦ 家庭との連携により、一貫した指導を行う。

以下に、重点指導の一例を示す。

◎主題名「歯」ってなあに

〈ねらい〉

- 歯について興味、関心をもたせることができるようにさせる。
- 歯の役割を知り、大切にしようとする意識を持つことができるようにさせる。

〈主な経験や活動〉

- 自分の友達の口の中の様子を伝える。
- 歯医者さんごっこ。
- 歯の役目。

◎ブクブクうがいをじょうずにしよう。

〈ねらい〉

- 食べたら進んで口の中をきれいにできるようにさせる。
- ブクブクうがいを上手にできるようにさせる。

〈主な経験や活動〉

- ブクブクうがいの意味を知る。
- ブクブクうがいの練習。

◎歯ブラシとおともだちになろう。

〈ねらい〉

- 口の中をきれいにした時の気持ち良さを感じるできるようにさせる。
- 歯ブラシを正しく持ち、毛先が歯にあたった感触がわかるようにさせる。

〈主な経験や活動〉

- 歯ブラシの持ち方、歯へのあて方、動かし方。歯みがきの感触（音）。
- 歯みがき後の歯の感触（指でこすった感じなど）。

◎おやつをじょうずにたべよう。

〈ねらい〉

- 甘い飲食物は歯によくないことを知る。
- おやつの上手な食べ方をわからせる。

〈主な経験や活動〉

- 甘いものとむし歯。
- おやつのお食べ方。

(3) 保護者の理解を深めるための家庭との連携の在り方

本来、幼児期の保健教育・しつけは、主として家庭生活において、必要な生活習慣を身につけることの一貫として行われることが基本的に必要とされる。しかしながら、現在、家庭の教育力がかならずしも十分でないことが指摘されている。

そのような現状で、幼稚園・保育所が、保護者と連携しながら、保健教育を進めることは、子どもの心身の健康をめぐる状況の深刻さからみても、一層その重要性が高まっているといえよう。

次に、保護者との連携に必要な事柄の例をいくつか上げてみたい。

- ① 学校保健委員会のような保健活動の推進の核となる組織の確立
- ② 幼稚園学校歯科医、保育所委託歯科医等による保護者への意識啓発及び歯の保健指導の実施
- ③ 親子歯みがき運動などの推進
- ④ 歯の保健指導の授業・保育参観
- ⑤ 小学校との連携による指導（一日入学その他）
- ⑥ 行事を通じての啓発
- ⑦ 広報等による意識啓発
- ⑧ 指導者の研修の充実

(4) 幼稚園、保育所における歯科保健指導での歯科医の役割とかかわり方

学校保健法施行規則に「学校歯科医の職務準則」が定められているが、幼稚園の学校歯科医はこの規定により、職務に従事することになる。保育所には、その制度はないが保育所の設置者が委託歯科医を委嘱した場合は、学校歯科医に準じた役割を期待しているものと考えられる。

具体的には、次の7項目の職務が期待され

ている。

- ① 学校保健安全計画の立案に参加する。
- ② 定期及び臨時の健康診断のうち、口腔及び歯の検査を行う。
- ③ 健康診断の結果に基づく予防措置のうち、歯その他の歯疾の予防措置及び保健指導を行う。
- ④ 指導・生徒の健康相談のうち、歯及び口腔の相談に従事する。
- ⑤ 市町村の教育委員会の依頼に応じ、就学時の健康診断のうち、歯及び口腔の検査に従事する。
- ⑥ 以上に掲げるほか、必要に応じ学校における保健管理に関する専門的事項の指導を実施する。
- ⑦ 学校歯科医は、以上に掲げる事項について職務に従事したときには、その状況の概要を学校歯科医執務記録簿に記入し、校長に提出する。

幼稚園、保育所においては、このような役割を認識し、歯科保健指導を効果的に進めていくことが必要となってくる。

また、歯科医師にあっても、幼稚園や保育所の教育・保育の目指している目標・内容の理解に努め、幼児の発達などを考慮しながらその職務に当たることが望まれる。

3. おわりに

高齢化社会が急速に進展する昨今、生涯健康でいたいということが、国民の大きな願いとなってきた。その1つの重要な柱が歯・口の健康づくりであるということは、誰もが異論のないところであろう。しかしながら、ローマは1日にしてならずといわれるように、歯・口の健康も日々の小さな営みによって築かれる。私たち大人は、子ども一人ひとりの自立に向かって、温かく、根気強く支援したい。小さくて、偉大な日々の歩み。



1

発達段階に即した保育園における
歯と口の健康づくりの実践

(おひさまとおともだち)

発表者

大阪府和泉市北池田保育園看護婦

紀之定 美津代

概 要

大阪府の南部，泉州地区に位置する和泉市は人口約15万人，面積85km²，東西6.9km，南北18.8kmと細長く，北の平野部は市街地であり，南の山間部は和歌山県と接している。

中央部の丘陵地では，関西国際新空港へ繋がる高速道路（阪和自動車道），鉄道（泉北高速鉄道）が敷かれ，平成7年度開設予定の駅周辺は，現在住宅地や市街地等の大規模な開発が急ピッチに進められている。

本園はその開発の進んでいる地域の一角に位置し，都心までは1時間圏内にある。昭和29年に創立されたが，老朽化のため昭和62年に改築された。それと同時に，それまでの3～5歳児を保育する幼児園から0～5歳児を保育する総合園になり，保育時間は午前8時から午後6時（通常9～5時）となった。

園児の約60%が他地域からの転入であり，途中入退園児も多く核家族家庭は全園児の75%である。

保護者の職業は以前，織物業関係等の自営や兼業農家が多かったが，最近では父母とも公務員や会社員の占める割合が多くなった。

親同士の交流も少ないことから，子どもの健やかな成長を願い，今年度保護者会が結成され活動が始まった。

保育目標

〈テーマ〉 おひさまとおともだち

〈目 標〉 ○基本的生活習慣を身につける

○健康で丈夫な体をつくる

○仲間を大切にする

○豊かな感性を育てる

子育てには熱心な家庭が多く，子どもの気持ちを大切にしようとしているが，まだまだ大人のペースに合わせた生活の家庭が多く感じられる。

また，全国的に勉強やけいこごと等の塾に親達の関心が集まっている現在，当園でも「少しでも早くから…」という親の願いは強く，水泳，ピアノ，習字，英語等のけいこごとに通う園児もいる。

園に対して文字や数，ピアノ等の指導をしてほしいという要望もでているが，本園では，乳幼児期は何より全身の発育を促すことが大切と考え『おひさまとおともだち』をテーマに心身両面の健康を願い保育を進めている。

園のまわりはまだ自然が多く残っており，0～2歳児の散歩の範囲では乳牛を飼っている所や馬事公苑がある。3～5歳児になると30～60分の道のりを歩くが，この範囲には，光明皇后ゆかりの地に，府下でも最大級の「光明池」があり，その近くには「野鳥の森」や自然の残った大きな公園がある。

天気の良い日は園外に出かけていろいろな物を見・聞き・触れ・臭い・味わいと，五感の発達を

表1 年間歯科保健年齢別指導計画（乳児用）

〔年間目標〕

- 何でもよくかんで食べ、丈夫な体をつくる
- 歯みがきを通して口の中を清潔にし、気持ちよく過ごす

	0 歳	1 歳	2 歳	家庭連絡及び啓発
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ●歯みがきに慣れる 	<ul style="list-style-type: none"> ●食べたら歯みがきをしてもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ●食べたら自分からすすんで磨いてもらう ●ぶくぶくうがいをし、気持ちよく過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> ●連絡帳に毎日の様子を記入してもらい、園からも園での様子などを記入 ●月令、年令に合った歯ブラシの紹介
指導内容及び実践	<ul style="list-style-type: none"> ●「マンマ、おいしいね」などいろいろなことばがけをしながら、楽しく食事する ●離乳食時より、そのものの本来のうす味で、いろいろな食品の味を知らせる ●「モグモグ」「カミカミ」など口をしっかりと動かすような言葉がけをしたり、いっしょに口を動かしてみせたりし、かむことを知らせる ●食べたら磨き、歯みがきを嫌がらないよう、習慣づけていく ●未萌出歯の乳児は滅菌ガーゼで清拭する ●上前歯萌出児は、乳児用歯ブラシ（ラブ）使用 ●4本萌出すると、毛を3列（乳児用歯ブラシの毛を抜いて）にして使用 	<ul style="list-style-type: none"> ●しっかりと自分で食べることを、知らせることばがけをしたりいっしょに食べてかむ様子をみせたりする ●食べたら歯みがきをしてもらい、口の中をきれいにする気持ちよさを味わう ●乳児用歯ブラシを使用 ●ぶくぶくうがいの練習をする（ほっぺを膨らませることから始め、水を口にふくんではき出す） 	<ul style="list-style-type: none"> ●やわらかいものでもしっかりと自分で食べる ●奥歯でしっかりと噛む ●「これを食べると力がでるよ」など、食品の簡単な効用を話して、自ら嫌いなものでも食べようとする気持ちを持つようにする ●食べたら歯みがきをしてもらう ●ぶくぶくうがいをする <ul style="list-style-type: none"> ●鏡あそび ●歯 ●舌 ●唾液など 	<p>※幼児用参照 (表2)</p>
				備 考
				<p>※2歳児については、歯ブラシの扱い方を指導しても、十分理解できなく、力を入れ過ぎたり、かんだりするので、保育者が全面的に行っている</p>
教材	<ul style="list-style-type: none"> ●絵本 <ul style="list-style-type: none"> 「ムシババも こわーいむしば」 「ムシババと は・は・は・きゅうきゅうたい」 「ムシババと そのなかまたち」 ●紙芝居 <ul style="list-style-type: none"> 「みんなげんき」 「たべないおばけ」 			<ul style="list-style-type: none"> ●エプロンシアター ●パルシアター
留意点及び配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●歯みがきを嫌がらないよう、寝かせ遊び（お話し、うた、体ほぐしなど）して、安心して、楽しんで「磨いて」と、子どものほうから寄ってくるような雰囲気をつくる ●磨くときにも「シュッシュ」や「きれいに、きれいに」などのことばがけをし、1本1本丁寧に磨く（上前歯、奥歯の咬合面、歯と歯ぐきの間は特に丁寧に磨く） ●歯ブラシの毛先が全部歯面にあたるように磨く ●歯ブラシ、コップは常に清潔に保つ ●一人、歯みがきが終わる毎に手をきれいに洗う ●歯ブラシはいたんだら、その都度交換する ●嫌いなものは小さくし食べやすいようにする 			

促すとともにまた、「臭覚」の重要性も考えそれらの多くの機会をつくることに努力している。

保健目標

○心身ともに健康な子ども

保育園に通う子どもたちは、起きている大半の時間を園で過ごすことになる。保護者にとっても仕事をしながらの子育てで一番困るのが健康問題であり、したがって保育時間の長い集団生活での健康管理は極めて重要である。

平成3年度は小さな外傷も含め医療機関に診せる必要のあるけがが19件あった。

そこで、反省をふまえ、環境を整備し基本的生活習慣の確立をめざして毎月1回は合同集会で、健康面及び安全面に関する重点指導を実施している。

歯科保健計画

○歯と口の衛生に気をつけ、どのような食べ物でもよく噛んで食べる。

保護者も歯の健康については気にしているが、子どもからの訴えがなければ、つい忙しいから…とおざなりにされやすいのが現状である。

そこで園歯科医による暦年齢にあった『噛むことの重要性』や保育保健にとっては切り離せない『食育』等の講話等、ここ数年間歯の健康に取り組んできた。

人生のスタートを切って間もない子どもの時代から高齢化社会を迎えるために必要な準備をして、自ら健康なライフスタイルを確立していくことをふまえ、『心身ともに健康な子ども』をめざし、保護者会の発足と同時に園と家庭が連携して保育に携わるよう計画を作成した（「年間歯科保健年齢別指導計画」表1～2参照）

歯科健診

●親子歯科健診

〔一～三次健診及び途中入園時臨時健診〕

(1) 園歯科医の講話（園児、保護者・職員）

- ① 乳歯のむし歯治療の重要性
- ② 乳歯と永久歯の混合時期について
- ③ 指吸いや口唇をなめるクセの害
- ④ 主食に対して補食としての間食の与え方
- ⑤ よく噛んで食べることの大切さ
- ⑥ 永久歯がスムーズに萌出するための顎づくり
- ⑦ 歯みがきの大切さと歯ブラシの選び方
- ⑧ 生活習慣並びに食生活の大切さ
- ⑨ 不幸にしてむし歯になった時

(2) 健診と結果

保護者とともに個人の歯ブラシとコップを持って健診を受ける（その時歯ブラシ・コップの点検）。

歯と口の状態（顎の発育・歯肉炎の有無・歯並び等）を知ってもらい、一人ひとりに見合った指導を担任及び関係職員も共に受ける。親子健診の実施は、健診の時間を園歯科医に配慮していただき降園時間帯（15～18時）に合わせて行う。

表3 歯科健診結果

	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年
受診児数(人)	104	105	85	105
むし歯のなかった児(人)	45	49	33	51
全部治療していた児(人)	10	14	23	14
健診児平均むし歯数(本)	3.7	3.3	3.2	3.4
第一大臼歯萌出児(人)	6	5	2	6
第一大臼歯むし歯数(本)	2	0	0	0
災害発生件数(件)	19	11	1	

今年度は、むし歯のない園児が増えているにもかかわらず、受診児平均むし歯数が増えている。これは一園児が保有するむし歯数が多いと

表2 年間歯科保健年齢別指導計画(幼児用)

	3 歳 児		4 歳 児		5 歳 児		家庭連携及び啓発
	ねらい	指導内容及び実践	ねらい	指導内容及び実践	ねらい	指導内容及び実践	
4 月	●コップと歯ブラシの扱い方を知る	●コップと歯ブラシを持ち歩く時は片方の手に持ち片方の手はあけておく ●歯ブラシは力を入れないよう一人ずつ確認し個別に指導	●コップと歯ブラシの扱い方を知る ●ぶくぶくうがいをする	●コップと歯ブラシを持ち歩く時は片方の手に持ち、歯みがきのとき力を入れすぎでないか確認 ●他の人の迷惑にならないよう、そとはき出す ●点検みがきをしてもらう	●食後やおやつの後すすんで歯みがきをする	●保育者と一緒に丁寧にみがき、点検みがきをしてもらう	毎月発行 ●園だより ●保健だより ●栄養だより ●おやつだより ●クラスだより 随時発行 ●びびちゃんからの おたより (健康に関するおたより)
5 月	●いやがらずに歯科健診を受ける	●健診について前もって必要性を話し不安を取り除いておく ●園歯科医の話 ●個々に指導し、点検みがきをする ●うた「歯をみがきましょう」	●歯科健診を受け自分の歯に関心をもつ ●音楽に合わせて、保育者と一緒に丁寧にみがく	●健診の必要性を知らせる ●園歯科医の話 ●口腔模型を使い1本1本丁寧にみがく指導 ●うた「歯をみがきましょう」	●自分の歯に関心をもちいやがらずに受診・治療 ●音楽に合わせて1本1本丁寧にみがく ●よくかんで味わう	●歯科健診を受け、治療の必要な子には必要性を知らせ、受診できるようにする ●園歯科医の話 ●保育者と一緒にみがく ●同じ素材でも作り方により、味やかたさのかわることを知る(空豆を使って) ●紙芝居作り(卒園記念品として年間取り組み)	●歯科健診参加呼びかけ(おたより、ポスター掲示) 健診後の指導及び事後処置用紙配布 ●アンケート調査
6 月	●家族の人と一緒にみがく	●びびちゃんからの話を聞く ●鏡の前で口を大きくあけてみたり、お友達と口の中を見あったりする ●今後むし歯を作らないように話す ●むし歯のない子、治療の済んだ子から順次表彰 ●家でもしっかりみがくよう励ます(歯みがきカード) ●エプロンシアターをみる ●絵本「ちいちゃんのはいしゃさん」 ●紙人形作り「おうちをアーン」	●家族の人と一緒にみがく ●みがき残しの部分を知り、気をつけてみがく	●びびちゃんからの話を聞く ●今後むし歯を作らないよう話す ●むし歯のない子、治療の済んだ子から順次表彰 ●家でもしっかりみがく(歯みがきカード) ●壁面制作「歯とバイ菌」 ●バイ菌の折り紙 ●歯垢の染め出し ●RDテスト ●手にもいっぱいバイ菌がついてることを知らせると共に、歯みがきの大切さを知らせる ●パネルシアターをみる ●親子で口の中を見あう。歯の並び方をみる ●絵本作り「お口の中は？」	●家族の人と一緒にみがく ●みがき残しの部分を知り、気をつけて丁寧にみがく	●びびちゃんからの話を聞く ●今後むし歯を作らないよう話す ●むし歯のない子、治療の済んだ子から順次表彰 ●寝る前にしっかりとみがく(歯みがきカード) ●歯垢の染め出し、口腔写真 ●RDテスト ●位相差顕微鏡で口腔内細菌をみる ●手にもいっぱいバイ菌がついてることを知らせると共に、歯みがきの大切さを知らせる(職員劇)(寒天培養) ●紙芝居作り「けんちゃんの冒険？」 ●紙芝居上演	●歯みがきカードを配布し、夜の歯みがきの徹底を図ると共に一緒にみがいてもらうことを習慣づける ●治療をできるだけ早く済ませてもらうよう、再度よびかけ ●アンケート集計報告 ●講話、園歯科医、歯科衛生士による話 「乳歯の大切さ」 「かむことの大切さ」 「歯のみがき方」について ●歯に関する取り組みの様子を保育参観する
7 月	●しっかりと自分で食べる	●やわらかいものでもかむと味がよく分かることを知らせる(バナナ) ●かむことに挑戦(するめ、小魚) ●びびちゃんからの話 けんちゃん人形(ごっくん人形) ●歯みがきカード ●エプロンシアター「グリーンマントのピーマンマン」	●しっかりと自分で食べる ●一次健診後の自分の歯を知る	●やわらかいものもしっかりかむ(バナナ) ●かむことに挑戦(するめ、小魚) ●びびちゃんからの話 けんちゃん人形(ごっくん人形) ●絵本作り続き ●二次健診 ●絵本「は、は、はの話」 ●歯みがきカード ●エプロンシアター「グリーンマントのピーマンマン」	●しっかりと自分で食べる ●一次健診後の自分の歯を知る	●やわらかいものもしっかりかむ ●かむことに挑戦 ●びびちゃんからの話 ●紙芝居作り続き ●二次健診 ●ミュータンスSMテスト、乳酸かん歯LBテスト ●ふりかけづくり(粘土・紙粘土で歯作り) ●くっつ人形あそび ●歯みがきカード	●歯みがきひとこと交換 歯みがきカードにひとこと書いてもらい、家での様子を知らせてもらう。園からひとこと書いて返す。 ●二次健診参加呼びかけ ●健診後の指導及び未処置歯児に対して勧告 ●講話、園歯科医によりアンケートに基づいた話

	3 歳 児		4 歳 児		5 歳 児		家庭連携及び啓発
	ねらい	指導内容及び実践	ねらい	指導内容及び実践	ねらい	指導内容及び実践	
8 月	●歯によい食べ物を知る	●けんちゃん人形 ●絵本「ムシババとそのなかまたち」	●歯によい食べ物を知り、何でも食べる	●けんちゃん人形 ●絵本「ムシババとそのなかまたち」	●赤、黄、緑の食品を知り体に必要な食べ物を知る	●体のしくみに興味をもつような絵本をみる「食べ物のたび」「ウェルとヘルシーのわくわくワーク」 ●赤、黄、緑の迷路ゲーム	●歯みがきカードのひとこと交換 ●治療のすすめ ●歯によいおやつ紹介
9 月	●食べたらみがく	●かむことに挑戦(こんぶ) ●絵本「ムシババとははきゅうきゅううたい」	●食べたらすすんでみがく	●かむことに挑戦(こんぶ) ●絵本「ムシババとははきゅうきゅううたい」	●永久歯(特に第一大臼歯)の大切さを知り、食べたらすすんでみがく	●かむことに挑戦(こんぶ) ●うた「○黄色□赤△緑」 ●第一大臼歯、前歯永久歯の歯みがき方を指導	●治療の後、むし歯を作らないよう、点検みがきをよびかける
10 月	●力を入れないよう丁寧にみがく	●歯みがき指導と話(園歯科医)(歯科衛生士) ●鏡指導 ●イメージ指導(ありさんみがき) ●お年寄りとの交流(8020をめざす)	●1本1本丁寧にみがく	●歯みがき指導と話(園歯科医)(歯科衛生士) ●鏡指導 ●お年寄りとの交流(8020をめざす)	●自分の歯を知り自分に合った歯みがき方法で1本1本丁寧にみがく	●歯みがき指導と話(園歯科医)(歯科衛生士) ●歯の染めだし(鏡指導) ●いたんだ歯ブラシは自分で気づき交換してもらう ●お年寄りとの交流(8020をめざす)	●はみがき指導参加呼びかけ ●祖父母への参加呼びかけ 講話、園歯科医より
11 月	●夜、寝る前の歯みがきの大切さを知る	●歯みがきカード ●食べられる木の実を採取し味わう ●おやつ作り(収穫物を使ってさつまいも団子)	●寝る前の歯みがきの大切さを知りすすんでみがく	●歯みがきカード ●食べられる木の実を採取し味わう ●おやつ作り(収穫物を使ってさつまいもかりんとう)	●寝る前の歯みがきの大切さが分かり、すすんで丁寧にみがく	●歯みがきカード ●食べられる木の実を採取し味わう ●おやつ作り(収穫物を使ってさつまいもけんび) ●絵本作り	●家族の人と一緒に夜の歯みがきの徹底を呼びかける
12 月	●何でも食べる	●かむことに挑戦 OHP「体の好きな食べ物なあに」	●何でもよく食べることの大切さが分かり体に関心をもつ	●かむことに挑戦 OHP「体の好きな食べ物なあに」	●健康に関心をもち何でもしっかりとんで食べる	●家でのおやつについて話し合う ●OHPをみる ●絵本作り ●紙芝居作り	●歯みがきカードひとこと交換 ●休み中の注意及び食べたらみがくの励行呼びかけ
1 月	●きれいにみがけているか点検してもらいながらみがく	●鏡指導 ●うた「ワンダーフードランド」	●みがき残しがないか確かめながら、丁寧にみがく	●鏡指導 ●うた「ワンダーフードランド」	●みがき残しがないよう確かめながら、1本1本丁寧にみがき、自分でほみがきあげる	●鏡指導 ●うた「ワンダーフードランド」	●点検みがきの呼びかけ
2 月	●みがきにくい部分を知る	●鏡指導 ●絵本「ムシババもこわいむしば」	●自分の歯を知りみがき残しのないように丁寧にみがく	●鏡指導 ●絵本「虫歯ミュータンスの冒険」	●永久歯のはえ初めはむし歯になりやすいことを知り、しっかりとみがく	●紙芝居上演 ●鏡指導 ●絵本「虫歯ミュータンスの冒険」 ●卒園前健診	●卒園前健診参加の呼びかけ ●健診後の指導 ●卒園制作 紙芝居「けんちゃん冒険？」をみてもらい親子の共通理解を深める
3 月	●歯の大切さを知る	●みがいた後の口の中のさっぱりした気持ち、歯の感触を舌で確かめる	●歯の大切さを知りすすんで歯みがきをする	●みんなで1年間の歯みがきについて話し合う ●みがいた後の歯の感触を舌で確かめる	●自分の健康について考え、自主的に歯みがきをし健康に生活する心がける	●反省生活習慣全般 ●就学後よい生活習慣を続けるための話し合い	●小学校へ行っても今までの習慣を続けてもらうよう呼びかける

いうことである。

また、間食を補食とする考え方や与え方及び食後の適切な歯みがきの必要性についての啓発不足、歯みがきをしているつもりでも、**みがいていることとみがけていることの違い**も考えられる。

(3) 健診後の指導

▶保護者に対して

- ① 健診結果を全園児の家庭に通知
ア. 園歯科医からの諸注意（歯と口の健康の重要性）等個別に記入する。
- ② 未処置歯のあった園児の家庭には治療を勧告
ア. 乳歯のむし歯治療の重要性を知らせる。
イ. 治療終了後は、主治医の歯科受診報告書を提出するよう呼びかける。
- ③ 治療終了後は、今後むし歯をつくらないよう注意を呼びかける。

▶園児に対して

- ① 結果を知らせる
- ② 歯、口の健康児には、これからもその状態を維持するようほめ言葉を添え、手製の表彰状を贈る。
- ③ 未処置歯のあった園児には、治療の重要性を知らせ受診を勧める。
ア. 受診を嫌がる園児を指導し励ます。
イ. 受診時、待合室では人に迷惑をかけないよう指導する。
ウ. 治療終了児には今後むし歯をつくらないよう指導し、手製の表彰状を贈る。

さを指導する

- ◎歯みがきの大切さを指導する
- ◎食生活の指導をする

(1) 導入のためのマスコット人形

健康指導時の案内役としてマスコット人形（指人形）を作製、園児に“ぴぴちゃん”と名前をつけてもらいみんなの仲間入りをした。この人形もOHP用・パネルシアター用・棒人形用・職員劇用とだんだん増え今では5体にもなった。

(2) 指導用教材

健康指導は毎日の繰り返しが大切なので、園児が集中しかつ楽しみ喜ぶことを心がけ、マンネリ化しないよう職員が手作りしたOHP・エプロンシアター・紙芝居・パネルシアター・ゲーム・人形等を使用している。

（絵本・紙芝居等の既製の物も使用）

(3) 歯ブラシの管理

- ① 歯ブラシは一人ひとりに合わせたものを使用
- ② 歯ブラシが痛んだらその都度交換
- ③ 使用後はいつも清潔に保てるように歯ブラシ立てを工夫
ア. 歯ブラシの毛先の部分が他の歯ブラシとつかない
イ. いつも風通しがよく乾燥している
ウ. ケースをバラして洗える
エ. 立てたまま消毒できる
- ④ 使用後は毎回消毒（ミルトン）し各保育室で保管

実践に際して

- ◎歯と口に関心を持たせる
- ◎歯の役割を知らせ大切にする意識を持たせる
- ◎むし歯になるメカニズムや第一大臼歯の大切

歯みがき指導

●0～2歳児

- ① 言葉がけやかからだ遊びにより十分コミュニケーションをとるようにする。
- ② 歯の萌出にあわせた歯ブラシを使用す

る。

- ③ 生えかけの歯や生えたばかりの歯はむし歯になりやすいので、寝かせみがきで1本1本ていねいに歯みがきをする。
- ④ 年齢に応じてブクブクうがいの練習を重ねる。
- ⑤ 口に興味を持つよう鏡を見せたり教材で指導する。

● 3～5歳児

① 歯ブラシとコップの扱い方の指導

ア. 歯ブラシは口にくわえて歩くと危険なことを知らせる。

イ. 歯ブラシとコップを持って歩くときは、片手で持ち一方の手は空けておく。

② 歯ブラシの持ち方や動かし方の指導

ア. 日々の歯みがきは保育者が口腔模型を使って見本を見せる。

イ. 他の保育者は歯ブラシの持ち方・使い方を個別に指導（特に歯肉を傷つけないよう留意）

※歯面に毛先がすべてあたり、力を入れ過ぎないで磨くということが子どもたちにも分かりやすくするために“アリさん”にイメージ化し、“アリさんみがき”といって指導する。

③ 口の中をきれいにした時の気持ちよさを体得させる。

ア. 毎日の繰り返しによって口の中の清潔感を身に覚えさせる。

※障害を持つ園児の治療は困難なことが多いので、むし歯をつくらぬよう留意する（体ほぐしでリラックスを図る・ラブを使用することもある）

④ 夜の歯みがきの徹底

ア. 歯みがきががんばり表を作成し、家族とともに歯みがきをする（点検みがきをしてもらう）

※年齢別指導計画参照（表1）

栄養指導

食育は生命を維持するうえで最も大切なことであり、歯の健康にとっても切り離すことができない。

- 年間栄養指導計画作成
- 献立作成（給食及び間食）
- 栄養指導
- アレルギーのある子どもの除去食の実施と指導
- 肥満予防と指導
- 偏食のある子どもの指導
- クッキング保育の指導

おやつには野菜スティック・するめ・さつま芋・野いちご・よもぎ等、自然の材料を多く取り入れ、よく噛んで食べられる物を考慮している。

また、園児による菜園活動も行っており、収穫時の笑顔はとてもステキである。収穫したものはクッキングに取り入れている。

OHP・紙芝居・エプロンシアター等の教材を使用し、栄養士が合同集会または各クラスを廻って個別指導を行う。

事例

1. 園歯科医による指導

(1) 噛むことの重要性和歯の役目について

〈対象 4～5歳児〉

うのみをするとバナナの味はせず、超特急でお腹（胃）の中へ入ってしまう。



スピードをだし過ぎると特急電車でも事故を起こしてしまう。



お腹もスピードをだし過ぎるとお腹の中には歯がないので事故（腹痛や下痢）になってしまう。



事故を防ぐには口の中の歯でしっかり噛むことが大切である。
等の講話。

講話の前にバナナを半分食べ、講話後残りを食べる。

やわらかい物でもしっかり噛むことによりそのものの味があじわえることが分かった。

また、歯の役目を意識しながら奥歯でしっかり噛もうとする姿がみられた。

2. 園歯科医・歯科衛生士による指導

(1) みがき残しの部分を知り丁寧に磨く。

〈対象 4～5 歳児〉

(歯垢染めだし液を塗布後うがいをしてきた子どものことば)

子ども「わぁーあかい」「きもちわるーい」

—— 鏡で口の中を見てごらん、どこが赤くなっているかな？

子ども「はとはのあいだ」「はぐき」「あとおくばも！」

—— 赤いところがきれいにみがけていないところ、むし歯になりやすいのよ。

(画用紙に書いた歯に、子どもと一緒に赤くなっている場所を確認しながら赤鉛筆で色を塗る)

—— それでは、その赤いところがきれいになるようにみがこうね。

(鏡を見ながら一生懸命みがく)

子ども「せんせいみてみて、もうきれいになった？」

—— まだ赤いところが残っているよ。もう一度かがみをよく見てみがこうね。

(歯みがきに再度挑戦)

子ども「もうこれでいい？」

(一人ずつ点検し歯ブラシの使い方を指導)

—— さあ！ これできれいになった。次は

ブクブクうがいよ、丁寧にしようね。

(ブクブクうがいをする)

—— 歯ブラシとコップを使った後はきれいに洗おうね。

(流水で洗う)

—— 口の中きれいになって気持ちよくなったかな？

子ども「はい」「気持ちよくなったよ」

(染めだし前後の口腔写真を撮影し、保護者への啓発に使用、点検みがきの大切さを知らせる)

個別にみがきにくいところの歯ブラシのあて方や持ち方を指導してもらうことにより、自分のみがき残し部分のみがきが分かり、きれいにみがいた気持ちよさも分かった。

3. 歯によい食べ物は体にとってもよい食べ物

〈対象 2～5 歳児〉

(1) 人形をみんなに紹介、名前を募集。

(けんちゃんと決まる)

(2) けんちゃんがクイズ方式で話を進める。

A：けんちゃん B：子ども

A「この名前はなんというでしょう？」

B「ピーマン！」

A「みんな、これはピーマンでいいのかな？」

B「そう、ピーマン」

A「あたり！」

「では、歯にいい食べ物かな？」

B「歯にいいよ！」

(3) いろんな食品の分類が終わった後、再度食品名と歯にいいもの、悪いものの確認をする。その後偏食の話へ移行し、歯にいいものは体にとってもいいものであることを知らせ、“何でも食べる”ことをけんちゃんと約束する。

4. 大型紙芝居製作

〈対象 5 歳児〉

みんなで話し合いながら歯の大切さを確認して
紙芝居づくりに取り組む

『けんちゃんのぼうけん』(現在製作中)

この大型紙芝居は子どもたちからでた「ことば」をもとに子どもと保育士と一緒に製作、最終的には10～12枚の場面にし、「歯の大切さ」から「健康づくり」に繋げていきたいと考えている。

なお、生活発表会(2月)で保護者の前で発表し、その後卒園記念に残そうと取り組んでいる。

その他の取り組み

- 口腔内写真撮影
- 位相差顕微鏡による細菌観察
- 唾液中の乳酸桿菌量検査(デントカルドLB)
- 唾液中のストレプトコッカス・ミュータンス数の検査(デントカルドSM)
- 迅速判定う蝕活動性試験(RDテスト)
- 手指、唾液、歯垢の細菌培養
- 個人健康ファイル作成
- アンケート調査

園児の変容

園歯科医の指導のもと、いろいろな方法で繰り返し実施してきたことによって、体にとってよい食べ物が分かってきたようで、年齢の大きいクラスほど「○○ちゃんこれたべたらはにええよ」「ほねもつよなるでえ」等互いに励まし合い、嫌いなものでも頑張って食べている姿が見られるようになった。

年齢の小さい子どもの中には歯みがきを嫌がっていた子どももいたが、今では、自分から喜んで磨いてもらうようになった。

歯を磨くことの気持ちよさが分かることによ

り、手洗い等の清潔面にも関心が高まった。

ぴぴちゃんが登場すると「きょうはどんなおはなしがあるのかな?」と目を輝かせ集中して話が聞けるようになり、製作にも落ちついて根気よく取り組む姿が見られるようになった。

これは、災害件数が減ってきていることにも繋がっているように思われる。

保護者との連携

園歯科医の来園の際は保護者に参加を呼びかけ、子どもとともに指導を受ける。参加できなかった家庭にはお便りで知らせたり、送迎時に話をしたりこまめに連絡をとりあい、家庭と園が同じ方向で指導することができてきた。

参観時には「歯の健康について考える」取り組みを行ったところ保護者の歯についての関心が高いたことが分かり、改めて歯の大切さをともに考える機会にもなった。

歯と口の健康は小さい年齢になるほど大人の力によるところが大きい。年齢が高くなると園児の頑張ろうとする気持ちも、保護者の関心度と協力の姿勢によって大きく左右されるので、子どもも楽しみながら歯みがきができるように“はみがきカード”を用意し、「子どもと一緒に磨く・夜の歯みがきの徹底・点検みがきをする」等続けることを呼びかけている。

今後も保護者とともに考え取り組んでいきたいと思っている。

まとめと今後の課題

保育園は保護者の就労等で時間的ゆとりのない家庭が多いため、園歯科医及び園からの指導・啓発も一方通行になることが多かった。

しかし、園歯科医に時間帯を考慮していただき、保護者の時間帯に合わせた健診・講話の実施や、子どもとともに経験する活動で共通の話題が

でき、ともに考えることができるようになったことは大きな収穫となった。

なお、園歯科医との連携は重要で一年のうち健診その他で15回前後の来園、本年度は特に例年よりも多く“報連相”(報告・連絡・相談)は頻繁にしている。

保育者集団でも健康と安全は保育において最も基本的で重要なことと考え、特に体の玄関口である歯と口の健康指導の重要性を、一人ひとりが再認識し、心身の発育段階に応じた保育を積極的に取り入れ、生活習慣や食生活・間食等を見直す話し合いも進めている。

これまでの園歯科医の指導や啓発の熱意が保護

者にも伝わり、園児を取り巻くよい環境づくりができてきたと思われる。

春の健診時、未処置歯のあった園児全員が処置完了しても、これは“終わり”と言うのではなくこれからがむし歯予防の“始まり”ということであり、保護者とともに取り組んでいかなければならない大きな課題と考えられる。

人生のスタートをきって間もない子どもたちがみずからのライフスタイルを確立して8020運動の展開をめざし、保護者とともにしていけることは、私たち保育者にとってこのうえない喜びであり、園児に対しての大きな願いである。



2

保育園における歯科保健指導での 園歯科医の役割とかわり方

発表者 練馬区歯科医師会 練馬区学校歯科医会理事 中 田 郁 平

1. はじめに

練馬区は、東京都23区の北西部に位置し、板橋区、豊島区、中野区、杉並区に接し23区の中では、大田区、足立区、江戸川区に次いで4番目の広さである。練馬区の人口、世帯数は平成5年1月1日現在621,140人、258,219世帯である。

歯科保健においては、保健所、保健相談所において、1歳6ヵ月児健診、3歳児健診、幼児歯科相談、母親学級を行っている。

練馬区では、児童福祉の向上として、保育の充実をかねている。

(1) 乳児保育

区立保育園では、昭和62年4月に、生後58日からの産休明け保育を開始し、現在10園で実施し、また22園で生後100日から、13園で8ヵ月からの乳児を受け入れている。私立保育園では、5園でそれぞれ生後58日(3園)、6ヵ月(2園)からの乳児を受け入れている。

(2) 障害児保育

区立、私立の全保育園で、原則として、中・軽度の障害のある幼児を受け入れ、健常児との統合保育を行っている。

平成5年4月1日現在、区立保育園54園に133人、私立保育園6園に22人が在籍している。

以上をふまえて、練馬区歯科医師会では、平成元年4月から、保育園嘱託医制がとり入れられ、東京23区で歯科嘱託医制を実施している区

は6区である。

練馬区内には、現在区立保育園59園、私立保育園15園、無認可保育園5園、合計79園がある。

また、練馬区内には、米軍家族宿舎グランドハイツが国に返還され、その跡地に住宅が建設され、人口約4万人、その中には、区立保育園11園、小学校7校、中学校4校、高等学校2校がある。

〈嘱託歯科医の職務内容〉

- ① 園児の歯科健康診査及びその結果に基づく適切な歯科指導
- ② 園児及び保護者に対する歯科保健指導
- ③ 緊急時の対応
- ④ 保育園における歯科保健管理に関する専門的事項についての指導

〈勤務形態〉

- ① 歯科健康診査年2回
- ② 園児及び保護者に対する歯科保健指導年1回以上

年1回練馬区歯科医師会と区児童部、保育園園長、看護婦との研修会を開催。

〈園児及び保護者に対する歯科保健指導事業実施結果〉

実施内容・実施結果報告(平成5年度)

練馬区歯科医師会では、嘱託医制になって、年1回園児、保護者に歯科保健指導を各嘱託医の先生方が毎年いろいろな考え方を持って、各保育園でお話し、スライド、ビデオ、カリオス

タット、またある先生は、木の葉で実験をし、園児、保護者に「歯」に関心を持っていただくよう、毎年同じお話をしないように演題を変えてお話を実施している。このことをふまえて、前にも述べたように10月、11月頃嘱託医の先生方と区児童部・保育園園長、看護婦さんをまじえた研修会を年1回開催し、平成6年で4回目になる。

この研修会には、特別講演として、東京都学校歯科医会会長：西連寺愛憲先生、練馬区学校歯科医会副会長：穂坂正典先生、練馬区保育課栄養指導主査：中山光先生に講演をしていただき、その後ディスカッションで我々嘱託医に対しての要望あるいは我々が区・児童部・保育園に対しての意見や要望を伝える場をもうけ、一つひとつの問題点を解決できるようにと研修会が開催されるようになったしだいである。

実施内容 1

今年度で3回目、20名のクラスを保護者の参加できる人数で3グループに分け、時間を30分ずつずらし、1グループごとに子供の口にあう歯ブラシの大きさ、みがき方、食べたら磨くということが大事等、医師より話があり、次に保護者の各家庭でいつもしているように子供の歯みがきをしてもらう。その後看護婦が歯垢染液を使って染めだしをした。それを保護者が見てどの部分がみがけていないかを理解する（表を使って）。

その表を見ながら福田先生の奥さん（小児歯科医師）が一人ずつ汚れている場所の、みがき方を丁寧に指導してくださった。その際質問のある人は直接医師に子供の歯を見ながら話が伺えた。全体的になごやかな雰囲気の中で行えて良かった。

福田先生からは、まだ全体的に歯ブラシが「大きいね」と感想がありました。

実施内容 2

目的：6歳臼歯の萌出を知り、なぜむし歯になりやすいかを模型で知る。

対象：3歳、4歳、5歳児

内容：3歳、4歳、5歳児クラスがホールに集まり、「バイバイむし歯菌」の紙芝居をみる。

テーマ：歯みがきをいつもきちんとやっている子どものきれいな口の中には、むし歯菌は住めない…ことを知らせる。

紙芝居は、4歳児担任と5歳児担任が担当。もっと見たい…と子どもたちからアンコールがあり好評だった。そこから、きれいな口の中にするにはどんなみがき方をすれば良いかを歯医者さんに教えてもらうことになった。

5歳児クラスは手鏡で各自6歳臼歯を確認。歯ブラシの握り方、当て方、みがき法（フォーンズ法）を指導してもらった。

フォーンズ法は、少しむずかしかったが、むずかしいと感じるほど熱心になる…と励ましの言葉をいただいた。

実施内容 3

う歯罹患率を最小限にとどめ、個別に歯科衛生の話をしていただくため、保護者同伴の歯科健診を実施した。

〈対象園児〉1～5歳児

〈保護者同伴の歯科健診〉

保護者に同伴してもらい歯科健診後、保護者がその場で実際にわが子の歯の状態を見ながら、その子に合った食生活の仕方、歯みがきの仕方など歯科衛生の指導をうける。

フッ素について、歯ぐきからの出血、奥歯のみがき残しについてなど親からの質問に具体的に答えていただいた。

〈その他〉

春・秋・の歯科健診後には、歯科医師の感想や今後気をつけてほしいことなどのコメントをいただき、7月と12月の園だよりに掲載して指導していただいている。

実施内容 4

- テーマ A. 各保育園の歯科健康管理の現状
B. 歯みがきの必要性和その実践方法
C. 質疑応答

講師 中田先生(光七)・山本先生(光三)
鶴見先生(光六)
永沼先生(旭二)・根岸歯科衛生士(光が丘保健相談所)

内容 (詳細は別紙参照)

A. 各園の歯科健康管理の現状

各歯科医より自己紹介をかねて、5分程度ずつ話してもらう。

B. 歯みがきの必要性和その実践方法

歯の生え始めから就学までの歯の管理のポイントをスライド・ビデオ・図などを活用して、とても分かりやすく話していただいた。子どもの発達段階に合わせた配慮も話され、大変理解しやすかったものと思う。

C. 質疑応答

会場から、時間がオーバーしても熱心に質問された。

実施内容 5

1. カリオスタットテスト

(目的) 口腔内がむし歯になりやすい状態かどうかを調べる(対象) 全園児

(方法) 歯と歯の付け根の部分を滅菌綿棒で擦り、培養液に入れ、37度で24時間培養する。その結果の培養液を色の変化で口腔内の汚れ具合を見る。

2. 歯の話

(目的) 歯医者さんと接し、歯に関心をもたせる(対象) 4歳児、5歳児

(内容) むし歯の段階・永久歯について
特に、初期のむし歯の症状、冷たいものを食べて少しでもしみる感じがあったら既にむし歯になっているので、早く歯医者さんにいくように。

感想：大勢の子ども相手に話をするのは初めてで、ご苦労されていた。先生が話を進めるより先に子どもから矢継ぎ早に質問があり少々申し訳なかった。しかし、子どもたちの質問に気長に答えて下さり、先生が話したかった内容はおそらく一部しか話せなかったと思うが、歯医者さんと一緒に自分たちの考えが確認できたという思いは子どもの中に残ったものと思われる。

案外、先生に特に用意をしてもらわず、一クラスのみを対象に、一緒に歯の話をする会のようにしたほうが効果的だったのかもしれない。

3. 歯みがき指導

(対象) 3歳児、2歳児

(目的) 保育園における歯みがきの現状を見もらう。

(方法) 食後、クラスに入ってもらって、様子を見ながらみがき直しをしたり、みがき方を見もらう。

感想：2歳児組の食事が終わる頃を見計らって、クラスに入り、子どもの磨く様子を見てもらう。適宜、磨き直しをしてもらう予定であったが、こちらで「歯医者さんだよ、歯みがき見てもらおうね、磨いてもらおうか」という言葉がけだけで、のろのろごはんを食べていた子も必死で終わらせ、歯ブラシを先生に差し出すという状態であった。特に、いつもは「磨こうか?」といってもけっして歯ブラシを渡さない子まで先生にはすんなり磨きなおしてもらっており、この差は何だろうと少しこちらが自信を無くしてしまった。また1日たっても、2日たっても「歯医者さんは…」という子どもたち。本当に嬉しかったようです。

3歳児については、食事時間が延びてしまい、食事の様子のみ見てもらいました。

子ども達が次に先生に会えるのを待っています。

2. 健診結果

東京都練馬区歯科医師会は、このような観点から歯科健康事業の一環として、区内59カ所の保育園での歯科健診ならびに口腔衛生指導を行ってきた。

- (1) 平成元年時の受診者総数は5,681名、2年は5,692名、3年前期は5,336名、後期は5,536名、4年前期は5,352名、後期は5,486名、5年前期は5,410名、後期は5,539名であり、毎年近似していた。

健診結果をまとめてみると、1歳児から5歳児の受診者総数のうち、う蝕のある子の割合は平成元年前期（4月）が39.8%、後期

（10月）が45.7%と後期が明らかに高く、また平成2年の前期は40.6%、後期46.2%、平成3年前期40.1%、後期45.9%、平成4年前期38.9%、後期44.5%、平成5年前期38.6%、後期43.0%であり毎年ほぼ同様の結果を得たが年を増すごとに減少傾向が伺われる。また前期から後期への増加率も毎年6%前後であり、わずか半年の間に6%もう蝕患者が増えていることが分かる。しかし、平成元年から5年までの前期から後期への増加率は、それぞれ5.9%、5.6%、5.8%、5.6%、4.4%、とわずかながら減少傾向がうかがわれる。

- (2) 一人平均う蝕数をみると、平成元年前期が2.3本、後期が2.8本、平成2年の前期は2.4本、後期2.7本、平成3年前期2.4本、後期2.7本、平成4年前期2.1本、後期2.6本、平成5年前期2.1本、後期2.4本であり年々減少傾向にあり、平成元年から5年までの前期から後期への増加う蝕歯数は、平成元年が0.5本、平成2年が0.3本、平成3年が0.3本、平成4年が0.5本、平成5年が0.3本とほとんど変化なく、う蝕になる者にとっては平成元年から平成5年まで前期から後期への半年後のう蝕歯数に変化はみられなかった。

- (3) 各年齢別の一人平均う蝕数では、1歳児において平成3年前期は0.2本、後期は0.4本、4年前期は0.1本、後期は0.3本、5年前期は0.2本、後期は0.5本であった。

2歳児において平成3年前期は0.9本、後期は1.4本、4年前期は0.8本、後期は1.3本、5年前期は0.7本、後期は1.1本であった。

3歳児において平成3年前期は、2.3本、後期は2.8本、4年前期は1.9本、後期は2.5本、5年前期は2.0本、後期は2.6本であっ

た。

4 歳児において平成 3 年前期は3.4本、後期は3.9本、4 年前期は3.4本、後期は3.9本、5 年前期は3.3本、後期は3.7本であった。

5 歳児において平成 3 年前期は4.9本、後期は5.0本、4 年前期は4.4本、後期は4.8本、5 年前期は4.5本、後期は4.5本であった。

(4) 以上の結果を全体的に捉えてみた。

平成 3・4・5 年の経時的にみると、平成 5 年にかけて減少傾向がみえる。

(5) う歯率をみると、平成元年前期が13.0%、後期が14.7%、平成 2 年の前期は12.9%、後期14.2%、平成 3 年前期13.0%、後期14.2%、平成 4 年前期11.8%、後期13.5%、平成 5 年前期11.8%、後期12.8%で年々減少傾向にあり、平成元年から 5 年までの前期から後期への増加率は、1.7%、1.3%、1.2%、1.7%、1.0%であり、平成 5 年と元年を比較すると、う歯率は減少している。

(6) 処置率をみると、平成元年前期が40.1%、後期が46.0%、平成 2 年の前期は44.7%、後期50.5%、平成 3 年前期49.8%、後期54.7%、平成 4 年前期50.7%、後期53.6%、平成 5 年前期49.7%、後期54.0%で年々増加傾向にあり、平成元年から 5 年までの前期から後期への増加率は5.9%、5.8%、4.9%、2.9%、4.3%であり、平成 4 年度前期から後期への処置歯増加率は低かった。

(7) 全体的にみると、う蝕のある子どもの割合は平成元年から平成 5 年にかけて年々わずかながら減少傾向を示すものの、後期の健診で40%強の子どもが、う蝕に罹患している。一人平均う歯数も年々減少し、後期健診で2.4本となっていた。

次に平成 3 年から平成 5 年までを年齢別に一人平均う歯数でみると、1 歳児の一人平均う歯数は後期健診で0.4前後と 3 年間の変化はあまりなかった。2 歳児においては1.4本から1.1本と減少を認める。3 歳児においては平成 4・5 年度が 3 年度より減少傾向にあるが、平成 5 年度後期において2.6本う蝕罹患を認める。4 歳児においては 3 年度の3.9本から 5 年度の3.7本とわずかに減少しており、5 歳児においては 3 年度の5.0本から4.5本へと減少している。しかし、一人の子どもに4.5本も、う歯を有している。う蝕を有する子どもは、すでに 1 歳児から認められること、またう蝕を有する子どものほとんどは、3 歳以降であり、またこの年齢に達すれば歯科治療時の取り扱いが可能であるにもかかわらず、処置率は決して高くないこと等を考えると、今後の歯科衛生の啓蒙のあり方を再検討せねばならないと思われる。

(8) 次にう蝕予防として一般的である、歯ブラシとう蝕罹患について検討してみた。

0 歳児から指導している園が15.3%もあった。一方 1～2 歳児からの園は少なく、3 歳児からが最も多く、39.0%であった。ついで 4 歳児からの27.0%であり、5 歳児までに95%の園で、歯みがき指導を行っており、園での口腔衛生への関心の強さは、明らかに高いことを物語っている。

(9) しかし、その歯みがき指導の開始時期とう蝕の関係を、う歯のある子の割合とう歯率でみると、乳児から開始した園でのう歯のある子の割合は41.1%に対して、幼児から始めた園では41.3%と差は認められず、う歯率でもおのおの12.6%、13.4%と、差は小さかった。

- (10) さらに、平成4年度においては5歳児での一人平均う歯数と歯みがき開始時期を年齢別に分け検討を加えてみた。

0歳児で開始した園での5歳児の一人平均う歯数は4.3本、1歳児からでは3.8本とやや減少していたが、2・3・4歳児からでは4.5本と変化なく、5歳児に開始した園では5.0本と多かった。

歯みがき指導は口腔衛生上、必要ではあるが、今回の調査では歯みがき指導は、直接う蝕予防には結びついておらず、そのやり方に

問題があることが伺われ、検討せねばならないと思われる。

今回は、練馬区在住の0歳児から5歳児までの歯科健診を平成元年から平成5年まで年2回行った結果から、ここ数年のう蝕罹患状況、処置状況の推移を報告させていただいた。う蝕のある子は減少し、う蝕率、一人平均う歯数も減少し、また処置率も向上しており、歯科医師会の活動の成果と思われる。



3

わかって 出来て 続ける
健康な子供の育成

— 幼稚園と家庭で進める幼児の歯科保健指導 —

発表者 富山県婦負郡八尾町立杉原幼稚園園長代理 中 川 悦 子

1. 地域、園の概要

杉原地区は、八尾町の東北部に位置した農業地帯である。最近兼業農家の増加とともに、かつての純農村地帯からは薄らいでいる。

近年、山間部や町の中心部からの移住や企業、スーパーマーケットの進出が目立ち、市街地化が見られるようになってきている。

この地域には、保育所、幼稚園、小学校、中学校が1つずつある。保護者の多くは、教育に対して深く関心をもっており、教育熱心でPTA活動への参加率も高い。

子供達は、素直で明るくのびのびしている。しかし、やや消極的で競争心に欠ける面も見られる。

当地区は、昭和61年度より3ヵ年、日本学校保健会から「むし歯予防啓発推進事業」の指定を受け、生涯歯科保健活動として地域ぐるみで研究に取り組んできた。この研究を機会に「むし歯予防活動を続けましょう」と現在も継続されている。また、杉原小学校は、平成3年度に「全日本よい歯の学校」で賞を受けており、健康教育に力を入れている。

本園は、昭和53年に八尾町立として創立され、杉原小学校に併設されている。4歳児、5歳児各1学級ずつの小規模園である。園長は、小学校の校長が兼務している。

園の周りには、田畑があり自然に恵まれている。しかし最近は交通量も多く幼児達は、帰宅後

友達の家へ遊びに行き、室内で遊ぶことが多くなっている。

ほとんどの幼児は、祖父母との同居の家庭から通園しているが、反面、企業の進出による転勤者など、核家族の家庭から通園している幼児も増えてきている。

園舎は広く活動しやすい。園庭には、ブランコ、すべり台、チビッコハウスなどがある。あまり広くはないが幼児達の興味のある遊び場で、心も体も動かして遊びを展開している。花壇や菜園もあり、ウサギやモルモットも飼い、幼児達と一緒に世話をし育てる経験をするなど、動植物のふれあいを多くもつようにしている。自然の恵みを受けたり、働くことを体験したりして、感動体験をすることで自然の偉大さや不思議さ、命の尊さなどに気付くようにしている。

2. 本園の教育方針

〈教育目標〉

“明るく生き生きとした子供”を育てる

社会の変化に主体的に対応できる健康で心豊かな人間となる基礎を養う。

(1) めざす幼児像

○じょうぶでたくましい子

自分から体を動かして遊び、健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身につける子

○友達と仲よく遊べる子

情緒が安定し、自分のことは自分でし、
友達と喜びや悲しみを共感し合える子

○やさしくて思いやりのある子

愛されていることに満足し、相手の気持ち
になって分かってあげたり、親切にしたり、
手伝ってあげたりする子

○自分の力で最後までがんばる子

いろいろな物事に興味、関心をもち、見
たり、考えたり、試したり、工夫したりし
ながら創造してやりとげる子

(2) 健康教育と歯科保健について

幼児期は、発育の最も盛んな時期である。
また、自ら健康な生活を営み始める時期であ
り、人の一生の健康の基礎づくりの重要な時
期でもある。

幼児が心身共に健康な生活を営むために
は、運動と共に健全な生活習慣が形成される
ことが大切である。

しかし、最近の幼児をとりまく社会は、大
きく変化してきている。特に体作りの源にな
る食生活が変化し、栄養の偏りがみられるこ
とや生活が夜型となり、家庭での生活リズム
の乱れがみられる。また、交通量の増加によ
り室内遊びが多くなってきている。このよう
に幼児の生活は、心や体にさまざまな歪みを
もたらすようになってきている。

このような現状から、幼児の望ましい発達
を考える時、まず自ら健康な生活を営むため
の基本的な生活習慣を身につけ、健康な生活
のリズムを整えることや、自らの健康に関心
を持ち、病気などの予防に必要な活動を進ん
で行う意欲や態度を育てるようにすることが
必要である。

特に体づくりの源となる食生活や自分の歯
の健康について、興味や関心を持たせ、園生
活の中で幼児の主体的な活動を通して、歯の
働きに気づかせたり、歯を大切にすること

持たせたりして、自分の歯は自分で守る態度
や習慣を身につけていくことが大切であると
考える。

研究主題の“わかって 出来て 続ける 健
康な子供”を、自分の健康のようすに気づ
き、健康によいことを進んで体験し、体験し
たことを生活の中に生かしていける力を身に
つけていく子と捉え、自分から進んで健康な
歯づくりに取り組もうとする幼児の育成をめ
ざしていきたいと考えた。

しかし、幼児の発達段階や歯の特徴から考
えると、幼児一人で取り組むことは困難であ
る。歯の健康は、食後の歯みがきやおやつ
のとり方など、毎日の生活の仕方と深いかわ
りがあるため、育児の責任者である両親と幼
稚園が一緒に協力し合いながら、幼児の健康
な歯づくりに努めていく必要があると考え
た。

3. 研究の仮説

- 日常生活の中で、幼児の発達段階を考慮し
て、歯の健康について適切な指導を積み重ね
ることによって、幼児自ら気づいたり、やろ
うとしたり、続けようとしていたりして、健康な
生活の習慣や態度を身につけるようになる。
- 幼稚園と家庭とが協力して、健康な生活の習
慣を身につけさせることにより、幼児の歯の
健康への実践的な態度が育つようになる。

4. 研究の基本的な方針

- ① 日常生活の中に無理なく歯科保健活動を、
組み入れる。
- ② 幼児の主体的な活動を通して、習慣化態度
化を図る。
- ③ 家庭との信頼関係を築き、ともに育ててい
く姿勢を整え、習慣化を図る。

- ④ 小学校との連携を密にして、指導の効率化を図る。

5. 研究の内容

(1) 日常活動の面から

- ア. 給食後の歯みがきの徹底を図る。
 イ. 幼児達が意欲を高め積極的に取り組むための環境を工夫する。
 ウ. 6歳臼歯の重要さに気づかせる。
 エ. 自分の歯に合ったみがき方、正しい歯のみがき方を知らせる。
 オ. カラーテストの実践から、歯垢のみがき残しに気づかせ、みがき残しのないようにするみがき方をわからせる。

(2) 家庭との連携の面から

- ア. 歯に合った歯ブラシを与えてもらう。
 イ. 親子で一緒に歯みがきを実践してもらう。
 ウ. 歯科医より歯に関する話を聞いたり、栄養士におやつとの与え方やつくり方をおそわったりして知識を高める。
 エ. ほけんだよりなどで、歯の健康についてのポイントを知らせる。

6. 幼児における歯科保健指導要素一覧表

表1のとおりである。

表1

基本的観点(ねらい)	基本内容	指導内容(行動目標)
強い歯をつくる	歯や口の中のようす	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の歯の数やむし歯の数など歯について興味や関心をもつ。 ●6歳臼歯について知り、生え出しに気づく。 ●乳歯や永久歯のちがいに気づく。
	歯や口の中の病気と健康	<ul style="list-style-type: none"> ●どうしてむし歯になるのかを知る。 ●歯科健診を受ける。 ●むし歯の怖さを知り、進んで治療を受ける。
	歯のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ●歯の働きを知り、大切にしようとする。 ●食べ物は、好き嫌いしないでよくかんで食べる。
	歯によい食べ物	<ul style="list-style-type: none"> ●歯によい食べ物を知り、いやがらずに食べる。 ●歯ごたえのあるものを、よくかんで食べる。
歯をきれいにする	歯みがき	<ul style="list-style-type: none"> ●歯の汚れが分かる。 ●なぜ歯みがきをするのか分かる。 ●ブクブクうがいができる。 ●歯の各部位のみがき方を知る。 ●食べた後、忘れずにみがく習慣をつける。
さとうを取り過ぎない	おやつ	<ul style="list-style-type: none"> ●甘いおやつを取り過ぎないように気をつける。 ●バランスのとれた食事やおやつをとる。 ●食事やおやつの時間を決める。

7. 歯の健康についての意識調査

(1) 調査のねらい

保護者の歯科保健に対する意識や関心の様子を把握し、指導に生かす。

(2) 調査対象 園児49名

(3) 調査実施日 平成6年3月10日

(4) 調査内容

① お子さんの歯について、関心をもたれるのはどんな時ですか。

治療カードをもらった時 30%	歯みがきカレンダーをもらった時 32%	11%	歯みがきする時 27%
-----------------	---------------------	-----	-------------

歯が痛い時

② おさんは家で歯をみがいていますか。

毎日必ずみがく 80%	時々 14%	6%
-------------	--------	----

歯みがきカレンダーの時

③ 家で一日何回みがいていますか。

1回 37%	2回 63%
--------	--------

④ 一日のうちいつみがきますか。

朝 おきて	8%	80%
朝 食 後	36%	
おやつの後	0%	
夕 食 後	5%	
ね る 前	79%	

⑤ はみがきの後チェックしていますか。

1日1回 14%	時々 67%	しない 19%
----------	--------	---------

⑥ 歯みがきのようすから、磨けていると思いますか。

だいたい磨けている 51%	磨けていない 34%	分からない 15%
---------------	------------	-----------

⑦ お子さんの偏食について考慮していますか。

調理の工夫 21%	嫌いなものを少しでも食べさせる 62%	自由 17%
-----------	---------------------	--------

⑧ おやつ時間は決めていますか。

はい 61%	いいえ 39%
--------	---------

⑨ おやつを食べさせる時、どんなことに気をつけていますか。

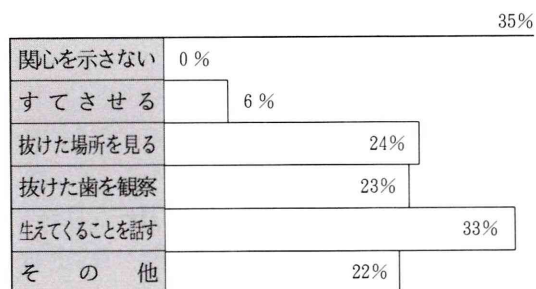
飲み物と一緒に	45%	70%
歯につかないもの	22%	
甘い物を食べない	5%	
ガムはかまない	18%	
乳製品を食べる	10%	
かたいおかし	25%	
炭酸飲料水なし	37%	
だらだら食べなし	53%	
特になし	10%	

⑩ おやつの後どのようにしていますか。

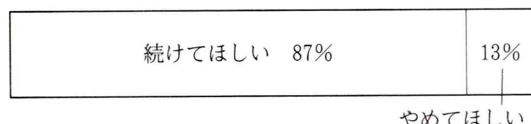
うがい 15%	なにもしない 85%
---------	------------

歯みがきしている 0%

⑪ 乳歯がぬけた時、どのようにしていますか。



⑫ 歯みがきカレンダーについて



⑬ 歯みがきカレンダーの続け方について

⑭ 家庭でむし歯予防のために実行されていることは、どんなことですか。

○歯みがき習慣化

- 食事の後には、進んで磨いている。
- 家庭で一緒に磨き、励まし合うようにしている。
- できない時は、うがいをする。
- 時間を決めて磨くようにしている。

○きれいに磨く

- 磨いた後、点検し、仕上げみがきをしている。
- 時々カラーテストをする。
- 歯ブラシを選び、歯みがきを楽しめるようにしている。
- 時間をかけて磨くようにしている。
- 下の歯より上の歯を磨くようにしている。

○おやつと食事

- おやつを選ぶようにしている。
- 甘いお菓子は買わないようにしている。

- 甘いおやつの際は、お茶や水と一緒にとるようにしている。
- おやつの時間を決めている。
- 歯によいものを食べるようにしている。
(小魚・牛乳・昆布・スルメなど)
- 偏食をさせないようにしている。

○その他

- 定期的に健診を受け、歯にフッ素をぬっている。
- 自作の話でむし歯の怖さや歯みがきの大切さを知らせている。

⑮ 歯の健康で、家族の方やお子さんの変わったことは、どんなことですか。

○親子の歯みがき指導・カラーテスト・歯みがきカレンダーを行ったことで

- 歯みがきに関心をもつようになった。
- ていねいに磨くようになった。
- 自分から進んで行うようになった。
- 子供に影響されて、家族共々磨くようになった。
- 歯みがきの後見せにくるようになった。
- むし歯のことやカラーテストのようすを話してくれるようになった。
- 磨かないと「気持ちが悪いいよ」と言うようになり、自分から進んで磨くようになった。

○歯がぬけたことで、歯を大切にすることができてきて、朝晩忘れず磨くようになった。

○砂時計を使い始めた時、3分間が長いように時計を揺すっていたが、今では時計を使わなくても3分間位じっくりと磨くようになった。

○甘いお菓子をほしがらなくなった。

○「歯みがきたら、食べられんよ」と親に注意するようになり、間食が少なくなってきた。

- その他
 - 親がもっと真剣に見てやる必要がある。
 - これ以上むし歯を増やさないように、親子でがんばりたい。
 - 休み中の歯みがきカレンダーは、子供に励まされるなど、親のためにもよいので続けてほしい。
 - カラーテストの後、前回と比べるなどしてアドバイスをしてほしい。
 - むし歯になったら大変であることを意識づけてほしい。
 - みがき方が雑なので、ていねいに磨いてほしい。
 - カラーテストや歯みがきカレンダーにより、忘れがちな歯みがきの習慣づけになるし、家での指導の必要性にも気づくことができるので、今後も続けてほしい。

〈考 察〉

- 歯みがきを通して、家族のかかわりが見られるようになった。また、歯のみがき方や習慣化が家族の中に広がってきていることが分かった。
- 歯について関心を示すのは、治療カードや歯みがきカレンダーを渡した時ということが多い。このことから幼稚園での歯みがき指導が関心を示す基盤になっていることが分かる。
- 予防のために定期的に健診を受けたり、フッ素をぬったりする。自作の話で歯の大切さを知らせる。おやつを選んで、だらだら食べさせないなど、積極的な姿もみられるが、おやつ後の歯みがきやうがいをする幼児が少ないなど気になる姿もみられる。
- 「歯を磨かないと気持ちが悪い」というようになったり、自分から進んで磨いたり、

歯が抜けたことで関心を示し、朝晩磨くようになったり、幼児の行動に自分からやろうとする姿がみられる。

8. 歯科保健指導の実際

(1) 日常活動の面から

① 先生と一緒に（4歳児 4月・5月）

- 保育者が歯みがきをはじめる姿を見て、保育者の横で磨きはじめる。
- 保育者の給食終了を待って保育者と一緒にみがく。

〈考 察〉

- 保育者と一緒にということで幼児達は、安心して歯みがきを楽しんでいる姿である。
- 保育者の歯を磨く姿がよい環境となり、幼児達の意識づけになっていく。

② がんばり表（4歳児 5月～7月）

- シールを貼ることを通して、歯みがきに関心をもち、磨いたらシールを貼ることで楽しみながら習慣づけていきたい。
- 降園時、カバンをかけた後にがんばり表を見ていたK子「あれ、Kちゃん歯みがき忘れてた」と洗面所に行き、歯みがきを始める。
- 保育者「もう一番上までシールが届いたんだけど、シール貼るのやめる。どうしようか」、S男「いや、まだシール貼りたい」、M子「私もシール貼りたい」保育者「じゃ、がんばりシール続けることにしようね」、S男・T男「やった」

〈考 察〉

- シールを貼ることで、目で見ても、磨いたかどうかが明らかであり、まだ磨いていない子の意識づけになる。
- 友達同士刺激し合ったり、かかわり合ったりする場になっている。
- 保育者も磨いた子、磨いていない子が分か

り、言葉かけの参考になる。

- 歯を磨かなければいけないという雰囲気づくりになり、少しずつ食べたらず磨く習慣がついている。

③ ばいきん おちとらん (4歳児 6月)

- あっという間に歯みがきを終わってしまったT男を見ていたS男「Tちゃん、そんなに早かったら、ばいきんおちんよ」T男「おちた、おちた、おちたもん」保育者「Tちゃん、ほんとうにばいきんおちとらんわ、ここ、ここにあるよ、もう1回みがこう」T男「どこ、どこけ」と鏡の前に歯ブラシを持ってきて、保育者の指さしたところを一生懸命に磨いていた。

〈考 察〉

- 友達や保育者の言葉かけや励ましが、歯をもっときれいに磨こうと気持ちを切り替え、取り組もうとする姿になった。

④ やっぱり ついとる (5歳児 4月)

〈考 察〉

- 友達同士で見せ合いっこをして、歯についている物を実際に確認したことで、自分達のみがき方がよくなかったことを知り、今度はきれいに磨こうという気持ちで、やり始めたと思う。

⑤ 6歳臼歯だよ (5歳児 5月・6月)

〈考 察〉

- 自分の歯の変化(抜けたり、生えたり)に気づいたり、気づかされたりすることで、うれしさを感じ、歯に対する関心がより高まっていく。
- 親も子供も歯に対して関心を示すようになってきている。
- 6歳臼歯が生え出した時に“どんな歯”かを知らせることで、自分の歯を大事に思い、きれいに磨こうとするようになり、習慣化にもつながっていく。

⑥ ちょっとにしよう (5歳児 7月)

〈考 察〉

- 甘い物の取り過ぎが歯によくないことを友達に知らされたことで、おやつに関心をもち、量なども考えて食べるようになっていくと思われる。よいことを友達に教え合う輪を広めていってほしい。

⑦ カミカミ週間 (6月)

- 6月4日のむし歯予防デーにちなみ、6日月曜日から10日金曜日まで、よくかんで食べる食品が取り入れられた。

この機会に歯ごたえのある食べ物は歯や体によいこと、よくかむことであごが発達し、きれいな歯ならびになる。きれいな歯は、磨きやすくむし歯になりにくい。また、かむことで脳を刺激し、頭がよくなることなどを話した。歯と食べ物に興味をもち、丈夫な歯をつくろうとする意識の芽生えになればと考えた。

〈幼児の反応〉

- かむことをあまり経験していない子は、するめや豆をたべながら「かんでも、かんでもかみきれん」「まだかまんなんがけ」と抵抗を示していた。しかし、かむことの必要性や大切さを知り、少しでも食べるようになってくれると思う。

⑧ 嫌いだけど、食べられたよ

- 幼稚園では、畑にさつまいもや枝豆、とうもろこし、胡瓜、じゃがいも、トマト、茄子、さといもなどを植えている。

幼児が植え、水をやり、草をとって世話をすることで、収穫を楽しみに待ち、食べる喜びも大きい。

収穫した野菜を使って、クッキングをしている。

(2) 家庭との連携の面から

① Y男の歯みがき (4歳児)

○入園するまでのようす

小学校1年生の兄と一緒に歯みがきをしているので、子供達にまかせきりにし、点検することも全くしていなかった。

○幼稚園での歯科健診の結果

むし歯が13本あることが分かった。治療カードを渡した時、母親は頭を強くなぐられたようなショックを受け、力がぬけ倒れていきそうになったそうである。

○その後

お母さんは、歯の大切さを知らせ、一緒に歯を磨き、仕上げみがきもするようにした。また、すぐ歯医者さんで順番をとり治療を受けることにした。

○がんばり賞

1週間毎日がんばって磨き、全部青色をぬることができたので“はみがき がんばり賞”をもらった。嬉しそうに、そして大事そうにして家へ持ち帰った。

② 保育参観（親子のはみがき指導）

“むし歯のばいきん 追い出そう” 4歳児

○ねらい

- むし歯の話を聞いたり、カラーテストをしたりして、歯をみがこうという気持ちをもつ。

○活動の流れ

- パネルにたっちゃんが泣いている顔を貼り
- どうして泣いているのか考える。▶①
- どうして歯が痛くなったかを考える。▶②
- 大きな口を貼り、ドリルやつるはしを持ったばいきんを数ヵ所に置く。どうしたらこのばいきんを口の中から追い出せるか話し合う。▶③
- ペープサートのばいきんを出し、丁寧に磨かないと追い出せないことを話し、歯ぐきの中にばいきんをかくしておく。▶④
- 飴、チョコレート、ケーキの絵を貼り、甘いものばかり食べていると追い出せないこ

とを話す。それどころか元気が出て、仲間が増えることを話し、ペープサートを裏返す。▶⑤

- 丁寧に歯を磨かなかったり、甘いものばかり食べていては、ばいきんを追い出せないことを繰り返し話し、強調する。
- 「丁寧に歯を磨かない子はいないかな」「甘いものばかり食べている子はいないかな」と言う。▶⑥
- ばいきんが入ってしまった友達がいるかもしれないということで、ばいきんを見つけるまほうの薬をつけ調べてみようカラーテストをすることを話す。
- 必要なものを配布し、手順の説明をする。
- 準備のできたところから実施する。▶⑦
- 結果、感想を記入する。

○幼児の反応、考察

- ① 一番はじめに泣いている顔が出てきたことで、どうしたのかなと興味をもって見るのができたと思われる。
- ② 「歯みがかんから」「ブクブクうがいせんから」と声をさらに大きくして言う。自分たちが日常聞いたり、実際に行っていることを結びつけていると思われる。
- ③ 「歯みがけばいい」「ブクブクうがいすればいい」「歯医者さんにとってもらえばいい」と思い思いに言う。家や園で歯を守ることにについて話を聞いたり、実施したりしていることで知識として頭の中に入っているようだ。
- ④ 「あっ、ばいきんかくれた」「みえるよ少し」と言いながら興味深くみる。
- ⑤ 「あっ、ケーキだ」「あめもある」と顔をほころばせる。ばいきんが増えると集中して見る。
- ⑥ 思わず手で口を押さえる子、口をしっかり結び子など、ばいきんを歓迎しないこと

を態度で示していた。話の世界に入り、興味をもって参加している。

- ⑦ 鏡で見て自分の「歯」の色にとまどい「こんなにいっぱいいきんいるの」と驚く。

○評価・反省

- ペーパーサートやパネルシアターを使い、視覚から訴えていったことや、幼児に問いかけながら進めたことで、どの子も興味をもって話を聞いたり、思ったことを言葉で言い表したりしていた。
- 幼児達の反応から、歯については、どの子も関心を持ち、歯みがきは大切であることが少しずつ意識づけられてきていると思われるので、周りの大人がより興味をもって磨いたり、継続していけるよう働きかけていくことがむし歯予防のカギになっていくと思う。
- 6歳臼歯が生えてきている子も1名おり、今後も幼児達の歯に目を向けて、みがき方の指導をしていきたい。今日は、お母さんと一緒に活動したことで、お母さんたちの意識も高めることができたと思う。

⑧ 講演会

- むし歯は、身体面だけでなく精神面にも影響を及ぼすため、乳歯をむし歯から守り、健康な永久歯が生えそうようにとの願いから、お母さん方の意識を高めてもらうために、園の歯科医さんをお願いし、スライドを使って分かりやすく話してもらった。

④ おやつ作り講習会

- 発育ざかりの幼児達にとっておやつは大切である。しかし、おやつを食べ過ぎると偏食、肥満、わがままを助長する原因にもなる。

そこで、おやつに関心をもってもらいたいと考えて、町の栄養士さんをお願いして

講習会を行った。

〈親の感想〉

- 手作りは大変であるという思いをしていたが、身近にある材料を使って、ちょっとした工夫をすることで作れることが分かり、とても参考になりました。また、楽しく作り、おいしくいただきました。
- おやつは食事にも大きな影響があることを教えていただき、おやつの大切さをあらためて、考えさせられました。
- 甘さをおさえてもこんなにおいしく食べられるのですね。もっと歯や体のことを考えて与えていきたいと思います。

⑤ 歯みがきカレンダー（年9回）

- 家庭での歯みがきの習慣化を図るために、毎月1回1週間と長期の休み（夏・冬）に行っている。毎月のものは幼児だけ、長期の休みのものはお母さんの記入欄ももうけ、親子で意欲的に取り組むようにしている。幼児だけだとつい面倒になったり、親も幼児まかせにしがちなので、親子で一緒に励まし合って楽しんで磨くことで、歯みがきの大切さを意識すると共に習慣づくようにとの考えで行っている。
- 時には成績を評価し、“がんばり賞”をあげることでより意欲を持たせ、実践の強化を図るようにしている。

⑥ カラーテスト（年6回）

- 「みがいた」と「みがけた」のちがいを見るために、保育参観時に親子で行ったり、保育者が行い結果を家へ持ち帰らせたりして、正しいみがき方を知り、実践してもらうようにしている。

〈幼児の反応〉

- 初めは、赤く染まることで気持ち悪がる幼児もいたが、磨くことでとれることが分かると嫌がらなくなった。
- 友だちと見合いっこをして「あっ、Tちゃ

んここ赤いわ」「朝みがいてきたのに、どうしてかなあ」「まだばいきん取れとらん」と汚れの落ちていないことに驚いていた。

⑦ 配布物による連絡

- カラーテストをした時に親や幼児へのアドバイスを書き、みがき残しのないように気をつけてもらうようにしている。
- 配布物で歯の健康に関する情報を流す。

(3) 小学校との連携

① 歯みがき指導

- 小学校の養護の先生に歯みがき指導を受けることで、より興味、関心を示して、歯の健康に取り組むようになる。また職員の研修にもなると考えた。

② 保健委員会の訪問指導（6月）

- 保健委員17名が幼稚園へ訪問し、自分達で作った「むし歯予防」の劇を見せたり、歯みがき指導をしたりしてくれた。

小学生も幼児も初めての経験であり、お互いにとまどっている面もみられたが、幼児はお兄ちゃんやお姉ちゃんに教えてもらったことで、よき刺激となり、教わったことを実践の場で生かし、きれいに磨こうという意欲につながると思う。また親しみをもつよい機会になった。

入れたことが、よき環境となり、がんばって磨こうとしたり、自分の歯に興味や関心をもつようになったりと意識づけや習慣化につながっていった。

- 幼児達が気づいたり、疑問におもったりした時に指導することが望ましいと考え、教材として模型だとか紙芝居、絵本、ペーパサートなどを準備しておいた。それ等を使用することで、言葉だけでなく視覚でも訴えることができ、楽しく、理解しやすかったと思うし、関心の高まりにもなった。
- 保育参観時に親子でむし歯や6歳臼歯について学習し、カラーテストをしたことで、親の意識を高めることができたことと、自分の子供の実態を知ってもらうことができて良かったと思う。
- 小学校と連携をすることで情報や知識を提供してもらうことができた。また、幼児と児童との親しみをもつ場となり、教わった歯のみがき方も実践に生かされている。
- 保育者の歯に対する広い知識をもつことや職員の共通理解の大切さを感じた。

(2) 今後の課題

- 歯の健康についての意識の高まりや、歯みがきの定着化がみられるようになってきているが、マンネリ化にならないように、一人ひとりの興味、関心を引き出すような教材や内容に工夫をし、楽しく効果的な指導を考える。
- 幼児の歯の健康は、将来の健康に大きく影響を与えるため、幼稚園と家庭とがお互いに信頼関係を大切に、共に力をよせ合い、歯の健康の習慣や態度を身につけさせるように、今後も日常生活の中に無理なく取り入れて、継続していきたい。

9. 研究をふり返って

(1) 気づいたこと

- 保育者の歯をみがく姿に関心を示し、一緒に歯みがきしたり、認めたり、励まされたりすることで、歯みがきの大切さや正しいみがき方を知り、関心が高まった。
- 幼児たちの様子をみながら“歯みがきがんばり表”や“6歳臼歯生え出し表”を取り

小 学 校 部 会

テーマ 小学校における歯科保健指導の実践

■ 公開授業校／富山市立東部小学校

座 長 ● 明海大学歯学部教授

中尾 俊一

助 言 者 ● 日本体育大学教授

吉田瑩一郎

発 表 者 ● 福井県福井市立東郷小学校教務主任

村上恵美子

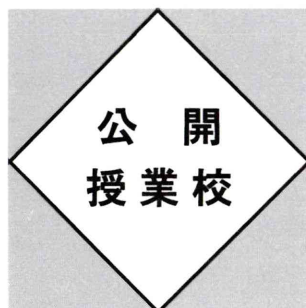
山口県阿武町立奈古小学校学校歯科医

和田 忠子

富山県砺波市立砺波北部小学校教諭

貝淵 悦子

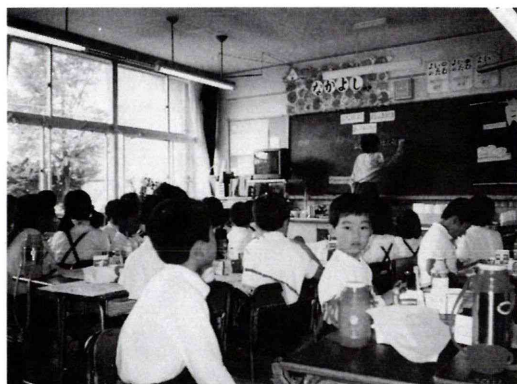




富山県 富山市立東部小学校

●学 校 長 亀 田 昭

●学校歯科医 松 原 清一郎
竹 内 哲 郎



本校は、J R 富山駅から東へ約 2 km、閑静な住宅地の中に水田や畑が点在する、市街地と自然が程良く入り混じった環境にある。

富山市の中心からわずかにはずれた位置は、かろうじてドーナツ化現象の穴の一番外側といった格好で、昭和40年代に児童数のピークをむかえ、その後は暫減を続けて現在（児童数657名、学級数20学級）に至っている。

本校の学校教育目標「強く 正しく 美しく」の中の「強く」に関連して、「心身ともに健康な子供」の育成を目指して、教職員、児童、保護者が一体となって保健活動に取り組んできた。その結果、平成4年度富山県健康推進学校の指定を受けた。

歯科保健活動については、保健活動全体の中の一分野としての取り組みを行ってはきたが、なかなか充実した活動へと深めていくことができなかった。

そこで、今回の第58回全国学校歯科保健研究大会公開授業指定を契機に、健康教育の中でも「口の中の健康」についての比重を高め、「自らの健康を作り上げる子供の育成」を主眼に研究を進めてきた。

今後とも今回の経験を基にして、健康教育の充実を図り、自らの健康を自らの手で作り上げることができるような子供を育てていきたいと考えている。

《研究の概要》

1. 研究主題

自らめあてを持ち、意欲的に
活動する子供を目指して
——一人一人の子供が生きる
支援の在り方——

2. 主題設定の主旨

本校では豊かな知性をそなえ、自己決定力を身につけた、心身ともに健康な子供の育成を目指している。特に、①：子供の対象についての疑問や驚き、願いを自らの問題として受けとめ、それを主体的に究明していこうとするめあてをもつ、②：その問題を自力で解決していこうとする、といった姿を期待し、子供が活動する場を多様に設定したり、適切な支援を行ったりする必要があると考える。

このような考えをもとに、学校の保健教育活動を進めていく上での研究主題を以下のように設定した。

3. 保健指導に関する研究主題

自分の身体の状態に関心を持ち、進んで自らの健康を増進していこうとする子供を育てるための、教師の支援の在り方

4. 保健指導に関する主題設定の趣旨

自らの健康に関心を持ち、それを保持増進するための自己課題を見つけ、課題解決の行動を起こす姿こそが、学校課題という「自らめあてを持ち、意欲的に活動する子供」であると考え。このような子供を育てるために教師は、一人ひとりの子供がその子なりの関心を持ち、問題を見つけることができるような場、解決の見通しを持って活動する場、活動を振り返る場の設定の仕方と、活動の子供への支援の仕方を工夫する必要があると考えて、本主題を設定した。

5. 保健指導に関する研究仮説

- (1) 健康に対する意識を高めるような手だてを講じることで、子供は自らの身体の健康につ

いて関心を持つようになる。

- (2) 自分の健康状態を正しく知ることができるように支援することによって、子供は自らの問題を発見することができる。
- (3) 学校生活でのあらゆる機会をとらえて保健活動を繰り広げることで、子供は主体的に課題を解決するようになる。
- (4) 子供の活動を全校や家庭、地域に知らせる場を設定したり、知らせる活動を充実できるような支援をすることで、子供は自分の活動を見直したり、新たな課題を発見したりすることができる。

6. 研究内容

- (1) 学校の全教育活動を通じての保健教育推進の在り方
- (2) 日常活動の充実と、日常活動と授業との関連の持たせ方
- (3) 保健教育並びに保健教育関連領域の授業研究
 - ① 自己の身体の諸事項に関する円滑な意識化を図る資料提示の在り方
 - ② 子供が活動する場の確保の仕方
- (4) 家庭、地域との連携の在り方

7. 指導の実際

- (1) 子供の自主的な活動による、保健活動の実践の場を工夫する。
 - ① 学校裁量の時間を利用して、身体や健康について興味を持っていることや疑問に思っていることを縦割りの集団で研究する「元気っ子タイム」を設定して子供たちの興味関心を大切にしながら、自らの中に生まれた問題意識を追求しようとする体制を整えている。

- ② 「元気っ子集会」を、7月と1月の2回設定し、自らの追究を発表する場を設けることで、目的意識の高揚と追究意欲の持続を意図している。
- ③ 「元気っ子タイム」の活動の拠点となるように、高学年活動室を「元気っ子ルーム」として整備し、各種の書籍や資料、子供の作品や測定機器を常備して、常時活動の参考になるような空間を整備している。
- ④ 児童集会の中に「健康に関する学年発表」の時間を設定し、発達段階に応じた内容の寸劇を設定し、発達段階に応じた内容の寸劇を演じたり、研究の成果を発表したりして、自らの知識を増やすと同時に、友達の発表を見ることで興味を持ったり、知識を増やしたりできる機会を設けている。
- (2) 効果的な日常の指導の在り方を追究する。
- ① 「歯の保健指導の基本要素とその内容及び、学年別の重点」を作成し、学級活動（1単位時間以上の活動）や教科の学習と効果的に関連させられるように、学級活動（1単位時間未満）や日常指導の内容の精選を図る。
- ② 食後の歯みがきの習慣を身につけさせるために、給食後の時間帯に歯みがきタイムを全校一斉に実施する。食べる早さや、休憩時間へのこだわりといった個人差を克服して「一斉」に実施するために種々の工夫をしている。
- (3) 仮説や研究の視点に基づき、研究主題を解明するための授業実践をする。
- ① 関心や問題意識を持つことができるような場を日常的に設定しておくことで子供たちは、自ら課題を持って授業に臨むであろう。したがって教師は、子供たちが繰り返し広げている日常の活動と授業を有機的に関連付けることが大切になってくる。
- 授業の導入についても、子供たちの既存の経験や知識をフルに活用して、主体的に学習課題に向かっていくような支援を工夫している。
- ② 健康に関する学習では、実際には目に見えない内容を学習することが多い。そこで、実際には見えない（または見にくい）ものをいかに「見える」形にするかが重要であると考え。昨年度の実践の中には、口腔内の糖分の残留度を測るために「尿糖試験紙」を用いたり、歯垢の中のミュータンス菌をテレビに映し出すためにマイクロスコープを用いたりといった工夫をしている。
- ③ 指導内容に応じて、多様な指導形態を工夫することも、大切である。特に専門的な地域を授業で扱うような場合には、歯科医や歯科衛生士、養護教諭や学校栄養士といった人たちとのT T（ティーム・ティーチング）を実施することで、指導効果を高める工夫をしている。
- (4) 家庭、地域との連携の在り方を探究する。
- ① 学期に1回の頻度で、学校保健委員会を実施している。
- 事前に各学級と各児童委員会でテーマについて話し合い、児童保健委員会をもって話し合ってきた内容を出し合って意見や発表を精選し、学校保健委員会の場へ持ち寄るという経過を踏むようにしている。
- 委員会の参加者は、ときには保護者全員にも参加を呼びかけ、体育館で実施したりしている。

最近取り上げたテーマは次のようなものである。

- 健康な一日をすごすために
(平成4年12月)
 - 健康な東部っ子になるために
(平成5年2月)
 - 食べたら磨く習慣を身につけるには
(平成5年7月)
 - むし歯予防に意欲的に取り組む子供を育てるには
(平成5年11月)
 - 1年間の健康生活を振り返ってみよう
(平成6年3月)
 - 1年間の健康生活のめあてをもとう
(平成6年6月)
- ② 学校参観の折りに親子活動を設定し、親子で歯科保健活動に取り組むことも行っている。
- 右上の写真は4年生の例だが、「自分の歯列の模型をつくろう」ということで親子活動を行った。
- このような活動を通じて、学校での保健活動について、家庭の理解を図っている。



親子での歯列の模型づくり

- ③ 家庭への連絡としては、毎月1回発行している「学年だより」と「保健だより」「給食だより」がある。また、月に数回発行している「学校だより」もある。これらの発行物で折りにふれて情報を提供したり問題を提起したりしている。また、家庭から出される疑問に答えたり、提案や意見を掲載したりして学校と家庭との意思の疎通を図っている。

以上が本校の研究の概要である。



座長

小学校における 歯科保健指導の実践

明海大学歯学部教授

中 尾 俊 一

1. はじめに

WHO世界保健機構は1948年4月7日に誕生し、WHOはこの日を「世界保健の日」として、世界全体で健康増進のための運動を展開する日として活動を行ってきている。1994年は、WHO誕生から46年目で、本年の4月7日を「口腔保健の日 Oral Health Day」と定めた。そして4月7日から1年間を国際歯科連盟(FDI)は「口腔保健年」として、すべての人々とともに歯と口腔について考え、行動をする年と決めた。一人ひとりが毎日の生活を通して健康の保持増進(ヘルスプロモーション)を目指し、併せて歯・口の健康づくりに励まなくてはならない。

世界口腔保健年のメインテーマは、“健やかな生活は口腔保健から”(Oral Health for A Healthy Life)となっている。80歳まで自分の歯を保っていこうという「8020運動」とあいまって、多面的な歯科保健活動を展開し、歯・口の健康づくりに対する機運が大いに高まる年である。

小学校における歯科保健指導の実践は、生涯にわたる歯・口の健康づくりの重要な時期であるので、各人は本部会での研究協議で口腔保健について考え、取り組む方向を見つけ出していただきたい。

2. 歯の保健指導により児童の意識と行動を変容させること

歯の保健指導の本質は、いかに児童に自発性をもたせるかである。また、発達段階からみて児童が解決しなければならない課題がある。口の中や歯は直接目でみることができ、その人の過去の悪い生活習慣の積み重ねが、歯の汚れや口臭、むし歯、歯肉の病気、歯列不正などとしてあらわれてくる。歯や口の中の病気の中でむし歯は大部分の児童がもっており、児童の一人ひとりが自分の歯や口の健康状態に関心をもち、生涯を通して自分

で自分の歯や口を健全に保つことができる習慣や態度を育てる保健指導の推進にあたっての絶好の素材であり、歯科保健指導の位置づけを明確にしている。

むし歯や歯肉の病気は、子供の発達段階からみて永久歯列弓の完成をみる小学校の年代が生涯を通しての歯科保健指導の極めて重要な時期で、歯の病気の特性を考え、第一大臼歯や第二大臼歯が萌出するという永久歯の萌出を考えた発達段階に応じた、低学年、中学年、高学年での歯科保健指導が望まれる。

むし歯や歯肉の病気は、その発生原因が自らの生活の中にあり、毎日の悪い生活習慣の積み重ねに原因があり、生活病であるともいわれている。このため、学校での指導はもとより家庭での生活態度がより重要で、家庭の役割の認識が重要視される。

自らの手で健康を守り、歯の病気にならず白いピカピカした歯を守り育てていくことが80歳になっても20本の歯を保ち、質の高い人生（Quality of Life）を送ろうという「8020運動」にも通じるものである。児童一人ひとりが基本的生活習慣をより健康的にする努力、すなわち口の中の清潔や食生活を含めたライフスタイルの改善を図り、生涯にわたって継続させていく必要がある。習慣の中でも基本的習慣は、特に人間が生活を営み、これを発展させる上で最も基準となるものである。

3. 小学生の発達段階からみた歯科保健指導の目標内容について

小学校における歯の保健指導の目標及び内容は『小学校 歯の保健指導の手引き（改訂版）』に次のように示されている。

〈目 標〉

- (1) 歯・口腔の発育や疾病・異常など、自分の歯や口の健康状態を理解させ、それらの健康を保持増進できる態度や習慣を身に付ける。
- (2) むし歯や歯肉の病気の予防に必要な歯のみがき方や望ましい食生活などを理解し、歯や口の健康を保つのに必要な態度や習慣を身に付ける。

〈目標達成のための指導内容〉

- (1) 自分の歯や口の健康状態の理解
 - 歯・口腔の健康診断に主体的に参加し、自分の歯や口の健康状態について知り、健康の保持増進に必要な事柄を実践できるようになる。
 - 歯・口腔の健康診断とその受け方
 - 歯・口腔の病気や異常の有無と程度
 - 歯・口腔の健康診断の後にしなければならないこと。
- (2) むし歯や歯肉の病気の予防に必要な歯のみがき方や食生活
 - ① 歯や口を清潔にする方法について知り、常に清潔に保つことができる。
 - 歯のみがき方とうがいの仕方
 - ② むし歯や歯肉の病気の予防、さらに歯の健康に必要な食べ物について知り、歯の健康に適した食生活ができるようになる。
 - むし歯や歯肉の病気の原因
 - 咀嚼くと歯の健康
 - 歯の健康に必要な食生活
 - 間食のとり方・選び方

以上の歯の保健指導の目標と内容を基本として、発達年代別、すなわち低学年、中学年、高学年という発育発達年代別に具体的に指導していかなくてはならない。

発達段階別に平均的歯牙萌出部位を示すと次のようである。

▶小学校1学年

- ・下顎中切歯，側切歯
 - ・上顎第一大臼歯
 - ・下顎第一大臼歯
- $$\left. \begin{array}{l} \text{上顎第一大臼歯} \\ \text{下顎第一大臼歯} \end{array} \right\} \begin{array}{ccccccc} 6 & & & & 6 \\ 6 & 2 & 1 & 1 & 2 & 6 \end{array}$$
- ・疾患の特徴：第一大臼歯のむし歯

▶小学校2学年

- ・上顎中切歯
 - ・下顎中切歯，側切歯
 - ・上顎第一大臼歯
 - ・下顎第一大臼歯
 - ・疾患の特徴：第一大臼歯のむし歯
- $$\left. \begin{array}{l} \text{上顎中切歯} \\ \text{下顎中切歯，側切歯} \end{array} \right\} \begin{array}{ccccccc} 6 & & 1 & 1 & 6 \\ 6 & 2 & 1 & 1 & 2 & 6 \end{array}$$

▶小学校3学年

- ・上顎中切歯
 - ・上顎側切歯
 - ・下顎中切歯
 - ・下顎側切歯
 - ・上顎第一大臼歯
 - ・下顎第一大臼歯
 - ・疾患の特徴：第一大臼歯のむし歯
- $$\left. \begin{array}{l} \text{上顎側切歯} \\ \text{下顎側切歯} \end{array} \right\} \begin{array}{ccccccc} 6 & & 2 & 1 & 1 & 2 & 6 \\ 6 & & 2 & 1 & 1 & 2 & 6 \end{array}$$

▶小学校4学年

- ・上下顎中切歯
 - ・上下顎側切歯
 - ・上下顎第一大臼歯
 - ・下顎犬歯
 - ・上下顎第一小臼歯
 - ・疾患の特徴：上の前歯のむし歯
- 不正咬合の顕在化
歯肉炎

▶小学校5学年

- ・上下顎中切歯
- ・上下顎側切歯
- ・上下顎犬歯
- ・上下顎第一小臼歯
- ・上下顎第二小臼歯
- ・上下顎第一大臼歯
- ・下顎第二大臼歯

- ・疾患の特徴：上の前歯のむし歯
- 第二大臼歯のむし歯
歯肉炎

▶小学校6学年

- ・上下顎中切歯
 - ・上下顎側切歯
 - ・上下顎犬歯
 - ・上下顎第一小臼歯
 - ・上下顎第二小臼歯
 - ・上下顎第一大臼歯
 - ・上下顎第二大臼歯
 - ・疾患の特徴：第二大臼歯のむし歯
- 歯肉炎

(以上『小学校 歯の保健指導の手引き—改訂版』
33頁より引用)

4. 小学生の自発性を育て習慣化を図る指導計画と指導の在り方

むし歯や歯肉の病気は，成人病と同じで，その発病は，口の中の清潔や食生活を含めた生活習慣と関係が深い。各個人がむし歯や歯肉の病気についての正しい知識をもち，主体性をもった健康維持習慣ならびに健康行動を生涯にわたって持ち続けることである。

歯の保健指導の指導計画は，歯の保健指導の手引きによれば次のようになっている。

歯の保健指導の指導計画は，全校的に組織的，計画的に指導を推進していくために必要な全体計画と，学級活動や学校行事における歯の保健指導を計画的に進めるために必要な計画がある。すなわち，全体計画，年間指導計画，主題ごとの指導計画があり，それぞれどのように作成したらよいかを英知をしぼって考え，作成していかなければならない。

この際に考えておかねばならないことは，歯や口の中の病気は，口の中をたえず清潔にしておかなく

てはならないことである。口腔内が不潔になるのは歯垢がその原因であるので、歯垢が歯に付着しないように日常生活でよく咀嚼すること、すなわち毎日の食生活を正しいものにし、食後の歯みがきを忘れてはならない。子供達の自主性を育てることは、相互に支え合う健康づくりを考えていかななくてはならない。好ましい健康習慣とは何かということ、歯・口の健康づくりをきっかけとして自主性を育てるようにしなければならない。不健康な生活習慣や行動様式とは何なのかを児童に考えさせる必要がある。健康づくりや歯・口の健康づくりのねらいは、日々くり返される生

活習慣を好ましいものにすることである。

5. 家庭・地域との連携のあり方

歯や口の健康に関する実践力をつけさせるためには、学校と家庭が一体となった連携協力が極めて重要である。そのためには、学校における歯の保健指導を家庭に周知徹底させることである。家庭生活における好ましい態度の育成は、PTAとの協力や地域の関係機関・団体との協力も忘れてはならない。また、学校保健委員会の活用や地域学校保健委員会の活動も考えなければならない。



助言

小学校における 歯科保健指導の実践

日本体育大学教授

吉田 瑩一郎

本研究大会の部会別課題に即した研究内容は、次のように設定されている。

- ① 小学生の発達段階からみた歯科保健指導の目標と内容について
- ② 小学生の自発性を育て習慣化を図る指導計画と指導の在り方
- ③ 学校と家庭、地域社会との連携の在り方
- ④ 小学校における歯科保健指導での学校歯科医の役割とかかわり方

1. 歯科保健指導の目標と内容について

- (1) 学校における歯科保健指導 (School dental health guidance) は、教科で行われるのではなく、特別活動の学級活動を中心に保健指導の一環として行われるものである。
- (2) 学校における保健指導は、自己の健康に責任をもつ独立心と能力の育成を目指している。
- (3) 学習内容は、児童が現在当面しているか、ごく近い将来当面するであろう歯科的な問題に即して設定する。
- (4) 学習内容は、可能な限り「行動目標 (behavioural objectives)」で設定し、児童が学習によって身につけてほしい内容を、誰にでも分かるように「どんなことが分かり」「どのような技能を身に付ければよいか」を行動的な表現で設定しておくようにする。
- (5) 行動目標は、評価目標として機能しうるように具体化されていることが大切である。

2. 指導計画と指導の在り方について

指導計画には、「全体計画」「年間指導計画」「単位時間 (題材) ごとの指導計画」があるが、本研究大会の研究内容とのかかわりでは「年間指導計画」と「単位時間 (題材) ごとの指導計画」が取り上げられることになる。

(1) 年間指導計画について

指導（授業）によって解決を図るべき児童の課題は決して少なくない。そこで、いくつかの課題を組み合わせて授業を構成する手続き、つまり「構造化」の作業が必要になってくる。

(2) 題材ごとの指導計画について

学級ごとの授業をよりよく進めるために必要な計画のことで、年間指導計画に基づいた指導すべき題材名、指導のねらい、ここで解決を図るべき児童の課題、内容、方法、指導上の留意点、評価の観点、資料、他教科・領域との関連などを明らかにした具体的な計画のことである。したがって、指導計画の作成に当たっては、特に次のような事柄に留意する。

- ① 指導のねらいは、何を指導するかが分かるような具体性のある表現にする。
- ② 指導内容は、すでに作成してある児童の課題のどれとどれなのかを明らかにしておく（資料1）。
- ③ 指導課程は、「問題の意識化・共通化」「問題の原因、理由の追究・把握」「問題解決の方法・技術の発見」「実践への意欲化」といった問題解決的な方法を工夫し、実践に結びつくようにする。
- ④ 視聴覚教材や模型、実物などを用意し学習意欲が高められるようにする。
- ⑤ 歯のみがき方の指導については、実習的に扱うようにする。
- ⑥ 評価の観点は、学習の課程にも用意されるようにする。
- ⑦ 関連については、歯の保健指導の系統の中での関連や他教科・領域との関連についても明らかにしておくようにする。
- ⑧ 養護教諭や学校歯科医をはじめ、保健所などの歯科衛生士の協力についても積極的

に考慮する。

(3) 指導（授業）について

指導については、新しい学習指導要領が求めている学力観に立って、児童が学ぶことの楽しさや成就感を味わいながら、問題解決の方法を考え、発見し、常にそれができるようにしていくことを可能にしていく方法を工夫することが大切である。

とりわけ、歯のみがき方については、画一的な方法よりも、個性化の観点に立つことが強く望まれる。

3. 学校と家庭、地域社会との連携について

歯・口腔の健康の問題は、児童も保護者も共通の問題として受容されやすいという特質をもっている。また、地域社会との連携についても、8020運動という共通の行動目標が設定されているだけに生涯保護という観点からの環境が醸成されつつある。したがって、学校としては「開かれた学校の促進」に歯科保健を積極的に取り込んでいくことが望まれる。

- (1) 学校参観日に歯科保健指導の授業を公開するなど保護者の啓発に努める。
- (2) 歯みがきカレンダーを活用するなど、家族ぐるみの歯みがきを推進する。
- (3) 学校保健委員会の議題を工夫し、家庭や地域の役割について話し合い、家族や地域社会の活動を推進する。地域の観点としては、幼稚園、中学校との連携に留意する。

4. 歯科保健指導における学校歯科医の役割とかかわり方について

- (1) 学校保健安全計画に歯科保健指導の活動内容が、無理なく位置づけられるようにする。
- (2) 健康診断などの結果から、歯科保健指導の課題を学年別に提言する。

- (3) 歯科保健指導の年間指導計画の作成に参画する。
- (4) 学級を単位とした歯科保健指導の授業に協力する。
- (5) 歯科保健に関する教員の校内研修に積極的に協力する。
- (6) 保護者の啓発に協力する。
- (7) 平素から保護主事・養護教諭との交流を深めておくようにする。
- 資料 1

1. 題 材 名 「第一大臼歯を磨こう」(第1学年)
2. 重点指導項目 ●第一大臼歯のかみ合わせのところが丁寧に磨くことができる。……………No26
3. 関 連 項 目 ●第一大臼歯を見つけることができる。……………No 8
- 大臼歯は、生えてくる途中から、むし菌に冒されやすいことが分かる。……………No10
- 染め出し液を使って、歯の磨き残しの場所を見つけることができる。……………No24
- 歯垢のついているところが分かり、きれいに落とすことができる。……………No29
- 一本一本の歯を丁寧に磨くことができる。……………No28
- 食べたらずぐに、自分から進んで歯を磨くことができる。……………No17
4. 題材設定の理由 第一大臼歯は、歯並びや噛み合わせにおいて、最も大切な役割を担っている永久歯である。しかし生え始めの歯は、乳臼歯に隠れて高さが揃わず磨きにくく、かつ磨くという技能からみた場合、歯ブラシの毛先を臼歯の噛み合わせ面に直角にぴったりと当てて磨くことが難しい。それゆえにむし菌になりやすく、本学級でもすでに2名の児童がむし菌になっているという状況がある。平成4年4月の歯科健診結果では、本学級児童の66%にすでにこの第一大臼歯が萌出しはじめている。この実態をふまえた時、本時では、第一大臼歯をむし菌にしないため、「正しく磨こうとする実践的技能和態度」を児童に身につけさせたいと考えこの主題を設定した。

5. 児 童 の 実 態

(1) 6歳臼歯の生えている児童数

第一大臼歯の生えている数	0本	1本	2本	3本	4本	全体児童数
生えている児童数	12人	3人	4人	5人	15人	39人
パーセント	31%	8%	10%	13%	38%	100%

※生えていない児童、1～3本生え始めている児童、完全に生えた児童がそれぞれ3分の1ずつある。
生えていない児童の指導は、乳臼歯を第一大臼歯に見立てて磨かせる。

(2) 歯科校医の健診結果による児童の「歯の磨き方」評価

歯の磨き方の評価尺度	A	B	C	調査児童数
対象児童数	22人	15人	1人	38人
パーセント	58%	39%	3%	100%

※きれいに磨けている児童は、半数を少し上回っている程度であるから、ここで染め出して指導するのは有効と考えられる。

(3) 歯垢染め出し検査による歯みがきの実態（第一大臼歯の磨き残し状況）担任・養護教諭による観察調査

歯の磨き方の評価尺度	A	B	C	調査児童数
対象児童数	8人	24人	7人	39人
パーセント	20%	62%	18%	100%

※歯科校医の視診による汚れ検査では、半数以上がAであったが、第一大臼歯の染め出しでは8割が磨けていない。

6. 指導計画	4 単元 4 主題 合計135分 (15×2, 15×3, 15×2, 15×2) 扱い
	〈第1次〉単元名「歯や口の中のようす」 主題名「第一大臼歯を見つけよう」 4 月第4 週 30分扱い
	(本次) 〈第2次〉単元名「歯の磨き方」 主題名「第一大臼歯を磨こう」 6 月第2 週 45分扱い
	〈第3次〉単元名「歯や口の中の病気」 主題名「むし歯の原因を知ろう」 7 月第1 週 30分扱い
	〈第4次〉単元名「食べ物と歯」 主題名「おやつを上手に食べよう」 9 月第2 週 30分扱い

7. 本時のねらい ●第一大臼歯のかみ合わせ面を正しく磨くことができる。

8. 本時の展開 (45分扱い)

学習課程	学習内容	指導者	学 習 活 動	関連項目	資料・評価	教師の働きかけ	児童の反応
問題の発見	(1) 6 歳臼歯のむし歯	担任	<p>はじめ</p> <p>前時の学習内容を想起し、内容を発表する</p> <p>歯の王様の絵</p> <p>絵図「むし歯の人数」</p> <p>6 歳臼歯がむし歯になっている子が多いことが分かる</p> <p>6 歳臼歯は丁寧に磨く必要が分かる</p>	No.10	<p>●自分の組で 6 歳臼歯がむし歯になっている人数を示す絵図</p> <p>●2 年生、6 年生の実態を表す絵図</p> <p>(評) 6 歳臼歯がむし歯になりやすいことが分かる。</p>	<p>①「何でも一番歯の王様 6 歳臼歯」の話の中で、四つの一番がありましたね。どんなことがありましたか。</p> <p>②今日は「一番むし歯になりやすい 6 歳臼歯」について勉強しましょう。</p> <p>③私たちの組では、6 歳臼歯がむし歯になっている人はこれだけです。</p> <p>④2 年生、6 年生では、どうでしょうか。</p> <p>⑤6 歳臼歯は、むし歯になりやすいことが分かりました。むし歯にしないようにするには、どうしますか。</p> <p>⑥それでは、みなさんの 6 歳臼歯がきれいに磨けているかどうか、どうやって調べますか。</p> <p>⑦染め出しをしたら、自分の 6 歳臼歯はどうなると思いますか。</p> <p>⑧では、一人一人 6 歳臼歯を染めて調べましょう (6 歳臼歯の萌出のない児童は乳臼歯で調べる)。</p> <p>⑨さあ、どうでしたか。よく鏡を使って調べてみよう。</p>	<p>●歯が大きい。</p> <p>●根がしっかり。</p> <p>●噛む力が強い。(力持ち)</p> <p>●むし歯になりやすい。</p> <p>●1 年生は 2 人だ。</p> <p>●きれいだと思う。</p> <p>●2 年生は多いなあ。○人いるよ。</p> <p>●6 年生は多いと思う。</p> <p>●歯みがきをする。</p> <p>●歯をしっかりときれいに磨く。</p> <p>●ていねいに磨く。</p> <p>●朝、昼、晩と忘れずに磨く。</p> <p>●染め出しをする。</p>
	(2) 6 歳臼歯の染め出し検査	養護教諭・歯科校医	<p>6 歳臼歯を染め出し歯垢付着を調べる</p> <p>気づいたことを発表する</p>	No.24	<p>●染め出し用具、染め出し液、手鏡、水筒</p> <p>牛乳パック、タオル、洗濯ばさみ</p>		<p>●赤く染まるだろう。</p> <p>●きれいだと思う。</p> <p>●磨き残しがある。</p> <p>●きれいだった。</p> <p>●赤くなった。</p> <p>●磨き残しがあった。</p> <p>●奥まで突っ込んで磨く。</p>

<p>(3) 6 歳臼歯の磨き方</p>	<p>6 歳臼歯のよい磨き方を考える</p>	<p>No.29</p> <p>(評) 染め出しをした結果の確認 (発表と観察)</p> <p>● 歯列模型 ● 大型歯ブラシ</p>	<p>⑩ 6 歳臼歯をきれいに磨くには歯ブラシをどのように使ったらいでしょうか (模型を使って、磨き方を発表させる)。</p> <p>⑪ 背が低い生え始めの 6 歳臼歯は、どうしたらよいでしょうか。</p> <p>⑫ 6 歳臼歯のよい磨き方を知らせる。</p> <p>⑬ 6 歳臼歯の良い磨き方を突っ込みみがき</p>	<p>● 口の横から歯ブラシを入れて磨く。 ● ごしごし磨く。 ● 歯ブラシの毛先がよく当たるように磨く。 ● 奥まで突っ込んで磨く。 ● 口の横から歯ブラシを入れて磨く。 ● 口の横から入れる。 ● 突っ込むとよい。 ● 歯ブラシの毛先がよく当たるように磨く。 ● 突っ込み磨き。</p>
<p>行動化</p> <p>(4) 突っ込み磨き</p>	<p>ビデオ「6 歳臼歯のよい磨き方」</p> <p>自分の 6 歳臼歯を突っ込み磨きで磨く</p> <p>6 歳臼歯のよい磨き方ができる</p> <p>個別指導</p>	<p>No.28</p> <p>(評) 6 歳臼歯のよい磨き方をしている。</p>	<p>⑭ それでは自分の歯をきれいに磨きましょう。うまくできるかな。(机間巡視)</p> <p>⑮ きれいに磨けましたか。では何人かの人に確かめてもらいましょう (⑧ で汚れていた児童を対象に 4 人ほど確認染めをして賞賛する)。</p> <p>⑯ 今日の勉強でどんなことが分かったか、言えますか。</p>	<p>● うん、できるよ。</p> <p>● 磨けました。 ● 磨けたかな？ ● よくわからない。 ● きれいだった。</p>
<p>意欲化</p> <p>(5) これからの努力目標</p>	<p>歯を磨くときに 6 歳臼歯に気をつけてしっかり磨く</p> <p>おわり</p>	<p>No.19</p> <p>(評) 自分が努力することについて、発表できる。</p>	<p>⑰ よい磨き方をするには、これからどんなことに気をつけて磨くとよいでしょうか。</p>	<p>● 突っ込みみがきをする。</p> <p>● 力を入れすぎない。 ● やさしく磨く。 ● 奥歯をしっかり磨く。 ● 歯ブラシの毛先をしっかり当てて磨く。</p>

9. 評価
- 第一大臼歯のかみ合わせ面を正しく磨くことができたか。
 - ① 突っ込み磨きができる。(主たる指導内容)
 - ② 歯ブラシの毛先がかみ合わせ面に直角に当てることができる。
 - ③ 小さく小刻みに歯ブラシを動かすことができる。

10. 考察

(1) 学習内容について

指導計画第 1 次「6 歳臼歯を見つけよう」の学習を土台にした、本時「6 歳臼歯をみがこう」は、児童自らが実際に歯を磨いてみて、自分なりによい磨き方をつかむ学習である。したがって、第 1 次と本時はあまり期

間をおかないで行われることが効果的であるので、長くとも1週間を置かずに指導することを考えたい。

本時は、歯みがきの活動時間を十分に確保することが一番大切である。問題解決学習のあり方を考えてみて、教師の指示、発問は極力最小限に抑えることが必要である。

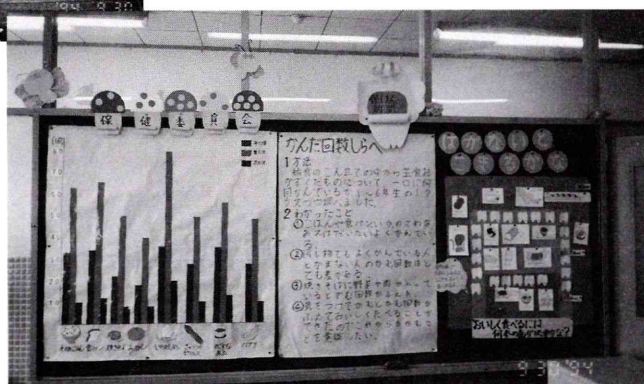
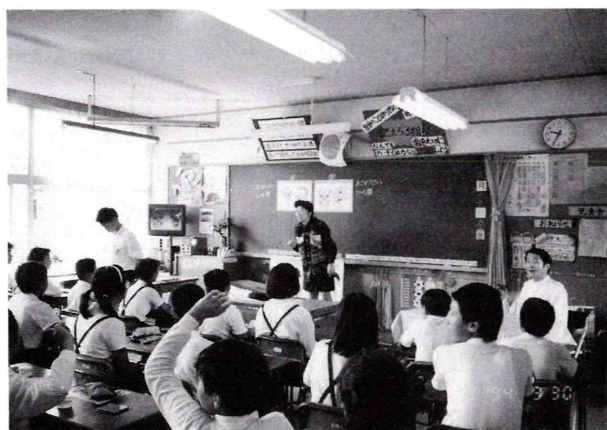
授業に使われた歯列模型に唇を付けたことは、突っ込みみがきを指導するためにはよい工夫であったと思われる。ただ、児童によく見えるように模型を置く高さや位置については、十分配慮が必要である。

(2) 指導案の形式について

前回の研究協議会で決まったフローチャートの形式は、授業を展開する上で、学習の流れが一目で分かり、適切な指導助言ができるという点から有効であった。

指導案に用いる用語も児童の側に立つ表現が望ましいと考え、「指導内容」を「学習内容」に変えた。児童自らが行動して確かめることと学習がこれからの実践に確実に結びつくように、学習課程を「問題の発見」「解決の構想」「行動化」「意欲化」とした。

(東京都立川市立第7小学校)



1

主体的に取り組み 地域に根ざした歯科保健活動

発表者

福井県福井市立東郷小学校教務主任 村上 恵美子

1. 本校の概要

本校は、児童数303名、学級数11学級で幼稚園児54名、2学級が併設される中規模校である。明治4年の創設以来、120年の伝統と歴史を誇る学校である。県都福井市の市街地より約10km東部に位置し、足羽川の清流と緑濃い山々の間に開けた田園の町である。

かつて、戦国武将の朝倉氏が、本校より約3km奥に越前一乗谷城を築いたとき、その関門として、本校裏手にある楨山に城を固めたのが当地発展の始まりと言われる。本校の北側には、街並を東西に流れる用水があり、この用水のせせらぎを守ろうと、現在、大規模な改修工事が行われている。古い街並の情緒を残して、新しい街へと生まれ変わろうとふるさとおこしシンポジウムも毎年行われている。戸数約800戸は、数年来ほとんど変動がなかったが、平成4年度末ごろより住宅団地の造成が2ヵ所で行われ、新築住宅も少しずつ増えて、児童数も少しずつではあるが、増えてつある。しかしながら、児童の家庭の大半は、三世帯同居で落ちついた雰囲気であり、経済的にも社会的にも安定しており、地域に根ざした教育活動にも協力が得られやすい

昭和27年の健康優良校県1位入賞以来、同賞受賞5回、学校安全文部大臣賞、学校保健統計調査優良校文部大臣賞表彰等、児童の健康・安全に関する表彰が多いことでも示されるように、学校をとりまく地域全体で健康・安全教育に取り組んで

いる。学校教育目標にも「創造性豊かで、心身ともにすこやかな児童の育成」とあり、心身の健康づくりを第一目標としている。

2. 歯科保健活動の基本的方針と実践

人が行う健康管理への文字どおりの入り口として、歯科保健活動は、非常に重要な意味をもつ。ある意味では、人が健康な生活を送るために、食生活を含めた口の中の健康は最重要課題と言えるのではないだろうか。全身の健康の入り口として、かほど大切な口、歯の保健活動をおろそかにしないために、乳歯から永久歯に生えかわる小学校の時期の指導は、計画的かつ継続的に行われなければならない。そこで本校では、次の4点を基本方針として、毎日の継続実践を行っている。

- ① 学級活動を中核とした「むし歯予防」の保健指導の充実
- ② 児童の実態に即した個別指導の充実と徹底
- ③ 地道な努力と継続の重視
- ④ 学校と家庭が一体となった地域ぐるみの健康教育の推進

である。

以下、その4点について、それぞれの具体的な実践事例を紹介する。

(1) 学級活動を中核とした「むし歯予防」の保健指導の充実について

指導要項が改訂されて、従前の学級指導が学級活動という形で統合された。したがっ

て、本校では、学級活動の年間計画の中に、むし歯予防の指導項目を次のように入れている。

- ・ 6年（5月）健康な歯と食生活
- ・ 5年（5月）むし歯のこわさを知ろう
- ・ 4年（5月）むし歯の予防
- ・ 3年（6月）おやつのはじまりととり方
- ・ 2年（6月）歯の衛生と自分の体
- ・ 1年（6月）正しい歯のみがき方

また、保健部より出される年間計画の中にも、重点項目を設け、意欲化、習慣化を図っている。

(2) 児童の実態に即した個別指導の充実と徹底について

毎年6月4日のむし歯予防デーの前後に、歯科校医による「歯の健康教室」を開き、カラーテストやRDテストなど、個々の児童の歯の状態を調べ、個に合った歯みがきの仕方を指導している。また、その場で、養護教諭や歯科衛生士による個別指導も行っている。

年2回（4月、10月）の歯の検査の後に治療勧告カードも渡し、養護教諭の手づくりによる健康手帳「すこやか」を通じて、家庭との連絡も密に行い、治療率が上がっている。

(3) 地道な努力と継続の重視について

「自分の健康は自分で守る」ためには、児童一人ひとりが、自分の健康状態に関心を持ち、生涯を通して自己の健康を管理できる能力をつけなければならない。学校教育の中で、とすれば二の次になりかねない健康への関心を喚起するには、日々の地道な努力と継続への強力な意思が必要であると考ええる。

本校では、平成3年度から3年間、毎日歯みがきカレンダーに歯みがきの様子を記入し、児童に継続的な歯みがきの大切さを意識づけることができた。歯みがきカレンダーは、児童の喜ぶ楽しいイラストに1日3回歯みがきができたなら青、2回なら黄、1回なら

赤のように色ぬりをしていく簡単なものであるが、ぬり絵を楽しみながらも、「1日3回、食べたら磨く」という習慣化には役立った。

今年度は、さらに健康全般にも目を向けさせる意味で、「元気かな」という形で、今朝の体調と共に、昨日の歯みがきの様子を○△×の方式で記入することにした。それは、3年間継続してきた歯みがきカレンダーのマンネリ化を防ぐ意味でも有効であると考えたからである。

また、毎年6月には、高学年を対象にしたむし歯予防の標語を募集し、全校児童の投票による優秀作品の選定を行っている。標語を書いたり選定したりすることで意識の高揚が図れると考えるからである。今年度の標語の中で全校1位に選定されたのは、5年生の「自分の歯、80までの宝物」である。また、毎年6月4日前後の児童集会でも20分間の短時間ながら、児童自身の製作したOHPシートやクイズカードなどを使ってむし歯予防の大切さを全校児童に啓蒙している。

(4) 学校と家庭が一体となった地域ぐるみの健康教育の推進について

健康づくりの推進には、家庭との連携が必要不可欠である。特に、むし歯予防には、食生活の改善ということも含めて、家庭での家族ぐるみの取り組みが肝要である。いかに地域ぐるみの運動へ導くかが鍵である。

本校では、毎月の保健だよりや保健室からの連絡が一方通行でなく、家の人からのサインや一言欄を設けてあり、学校での取り組みに対する理解が深められている。

また、毎年行われる学校保健委員会でも、PTA会長、母親代表等保護者の積極的な参加を得ている。学校がリーダーシップを取りながら児童の歯の健康づくりのため、随所で地域とのつながりを深めているのである。

2

学校・家庭・地域とで実践している むし歯予防活動

発表者 山口県阿武郡阿武町立奈古小学校学校歯科医 和田 忠 子

1. はじめに

学校医の制度が開始されたのは明治31年であるが、学校歯科医は昭和6年とずい分遅れて設けられた。戦後保健管理に関する専門の事項に関して、具体的な規則が文部省より出された。しかし、一般的に歯科保健とは入学時期の歯科健診と年に1度の児童の口腔検査を年中行事として行うものと考えられている。したがって教育関係者や行政からもややもすれば雑務的な扱いを受けてきた。しかし、近年になり個人の健康の保持や増進及び予防という意識が高まり、地域社会でもだんだんと受け入れられてきた。

自分と学校歯科医との関わりは約20年になる。最初の健診で学童のう蝕患率の高いことと永久歯の残根が多いのにびっくりしたものである。ちなみに阿武町の国保運営協議会から出た報告には昭和45年から50年までは口腔に関する疾病が受診率も費用額も第1位であった。その時期に学校歯科医の委託を受けた。

これを機会に地域の人たちと一体となり、う蝕予防に力を入れてみようとして行政に働きかけて、快く受け入れてもらい会合を持った。そのメンバーは助産婦、保健婦、保育園の保母、小・中学校の養護教諭、学校歯科医だった。これが後の拡大学校保健委員会へとつながった。

目標としては、1. 妊産婦及び乳幼児期のう蝕予防の啓蒙とブラッシング指導、2. 小学生、中学生では永久歯の残根状態を無くすことであっ

た。

昭和55年から60年には、口腔に関する疾病による受診率と費用額が第2位にまで下がってきた。昭和60年から63年にかけて奈古小学校がむし歯予防推進の指定校になった。関係者一同が予防対策に本腰を入れて取り組むために地域の皆様や保護者の協力を得て実践活動を進めた。そして指定校が終わっても保健活動は続いており、平成4年には奈古小学校は「全日本よい歯の学校最優秀校」に選ばれた。また山口県では「よい歯の学校」として奈古小学校と奈古中学校が県知事表彰をアベックで受けた。

当初の目的であった6歳臼歯の喪失と未処置のC₄を無くすことはできたし、現在では口腔内の疾病の費用額及び受診率も3位までに下がった。ところがDMF歯数を0にすることはとても困難であるが、今後共に継続してこの活動を全員でがんばっている。

2. 本校の概要

阿武町は歴史のまち萩市に隣接し、広大な日本海と緑の濃い中国山地に囲まれた自然豊かな町である。地形は東西に長く、一方は海に開け、三方は山に囲まれ、平地は郷川に沿って開けている。気候は温暖で平均気温は14℃～15℃であり、晴天は180日前後で雨量は1,300～2,000mmである。校区の奈古地区は人口が3,161で世帯数は987であり、この地区の児童はすべて在籍している。奈古

小学校は児童数192名、教職員20名、7学級で明治6年に開校し120年という伝統ある学校である。

保護者の家庭はほとんど恵まれている方で共働きが大部分を占めている。その勤めは、地区の企業や母親は近隣の萩市や島根県の益田市に働きに出ているものが多い。

保護者は教育熱心であり、学校教育、社会教育にも、とても協力的で学校行事への出席率は極めて高く、特にPTAの保健体育部の活動には伝統的なものがある。

3. 歯科保健の概要

歯の健診は年2回行っており、春は学校の保健室で行うが、第2回目は校外研修を兼ねて徒歩で5分の学校医の診療室にて学年ごと3日間ぐらいかけて行う。平成6年の1回目の歯科健診結果を

表1に示す(表1)。

永久歯のう歯罹患率は5%であり、う歯処置歯率も89%と全国平均に比べてよい結果を示している。歯肉炎はブラッシングの指導がゆきとどいて該当者はなかった。

歯列不正は全校中6名で反対咬合3と交叉咬合、切端咬合2と認められた。

また歯科健診結果の歯状況で昭和59年から平成6年の11年間の推移を示す(表2)。文部省より指定を受ける前と終わってからの永久歯う歯罹患率も14.4%から4.9%と約1/3に減少している。また永久歯1人当たりの歯数も1981年のWHO大会では「12歳児の平均DMFTを3以下にしよう」と目標を掲げているが、当校では0.7と一部目標を達成している。これからの目標は歯周疾患及び不正咬合の予防に力を注ぐ必要があると考えられる。

学校におけるむし歯予防の基本は学童と一番接

表1 平成6年度歯科健診結果

学 年	性 別	在 籍	受 験 者 数	乳 歯		永 久 歯														う 歯 の い な い 者 (人)	療 養 を 要 す る 者 (人)	永 久 歯 未 置 者 (人)	久 の 本 数 (本)
				処置歯 本 数	未処置 歯本数	処置 完了 者数	萌出歯数（本）				う り 患 歯 率 (%)	う 歯 処 置 歯 率 (%)	未処置本数				計						
							健全歯	処置歯	未処置	喪失			C1	C2	C3	C4							
1	男	15	15	35	30	1	74	4	0	0	5.1	100						2	9	0	0		
	女	10	10	16	24		40	0	0	0								3	6	0	0		
2	男	7	7	26	16		56	0	0	0								0	6	0	0		
	女	9	9	39	7	2	74	4	0	0	5.1							1	4	0	0		
3	男	21	21	69	29	1	223	5	1	0	2.6	83.3		1			1	0	13	1	2		
	女	17	17	62	9	3	223	8	0	0	3.5	100						2	6	0	5		
4	男	15	15	45	11	2	160	6	2	0	4.8	75.0	1		1		2	1	8	2	2		
	女	23	23	55	11	10	330	17	1	0	5.2	94.4	1				1	3	11	1	3		
5	男	19	19	22	9	6	313	21	0	0								5	7	0	2		
	女	20	20	21	9	4	384	11	3	0	3.7	78.6	2		1		3	7	8	3	5		
6	男	18	18	25	5	8	346	14	1	0	4.2	93.3	1				1	7	3	1	1		
	女	18	18	8	1	12	373	31	7	0	9.8	81.6	4	3			7	3	4	3	4		
計	男	95	95	222	100	18	1,172	50	4	0	4.1	92.6	2	1	1		4	15	46	4	7		
	女	97	97	201	61	31	1,404	71	11	0	5.5	86.8	7	3	1		11	19	39	7	17		
合 計		192	192	423	161	49	2,576	121	15	0	5.0	89.0	9	4	2		15	34	85	11	24		

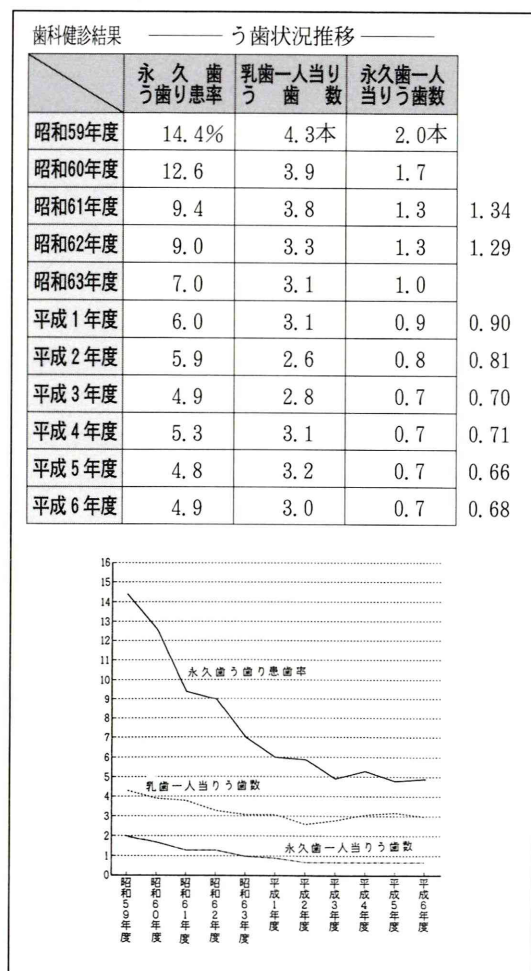
—584—

—2,712—

136

2,712

表2 う歯状況推移



している教師を通して予防指導が行われ学校保健年間指導計画の立案から学校歯科医が参加することが望ましいと考える。

校長－学校保健主事－学級担任教師－養護教諭－拡大保健委員会のメンバー－学童のラインで実施されている。

主な役割は、

- ① 学級活動－学級担任教師（立案には学校歯科医が相談及び指導を行う）
- ② 学校行事及び健診後の保健指導－養護教諭－学校歯科医－その他で保健婦及び衛生士が協力

③ 児童会の活動における指導－学校保健主事－養護教諭－相談者として学校歯科医

④ 個別指導－養護教諭

⑤ 日常指導－学級担任教師－養護教諭

⑥ 学校保健委員会－年に3回行う。その中で1回は拡大学校保健委員会で、中学校のPTA及び生徒も参加。一般的には学校医、学校歯科医、学校薬剤師、中学校養護教諭、保育園保母、保健婦、教育長、教育事務主事、民生課課長、栄養士、学校長－保健指導主事－担当の養護教諭－PTAの会長－保健体育部会委員等からなっている。

歯科保健指導において重要な役割は、やはり学級での担任教師であり、その先生の歯科保健に対する関心度により指導内容に違いが出てくる。そこで奈古小学校では文部省の指定校になった時点で全教師と養護教諭及び栄養士を含めて歯の基本的な勉強会を行い、レベルを一定にした。困ることは先生が途中で転勤されることであった。

春の健診では県で行われている「よい歯のコンクール」の代表者選びも兼ねて行い、秋の健診では該当しそうな学童には個人と家庭に連絡をし、予防には特に心がけてもらう。ここで受賞したときの作文で書いているように意識の向上がうかがえる。

また健診後には計画的に児童と家庭へ連絡を行っている。

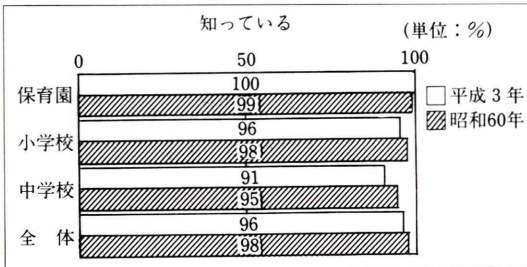
むし歯予防の行事はマンネリ化を防ぐために講演や学童の劇、学童達の研究発表会、作文の発表、絵画による展示会、老人ホームよりお年寄りに出席してもらい、年老いてからの歯のはなし、入れ歯になるとどこが違うか等、学童との話し合いを行う。また親子で歯みがきや歯みがきカレンダーを作る。

●日常指導と個別指導

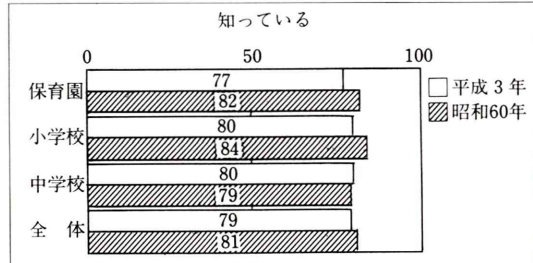
毎月、歯みがきの結果は一覧表にして各クラス担任に知らせ、指導を要する児童には家庭連絡と

表3 阿武町におけるむし歯予防に関するアンケート集計結果

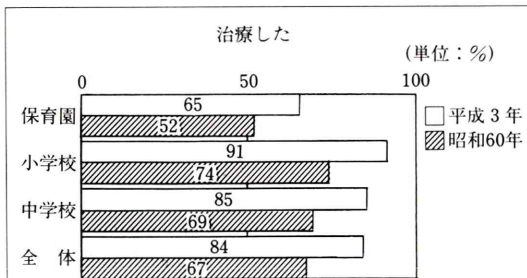
1. あなたは、お子さんのむし歯の有無について知っていますか。



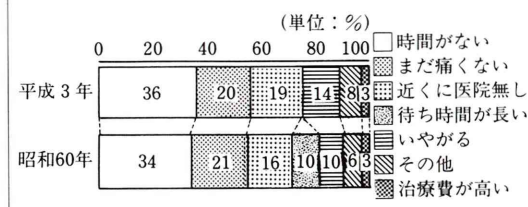
4. どこにむし歯がしやすいか、知っていますか。



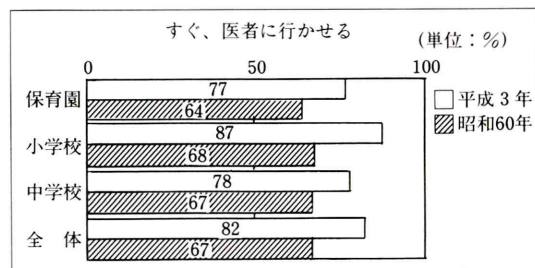
2. 歯の検査結果の通知を受けたとき、どうしましたか。



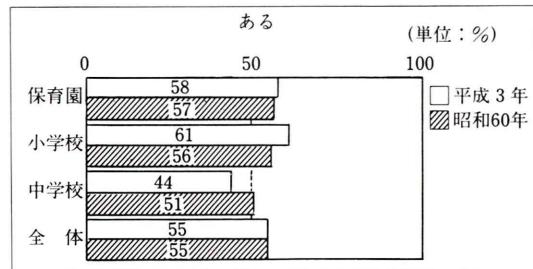
歯の検査結果を受けてそのままにしていた理由 (阿武町全体)



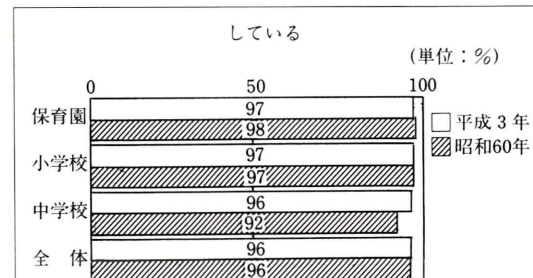
3. 日ごろ、歯が痛くなったらどうしますか。



5. むし歯予防について、家族で話し合ったことがありますか。



6. あなたの子供さんは、家庭で、歯みがきやうがいをしていますか。



歯磨きをするのは、いつですか。(阿武町全体)

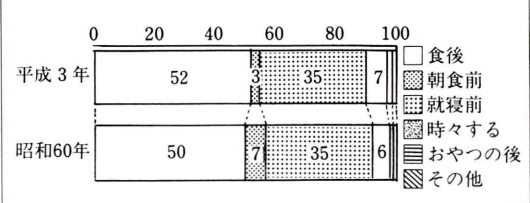
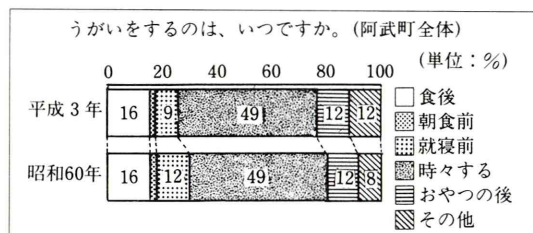
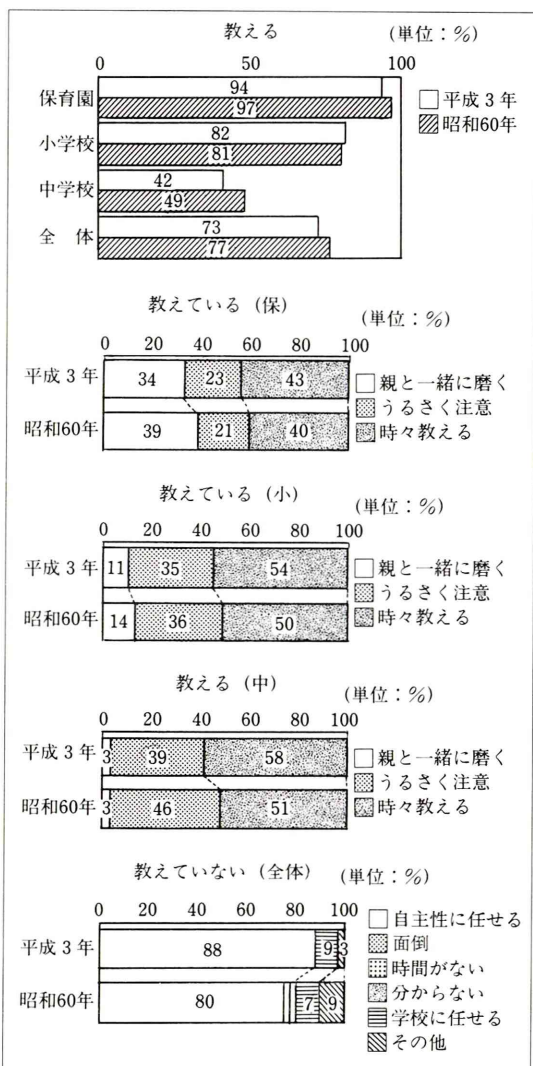


表 3 - 2

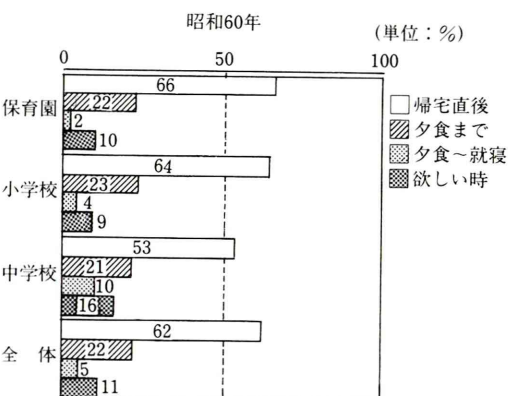
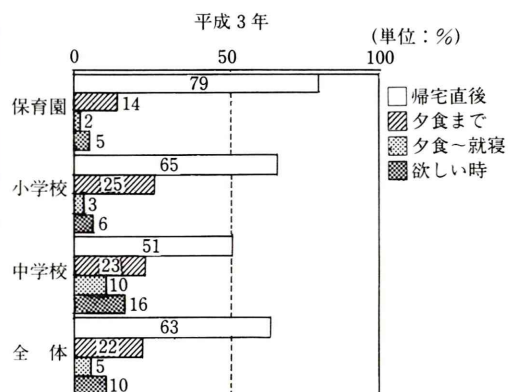


7. あなたは、お子さんに、歯みがきについて教えてくださいませんか。



8. おやつについて、答えて下さい。

(1) おやつは、いつごろ食べていますか。



(2) 次の中から、主に食べているおやつを選んで下さい。

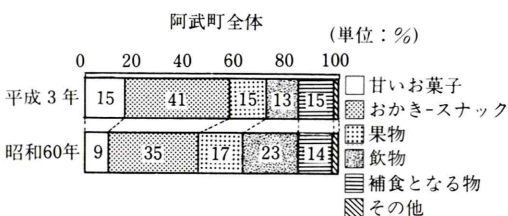
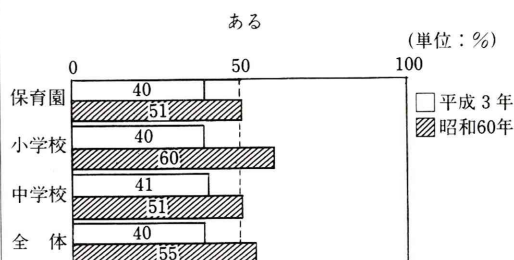
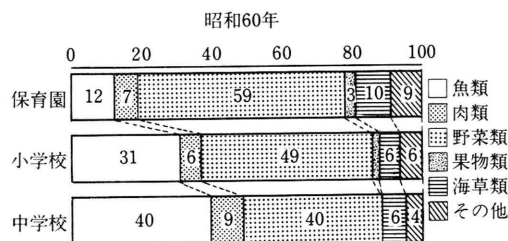
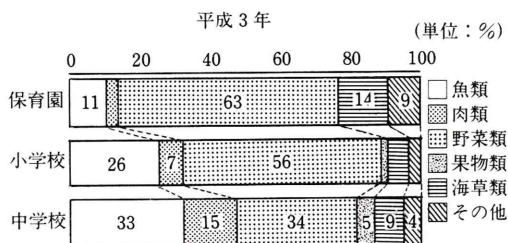


表 3 - 3

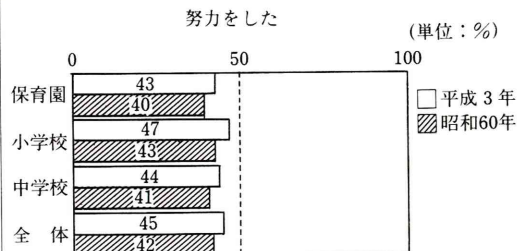
9. あなたのお子さんは、食べ物の好き嫌いがありますか。



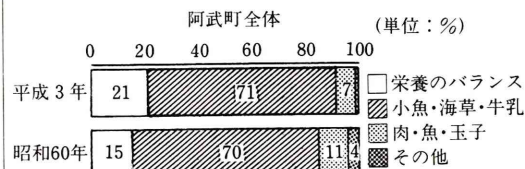
「ある」と答えた人は、次のうちどれですか。



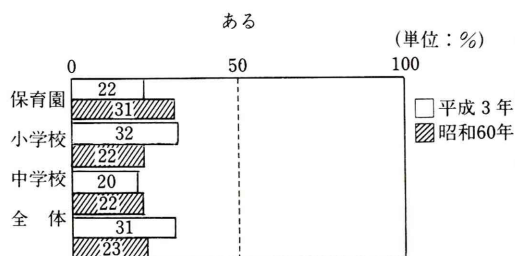
10. お母さんは、妊娠中に、丈夫な歯を作るための努力をしましたか。



「努力した」と答えた人は、次のうちどれですか。



11. あなた自身、好き嫌いがありますか。



保健室にて個別に指導を行う。またがんばった子には表彰を行う。

学校保健委員会は前述したようなメンバーで構成されており、その中には学童の研究発表をおり込んだり、う歯予防だけでなく、肝炎の予防、感染症、エイズについての知識や予防等多彩な面にビデオで学習をしている。

学校保健委員会が開催された後は、PTAの保健委員による「保体だより」が発行される。

●学校歯科保健について地域活動

特に昭和60年からは小学校が中心となり阿武町全体におけるむし歯予防アンケートを募りその集計や分析を行ったり、意識向上のために地域へのポスターや各機関に掲示をしてまわる(表3)。

乳幼児健診や保育園での健診では保健婦と衛生士とでブラッシング指導を行う。またフッ素塗布も小学校、保育園、1歳半から6歳児までを一緒に行っている。

4. 学校歯科医のかかわり方について

順に奈古小学校における学校歯科医の実状を述べてきた。指定校になる前までは、学校での学校歯科医はただ単にむし歯予防週間の時と健診だけで、その予防対策は養護教諭の仕事として任せておけば良いと思われていた。それには行政の協力と教員の意識改革と歯科医自身の意識改革が必要であると思った。我々は学校側から協力を求められた場合には、いつでも指導及び助言ができるように専門家としての準備が必要である。それには

学校保健指導年間計画にも積極的に参加し、学童の授業においても講義時間を持つくらいの働きかけをしてもいいと思う。一口に予防と言うが、やはり先生と学童と学校歯科医とのコミュニケーションがあってこそ実行できると思う。

5. おわりに

約20年間学校歯科医として関わってきて感じたことは、我が奈古小学校の先生を始めとし、皆さんがとても協力的であったからこのようなよい結果が出たものと考えている。

しかし、保健教育というのは社会保障と同じように「ゆりかごから墓場まで」と考えると我が国のように母子保健は厚生省、学校保健は文部省、成人すればまた厚生省と、2省にまたがった行政は考えてほしいと思う。

また歯科予防を推進するにあたっては養護教諭の他に歯科衛生士が常駐するとよいと思う。疾病に対しては早期発見早期治療であるが、中には経済的な理由から通院できない学童もいることから初期う蝕に対する学童の無料化をすることにより、WHOの提唱しているDMFTを3以下に持っていけるように行政サイドからも検討してほしいと考える。

参考文献

- 1) 第57回全国学校歯科保健研究大会大会要項, 1993.
- 2) 祖父江鎮雄: 学童に対する歯科管理の現状と問題点, 歯科ジャーナル22(1): 7~16, 1985.
- 3) 深田英朗: 学校歯科医の任務と各国の事情, 歯科ジャーナル22(1): 17~24, 1985.

3

むし歯・歯肉炎予防の実態から

発表者 富山県砺波市立砺波北部小学校教諭 貝 淵 悦 子

1. はじめに

本校は、平成2年度に市学校保健会の研究指定を受け、子供たちの健康づくりへの取り組みを行ってきた。その後、平成3・4年度に文部省のむし歯予防推進校に指定され、それを機にむし歯予防活動に取り組んでいる。

(1) 本校の概要

本校は、砺波市の北部に位置し、広々とした田園地帯であるが、兼業農家が多いこと、近くに大型店舗や新興住宅が増えたことで、教育活動に対する考え方に多様化が見られる。地域の人々の学校教育に対する期待はきわめて高く、協力的である。

学校の規模は、5月1日現在で15学級、444名の中規模校である。

2. 研究の概要

(1) 研究主題

自分で考え、目当てをもって進んで活動する
子供を育てるには、どのようにしたらよいか。
～むし歯・歯肉炎予防の実践を通して～

(2) 研究主題について

① 今日の面から

豊かな食生活、加工食品の氾濫、糖分の多量摂取、食べ物の軟食化などによりかむ力が弱くなり、顎や歯肉の発達が遅れ、む

し歯罹患率が増大し、歯肉の病気が増えてきている。平均寿命が延びた今日、生涯健康な歯でよくかんで食べることができるように、児童期からむし歯予防の意識を高め、自分の健康は自分で管理していこうとする態度を身につけさせることが大切である。

② 本校の教育目標から

本校では「心身ともに健康で、人間性豊かな創造力と実践力のある児童の育成」を目指している。子供たちが心身共に健康であるために、歯の果たす役割は大きい。しかし、本校の子供たちは、歯に関する関心が低いことから、歯の保健指導を通して健康に留意すると共に、心をみがき、意欲的に実践しようとする子供を育成していきたいと考えた。

③ 児童の実態から

健康の保持増進の基盤として歯の果たす役割は大きいと考えるが、本校の子供たちは、むし歯の罹患率が極めて高く、むし歯及び歯肉炎の予防に対する意識が低く、しっかりした知識も身につけていない。そこで、歯の保健指導を通して歯への関心を高めると共に、望ましい生活習慣を育成し、自分の健康は自分で作るという意識を育てたいと考えた。また、むし歯予防活動に取り組むことを通して、自主的に活動する子供を育成したいと考えた。

〈健診結果〉

(平成3年4月と4年4月の比較から)

- ・むし歯の罹患率は、永久歯、乳歯を加えると、平成3年度は97%、4年度は98%ときわめて高い。
- ・本校6年生のDMFTは、3年度4.9本、4年度5.3本と多くなっている。
- ・未処置歯率は、少なくなっている。

(3) 主題説明の仮説

- ① 健康な歯を作るための保健指導の方法を工夫し継続することによって、歯の大切さを自覚し、むし歯・歯肉炎予防の実践力が高まる。
- ② 歯の健康を自ら守ることを目指す積極的な児童の活動を進めることにより、進んで

実践しようという意欲が育つ。

- ③ 歯を大切にする取り組みを学校・家庭・地域の共通の課題として相互の連携を密にすることにより、健康づくりへの意欲が高まり、望ましい生活習慣が育つ。

(4) むし歯予防の基本的な考え方

① 歯の保健指導の目標

- ・歯・口腔の発育や疾病・異常など、自分の歯や口の健康状態を理解させ、それらの健康を保持増進できる態度や習慣を身に付ける。
- ・むし歯や歯肉の病気の予防に必要な歯のみがき方や、望ましい食生活などを理解し、歯や口の健康を保つのに必要な習慣を身に付ける。

表1. むし歯の保有状況

(平成4年4月現在)

表3 6学年の永久歯の状況

全 体 の 状 況		む し 歯 有 者	処 置 完 了 者	未 処 置 歯 の 有 者	第 6 学 年 の 状 況	一人当たりの平均 むし歯保有数	
						男	女
	男	H3	68.2%	31.4%		H3	4.6本
		H4	71.0%	43.2%		H4	5.5本
	女	H3	71.4%	32.3%		H3	5.3本
		H4	78.2%	47.7%		H4	5.5本
計		H3	69.8%	31.9%		H3	4.9本
		H4	74.7%	45.5%		H4	5.3本

	H3	H4
A 検査を受けた者	92人	103人
B 処置完了歯の数	91本	438本
C 未処置歯の数	164本	112本
D = B + C う歯総数	455本	550本
E 喪失歯数	0本	0本
F DMFT (D + E) / A	4.9本	5.3本

表2 全校児童の永久歯の状況 (各学年の昨年と今年の比較)

項 目	学 年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
A 検査を受けた者	H4	61人	83人	73人	92人	105人	103人
B = C + D むし歯を保有している者	H3		21人	38人	68人	92人	92人
	H4	17人	43人	53人	77人	99人	98人
C 処置完了の者	H3		10人	17人	43人	38人	37人
	H4	7人	20人	34人	57人	69人	49人
D 未処置のある者	H3		11人	21人	25人	54人	55人
	H4	10人	23人	19人	20人	30人	49人
E = A - B う歯のない者	H3		60人	34人	23人	11人	9人
	H4	44人	40人	20人	15人	6人	5人
F = E / A Eの比率 %	H3		74.1%	47.2%	25.3%	10.7%	8.9%
	H4	72.1%	48.2%	27.4%	16.3%	5.7%	4.9%

② 目標達成のために指導内容

- ・自分の歯や口の健康状態の理解
- ・むし歯や歯肉の病気の予防に必要な歯の
みがき方や食生活

(5) 指導計画

歯の保健指導の目標を達成するために、ま
ず、『歯の保健指導の手引き』（文部省）を基
に、各学年で指導すべき基本的な事柄をはっ
きりさせた。

指導要素表 1

砺波市立砺波北部小学校

項目	基本要素	指導内容	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	日常 指導	家庭 との連携
歯 や 口 の 健 康	○ 自分の歯や歯肉の様子	・自分の歯の様子に関心をもって検査を受けることができる。 ・合わせ鏡で歯の内側を観察することができる。 ・自分のむし歯の部位、本数、治療状況が分かる。 ・自分の永久歯の萌出状況が分かる。 ・乳歯と永久歯の違いや自分の歯列の様子が分かる。 ・自分の歯肉の健康観察ができる。	○	○	○	○	○	○		
	○ むし歯の原因	・歯の汚れとむし歯の関係が分かる。	○	○						
	○ むし歯の進行と治療	・むし歯の3要素が分かる。 ・むし歯になりやすい場所が分かる。 ・むし歯は自然に治らないことを知り、早期治療を受けることができる。 ・むし歯の進行過程を知り、治療の大切さが分かる。 ・生活のあり方とむし歯の関係が分かる。	○	○	○	○	○	○		
	○ 歯肉の病気の原因	・歯肉炎になりやすい場所や歯肉炎になるわけを知る。 ・歯肉炎の進行過程が分かる。					○	○		
	○ 歯肉の病気の進行と改善	・歯肉炎の歯肉を発見したら、歯みがきで改善することができる。 ・生活のあり方を見直し、歯肉炎を防ぐことができる。					○	○		
	○ 歯のつくりと働き	・前歯、奥歯、犬歯の特徴とその働きが分かる。 ・第一大臼歯の働きを知り、むし歯にしないように努力する。 ・第二大臼歯の萌出について知り、その特徴や働きが分かる。 ・歯が顔の形、発音、そしゃくに影響することが分かる。 ・よくかむことは歯列やあごの発育によいことを知り、かたいものを食べることの大切さが分かる。	○	○	○					
	○ 歯の汚れと見分け方	・歯垢を染め出し、観察ができる。 ・染め出しで歯の汚れの自己評価ができる。 ・歯垢のできかたが分かる。	○	○	○	○	○	○		
	○ 歯ブラシの選び方や取り扱い方	・自分の歯に合った歯ブラシを選んで使うことができる。 ・歯ブラシの交換時期が分かり自分で歯ブラシを取り替えることができる。 ・歯ブラシの衛生的管理ができる。	○	○	○	○	○	○		
	○ 歯ブラシの毛先のあて方と力の入れ方	・歯ブラシの毛先を磨こうとする歯の面に直角にあてることができる。 ・磨こうとする場所にに応じて歯ブラシの刷毛面を使い分けすることができる。 (つま先、わき、かかと) ・歯ブラシの毛先を小さきみに動かすことができる。 ・歯ブラシを軽い力で当てることができる。(毛先が乱れない程度) ・磨こうとする場所にに応じて、工夫した歯ブラシの持ち方ができる。 ・上下、外内、かみ合わせ面に毛先がとどく。	○	○	○	○	○	○		
	○ 自分の歯の形や並び方に応じた歯のみがき方	・みがき残しのないように順序よく磨くことができる。 ・第一大臼歯のかみ合わせ面をきれいに磨くことができる。 ・前歯の外側をきれいに磨くことができる。 ・前歯の内側をきれいに磨くことができる。 ・小臼歯をきれいに磨くことができる。 ・第一、第二臼歯、犬歯をきれいに磨くことができる。 ・すべての歯をきれいに磨くことができる。 ・食べた後、すぐ磨くことができる。	○	○	○	○	○	○		
歯 ・ 口 の 汚 れ と 取 り 方	○ うがいの仕方	・ぶくぶくうがいの大切さが分かり、正しいぶくぶくうがいができる。	○	○	○	○	○	○		
	○ おやつとり方	・甘いおやつは、むし歯になりやすいことが分かる。 ・粘着性のあるおやつは、むし歯になりやすいことが分かる。 ・おやつは時間、回数、組み合わせを決めてとることができる。 ・1日にとってよいおやつや、飲み物の量が自分で判断できる。	○	○	○	○	○	○		
	○ 望ましい食生活	・好き嫌いをしないでなんでも食べることができる。 ・三食規則正しいバランスのとれた食事をするのがよい歯や健康な体を作るのに大切なことが分かる。	○	○	○	○	○	○		

◎ 重点指導要素 ○ 関連指導要素

項目	指導内容	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
歯 や 口 の 健 康	○ 自分の歯や口の中の様子	・ むし歯の位置、数について分かる。	・ 合わせ鏡で歯の内側を観察することができる。 ・ 自分の永久歯の萌出状況が分かる。	・ 自分の歯の様子に関心を持ち、検査を受けることができる。 ・ 自分のむし歯の部位、本数治療状況が分かる。 ・ 乳歯と永久歯の違いや自分歯列の様子が分かる。		・ 自分の歯肉の健康観察ができる。	
	○ むし歯の原因 ○ むし歯の進行と治療		・ 歯の汚れとむし歯の関係が分かる。 ・ むし歯は自然に治らないことを知り、早期治療を受けることができる。	・ むし歯の3要素が分かる。 ・ むし歯の進行過程を知り、治療の大切さが分かる。	・ むし歯になりやすい場所が分かる。		・ 生活のあり方とむし歯の関係が分かる。
	○ 歯肉の病気の原因 ○ 歯肉の病気の進行と改善					・ 歯肉炎になりやすい場所や歯肉炎になるわけを知る。 ・ 歯肉炎の進行過程がわかる。 ・ 歯肉炎の歯肉を発見したら歯みがきで改善できる。	・ 生活のあり方を見直し、歯肉炎を防ぐことができる。
	○ 歯のつくりと働き	・ 第一大臼歯の働きを知り、むし歯にないように努力する。	・ 前歯、奥歯、犬歯の特徴が分かる。 ・ 歯が顔の形、発音、そしゃくに影響することが分かる。	・ よくかむことは歯列やあごの発育によいことを知り、かたいものを食べることの大切さが分かる。		・ 第二大臼歯の萌出について知り、その特徴や働きが分かる。	
歯 ・ 口 の 汚 れ と 取 り 方	○ 歯の汚れと見分け方	・ 歯垢を染め出し、観察ができる。		・ 染め出して歯の汚れの自己評価ができる。 ・ 歯垢のできかたが分かる。			
	○ 歯ブラシの選び方や取り扱い方		・ 歯ブラシの交換時期が分かり、自分の歯ブラシを取り替えることができる。	・ 自分の歯に合った歯ブラシを選んで使うことができる。	・ 歯ブラシの衛生管理ができる。		
	○ 歯ブラシの毛先の当て方と力の入れ方		・ 歯ブラシの毛先を磨こうとする面に直角に当てることができる。 ・ 歯ブラシの毛先を小さきみに動かすことができる。 ・ 歯ブラシを軽い力で当てることができる。(毛先が乱れない程度) ・ 磨こうとする場所に応じて工夫した歯ブラシの持ち方ができる。		・ 磨こうとする場所に応じて歯ブラシの刷毛面を使い分けることができる。(つま先、わき、かかと) ・ 上下、外内、かみ合わせ面に毛先がとどく。		
	○ 自分の歯の形や並び方に応じた歯の磨き方	・ みがき残しのないように順序よくみがくことができる。 ・ 第一大臼歯のかみ合わせ面をきれいに磨くことができる。 ・ 食べた後、すぐ磨くことができる。	・ 前歯の外側をきれいに磨くことができる。	・ 前歯の内側をきれいに磨くことができる。	・ 小臼歯をきれいに磨くことができる。	・ 第一、第二大臼歯、犬歯をきれいに磨くことができる。	・ すべての歯をきれいに磨くことができる。
	○ うがいの仕方	・ ぶくぶくうがいの大切さがわかり、正しいぶくぶくうがいができる。					
食生活のあり方	○ おやつとり方	・ 甘いおやつは、むし歯になりやすいことが分かる。	・ 粘着性のあるおやつは、むし歯になりやすいことが分かる。		・ おやつは時間、回数、組み合わせを決めてとることができる。	・ 1日にとってもよいおやつや飲み物の量が自分で判断できる。	
	○ 望ましい食生活	・ 好き嫌いをしないで何でも食べることができる。				・ 三食規則正しいバランスのとれた食事をすることにより歯や健康な体を作るのに大切なことが分かる。	

3. 研究の実際

(1) 授業（学級活動）での取り組み

① 1年

主題名

だいじにしようね「よこづなくん」

○ねらい

第一大臼歯の特徴から、かみ合わせがむし歯になりやすいことが分かり、みぞに食べかすが残らない磨き方を工夫することができる。

○展 開

表4のとおり。

○活動の様子

〈問題に気付かせる場での工夫〉

第一大臼歯の立体模型「よこづなくん」（子供の背丈ぐらい）を作り、その「よこづなくん」をとおして第一大臼歯の大切さやむし歯になりやすいわけなど

を考えさせたり、話して聞かせたりした。マスコットを登場させたことによって、子供たちは、非常に興味を持って学習した。「よこづなくん」の話から、自分の第一大臼歯はむし歯にならないか心配だなという気持ちになり、自分の歯がきれいに磨けているかどうか調べてみることになった。

〈問題の解決に向かって追究する場での工夫〉

第一大臼歯の1本を染め出し、赤く染まったところがなくなるようにそれぞれ工夫をして磨いた。磨き方の中で特につつこみ磨きをしている子供の磨き方を取り上げ、みんなで「つつこみ磨き」の練習をした。

〈進んで実践しようという意欲化へつなげる工夫〉

終わりに、「よこづなくん」を再び登

表 4

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>① 第一大臼歯（よこづなくん）の特徴やむし歯になりやすいわけを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きくて、力持ちだ。 かむ力がいちばん強い。 <p>○どうしてむし歯になりやすいのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> みぞが深くて、かすがたまりやすい。 出たばかりの歯は、弱い。 <p>② 右下の第一大臼歯に染め出し液をつけ、赤く染まったところがなくなるように工夫してみがき、その方法を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯ブラシを奥まで入れてみがいた。 毛先で何回もみがいた。 横から歯ブラシを入れてみがいた。 <p>③ もう一度染めて、赤いところがなくなっているか確かめてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> きれいになった。 まだ、みぞが赤くなっている。 <p>④ これから、自分の「よこづなくん」をどのようにみがいて大事にしていくか、手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> みぞに歯ブラシをしっかりとあてて、みぞにかすが残らないようにみがく。 	<ul style="list-style-type: none"> 立体模型の「よこづなくん」を登場させることにより第一大臼歯に親しみを持たせ「よこづなくん」の言うことを素直に聞かせる。 絵やグラフなどの視覚に訴える資料を提示して、第一大臼歯の特徴やむし歯になりやすいわけをつかませる。 背の低い第一大臼歯のみがき方は、歯ブラシを横からいれてみがく「つつこみみがき」としておさえる。 染め出し結果に応じて、自分で判定させ青、黄、赤のシールをはらせる。 自分の歯に応じたみがき方の工夫を書いている子供のものを全体に広め、これからの歯みがきの意欲化を図る。

場させ、むし歯にしないしてほしいと語りかけた。
この後、子供たちは、どうやって「よこづなくん」を大事にしていこうと思うのかを「よこづなくん」へのお手紙に書いた。手紙には、しっかりみがいてむし歯にしないようにするという気持ちがあふれていた。

② 3 年

主題名 **かむ力と歯ならび**

○ねらい

かむことが、あごの発育、ひいては歯ならびをよくすることにつながることに気づき、かむことから歯の健康を考えることができる。

○展 開

表5のとおり。

○活動の様子

〈問題点に気付かせる場での工夫〉

事前に自分の歯ならびの様子や食べ物について調べ記録させておく。授業では、その記録をもとに自分の歯ならびの問題点に気付かせた。歯の大型模型を使って説明させ、いろいろな歯ならびを示すことによってみんなの問題とし、歯ならびが悪くなる原因を考えさせた。

〈問題点の解決に向かって追究する場での工夫〉

現代人と古代人のあごを比較できるようにしたものを指示することによって、子供たちは、かむこととあごの発育とに関連があることから、自分達があまりかみごたえのあるものを食べていないからではないかと気づき、食べ物調べを使って、自分の生活を振り返った。

〈進んで実践しようという意欲化へつなげる工夫〉

ふだん、よくかむという経験の少ない子供たちに、実際にスルメをかむという活動を取り入れることにより、よくかむ・かみごたえがあるということを体感させた。

そして、昨年同じような学習をしている4年生の子供の書いた手紙を聞かせることで、軟らかい物でもよくかむことが大切であることを意識づけ、自分の歯ならびもよくしたいという気持ちが高まった。

③ 6 年

主題名 **歯と歯ぐきの病気**

○ねらい

歯周病の症状・進行過程・原因などが分かり、その予防や治療につながる適切なブラッシングを実践しようとする。

表 5

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
① 自分の歯ならびをふり返る。	・歯ならびカードを見て発表させる。
② 歯ならびが悪くなる原因を考える。	・歯の模型を使い、歯ならびがどんな様子か分かりやすくする。
	・かむことによってあごが発育することを分らせるために、昔の人と今の人のあごを比べさせる。
	・スルメをかむことによって、よくかむには力があることに気付かせる。
	・4年生の手紙を読み、よくかむようにしようという意欲を高める。
③ めあてを書く。	・どの子めあてを持つことができるように助言する。

○展 開

表6の通り。

○活動の様子

〈問題点に気付かせる場での工夫〉

まず、歯をなくす原因を問いかけ、自分の経験や家族の様子から考えを出し合わせ、今まであまり意識していなかった歯周病に意識を向けさせた。その後、健康な歯肉と歯周病にかかった歯肉を写真で提示し視覚的に病気の様子をとらえられるようにした。症状の進んだ歯周病の写真を見て、子供たちは驚きと不安を持った。「自分の歯肉は大丈夫だろうか」各自にデンタルミラーで十分に観察をさせ、今まで気付かなかった自分の歯肉の問題点に気付かせていった。

〈問題の解決に向かって追究する場での工夫〉

歯周病の原因や予防法などについて、学校歯科医に専門的な立場から説明をしてもらった。子供たちの歯肉の状況やブラッシングについては司会にも机間指導に加わってもらいより確かなものにした。また、こうすることによって、これからは気をつけようとか、なんとかしなくてはいけないという個々の実践意欲が高まった。

(2) 日常における実践活動

① 給食後の歯みがきタイム

給食後に歯みがきの時間を設定し、正しい歯みがきの仕方を知得させ、むし歯予防についての意識を高めるとともに、歯みがきの習慣化を図ることをねらいとして実施している。

当初は、歯みがきのビデオを使い、クラスごとに給食を食べ終わった後の10分間を歯みがきタイムとして一斉に歯みがきをした。こうすることにより、歯ブラシの当て方や磨き方が分かり、みがき残しなく全部の箇所を磨くことができた。また、一斉に行うため、全員に歯みがきを徹底することができた。リズムカルな音楽に合わせて行うので、楽しく磨くことができた。

子供たちが慣れるにつれて、同じビデオを使うことによるマンネリ化や洗口場の混雑を避けるため、ビデオを新しく制作したり、一斉みがきの日と、個々に磨く日とを組み合わせで行ったりしている。

② 個人ファイルの活用

子供たち一人ひとりに歯についてのファイルを用意し、各学級で学習時に使用した資料や保健室から出される「歯・歯だより」、自分の歯や歯みがきの様子や自分達が調べたことなどをとじることにした。

表 6

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
① 永久歯が抜ける原因について既習事項やグラフを基に話し合う。	・歯が抜けたときの経験や家の人の様子などから歯がないと不便であることを意識付けながら考えさせる。
② 自分の歯肉の様子を観察する。	・歯をなくす原因を表すグラフを提示する。
③ 歯周病の原因や予防法について詳しく知る。 (学校歯科医、芳尾先生に聞く)	・健康な歯肉、歯肉炎、歯周病の3枚の写真を提示し比較させ、病気に対する驚きや疑問をふくらませる。
④ 自分の歯肉の観察をし、自分の歯肉に合せて、予防法を工夫する。	・症状・進行過程・原因・予防法などについて説明してもらう。
⑤ 今後の目当てを書く。	・病気の歯肉を見分けるポイントを見つけさせる。
	・デンタルミラーで確かめながら磨くようにさせる。
	・具体的な目当てを立てさせるようにする。

歯についての学習は、単発に終わりやすいが、資料を累積することによって、以前に学習したことと新しく学んだこととをつないで考えることができ、歯についての学習意欲を持続させることができた。また、「歯・歯だより」などを一緒にとじていくことによって、専門的な知識や情報を蓄積していくことができた。自分の歯の様子や取り組みの記録にもなった。

③ 歯みがきカレンダーによる歯みがきの習慣化

むし歯予防・歯周病予防のために朝・昼・夜と1日3回の歯みがきを実施する。また、歯みがきの習慣化を図るために、実施記録をかき込めるように工夫した歯みがきカレンダーを作成した。

これは、毎月4日から10日までの1週間、歯みがきができたかどうかを色をぬって記録していき、1年間の歩みが1枚の記録用紙に表されるようにしたものである。子供たちの様子を見ると、最初は、あまり磨いていなかった子供も、徐々に磨くようになってきている。自分の歯みがきの様子が記録として残り、毎月それを見ることによって、きちんと磨いていない自分に気付いたためではないかと思われる。

むし歯予防週間のある6月と夏休み・冬休み期間中は、年間の歯みがきカレンダーとは別に「親子歯みがきカレンダー」として、家族も一緒に歯みがきを行い、家庭での習慣化に役立てるようにした。

④ 完全治療を目指した個別指導、グループ指導

歯の治療を進めるためにそれぞれの家庭へ治療カード、治療のしおり・治療のおたより（はがき）と形を変えて知らせ、早期治療の重要性を呼びかけたり、個別に相談にのったり、声をかけたりした。

また、治療の終わっていない子供を学年ごとに集め、早期治療を促すグループ指導を行った。

⑤ 保健環境の整備

ア 洗口場の整備

イ 歯ブラシかけの設置

洗口場上部に歯ブラシかけ（手作り）を設置した。こうすることにより、洗口場に向かったときに手軽に歯みがきができるようになった。全員の歯ブラシがかかっているの、歯ブラシの大きさ、毛先の状態や汚れが一目瞭然であり、歯ブラシの点検や指導がしやすくなった。

ウ 資料室の設置

空き教室を利用し、資料室を設けた。ここには、歯に関する資料やポスターなどの作品や集会での発表資料を掲示したり、ガラスの戸棚に歯の模型を陳列したり、学級活動で使用した資料・参考文献、ビデオなどを保管したりしている。

(3) 特別活動における実践

① 保健委員会の取り組み

ア 「歯みがきマン」のマスコット作り

みんなにきれいな歯をつくらうという気持ちを持ってもらうために、作った。これを教室の入り口に歯の未治療者の数とともにかけることによって、まだ歯の治療をしていない子供たちに早期治療を呼びかけた。

イ 「親子歯みがきカレンダー」のまとめ

歯の衛生週間に歯みがきの様子を調べたものの集計を行い、集会で発表した。

結果から、1日3回歯みがきをしているのは、親よりも子供の方が多いことが分かった。また、みがかない者は少なくなっていて、歯みがきに対する意識は高まってきている。

② 指示委員会の取り組み

6月のむし歯デーにちなんで、全校児童にむし歯予防に関心を持ってもらおうということから、絵やポスターを募集し、校内に掲示した。

(4) 学校・家庭・地域との連携

① 学校保健委員会

② 広報活動を通しての啓発活動

〈歯・歯だより（保健だより）〉

毎月、保健だよりを出して保護者に配布しているが、平成3年度からむし歯予防の啓発を目指して歯の健康を考える特集号として「歯・歯だより」も毎月配布している。

No.1 「歯のつくり」

No.2 「むし歯の進み方」

No.3 「かむことと食べ物」

No.4 「歯みがきアンケート」

No.5 「食物のかみごたえ調べ」

〈学校だより〉

家庭・地域へのむし歯予防推進の理解と協力を得るために、学校だよりやPTA広報を校下全家庭に配布している。

〈活動内容〉

学校保健委員会では、学校医の吉田先生、広野先生、学校歯科医の芳尾先生に専門的な見地からむし歯予防活動について指導助言をいただいた。その概要については、学校だより、PTA広報活動を通じて全家庭に知らせ、啓発活動を行った。また、学校職員には資料と全体記録を配布して共通理解を深め、指導に役立てるようにしている。

〈PTA広報「ひまわり」〉

PTA広報は、毎学期（年間3回）発行している。平成3年度に文部省の指定を受けたのを機会に、PTA保健委員会では、広報紙「ひまわり」にむし歯予防シリーズ「ハッピースマイル」を組んだ。

〈学年だより〉

各学年とも、毎月学年だよりを発行し、それぞれの学年の様子を知らせている。の中で、むし歯予防の推進のための学年の取り組みや健診の結果をのせたり、歯の健康のために学年に応じた情報を紹介したりしている。

③ PTA会員の研修と実践活動

〈学習参観・講習会〉

・祖父母学級での講演会

歯科衛生士高島きぬ子先生に、「むし歯と食生活」と題して講演をしていただいた。子供が家に帰ったときに世話をしてもらうことが多い祖父母を対象に、むし歯の原因が食生活と深く関係していることをおやつを取り方を例に分かりやすく説明された。

・むし歯予防に関する学習参観とPTA教養講座

各学級で「歯」に関する学習を展開し、子供たちがどのようにむし歯予防活動に取り組んでいるかを保護者に参観してもらった。参観後、学校歯科医芳尾先生より「子供の歯とむし歯」と題し、第一大臼歯について講演していただいた。4年度には、やはり「歯」に関する学習参観の後「歯周病について」講演していただいた。2年度の積み重ねにより、子供の意識ばかりでなく保護者の意識の高まりも感じられた。

〈PTA保健委員会を中心とした標語募集〉

平成3年度は、むし歯予防の意識を高めるねらいで、標語を募集した。その中の優秀な作品2点をステッカーにし、校下全戸に配布した。

平成4年度は、スローガン・図画を募集し、歯の資料室に掲示したり、横断幕にしたりした。また、子供のむし歯予防のポス

ターを公民館などに掲示したりして、子供はもちろん地域・家庭へのむし歯予防の意識を高めるよう努力している。

〈親子料理教室〉

平成3年に「歯によいおやつや食べ物について考えよう」と砺波市学校給食センターの栄養士大川美智子先生を招き、親子料理教室を開いた。

親子で調理した後、みんなで試食をした。砂糖の含有量を考え、砂糖の量を控えたおやつ、かむ必要のあるおやつなど、味や栄養のバランスを工夫したメニューに参加者は大変満足し、好評であった。そして、市販のお菓子や飲み物を控え、牛乳などを使って手軽につくれるおやつの工夫が大切だという意識が高まったようである。

4. 研究のまとめ

(1) 児童の変容

① むし歯の状況

- ・平成2年から平成3年のDMFTより平成3年から平成4年のDMFTの方が少なく、良い傾向である。
- ・むし歯の処置完了者を見てみると9月現在で、永久歯の治療率は、昨年は92.8%であったが、今年は96.2%と良くなっている。

② 意識の変容

- ・学級活動を中心とする保健指導の授業や児童集会や児童委員会などにむし歯や歯肉炎の予防に対する関心が高まってきた。
- ・歯みがきについては、今まであまり磨いていなかった子供が磨くようになった。また、今まで磨いていた子供も、磨く回数が増えたり、みがき残しがないように丁寧に磨いたりするようになってきた。

休日の歯みがきができなかった子供もできるようになり、歯みがきの習慣が身に付いてきた。

- ・デンタルミラーを使って自分の歯を観察する機会が多かったことで、自分の歯の様子や歯肉の様子に関心を持つようになった。
- ・健康な歯と食べ物は深い関係があることが分かって、おやつの取り方やかむことに気をつけようとする子供が出てきた。

(2) 研究の成果

① 授業での取り組み

- ・指導要素表をもとに、学年ごとに指導計画を立てて実践し、記録を累積することにより、全教職員の歯科保健に関する認識が高まった。また、系統的な指導内容の把握と指導の方法の工夫により、良い授業作りができた。
- ・高学年の歯の保健指導では、担任と養護教諭・学校歯科医が連携して授業を実施した。「問題の意識化・焦点化」の部分と「実践への意欲化」の部分を担当が受け持ち、「問題解決の方法」の部分で養護教諭の話や学校歯科医から助言をいただくことにより、子供たちは、助言を真剣に受けとめ、納得し、実践への意欲を高めるのに効果があった。
- ・大型の歯の模型や歯ブラシの模型・学級の実態を調べた表やグラフ・写真や絵など、教師のアイディアを生かした手作りの資料・教具を数多く作製し、活用することによって、子供のむし歯予防に対する心情を高めることができた。
- ・子供たちが自分たちの歯の実態を調べたり歯について調べたりしたものを授業に生かしたところ、とても生き生きと取り組んでいた。

② 日常における実践活動

- ・ビデオを使っの給食後の歯みがきは、歯の各部位のみがき方をマスターさせるのに効果的であった。そこで、歯みがきを徹底しつつ、もっと子供たちが進んで磨くようにと考え、上・下学年用の2種類の歯みがきビデオを作製し使用した。こうすることにより、さらに食後の歯みがきに対する意識を高めることができた。
 - ・強調週間中は、1日3回みがくことを目当てに歯みがきカレンダーをつけさせて歯みがきの習慣化を図ってきたが、期間中はふだんより意識して歯を磨くようである。
- ③ 児童の活動
- ・代表委員会や保健委員会を中心にしながら、各委員会がそれぞれの立場を生かして歯の保健啓発活動に取り組んだ。そして、それを集会活動に反映したことが児童活動の意欲を盛り上げることにつながった。
- ④ 環境の整備
- ・洗口場をきれいにしたり、歯ブラシかけを設置したりして、気持ちよく歯みがきができるように環境を整備してきた。子供たちの歯みがきの意識を高めるのに効果があった。
 - ・歯の資料室を設置し、歯に関する資料やポスターなどの作品、集会での発表資料などを掲示したことにより、歯みがきに対する意識を継続させることができたようである。また、戸棚には歯の模型を陳列したり、参考文献やビデオなどを保管したりして、次の学習に役立てることができた。
- ⑤ 家庭・地域との連携
- ・講演会・親子料理教室・「たより」の発行・学習参観・幼小の連携を図るなどし

て、家庭・地域のむし歯予防の意識の啓発に努めてきた。PTAの保健委員会が中心となり、親子で考えたむし歯予防の標語のステッカーを校下全戸に配布したり、子供たちが描いたむし歯予防のポスターを地域の掲示板に掲示したりして、地域のむし歯予防への意識を高めるように努めてきた。

8020運動の言葉が地域の人から聞かれるようになった。

(3) 今後の課題

- ① 個々の意識にくい込む指導の在り方
むし歯の学習は一人ひとりの子供の必要感に基づいて成立しなければならない。一人ひとりに成立する授業の進め方についての研究実践が一層必要になってくる。
- ② 歯肉炎の予防
平成4年度より文部省の『歯の保健指導の手引き』が改定され、むし歯予防と治療のほかに歯肉の病気の予防についても重点がおかれているが、この面の啓発も重要になってきている。
- ③ おやつ後の歯みがき
食後の歯みがきは実践しようとする子供が多くなってきたが、おやつを食べた後のうがいや歯みがきがもっとできるよう指導の工夫が必要である。
- ④ 食生活の改善
偏食をなくして調和の取れた食生活ができるようにしたい。特に、かむことの重要性について児童にも家庭にももっと呼びかけていく必要がある。
- ⑤ 評価の工夫
むし歯予防の生活習慣形成は、日常の指導の積み重ねによってその成果が現れる。したがって、評価も長期にわたって継続的に実施し、その成果を的確に判断できるように努めることが大切である。

5. おわりに

2年間の取り組みで、子供たちや家庭の意識は高まったが、むし歯は、あまり減らなかった。そこで、平成5年度からフッ素洗口を取り入れ、全

校の希望者（97％）を対象に週1回給食後に行っている。今後も、本校の児童が健康な歯を持ち、心身共に健康になるよう望ましい生活習慣の育成に努力を重ねていきたい。



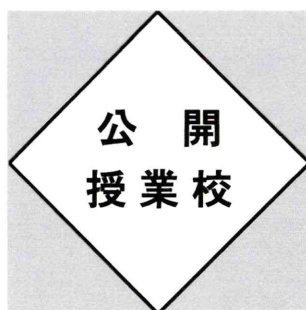
中 学 校 部 会

テーマ 中学校における歯科保健指導の実践

■ 公開授業校／富山市立芝園中学校

- | | | |
|---------|-------------------|---------|
| 座 長 ● | 日本学校歯科医会常務理事 | 中 脇 恒 夫 |
| 助 言 者 ● | 日本学校歯科医会副会長 | 西連寺愛憲 |
| 発 表 者 ● | 東京都江戸川区立葛西中学校養護教諭 | 西 恵子 |
| | 滋賀県大津市立田上中学校養護教諭 | 松崎 典子 |
| | 富山県氷見市立八代中学校養護教諭 | 高澤登志子 |





富山県 富山市立芝園中学校

- 学 校 長 大 泉 仁
●学校歯科医 金 森 安 信



本校は、富山市の中心部に位置し、校下には繁華街や諸官庁があり、そのうえ国道、主要県道、市内軌道が交差する交通繁雑な地域である。

平成3年11月、「よい歯の学校運動最優秀校」として、表彰され、平成4年度・平成5年度の2年間、学校歯科保健研究指定校となる。

現在、生徒数412名、学級数13学級で、歯科保

〈平成6年度 歯科保健指導計画〉

月	活 動 内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ●研究主題、研究内容の修正、作成 ●年間指導計画の作成・歯科健診 ●研究組織づくり
5	<ul style="list-style-type: none"> ●年間指導計画の確認 ●歯の意識調査 ●むし歯の治療啓蒙活動 ●学級活動、道徳の学習指導案の検討 ●「歯によい献立作り」講習会 ●歯科医による講話
6	<ul style="list-style-type: none"> ●学校訪問授業研究 ●教科関連指導（環境づくり） 国語1年習字 3年標語 美術2年ポスター ●歯垢、カラーテスト ●むし歯の治療啓蒙活動
7	<ul style="list-style-type: none"> ●1学期のまとめと反省 ●学校保健委員会（大会に向けての家庭との連携）
8	<ul style="list-style-type: none"> ●2学期の取り組み方 ●全国学校歯科保健研究大会 授業研究の主題の確認 ●学級活動、道徳の指導案の検討
9	<ul style="list-style-type: none"> ●学年部会 ●全国学校歯科保健研究大会 授業公開
10	●文化活動発表会 保健委員会発表
12	<ul style="list-style-type: none"> ●歯科健診 ●RDテスト ●歯垢カラーテスト
1	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート調査…間食調査 ●研究のまとめ
2	●学校保健委員会
3	<ul style="list-style-type: none"> ●研究のまとめ ●次年度の研究について

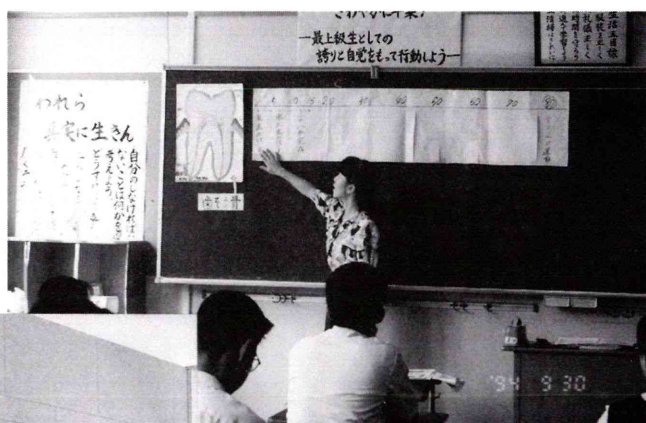
健活動の実践を通して、積極的に健康を保持し、心身共に健康で実践力のある生徒をめざして次のような3つの研究仮説をあげ、学校歯科保健研究を進めている。

仮説1 自分自身の歯の健康状態やむし歯保有率、歯周疾患等を理解させることにより自らの健康づくりに気づき、歯科保健活動の必要性を認識することができる。

仮説2 学級活動、生徒会活動、学校行事を通し

て、歯の健康づくりを実践することにより、規則正しい生活習慣を身につけさせる。また、よりよい生き方を考えることにより、積極的に健康を保持、増進する能力や態度を養うことができる。

仮説3 学校、家庭や、地域の専門家との連携を深めることにより、歯科保健に対する関心を高め、より充実した多様な活動を養うことができる。





座長

中学校における 歯科保健指導の実践

日本学校歯科医会常務理事

中 脇 恒 夫

1. はじめに

中学校における保健教育は、平成5年に改定された学習指導要領に即して教育課程の中で編成されている。

2. 中学校歯科保健指導の新しい展開

中学校歯科保健指導は実践的な能力や態度の育成を図る上で、その新しい学習指導要領の改定の趣旨である「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」を踏まえ、心身の変化の著しい発達段階としての中学生期はその目標にある心身の調和のとれた発達を図る上で、特別活動における指導の充実は重要である。また、学級活動、学校行事、生徒会活動等についてもその活動内容における健康で安全な生活態度の習慣形成に対するさまざまな題材を取り上げ、生徒自らが日常生活の中で積極的に心身の健康増進についての科学的理解力や知的好奇心の高まりを活かした望ましい生活態度の習慣化、生活化の確立という大きな目標達成を目指した各学校の創意工夫が大いに求められる。

3. 中学生の発達段階からみた歯科保健指導の目標及び内容

歯の保健指導をより適切に進めるためには、そのよりどころとなる目標及び内容の設定が必要である。

文部省は平成4年、14年ぶりに『小学校、歯の保健指導の手引き』を改定した。その内容の内「目標と内容」は中学校の指導にも十分通じると考えられる。

4. 学校と家庭、地域との連携

学校での指導を実際の生活に結びつけるためには家庭、地域社会との一体となった組織活動が不可欠である。

中学生期の健康問題も近年ますます多様化、複雑化の傾向にあり、成人歯科疾患とその隔たりを縮めている実態がある。

食教育に対する指導も学校内での生活よりもむしろ家庭における日常生活における適切な実践を伴っての指導こそ、その効果は大きい。

学校と家庭がそれぞれの依存性を捨てた明確な役割分担を確立した共通理解の上に立った連携機能の活性化こそがその目標達成をめざすためのキーポイントであろう。

学校での歯科保健教育が、生涯を通じて健康の基礎を培う実践の場である家庭といかに効果的に連携を保つことができるか。幼・小・中・高の発達段階を通しての一貫性のある好ましい生活習慣を家庭教育での体験の積み重ねの中からしっかりと自立性を身に付けた生徒に育てあげられるかが重要な課題である。

5. 学校歯科医の役割とかかわり方

健康教育の担い手としての学校歯科医の役割と活躍のフィールドはますます広がりつつある。

健康教育の中で学校歯科医がその専門性を十分に活かした適切なかかわり方を掲げると、

- ① 健康診断と事前指導、事後措置
- ② 学校保健委員会での指導・助言
- ③ 健康相談・個別指導
- ④ 生徒保健委員会への積極的な協力
- ⑤ 教職員とのコミュニケーションづくり
- ⑥ 歯科保健指導の授業へのアドバイス
- ⑦ 資料・教材・教具及び有効的な情報提供等々である。

6. おわりに

たまたま、本年1994年は歯科界にとって特別な年である。WHOでは今年の世界保健デー（4月7日）のテーマに「口腔保健」を取り上げ世界各国にその推進を呼びかけ、世界の歯科医師の団体組織F D Iはこの1年を「口腔保健年」と決定し世界各国の歯科医師会に強力な支援を呼びかけている。わが国でも7月に世界口腔保健学術大会を東京で開催、そのシンポジウムの1つに学校歯科領域からテーマ「8020運動の達成を目指した学校歯科保健活動の新しい展開」で盛況を博した。

学校歯科保健という、険しい山登りの58回目の挑戦は富山からである。

助言

第58回 全国学校歯科保健 研究大会中学校部会

日本学校歯科医会副会長兼専務理事

西連寺 愛 憲

1. 思春期の口腔管理と学校保健

今日の多様化した社会環境のもとで、中学生の心と体の育成を考えるには、余りにも複雑でしかも困難な問題が山積している。

特に学校現場や家庭では児童生徒の発達段階に即した保健活動や家庭教育の在り方に苦慮しているのが現状である。

心と体の健康は、その個体の持っている胎生期からの成育の状態や、生活そのものの在り方に規制されながら形成されていくものと考えられる。

教育に位置づけられた学校保健の問題として、多感な時期にある中学生の生活態度や生き方について考えてみると、様々なことが問題点として挙げられてくる。

中学生は、思春期特有の目覚ましい身体の発育期にあり、精神的発達段階としては、情緒不安定で子供でも大人でもない第二次の反抗期にあっている。

彼らの目覚ましい身体発育と情緒不安は、成長のために越えなければならない一過程であるが、新幹線のような授業の進め方や、苛酷な受験戦争のための対応に追われ、日々の健康生活を彼ら自身で、自己管理するという大切なことを忘れさせてしまっている。

これらの現実には、彼らが中学生らしく生きようとする気持ちを動揺させ、将来に対する失望感からしらけた中学生像を生む側面を持っている。

中学生期の学校保健活動を効果的に進めるためには、彼らの行動様式を踏まえた発達心理の側面と教育学習の双方の側面を理解しながら、思春期にある彼らの内面に温かいゆさぶりや働きかけをして、共に学び、共に喜びあえる保健学習の課題実践について学校保健関係者との話し合いの場を数多く持つことが、何よりも大切である。

これらの話し合いはやがて、意図的、計画的な組織活動として展開し、効果的な活動となり、彼らの健康な生活に対する価値判断が向上し的確な

ものとなり、健全な生活行動を自らのものにする可能性が見い出されて行くものと思われる。

学校歯科保健活動は、歯科保健教育、歯科保健管理、歯科保健に関する組織活動を通して教育の今日的課題である「心豊かでたくましく生きる人間の育成」を目指した具体的で実効のある教育的な視点に立脚したものではなくてはならない。

2. 思春期の歯・口腔の管理

近年思春期の口腔疾患が注目され始めてきているが、しかしこの年代の口腔疾患の全体像は、まだはっきりとつかみきれていない現状である。また、思春期は身体的、精神的そして社会的にも他の年代と異なった特徴を持っている。大人でもなく、子供でもないこの不安定な世代について、一般の人々はもちろん、歯科医師も十分に理解していないのではないかと思う。そのために、この中学校部会として、この年代の口腔疾患の状態、身体的、精神的特徴及び彼らが置かれている社会的状況を把握し、口腔の健康について指導して行くと

めに、

(1) 思春期の口はどうなっているのか？

思春期の口腔疾患について臨床、疫学の両面から捉える。

(2) 思春期の特徴と問題点

① 生物学的特徴

成長の中のどのステージにあるか、その特徴は？

② 精神的特徴

親離れの時期、大人でも子供でもない年代で、この不安定な心理をどう捉えるのか？

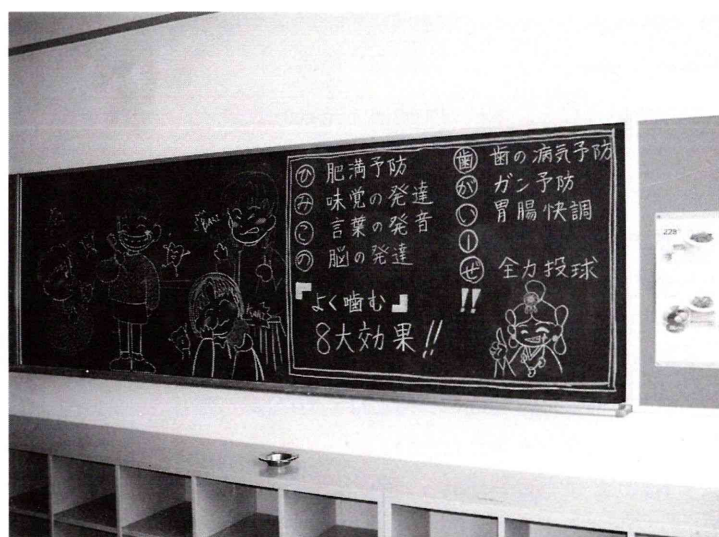
③ 社会的特徴

受験戦争、溢れる物質、情報等、彼らの置かれている環境をどうみるか？

(3) 思春期の口腔管理

思春期の口腔管理はどうあるべきか？

以上の問題を総合的に考えていく。また、指導的立場にある歯科医師、養護教諭の対応等について研究討議が必要である。



1

学校教育の中で、歯科保健活動を どのように位置づけ、実践につなげるか

— 0 からのスタート —

発表者 東京都江戸川区立葛西中学校養護教諭 西 恵 子

1. はじめに

東京の東部に位置する江戸川区は、都内でも公園の数が多いことで知られている、また人口増加率は都区内No. 1 を記録している。

江戸川区内の中学校は33校。本校は生徒数508人、14クラスの中規模校である。

本校には、「日本語学級」というクラスがあり現在24名の生徒が該当する。

そのため、本校の教育目標を達成するための基本方針の中に

「中国引き揚げ生徒等外国からの編入生徒並びに外国人生徒との人間愛を深めながら、よりよい校風の樹立を目指すとともに、相互の体験を通しての国際理解を深める指導を進める。」というのがある。

(1) 生徒の実態

一言でいうなら、本校の生徒は、元気がよくきどったところがない。しかし、反面、けじめのないところが問題ではないかと思う。

(2) 保健室から見た生徒の様子

保健室には毎日いろいろな理由で、たくさんの生徒がやって来る。何らかの体の不調を訴えて来室する生徒は、毎日10～15人。

この他にも、休み時間には何となく遊びに来る生徒などがあとをたたない。

- ① 不登校生徒への対応
- ② 性に関する指導の必要性

- ③ 禁煙教育の必要性
- ④ いじめの問題
- ⑤ 日本語学級の生徒への保健指導

2. 本校の歯科保健活動の現状

本校は、これまで「良い歯の学校」に選ばれたり、何らかの形で表彰されたということは一度もない。私自身、歯科保健には、ほとんど無関心のまま、養護教諭として10年目を迎えた。正直なところ、これだけ歯科保健に無関心な学校はないのではないかと思う。

歯科保健の重要性を感じながらも、実践に移せない、また何からどう始めたら良いのか分からないという学校が多いのではないかと思うようになった。悩んだ末、“これは良いチャンスかも知れない”と思えてきたのである。

正直、本校は、発表できるようなことは、何ひとつ行っていないし、教師全体の意識の中に“歯科保健”の占める割合は0に等しい。

3. 研究の概要

(1) 学校教育活動の中の保健活動

本校では、健康教育には重点をおいていない。

学校保健に関することは、保健安全指導部と、生活指導部の中の生徒会各種委員会のひとつである保健委員会である。

ここで大きな問題なのは、教職員で構成される委員会の中に、学校保健委員会が存在していないことである。

そのため、保健活動は、養護教諭の仕事というイメージが強いのではないかと思う。

(2) 本校の歯科保健の現状と活動内容

歯科保健に関しては、学校保健年間計画の中で、簡単に触れている程度であり、歯科保健に関する年間の指導計画は立てていない。

① 歯科健診とむし歯治療の実態

毎年5月の土曜日の3時間を使って全学年の歯科健診を実施している。

過去4年間の「う歯なし」と「未治療」の割合を見てみると次のようになる。

(%)

	平成3年度	4年度	5年度	6年度
う歯なし	21.1	22.1	15.7	18.3
未治療	23.7	29.9	35.9	38.4

未治療の割合が年々増えている。これを見るだけでも、指導の必要性を強く感じる。

② よい歯の生徒の表彰

江戸川区では、歯の衛生週間行事の1つとして、小学校6年生と、中学校3年生を対象に良い歯の生徒を表彰している。

③ 歯科健診の事後指導

事後指導としては、治療を促すために、担任から呼びかけたり、本人が治療の必要性を感じるような、興味をひく記事を保健だよりに掲載するというレベルにとどまっている。

7月1日現在で、治療が完了している者は、14%にすぎない。

(3) 学校歯科校医との連携について

本校の学校歯科校医の先生の診療所は、学区から遠くはなれていることもあり、毎年1回歯科健診の時しか接する機会のない生徒がほとんどである。

今年度の健診結果をもとに、昨年度の結果と比較して、矛盾するケースのデータを調べてみた。

A…昨年度C（カリエス）→今年度健全歯

B…昨年度△（喪失歯）→今年度健全歯

C…昨年度○（処置歯）→今年度健全歯

()は%

	1年	2年	3年	全体
A	39(24.2)	36(22.5)	35(18.7)	110(21.7)
B	0	2(1.3)	5(2.7)	7(1.4)
C	36(22.4)	31(19.4)	24(12.8)	91(17.9)

予想していた以上に、矛盾するケースが多いことに私自身も驚いている。

やはり大切なのは、校医とのコミュニケーションを密にし、いろいろな場面で、校医に相談し、助言をいただき、校医も本校の教職員の一人だということを、教師全体がまず意識することが大切なのではないかと思う。

校医の名前も顔もよく覚えていないという、一般教諭が多いことはやはり問題であろう。

4. 今後の課題

- (1) 養護教諭として、専門的知識を身につける
- (2) 学校保健委員会の設立に向けて準備をすすめる

- (3) 生徒自身が、自分の口の中の興味を持ち歯・口腔の健康を身近な問題と考えられるような働きかけをする。

「歯のことばかり、やってられないだろう」

「学校で、食後の歯みがき指導なんて無理な話だと思う」

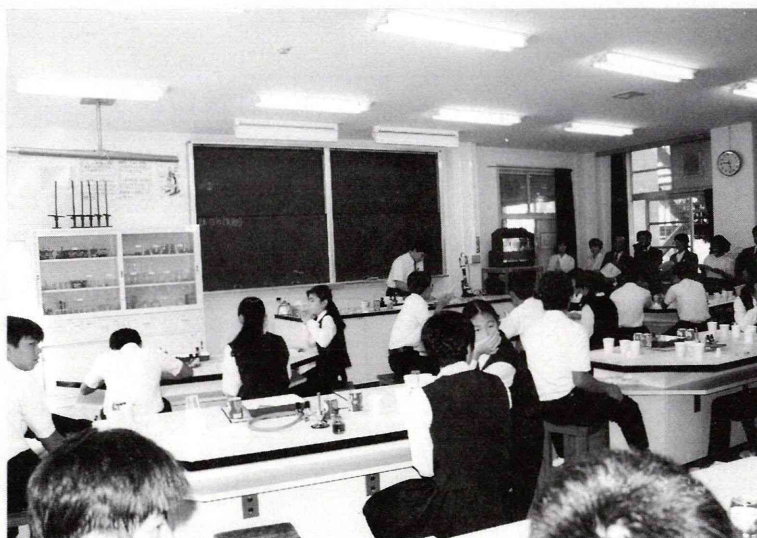
などの、まわりの声に、現時点では、返事のしようがないのが正直なところである。

教師自らが、保健行事に関心を持つよう工夫する必要がある。そのための第一歩とし

て保健だよりの活用法を考え直したいと思う。

そして、来年度に向けて、歯科保健指導の

実践計画を学校行事に取り入れ、健康教育への体制づくりの確立をめざしたいと考えている。



2

中学校における歯科保健活動の実践

発表者

滋賀県大津市立田上中学校養護教諭 松崎典子

1. はじめに

「今の子どもは、どこか変です」。生活環境の変化や、受験のための塾通いによる不規則な生活リズム、ジュースにポテトチップ、砂糖や塩や食塩添加物づけの食生活に、子どもの心と体は知らず知らずの間に蝕まれ、知識ばかりが発達しすぎて、自分から体験しようとする意欲に乏しく「なんでも、しんどいことは嫌だ!」という否定的な子どもが増えていると思う。

が、中学生ともなると、登校前には時間をかけてドライヤーで整髪し、ヘアブラシ片手に廊下を歩く生徒もよく見かける。自分の髪の毛の手入れに比べ歯の手入れはずさんで歯科健診の際、う歯はもとより歯垢や歯肉炎を指摘される生徒がたくさんいる。

● 地域の特徴と子どもの実態

本校は、滋賀県大津市の南東部、湖南アルプスで知られる田上山のふもとに位置し、東西12kmの山間部の中心を大戸川が流れ、生徒はその川に沿って散在する。

田上地域は、古くから田上米や菜の花の栽培で有名な農村地帯であったが、専業農家が少なくなり、主として兼業農家、共働き家庭が増加しつつある。また、急激な宅地開発が進み、主として京阪神地域からの転住者が増加する中で、地域連帯の希薄化、価値観の多様化が進んでいる。

なお田上小学校は昭和60年度から62年度に

至る3年間、文部省より「むし歯予防推進校」として指定を受けられ、歯科保健活動の充実をめざして鋭意研究に取り組み成果をあげられた実績のある学校である。

2. 具体的な実践

(1) 「意識」→「実践」を考えた掲示活動

「コマーシャル」→「…したい」の「意識」→「実践」を利用して「歯を大切にする」という意識、さらには自己管理に到達できるようにビジュアルな掲示物の作成に取り組んだ。

(2) 生徒保健委員会の取り組み

生徒保健委員会は「自らの健康を考える人に!」を活動目標とし、各学年各組男女各1名の53名の委員と各学年担当の教師3名で構成し、月1回の定例の専門委員会の時間に活動している。主に1年生は16ヵ所の手洗い場の点検と清掃活動、2年生は標語活動、3年生はアンケート活動に取り組んでいる。

(3) 歯の保健指導の取り組み

- ① 学級指導による保健指導
- ② 教科教育に関連しての歯科指導
- ③ 個別の保健指導
- ④ 集団の保健指導

3. おわりに

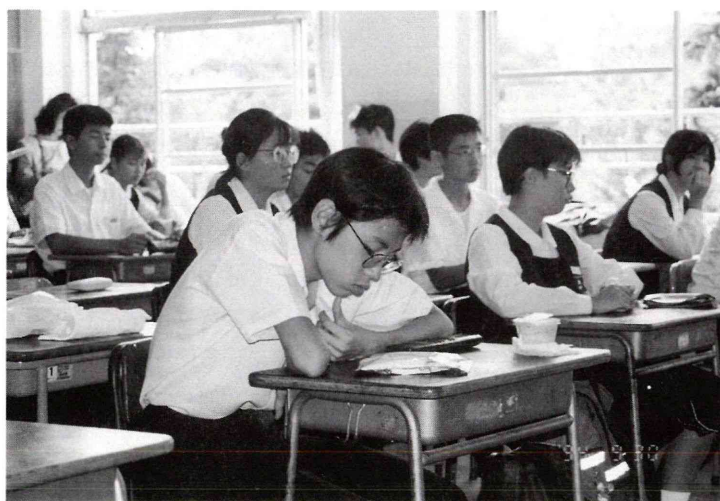
健康が人間生活の基盤であり、最も大切なものであると頭で理解していても、実践面においては重要性が希薄になりがちである。

4月の職員会議において「保健室経営案」として歯科保健活動をも提案しているが、学校全体のものにはなっていないのが現状である。「健康に目を向ける態度の育成」についてもその評価はむしろ、健康に関する掲示物作成により第一段階として生徒が自主的に目を向けてくれた「見え

る物」が作成できたという自己満足にすぎない。しかし、前向きに取り組んだことに関してはよい評価を受け喜んでいる。今後は学校全体、さらには地域と係わった歯科保健活動にしていきたい。

生徒保健委員会の標語活動においては、田上中学校だけの流行語も生まれた。生徒はおもしろ、おかしく口にするが、方程式よりも役にたつかも知れないと思う。保健室前に単なる物珍しさによる、興味関心かもしれない。

何よりも、過去6年間をみて、歯の健康状態が上昇しつつあることがうれしい。



3

歯の健康への関心を高め主体的に 歯の健康づくりを実践する生徒を育てるために

—— 小規模校での実践経過から ——

発表者 富山県氷見市立八代中学校養護教諭 高 澤 登志子

1. はじめに

社会生活や家庭生活の変化に伴い、児童・生徒の健康問題も多様化してきている。心身の調和的な発達を図り、健康で安全な生活を営む生徒を育てるためには、生涯にわたる健康づくりを志向した健康教育が必要とされている。

そこで、主体的に歯の健康づくりを実践しようとする生徒の育成を願って、前年度から歯科保健活動に取り組んできた。

(1) 本校の概要

校区は、氷見市街地から北西へ約10km離れた山間地で、石川県境に接する世帯数約300戸の地滑り危険地域に指定されているところである。校区には、2小学校と1分校、1保育園がある。

また、交通も不便なため過疎化傾向がみられ、年々生徒数も減少し今年度の全校生徒数は30名である。

(2) 生徒の実態

- ・生徒は、地域性を反映して純朴でおとなしく大変まじめである。しかし、すすんで自分の考えや意見を発表したり、自ら課題を解決しようとする積極性にやや欠けている。
- ・定期健康診断では、う歯（93.3%）、低視力（23.3%）、耳垢栓塞（10%）、鼻炎（6.7%）、歯肉炎（6.7%）の順に被患率が高く

市や県平均とほぼ同傾向である。

平成4年度と5年度には、県の学校健康づくり運動推進事業の研究推進委託校となり、平成5年度からは、歯科保健活動を重点に、生涯にわたって健康づくりができる生徒の育成を願って、全職員が協力しながら歯の健康教育の実践に取り組んでいる。

2. 平成4年度までの活動から

(1) 歯科保健管理に伴う保健指導

- ① 歯の健康診断
- ② 歯の健康調査・歯みがきカレンダー

(2) 歯科保健教育としての保健指導

- ① 学級での指導
- ② 養護教諭による小グループ指導
- ③ 学校医による指導

3. 平成5年度からの実践経過

(1) 学校教育目標と歯科保健指導計画

- ① 学校教育目標
心身ともに健康で、学習に意欲をもって取り組む生徒の育成を目標とする。
- ② 保健指導の目標
健康生活の意義を理解し、すすんで実践しようとする生徒を育てる。
- ③ 重点となる目標
歯の健康への関心を高め、主体的に歯の

健康づくりを実践する生徒を育てる。

④ 今年度の計画

〈指導方針〉

心身共にめざましい成長をする中学生は、個としての発育や発達をする重要な時期である。この時期には「自分の健康は、自分で守り育てる」ことが、生涯にわたってできるように、心や身体の健康づくりに主体的に取り組む生徒を育てることが大切である。

そのためには、共感的に生徒を受容しながら、生徒自らが健康問題について考え、解決の方法をさぐり実践を促すことのできる指導を行う。

●歯の保健指導計画

〈1〉重点目標

歯の健康への関心を高め、主体的に歯の健康づくりを実践する生徒を育てる。

〈2〉保健教育としての指導

- (1) 学級活動における保健指導
- (2) 小グループによる保健指導
- (3) 生徒の歯と口腔の健康状態
 - ① 歯の健康診断から
 - ② 歯の健康調査から
 - ③ 歯垢染め出し検査から
- (4) 歯科保健管理に伴う保健指導
 - ① 歯の健康診断
4月と11月の2回実施
 - ② 学校での日常の指導
 - ③ 歯肉炎のある生徒への指導
 - ④ 未受診生徒への指導
 - ⑤ 歯のヘルスチェックと歯の健康調査
- (5) 歯科保健教育としての保健指導
 - ① 学校医による指導
 - ② 学級での指導

学級活動指導案

1年 男子6名 女子3名

1. 題材 歯みがきの必要性

学級活動指導案

2年 男子7名 女子5名

1. 題材 歯肉の健康を守ろう

学級活動指導案

3年 男子5名 女子4名

1. 題材 きれいな歯でスマートに生きよう

(6) 生徒会活動

(7) 保護者への働きかけ

- ① 学校医による保健指導
- ② 歯の健康づくり通信等の啓発

4. まとめと今後の課題

(1) まとめ

- ① 年間2時間ではあるが、学級活動における歯の保健指導が開始され、継続されようとしている。生徒にも、保護者にも、指導にあたる教師にも、歯科保健活動への理解を深め、その重要性を改めて認識することになった。

学級活動では、生徒が新しい知識を自分のものにできたり、あいまいだった知識を確実に再認識することができ、歯の健康づくりへの意識を高め、歯の健康づくりのための能力や態度を育てることができるようになってきたと考えられる。

- ② 学校歯科医の全面的な協力や指導により親子健康教室が継続されて、保護者や生徒の歯の健康づくりへの関心が一段と高められた。また学校歯科医の助言や指導により、歯の保健活動の計画や保健指導のすす

歯科保健活動計画

氷見市立八代中学校

項 目			内 容 ・ ね ら い	位置づけ	時 期	主 務	
集 団 指 導	歯・口腔の健康を保つ意識・態度の育成	1 学年	① 自分の歯の汚れやすいところを知り、自分に合った歯みがきをすることができるようにさせる。	学級活動 (50分間)	① 6 月 ② 11月	担任 養護教諭	
			② 永久歯は一生使う大切な歯であり、歯の健康を守る食生活の大切さについて理解させる。				
		2 学年	① 健康な歯肉と病的な歯肉を理解させ、歯肉炎はじょうずな歯みがきで予防できることを理解させる。				各学年 2 時間
			② 現在の食生活を反省し、望ましいそしゃく習慣を取り入れた食生活の大切さを理解させる。				
		3 学年	① 病気予防だけでなく、人間関係をつくる要素・マナーとして歯と口の健康と清潔の大切さを理解させる。				
			② 間食とう歯の関係について理解し、栄養のバランスや口腔の清潔保持に留意して間食をとらせる。				
小 集 団 指 導	歯・口腔の健康を保つ実践力の育成	全 学 年	● 歯の汚れと歯みがきの必要性について理解させ、効果的な歯のみがき方を理解させる	放課後 (40分間)	6～7 月	養護教諭	
			● 自分に合った歯みがきの方法を理解させ、歯と歯ぐきの健康を保持する態度を養う。		11～12月		
			● 歯間清掃用具の使い方を理解させる。		1～2 月		
			● 歯の健康づくりに関する調査・発表など ● 歯の衛生週間の行事		7・11月		校医 保健主事
個別指導			① 永久歯要治療生徒 ② 歯肉炎のある生徒 ③ 歯垢清掃状態のよくない生徒	放課後 昼食後休憩時	4 月～	養護教諭 担任	
歯の健康教室			● 校医による健康教育で歯の健康づくりについての理解と関心を高める。	学校行事	7・11月	校医 保健主事	
歯の健康づくり集会			● 歯の健康づくりに関する調査・発表など ● 歯の衛生週間の行事	学校行事 生徒会活動	6・1 月	委員会担当 教諭 養護教諭	
学校祭での歯科保健			● 歯の健康づくりに関する展示		10月		
歯垢染め出し検査			● 歯口清掃状況の実態把握 ● 歯垢の残りやすいところの確認	放課後	小集団指導時	養護教諭	
歯みがきカレンダー			● 歯みがきの習慣化・自己評価	生徒会活動	歯みがき週間 休業期間中	養護教諭 委員会担当 教諭	
昼食後の歯みがき			● 食べた後磨く習慣づけ ● ブラッシング指導、歯ブラシの点検	昼食終了後 (給食時)	月～金	担任	
歯の健康診断			● 歯・口腔内の病気の発見 ● 歯口清掃の指導	学校行事	4・11月	校医	
フッ素洗口			● フッ化物利用による歯質の強化 ● 歯と口腔の健康保持増進	昼食後休憩時	週 1 回(木)	養護教諭	
広報・啓発			● 保護者への啓発 歯の健康づくり通信、保健だより	保護者への啓発	毎月	養護教諭	
職員研修			● 職員の共通理解 歯科保健指導、ブラッシング指導、評価等	職員研修会	随時	保健主事	

め方の検討もされて、生徒や保護者のニーズにより近づけるように指導が試みられている。

③ 小グループ指導は、担任の願いもあり養護教諭が継続してきたが、学級活動の指導内容を補充し強化しながら、歯の健康づくりのための実践力を養う機会となっていると考えられる。

④ 昼食後の全校歯みがきや、フッ素洗口は、歯の保健指導の継続と共に、今後の歯の健康づくりの取り組みの効果として期待される。

(2) 今後の課題

① 歯の保健指導をより効果的にすすめるための、指導のあり方や指導方法の検討が必要である。

② 歯の健康づくりのための理解や実践力が十分にできていない生徒の、保護者・家庭との連携のあり方についての検討が必要である。

③ 生徒の歯の健康づくりに対する意識や行

動面からの評価についての研究が必要である。

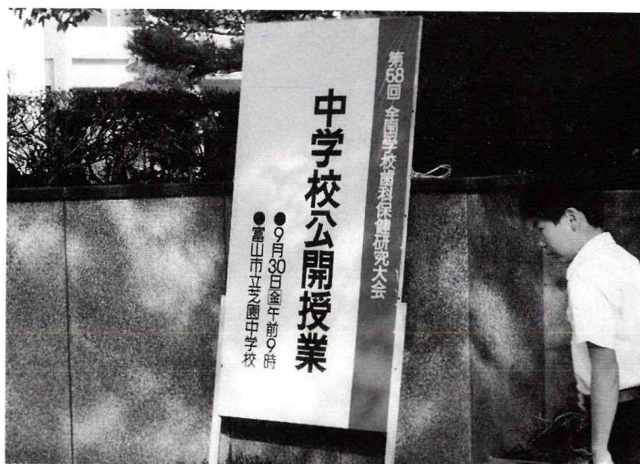
④ 地域の保育園・小学校と連携して、歯の保健指導内容の系統化や、歯の健康づくり活動のすすめ方の共通理解を深めていかなければならないと考える。

5. おわりに

歯の健康づくりの活動に取り組んで1年4ヵ月。すすんで実践できる生徒の育成を願いながら指導を進めているが、十年を経て形成された、生徒の生活習慣や健康観へのはたらきかけは、予想以上に難しいものだと感じさせられている。

歯の保健指導をすすめるなかで、生徒の生き方にも触れ、価値観にも及ぶ指導がなされれば、本当にすばらしいと思う。

これからも、学校と家庭、そして学校医の協力を得ながら、保健指導や健康教育を地道に実践して継続していきたいと願っている。



高等学校部会

テーマ 高等学校における歯科保健指導の実践

座長	● 東京医科歯科大学歯学部教授	岡田昭五郎
助言者	● 青森県学校歯科医会常務理事	奥寺 文彦
発表者	● 鹿児島県立鹿屋高等学校学校歯科医	川本 陽一
	富山県立伏木高等学校学校歯科医	四日 隆夫





座長

高等学校における 歯科保健指導の実践

東京医科歯科大学歯学部教授

岡田 昭五郎

最近の学校保健統計によると、高等学校生徒もここ数年、う歯のない者が少しずつ増加してきている。高等学校生徒では、永久歯列がほぼ完成した年齢である。これからの長い生涯を通して歯や口の状態がいつも良好な状態に保たれるように各自が心がけるよう指導してゆかなければならない。

高校生の発達段階からみた 歯科保健指導の目標と内容について

高等学校生徒の顎や顔面は成人のそれに近い状態にまで発育しているが、個人個人の歯科疾患の罹患状態や異常の状態にはかなりの差異がある。

生徒は小学校や中学校では歯科保健に関する知識や技術を学んできているが、彼らにそれが定着していないのが現実の姿である。また、高等学校を卒業すると歯科保健に関して十分な管理や指導を受ける機会が極めて少なくなる。そこで高等学校在学中が歯科保健教育の最後のチャンスだと思って歯科保健指導は歯周疾患の予防に重点を置いて、「生涯自分の歯を使って食べることの意義を理解し、日常生活において良い習慣を続けていく」ことを目標に指導する。

歯科保健に関する指導の内容は歯の清掃、飲食物の摂取、生活リズム、疲労や健康に対する自己管理のこと等で、特段変わったものではないが、生徒が興味を示し、実践するように指導することが大切である。

高校生に知的理解と自主的な活動を通して、 習慣化を図る指導計画と指導の在り方

歯科保健はセルフケアの身近な教材である。近年、伝染病のような疾患が影をひそめ、代わって長期にわたる生活習慣がかかわる成人病が多くなってきている。歯周疾患は壮年期に歯を失う原因の中で大きな比率を占めるが、その始まりは中

学生、高校生のころの歯肉炎に端を発している。そして壮年期までの数十年間の健康状態や生活習慣のいずれかが壮年期の歯の状態に反映するといわれている。このように生活習慣がかかわる疾患という点では歯周疾患は糖尿病やガン、高血圧症等と相通じるところがあって、その予防にも共通な点がある。そこで、歯科保健を単に歯や口のなかの健康の保持ということだけで考えることなく、広く生徒の将来の保健という見地からとらえて保健計画に組み入れた保健指導として展開するとよい。

規則正しい生活と歯科保健に関する良い習慣を続けることで生徒自身は口の中の爽やかさを体験することができる。そして個々の生徒はどのようにすれば自分の口の中を爽やかに保てるかを工夫し、爽やかな口で生活する喜びが習慣化へつながるように指導するとよい。

個別指導と家庭との連携の方策

受験を控えた時期の生徒が体調を整えるためには、十分な栄養、睡眠、生活のリズムを整えるこ

とが大切であり、家庭との連携を保った生活指導、保健指導が大切である。

口臭や歯周疾患は、歯や口の汚れと全身的背景とが関連していることもある。このようなことが考えられる生徒に対しては単に歯科疾患の治療勧告をするだけでなく、適切な個別指導も大切である。個別指導では、歯や口のことでなく、生徒の全身的背景や生活習慣等も考慮した指導を行うことが大切である。とくに生活習慣や生活リズムの是正には家庭との連携を必要とする場合もあるので、健康相談等の機会をとらえて指導するとよい。

高等学校における歯科保健指導での 学校歯科医の役割とかわり方

学校歯科医が健康診断を行う際には、処置を要するような生徒を選び出すだけではなく、歯や口の清掃状態にも注意を払い、指導や相談を要する生徒も選び出しておいて、後日教職員と連携を保って必要な指導を行うようにするとよい。



助言

高等学校における 歯科保健指導の実践

青森県学校歯科医会常務理事

奥寺文彦

例年、高等学校で歯科保健活動を進めることは難しいと言われ続けてきた。またいわゆる進学校等では、そのための時間をとることは迷惑であるとさえ考えられていた所もある。

しかし、従来からなされて来た学校、最近始められた所、小規模ながらとり組み始めた所なども見られ、例年のこの大会ではそのすばらしい実践例をみられるようになってきた。

そのような学校では、その活動を低下させることなく続けてもらいたいと期待しながら、まだなされていない多数の他の学校にも、いろいろな工夫をして少しでもとりかかれるようになってほしいと思う。

1. 高校生の発達段階からみた歯科保健指導の目標と内容

目標をひと言で言うなら、「歯、口の問題で自分のことを自分で解決できる能力を持つ」ことであろうが、その内容は、

今、高校生に最も多い歯、口の問題を知り、その解決法を知ること。

今回発表の川本先生の「高校歯科健診、今後のあり方を考える」という提案では、この「自分を知る」という原点になる「健診」が「健診」だけに終わることがないように進められている。

さらに、健診後記録統計をチェックし、その結果を検討し、発表し、学校保健委員会に出席して指導助言されている。

また、四日先生の行ったようなアンケートから、「健診」では見えにくい口臭や出血、歯ぎしりなどの問題が浮かんて来るが、それに対する解説、解決法が講演では伝えられるので、是非採り上げたい。

2. 高校生に知的理解と自主的な活動を通して習慣化を図る指導計画と指導のあり方

ひと言で言うと、わけが分かったら即実行する、つまり「やる気を起こさせる」にはどうすればよいか、ということである。

- (1) 強いインパクトで伝える。
- (2) 良い例、悪い例の実例を見せる。
- (3) 効き目のある資料の提供

3. 個別指導と家庭との連携の方策

家庭との連携は、高校ではほとんどが健診後の治療勧告書と保健だよりの配布ぐらいのものであるが、鹿屋高校ではPTAの保健委員が学校保健委員会に出席しているということで、連携を進めるもうひとつの方法が見られた。

個別指導は「いつ」「どこですか」ということを、今年4月に日本学校歯科医会発行の『高校における歯科保健指導』の中で、神谷幸男先生が詳細に述べているので、是非参考にして頂きたい。

4. 高等学校における歯科保健指導での学校歯科医の役割とかかわり方

前掲の日学歯刊『高等学校における歯科保健指導』で、この「かかわり方」が非常に簡潔にまとめられているので、これも是非参考にして頂きたい。

5. 実践と選択

- (1) 学校側の希望によって
- (2) 生徒の希望によって
- (3) 学校歯科医としての自分が応じられるものを選ぶ

さし当たって自分ができることから始める。検診のみから健診に進める。健康教育を除いては比較的簡単に進められる。

講演は、時には地区のベテランのような人の資料を見たり、あるいは依頼して呼んで来るなどして工夫したい。

以上、助言というよりもむしろ希望を述べてしまうことになった。



1

高等学校歯科健診 今後の在り方を考える

発表者 鹿児島県立鹿屋高等学校学校歯科医 川 本 陽 一

校医歴～昭和36から現在に至る

(1) 今まで行われてきた高校歯科健診

私が最初に受け持たされた健診校は、小学校3校、中学校2校、幼稚園1園、高校1校、総健診対象学生数、実に約3,500名。それは忙しいものでした。

約1週間医院を休診して朝から夕方までそれこそ昼食はインスタント食品で済ませて学校間を飛び回ったのを良く覚えています。健診が終わると身も心もクタクタで、健診後の集計をしたり統計をとったりは疲れていて、到底できたものではありませんでした。

しかし私が1人の生徒に要する健診時間にゆとりが持てるようになってきますと、そこでふと今やっている健診方法で果たして良いものだろうかという疑問が生じるようになってきました。

他の高校でも行っておられると思います。私の学校では年2回学校保健委員がありまして、学校長、教頭先生、養護教諭、保健担当教諭、学生から高学年保健委員2名、それに父兄会を代表して保健委員の方が2名、座長を父兄会長が務められて、相談を受ける側としては外科、内科、歯科、薬剤師、が当たり毎年実に有意義な研修が行われています。

この中で父兄会を代表して出席しておられる特に女性の保健委員の方々は、大変勉強しておられある時、ふと私に何気なく「先生学

校の歯科健診は予診ですか、主診ですか」と突然質問されたのには一瞬ビックリ致しました。しかし私はさり気なく「う歯の数を調べたりいかに良く治療しているかを検査するのが目的ですから、やはり主診ではないでしょうか」とお答えしましたところ、「先生、問診の無い主診であるのですか」と、追加質問されたのには驚きました。

確かに言われてみれば、その通りです。

今時どこの医院に行きましてもまず出てくるのが「問診表」で、受診者の主訴や体質を知らずして診査に入ることはありません。

私はその後毎日ご多忙な養護の先生に無理をお願いして、歯科健診に入る数日前から簡単な「問診表」(図1)を作りまして、学生から回答してもらうことにしております。そして一番歯に自信の無い生徒や、歯に関して相談したい希望を持っている学生から診ることにしています。

後日お疲れの養護の先生と暇をみては、お茶でも飲みながら「集計、統計」表を見ながら、自分の受け持ち校が他校と比べてう歯の被患率や処置率がどうだろうかまた県内ではどの位置にあるだろうか、また全国平均ではどのレベルにあるだろうか、それこそ玉手箱を開けるような気持ちで調査していくのが、楽しみで仕方ありません。

(2) これからの高校歯科健診について

私の好きな言葉に最近「説明診療、相談診

図1 問診表

歯科健診用 問診票 国立鹿屋高等学校	
年 組 番	氏名
<p>歯科健診をする前に歯についての質問をします。(はい・いいえ) どちらかに○印をつけて下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、自分で歯(むし歯)があると思いますか。 (はい・いいえ) 2. 現在治療中の歯(矯正を含む)がありますか。 (はい・いいえ) 3. 現在、歯並び、歯の色、歯の形について健診の先生に相談したことがありますか。 (はい・いいえ) 4. 現在自分の歯は、治療が終わっていると思いますか。 (はい・いいえ) 5. 現在、自分の歯に自信があり、健康だとおもいますか。 (はい・いいえ) 	

療」などがありますが、それならば高校の歯科健診においても「説明健診」や「相談健診」があってもおかしくないと思います。現在まで約70有余年、何の変化もなく、続いてきた、私に言わせれば「健診医主導型」の結果が果たして今の高校健診に摘要するのでしょうか、もうソロソロ考え直し、改良する時代にきているような気がするのですが。

戦後できた食管法でさえ見直されようとしている今日、「健診医主導」型から「説明、相談」型に切り替え、昔風の「診てやる」から「診させてもらう」気持ちに変えて、これからの高校歯科健診を進めていく心構えが必要だと思うのですが。

(3) 学校歯科医から見た、歯と学年

男子生徒は女子生徒に、早期治療の面では絶対に勝てません。それは男、女別の歯処置率にもはっきりと出ておりますし、歯科健診時でも、もし女子学生に歯を告げますと、帰校時にも歯科医に寄り治療してから帰りますが、男子生徒は「なんだC₁か、来年はC₂位だろうから、それからでも」と、放置しておく、気楽な学生もいるようです。

またC₃～C₄の早期治療や抜歯必要歯を3年間も持ち続ける、物持ちの良い学生も男子生徒が圧倒しています。

こういう学生が、一生懸命治療した生徒の処置率を低下させている原因なのです。

2年生になりますと、学生生活にも慣れが出てきまして、平々凡々のためか歯科の処置率にも、少し低下が見られてきます。

3年生になりますと、大学受験を控えているために私は特に体力を必要とする、体育

大学、防衛大学、商船大学、等を受験する学生には歯を良く治療していくように勧めています。

(付記) 高校歯科校医として

私は常に、無理だとは思っておりますが、できましたら養護の先生以上に生徒から、愛され、親しまれ、相談されやすい健診医になりたいものと心掛けております。

(まとめ)

学校歯科保健は医療とは別世界とも言える学校教育の中での健康指導要項に取り入れられ、例えば今日歯科医師会が盛んに推奨しております8020運動を可能にするには、子供達がどのような「健康観」を持ち「実践力」を持ち、それを基に子供達が人生に実践できるような教育の中に学校歯科医がかかわっていく、その結果として学校が変わり、教職員に意識の切り替えがなければならないと思います。

このような革新行動を引き出させる健診行動が、学校歯科医に求められているのではないのでしょうか。

2

高等学校の学校歯科医として

発表者 富山県立伏木高等学校学校歯科医 四 日 隆 夫

1. はじめに

誠に晴天の霹靂、この権威のある全国学校歯科保健研究大会に発表せよと言われ、ただ漫然と昭和59年より、父の跡を次いで学校歯科医として健診のみを、行ってきた者にとって、非常に当惑をした。

しかし小学校、中学校の歯科健診や母親教室、また児童生徒の歯科保健指導を行っていて感じることは、家庭生活の場での歯科保健思想の欠如である。そこで学校歯科保健指導の最後の砦である高等学校にて適切な指導を行えば、近未来の家庭人である高校生にとって、その家庭でのいわゆるデンタルIQの向上が図られ、8020運動の促進にも拍車をかけることにもつながるのではないだろうか。

まず高校生の歯科に対する意識調査を行いそれをもって今後の指導の方針としていくことを思い、今回は調査のみと報告とさせて頂き、諸先生からのご指導ご鞭撻を頂ければ幸甚である。

2. 学校の概要

富山県立伏木高等学校は富山県の西部にある万葉のふるさと高岡市と北部に位置し、富山湾を見下ろす高台にあり、遠く海面上に立山連峰を望む誠に風光明媚な所に建っていて昭和2年に伏木町立伏木商業学校として創立され、現在教職員73名、21学級、生徒数・男448名女381名・計829名

で普通科と普通科国際コースのある全日制高校である。

3. 歯に関するアンケート

高校生の歯科に対する意識調査として、第5回全国学校歯科保健研究大会の東京都立成瀬高等学校歯科医笠井康弘先生のアンケートが非常によくできているので、比較検討も考慮にいれ参考にさせて頂いた。本校も同校とおなじく定期歯科健康診断の終了後数日後、養護教諭をお願いして、保健係教諭の協力と全学年学級担任の理解を得て、アンケートの配布と回収を行った結果、ほとんど全員に近い生徒の回答を得ることができた。

またアンケートの項目には、生徒自身の歯、口腔の状態、食生活の反省、ブラッシングの必要性など歯科保健の認識と啓発を考え、また歯科に対する質問等を入れたことは言うまでもない。

4. 考 察

アンケートの結果から一概に言えないが、歯科保健に対する生徒の意識の地域差が感じられる。むし歯があるかないか、治してあるかなどや、歯肉の炎症があるかないかなど自己診査や定期健診結果を見ると、本校と成瀬高校との間に差がある。特に処置完了者において、差が見えその結果むし歯保有者が多いことも分かる。また項目において三択してもらう場合分らないが本校が異常

回収

1 学年男162	2 学年男132	3 学年男118
女113	女129	女128

表1 歯に関するアンケート調査項目

1. むし歯がありますか。
2. 歯肉の炎症（歯周疾患）がありますか。
3. 自分の口の中に該当する症状は。（重複回答）
 - ① 歯ぐきから出血する
 - ② 歯ブラシが歯ぐきに当たると痛い
 - ③ 歯ぐきが腫れている
 - ④ 歯ぐきからうみが出る
 - ⑤ 歯ぐきがムズムズする
 - ⑥ 歯ぐきの色が悪い
 - ⑦ 歯石がついている
 - ⑧ 歯と歯の間に食べ物がつまる
 - ⑨ 冷たいものがしみる
 - ⑩ むし歯を治していない
 - ⑪ かぶせものがとれている
 - ⑫ 歯ぎしりをする
 - ⑬ 歯並びや噛み合わせがよくない
 - ⑭ うまくかめない
 - ⑮ 口内炎が出来やすい
 - ⑯ 口で息をするくせがある
 - ⑰ いつも口を開けている
 - ⑱ 口臭がある
 - ⑲ その他
4. 人から口がくさいと言われたことがありますか。
5. 歯をみがく時、歯ぐきから出血しますか。
6. 今まで永久歯を抜歯してもらったことがありますか。 ※あると答えた人は、その理由は。
7. 炭酸飲料水（サイダー、コーラ類）・乳酸飲料水・ジュース類をよく飲みますか。
8. チューインガムをかむことがありますか。
9. 食事に好き嫌いがありますか。
10. 間食に甘い食品をよく食べますか。
11. 寝る前に菓子を食べたり、ジュース等を飲んだりしますか。
12. いつ歯をみがきますか。（重複回答）
 - a. 朝起きた直後
 - b. 朝食後
 - c. 昼食後
 - d. おやつ等を食べた後
 - e. 夕食後
 - f. 寝る前
 - g. その他
13. 一回の歯をみがく時間は何分ですか。
14. 歯をみがく時、使用するものについて。（重複回答）
 - a. 歯ブラシ
 - b. 歯みがき粉
 - c. デンタルフロス
 - d. 歯間ブラシ
 - e. 電動歯ブラシ
 - f. ジェット水流
 - g. その他
15. 食事をする時にカルシウムの摂取量に注意していますか。（重複回答）
 - a. 気にしない
 - b. 意識する
 - c. 牛乳を飲む
 - d. 小魚をよく食べる
 - e. その他
16. 歯科医院で、むし歯の予防処置や歯石除去をしてもらったことがありますか。
17. 歯に関して知りたいこと（重複回答）
 - a. 歯と健康について
 - b. むし歯について
 - c. 歯周疾患について
 - d. 歯列不正について
 - e. 歯みがきについて
 - f. その他

表2 平成6年度定期健康診断疾病異常集計表

	1年		2年		3年		総計
	男	女	男	女	男	女	
在籍者数	168	114	136	136	144	131	829
受験者数	167	113	136	136	144	130	826
処置完了者	43	26	32	28	26	38	193
	(25.7)	(23.0)	(23.5)	(20.6)	(18.1)	(29.2)	(23.4)
未処置歯のある者	110	75	96	105	110	91	587
	(65.9)	(66.4)	(70.6)	(77.2)	(76.4)	(70.0)	(71.1)
その他の歯・口腔 の疾病・異常の者	42	26	48	45	56	34	251
	(25.1)	(23.0)	(35.3)	(33.1)	(38.9)	(26.0)	(30.4)
未処置の歯の数	374	214	322	320	416	274	1,920
喪失歯の数	6	1	23	14	20	21	85
処置済みの歯の数	796	699	669	967	824	961	4,916
DMF 歯総数	1,176	914	1,014	1,301	1,260	1,256	6,921
一人平均 DMFT	7.0	8.1	7.5	9.6	8.8	9.7	

に多いということも驚きである。これは定期健診の方法と、生徒自身の歯科保健に対する自覚の問題か。

口腔内の症状においては、有位差は見られないが、炭酸飲料水等を飲みますかの項においては、本校は断然少なく、これは富山県には名水の所が多く水道水そのものが違うことにもよるかもしれない。チューインガムをかんだり、食事に好き嫌いがあり、間食に甘い物をよく食べたり、寝る前に菓子を食べたりジュースを飲んだり、想像はしていたが、非常に多く感じられ、またいつ歯みがきをするかには、朝食後が多くなったが、昼食後夕食後、間食後などでまったくしていないことにおいて、小中学校での歯科保健指導の場での反省がある。最後の項目の歯に関して知りたいことでは、生徒達は歯科保健に未知の部分があり、もっと知りたいと望んでいる様子である。

5. おわりに

学校歯科医の職務は①管理的、②教育的、③専門的の職務に大別されるが、これらは教育に指向されねばならない。例えば、学校保健委員会において、生徒たちの歯に関する生活上の問題点に対する、生徒たち自身の努力や悩みを聞き、生徒たち自身と学校・家庭・地域社会の3領域のそれぞれの関係者に、その課題にどう取り組むべきか適切な助言をすることが大切である。

アンケート結果からも推察されるように、食べたらず磨く習慣、みがき方の改善、食習慣の改善、歯の重要性等を、定期健康診断時においてのワンポイントアドバイスや、歯の衛生週間等を利用して保健指導を生徒自身や学校、保護者やPTAなど地域社会に歯科保健指導及び啓発をすることが重要ではないだろうか。

口 腔 機 能 部 会

テーマ

口腔機能の健全育成をめざして

座 長 ● 東京医科歯科大学歯学部教授
助 言 者 ● 東京医科歯科大学歯学部病院長
発 表 者 ● 新潟大学歯学部助手
日本大学歯学部教授

黒田 敬之
大山 喬史
山村 千絵
赤坂 守人





座長

口腔機能の 健全育成をめざして

東京医科歯科大学歯学部教授

黒田 敬之

全国学校歯科保健研究大会の部会別研究協議会に口腔機能部会が加えられたのが、昨年の埼玉大会からであった。

近年の学校歯科保健の充実と関係各位のご努力により、研究協議会での討議もますます、活発になってきている。従来、進められてきた幼稚園、小学校、中学校、高等学校それぞれの場での歯科保健の指導と実践が、いわば、横割りの検討であったのに対し、口腔機能部会は、学校歯科保健を縦割りにして、口腔のもつ機能の発達と咬合との相互関連性を、学校歯科保健活動の生活化のなかで追求していこうとするものである。

児童・生徒の口腔諸組織が健康で、咬合が健全な発達を遂げることにより、口腔の果たす、咀嚼、発音、嚥下などの機能に加え、顎関節機能、顎顔面の成長発育なども健全な発達を遂げることができる。さらには、全身の健康にも大きな影響をもたらすことが考えられ、心身ともに健康な次代を担う子供達の育成につながると考えている。

本協議会の研究内容としては、従来、学校歯科医学会第3委員会のなかで検討されてきている以下の項目を、当面の課題として取り組んでいきたいと考えている。これらのなかには、きわめて難しいテーマで、専門学会にあっても、未だ十分な結論が得られていないものも含まれているが、本協議会での討議を重ねることにより、学校保健の現場での対応を明確化することが少しでもできればと思って取り上げている次第である。

研究内容1：歯・歯周組織・顎関節・舌などの果たす役割について歯科保健の立場からの指導方法

研究内容2：口腔の果たす役割・機能を児童・生徒の発達段階と関連して理解させる指導のあり方

研究内容3：発達段階に応じた咬合の変異性の理解—個別指導との関連において—

研究内容4：口腔機能の増進を図る指導計画と実践

研究内容5：学校歯科保健教育のなかで、口腔・顔面・顎首等の傷害予防対策

昨年度は、これらのテーマのなかから、「咀嚼の生理的メカニズム」として、噛むことの意識、咀嚼に関わる神経系、咀嚼筋の作用、咀嚼力調節の仕組み、歯の感覚、咀嚼筋の感覚などについて、大阪大学の森本先生に、解説していただいた。次に、「児童生徒の咀嚼機能の発達並びに咀嚼評価」と題して、咀嚼機能の評価、児童生徒の咀嚼機能の発達と歯列咬合との関係について、日本大学の赤坂先生にお話しいただいた。さらに、東京医科歯科大学の大山先生に、「歯と日常生活の関わり」というテーマで、口腔と全身との関連性について助言をいただいた。会場に入り切れず廊下に溢れてしまわれた熱心な参加者の方々には大変申し訳なかったと思われるが、きわめて有意義な協議会を開催できたと自負している。それにつけても、この協議会の果たさなければならない使命の大きさを今さらながら痛感させられた。

今年度は、第2回になることから、引き続き、総論的な観点から、問題の意識化と将来の具体的

な展望を開く意味で、昨年度と同様な構成と内容を提案していくこととした。

幸い、東京医科歯科大学歯学部障害者歯科学の大山喬史教授、日本大学歯学部小児歯科学の赤坂守人教授には昨年に引き続いて、ご参画いただくことができた。また、新潟大学歯学部口腔生理学の山村千絵先生に、ご登壇いただけることができ、昨年より一層充実した協議会が期待される。

山村先生からは、「咬む力の健全な育成」という視点から、咬む力の育成、歯根膜咀嚼筋反射機構について分かりやすく解説していただけるようお願いした。加えて、学童期の口腔損傷のなかでも外傷等による歯の脱落・破折等に関連して歯の再植・移植処置による生理学的機能の回復についても触れていただけることになっている。

赤坂先生には、昨年に引き続いて、児童・生徒の発達と口腔機能の発達との評価法についてのお話をしていただけることになっている。

大山先生からは、以上の先生方のお話の総括として、口腔の果たす全身への影響を具体的な事例から解説していただき、学校歯科保健活動の上での適切な指導上の助言をいただけることと思う。

本協議会が、参会者のご協力を得て、実り多い会となることを願っている。

助言

歯と日常生活 との関わり

東京医科歯科大学歯学部病院長

大山 喬 史

わたくしたちの日常生活の中で「歯」は一体どのような役割を演じているのでしょうか。食べ物を噛み砕く道具くらいにしか考えておられないのではないのでしょうか。

実は、食べ物の味わいにかかわる感覚器であり、口許の美しさを表現する大事な構成要素であり、また姿勢とか運動とも密接な関係があります。

それでは、はじめに歯は感覚器であるということを考えてみましょう。よく歯ざわりとか歯ごたえという言葉がありますが、一体どういうことでしょうか。先日、鳥取で「ぼたんえび」を食べました。北海道で「甘えび」を、東京で「車えび」を、伊豆では「伊勢えび」を食べました。いずれもおさしみでした。みんな歯ざわりが違います。ぼたんえびや甘えびはとろけるようなやわらかさがあって、車えびや伊勢えびはこりこりした歯ざわりがあり、それぞれおいしく頂きました。同じえびでも種類による歯ざわりの違いをそれぞれにおいしいと感覚します。それは、鮮度によっても歯ざわりは違ってきて、あるときはまずいということにもなります。もちろん、甘い、辛い、酸っぱいなどという味覚にも左右されます。同じ伊勢えびでもボイルするとおさしみとは違った歯ざわりになります。それこそ鮮度が落ちると全く異質な歯ざわりで、伊勢えびらしさがなくなり、まずいものになります。

ハウレン草のお浸しを思ってください。歯ざわりのある丁度よい茹で加減とアメリカのカフェテリアでよく出会うべろべろに茹でられたものとはおいしさが違います。

生野菜として食卓に出てくるものの鮮度は歯ざわりに随分影響があります。鮮度のよいものはパリパリと気持ちよく食べられます。

歯の丈夫な人は、圧しのきいた漬物、あわびなど歯ごたえを楽しむことができます。いかでも、身の厚い紋甲いか、これはさほど歯ごたえなく噛

み切れますが、すみいかは歯をあてると裂けるように小気味よく歯と歯があたり、違った歯ごたえを感じます。するめいかになるとぐうっと噛み込む歯ごたえが感じられ、それぞれ旬の味わいがあります。

ピーナッツは噛み砕く感じですが、カシューナッツは噛みつぶす感じの歯ごたえです。

こうして挙げれば切りがありません。歯は感覚器だということがわかり頂けたと思います。日本料理の基本はものの性状を大切にした文化であり、西洋料理のソースを基本にするものと違うように思います。欧米人にはなかなか理解して貰えない、いかのおさしみをしょう油とわさびだけで楽しめる日本の食習慣はすばらしいと思います。

歯は若さ、健康美の象徴でもあります。乳歯が抜けて、永久歯が生えるまでの歯欠けの子供の表情は愛敬があってかわいらしいといえます。最近テレビによく登場する、きんさん、ぎんさんが立派な自分の歯が揃っていたら、きんさん、ぎんさんらしさがなくなってしまうでしょう。口許が歳なりに可愛らしく映ります。

でも成人で、味噌っ歯だったり歯がなかったりするとみっともないでしょう。まずは、接客の機会の多い仕事には就けないでしょう。歯が汚いと他人に不快感を与えることもあり、本人が意識すると口許が不自然に緊張して、美しい笑顔も見られなくなります。お嫁に行けないと治療室で泣いた患者さんもいました。

ある大銀行の支店長さんがあごの癌に罹り、歯の根はもちろん、あごの骨までとられてしまいました。顔まで歪んでしまい、仕事が続けられないとひどく落ち込んでノイローゼになった患者さんもいました。

とてもきれいな人で、高校時代に相談を受け、歯列矯正をすすめましたが、結局は治療せずに航空会社に就職しました。けれども、国際線には乗ることもできずに、今になってやっておけばよ

かったといってきました。

歯は心理、精神上、日常生活の中で何かと役立っているということです。歯も大事な顔のうちといえましょう。

次に歯と噛み合わせが運動と極めて関係深いことをお話しましょう。

歯が痛かったり、歯がぐらぐらしては、きっと集中力を欠き運動の実力も十分発揮できないでしょう。このことはどなたにも異論がないと思いますし、思いあたる方もおられることでしょう。

運動をするときに、例えば野球とかゴルフでボールを打つ瞬間、ぐうっと噛みしめる人がおりますが、歯が痛かったらどうなるでしょうか。きっとよい結果は得られないでしょう。

噛みしめることと足のふくらはぎの筋肉との関係を調べてみたところ、噛みしめを強くすればするほど筋肉の興奮性が高くなることがわかりました。噛むことが足の筋肉とも同調していることを意味しています。運動時の下半身の安定がしっかり噛むことでよくなると考えられます。また、腕の筋力とも関係があるという研究報告もあります。

噛み合わせを意図的に狂わせてみました。どうでしょう。身体のバランスをとるのが下手になりました。

基礎研究でも、歯を次から次へと抜いていくと咀嚼筋や頭を支える筋に分布する運動神経線維が変性を起し、運動障害をもたらすともいわれております。どんな運動においても頭の位置をしっかり決めないとうまくいかないことはどなたでもわかりと思います。

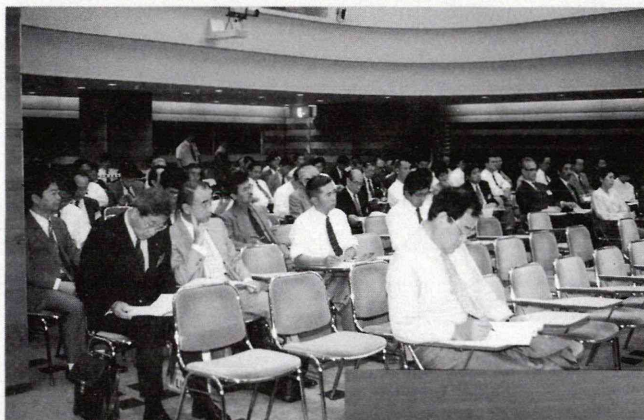
あるボクシングクラブのコーチは「難しいテクニックを教えるときには、選手にガムを噛ませて育てた」といっております。これは噛むことによって生ずる感覚としての入力が増加になって、運動としての出力を高めて、筋肉の学習能力がよ

くなるということを意味しているのかも知れません。

今日、わが国でも自らの体力増進のため、あるいは余暇を楽しむためスポーツに参加する人も機会も多くなりました。歯や噛み合わせにもっと注意を払い、大切にしなければならないということがいえます。一流選手が、あるいは一流を目指す選手が、より一層魅する一流選手としてスポーツ能力を向上させるためには絶対必要なことだと思います。

います。

歯と噛み合わせの役割について、日常生活の中でお話してきました。むし歯にしないように、そして歯肉炎にならないように歯を磨くのも、正しい噛み合わせを持つように小さいうちから注意を払うのも、その年齢に応じた楽しい健康的な生活を過ごすためのものであることを学童、生徒の皆さんに理解して頂きたいと思います。



1

咬む力の健全な育成のために

— 生理学的考察 —

発表者 新潟大学歯学部助手(口腔生理学講座) 山村 千 絵

はじめに

近年子供の咬む力が衰えてきているとよく言われるが、その理由は実に様々である。よくマスコミでとりあげられているのは、「最近の子供はファーストフードや軟らかい食事を好み、あまり咬むことを必要としなくなったことがその背景要因となっているらしい」ということである。

そのような食生活が咀嚼能力の低下、顎の劣成長、歯列の乱れの誘因となり、さらには現代社会特有のストレスなどの要素も加わって咬めないということになるらしい。この「咬めない」という現象について神経性の制御を考えながら検証していく。さらには「咬む力」を育成するために考慮した方が好ましいことについて生理学的な立場から述べる。

1. 上下の歯が咬み合うことの大切さ

人間が一生のうちで最も強い咬合力を出せるのは20歳代前半である。私が大学で担当している学生の年齢がちょうどこれに一致する。毎年学生実習では、全員の最大咬合力のデータを採取している。

図1は昨年度の新潟大学歯学部3年生(男46名、女18名)の学生実習時に記録した最大咬合力の平均値と、50年前の同年代のそれとを比較したものである。いずれも臼歯部で高く切歯部で低く

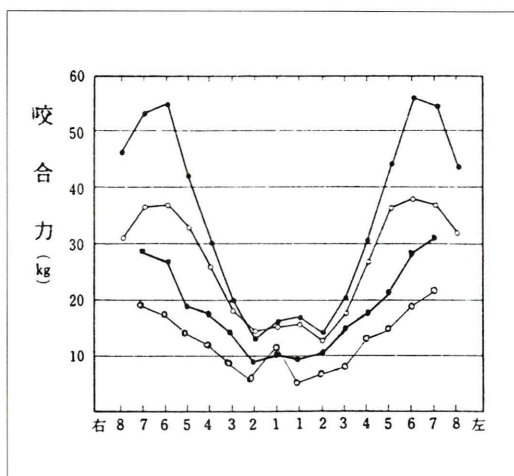


図1 成人の最大咬合力の例

50年前の20歳代前半男性(●上)と女性(○上)
現代の20歳代前半男性(●下)と女性(○下)

左右対象というパターンは同じである。しかし絶対値は50年前の値と比べると現代の値は60~80%ほどに低下している。

またグラフで示される値の低下以外に実習中に興味を引いたことは、年々測定不能の場所がふえてきているということである。大きなう蝕や補綴物が存在するために測定を行えないということも理由の一つに挙げられるが、問題となるのは上下の歯がうまく咬み合わない、したがって測定器具を挿入できないという箇所が増加していることである。

グラフに例示した値は平均値なので、個人的にみればいまだに臼歯部で100kg以上だせる人もい

る一方で、臼歯部でも10kg以下の力しか出せない人もいる。年齢的にピークであるべき時の値が後者のようであっては、実におそまつである。

とはいっても、実際に普通の食事をしている限り我々は数十kgもの力を必要としない。我々が咀嚼力として用いるのは通常最大咬合力の1/6程度の数kgに過ぎないからである。咬合力の低い人は非常に堅いものや粘性の高いものなどを食べる時に少し苦勞するか、食べないという選択をする。しかし「食べない・食べられない・咬まない・咬めない」人も、今のような時代では一見ほとんど支障がないように見える。

食生活が多様化したこと、機能性食品、栄養補助製品などができたことにより、無理に食べにくいものを食べなくても、他に栄養摂取の手段がいくらでも存在するようになったからである。しかしいろいろな食感のものを味わうという喜びは半減するだろう。それだけではなく、これから述べていくような困った問題が実は隠されているのである。

学生の咬合力の値に話を戻すが、全体的に見た平均値に関しては多少の不満はあるものの、とりあえず議論の対象からは外しておく。ここで注目すべきは個々の歯に目を転じた場合、上下の歯が咬み合わない場所が多くなっていることである。

これは咀嚼能率の低下、さらには咀嚼意欲の喪失にもつながりかねない。さらに、咬まない→顎の劣成長→歯の萌出スペースの不足→歯列の乱れ→うまく咬み合わない、という運命をたどってきたものには、以下のような悲惨な未来が待ちかまえているといっても過言ではなからう。

すなわち咬めない部位の歯周組織の廃用萎縮、また歯列の乱れのせいで逆に他より強く咬合する部位の咬合性外傷、さらには口腔清掃がしにくいことに由来する歯周病→早期の歯の脱落である。

この上下の歯が咬み合わないということに関して少し生理学的に考えてみると、いろいろと不都合なことがある。

我々の歯は歯根膜という線維性の組織を介して歯槽窩の中に埋め込まれている。歯根膜は歯に加わる力の緩衝帯となっているのみならず、その中に無数の圧受容器を有しており、数gといったわずかな力の変化も検出することができる。

この検出された力の情報は顎運動中枢にも到達し、咀嚼筋活動および咬む力の自動的な調節に関与する。歯根膜咀嚼筋反射として知られている神経機構がここに働く(図2)。食物を咬むことが

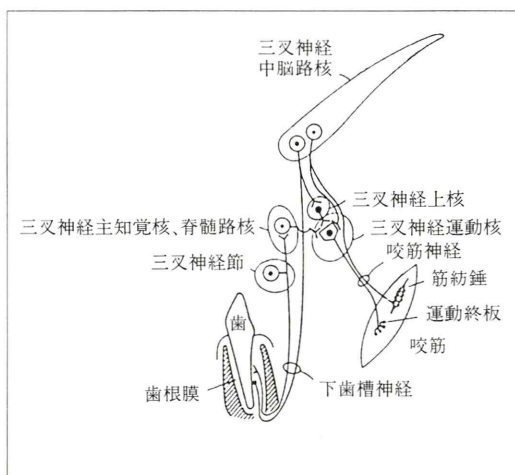


図2 歯根膜咬筋反射弓(窪田, 1988より改変)

歯根膜からの感覚神経は主知覚核、脊髄路核へいく繊維と、中脳路核へいく繊維があり、反射経路は2通りに分かれる。

きっかけとなっておこる反射で、通常は各咀嚼サイクルの咬合相初期において咀嚼力を増し、食物を効率よく咀嚼するのに役だっていると思われる。

顎運動を調節している反射の起源には歯根膜以外にも咀嚼筋や顎関節等に存在する受容器からのものもあるが、本稿ではこのうち歯根膜性調節に的を絞って話を進めていく。

ヒトの歯は上顎の歯が下顎の歯を被蓋している。したがって、閉口に伴い食物が歯に衝突する方向は上顎切歯の場合、舌側→唇側方向、下顎切歯の場合、唇側→舌側方向ということになる。

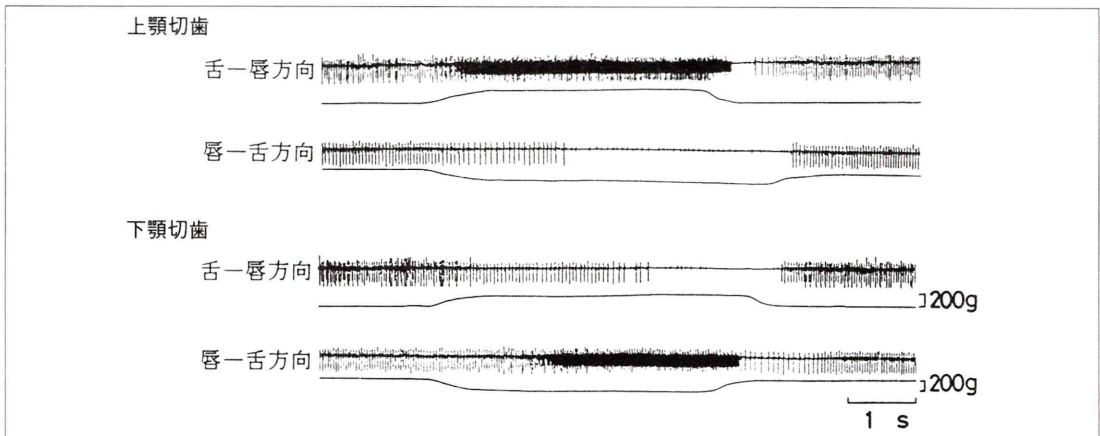


図3 ヒト切歯圧刺激の方向と咬筋活動の変化

各図とも上段が咬筋筋電図、下段が圧刺激を示す。咬む時に歯に食物が衝突する方向へ刺激が加わると、咬筋活動量が増加する。その逆の方向へ刺激が加わると、咬筋活動量は減少する。

ここで実験的にこれらの方向あるいは食物が歯に衝突しない方向（上顎切歯は唇側→舌側方向、下顎切歯は舌側→唇側方向）から歯に力を加えてみると、咀嚼筋活動および咀嚼力は前者（衝突方向）の場合反射性に増強され、後者（非衝突方向）の場合減弱される（図3）。

もし通常の上下顎歯列の咬合関係が損なわれ、うまく噛み合わなくなるということは、歯に適当な方向からの力が加わりにくくなり、歯根膜咀嚼筋反射が必ずしも生体にとって好ましいようには作動しなくなることを意味する。咀嚼運動の過程を助けるこの反射機構に支障をきたせば、余計に咬めなくなる。

歯根膜咀嚼筋反射はまた、上下の歯に同時に力が加わった時に、より強く生じるという報告がある。この結果から上下の歯がうまく噛み合い、正常な神経機構による反射が起こることが健全なる口腔機能の維持のために不可欠であると結論づけられる。

さて、以上述べてきたような顎運動の自動的な調節を行っている反射機構は我々が生来持ち備えているものなのであろうか、また成長・発達の過程において修飾をうけているものなのであろうか。

2. 歯根膜咀嚼筋反射の生後発達

本学小児歯科の高宮先生は幼若ラットを用いて以下のような実験を行った（1985年）。彼はラットが生まれて2日目から60日目頃まで経目的に上顎の切歯部唇側歯肉、切歯萌出部位（あるいは切歯）、口蓋、鼻等に弱い力を加えて咀嚼筋の活動の変化を記録した。

生後2日目では、上顎のどの部位に刺激を加えても咬筋が興奮し閉口反射を得ることができた。この日齢では哺乳のため日常的に口腔内全体に刺激が加わっている。

上顎切歯が萌出を開始する頃の生後9日目に実験を行うと、切歯唇側歯肉、口唇正中部、鼻と、上顎の前中央部付近に反射を誘発できる部位が限局されてきた。それとともに萌出間もない切歯を一塊として刺激すると、わずかに閉口反射を誘発することが可能であった。

生後15日目になって歯が0.8mm程度萌出してくると閉口反射は切歯近辺の限局した部位からのみ誘発されるようになった。一方、この時点ですでに歯の刺激による反射応答に方向特異性が出現しはじめていた。

すなわち上顎切歯の唇側→舌側方向刺激では閉口反射の生じる頻度が低く、舌側→唇側方向刺激に対しては閉口反射がおこりやすいというものである（ラットもヒトと同様に上顎切歯が下顎切歯を被蓋している）。さらに唇側→舌側方向刺激による閉口反射の頻度は経日的に減少していった。

以上のことより歯の萌出時にはすでに成熟動物のもつ歯から誘発される反射と同じような反射機構がおおよそ確立されており、動物の歯の成長とともに反射機構の成熟も進むことがわかった。反射応答に対して歯の刺激の方向特異性が強くなっていくことは歯で食物を粉砕するのにより都合がよくなっていくことを意味する。

また切歯の萌出が進むにつれて、閉口反射を誘発できる部位が歯の近辺に限局されてくる現象は、成熟動物の咀嚼においては歯にその主な機能が集中しているということの裏付けとなる。

では、この閉口反射の経日的変化は、どのような神経機序でおこるのだろうか。口腔内の触圧受容器は日齢を追うに従い分布密度が増加することから、閉口反射の経日的な減少にこれが関与している可能性は少ない。また遠心系の変化についてみると、幼若ラットの咬筋では multiaxonal innervation（1本の筋線維が数本の神経軸索によって支配されている）を受けていたものが、成熟するにつれて1本の筋線維を1本の軸索が支配するようになるが、これも閉口反射の経日的変化の原因とはなりにくい。

結局動物の成長に伴い反射中枢が複雑に変化することによるものが主因であると考えられる。成長に伴う中枢の変化の結果生じる反射の消失の例としては、吸綴反射、バビンスキー反射、把握反射などがある。

本学小児歯科の小林先生（1994年）は、発育の早い時期に特に着目し、吸綴運動から咀嚼運動へ移行する際の末梢の発育変化による影響についてウサギを用いて解析を行った。

一般に動物が吸綴運動から咀嚼運動へ移行する

時期は顎反射中枢に変化が生じるといわれているが、その時期は歯の萌出時期ともほぼ一致し、末梢性入力の変化も大である。吸綴も咀嚼ともに周期的な顎運動である。彼の研究は末梢性に誘発した周期的顎運動中に歯に刺激を加えた結果生じる反射性の咀嚼筋活動の変化をウサギの幼若期から成熟期にわたって調べたものである。

生後2日目の動物の顎運動は垂直的で単なる開閉口しか行わない。この運動中、切歯に刺激を加えると閉口筋（頬骨下顎筋、咬筋）活動は減弱し、開口筋（顎二腹筋）活動は増強した。生後5日目も顎運動は依然垂直要素が強かったが、切歯の刺激により今度は閉口筋活動が増強、開口筋活動が減弱するようになった。この閉口筋優位の制御効果は刺激中様々な時間経過を示すものがあった。この日齢はちょうど臼歯が萌出を開始する時期に一致することから、この反射の制御効果も開口筋優位から閉口筋優位へと変化する移行期であると思われた。

さらに生後15日目になると切歯刺激により閉口筋優位の筋活動が刺激中持続して出現するようになった（以上図4）。また左右の閉口筋活動に位相差が生じ、顎の大きな側方偏位が見られるようになった。顎の大きな側方偏位とそれによる片側咀嚼は、成熟ウサギで一般に見られる咀嚼運動時の特徴である。

生後、歯の萌出が進むにつれてしだいにこのような成熟ウサギの顎運動パターンおよび反射機構に近付いていくようである。

前のラットの例と、このウサギの例では顎運動形態が異なるため、反射機構の成熟の様子も若干異なる。しかしいずれも歯の萌出がきっかけとなり、成長とともに反射機構も変化していくことは共通である。

別の動物実験では離乳期の動物に乳歯が萌出しないかあるいは歯根膜感覚が欠如している場合には、吸綴行動から咀嚼行動への移行が遅延し、咀嚼リズムの形成が著しく障害されることが報告さ

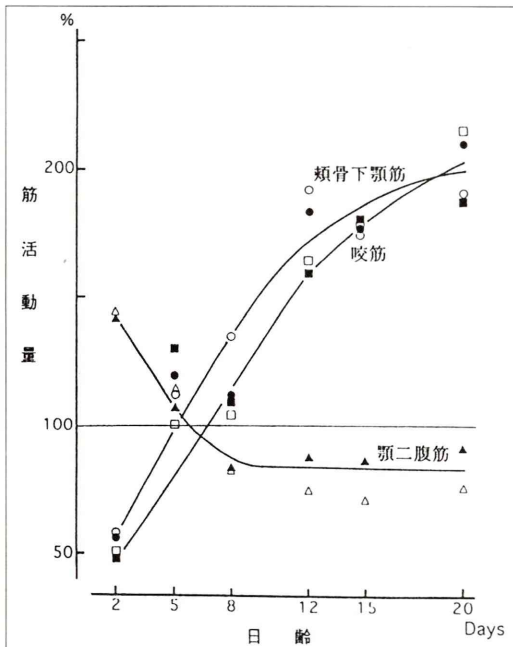


図4 ウサギの日齢と切歯刺激による筋活動量の増減との関係 (小林ら, 1994)

刺激開始前サイクルの平均筋活動量をコントロール値との相対値で示した。●, ■, ▲: 頬骨下顎筋, 咬筋, 顎二腹筋の第2サイクル, ○, □, △: 頬骨下顎筋, 咬筋, 顎二腹筋の第5サイクル

れている。

これらの事実は吸綴から咀嚼への移行メカニズムには咀嚼中枢の成熟の他に歯根膜感覚からの入力を得て行われる学習の要素も含まれていることを示唆する。反射の切り替わりには中枢が、その後の成熟には末梢からの入力が大いに関与しているといえる。

ヒトで成長発育の過程を追って顎反射の変化を詳細に調べた研究はない。しかし、動物実験の結果を考慮すると乳歯が萌出しはじめる離乳期と乳歯から永久歯にはえかわる混合歯列期に中枢ならびに末梢の変化が訪れると思われる。咬むことは発達現象である。

まず離乳期に口腔内へ与えられる刺激量が少ないと反射機構の成熟が不十分となり咀嚼能力が発達せず、咬めない子の予備軍となる。その後の成長期においても咬む機会、咀嚼機能が少ないと顎発育および咀嚼筋の正常発達が遅れ、より咬めない子となる。

乳歯が萌出しはじめてから成長期の間はよく咬み顎を成長させ、歯並びをよくし、正常な顎反射がおこるような環境設定をすることがその後の健全なる口腔機能の育成、維持に必要である。

3. 歯の再植・移植による口腔機能の再構築

せっかく口腔機能のトレーニングを積んでも、学童期には思いがけない事故や転倒で顔面を強打し、その結果歯を損傷してしまうことがある。最近では抜けた歯を早期に同じ箇所に植えなおす再植あるいは別の健全歯を抜歯窩に植えこむ移植の手術の進歩が著しい。

これらの手法は従来よりあったが、手術法の確立や基礎研究が不十分であったため、あまり用いられていなかった。しかし近年の治療技術の進歩により、急速に普及しつつある。

ブリッジや義歯などの人工物でも適切なものが装着されればよく咬めるようになった気はするが、人工物では歯根膜すなわち受容器がないために神経性に行われる巧妙な顎運動の調節をその部位から期待することは不可能となる。もし人工物ではない再植歯・移植歯の歯根膜中に再生される圧受容器が健全歯と同様な応答を示してくれば、最良の補綴手段であるといえよう。

その他にも歯根膜の存在により粘弾性クッション効果、骨代謝調節効果などが期待できる。今までに再植・移植歯の機能について神経学的に調べられた数少ない研究のうちのいくつかをここに紹介しておく。

まず歯根膜受容器の再生について形態学的見地から確認されていることは、条件よく再植されれば、被覆性終末や樹枝状終末の再生は不完全なも

の、自由神経終末はある程度正常に近い状態まで再生可能だということである。実際機能面での回復も以下のように観察されている

移植後6ヵ月以上経過したヒト大臼歯の圧覚閾値を調べた実験では、歯軸方向荷重、水平方向荷重とも6~8gで、天然歯と同等の圧感覚(約7g)を有することが報告されている。移植歯は感覚機能の上からは十分な回復が認められる。

さらに運動系の制御効果に対する移植歯の役割を調べた実験がある。それはネコの無歯顎部に移植をし、手術後6ヵ月までの開口反射と神経活動電位伝導速度を観察したものである。再植・移植歯とも、開口反射は早いものでは手術後9週より出現し、6ヵ月後にはほとんどが回復するが、伝導速度は手術を行っていない場合の1/2程度と遅く、潜時は長かったということである。また移植歯における歯根膜咀嚼筋反射の様相については現在当研究室でも調査中である。

これらの実験から歯の再植や移植では、末梢神経の損傷後に神経機能の回復があること、しかしその内容は健常時に比べて低下していることが明らかにしている。

しかし終末での受容器の再生が形態においても分布においても不完全であると言われている原因の一つとしては、神経線維の成熟にはきわめて長い時間を要することが考えられる。したがってよ

り長期にわたって経過を追っていく必要がある。

この場合再生される受容器の機能が否定されているわけではなく、むしろわずかでも神経性の顎運動調節に関与しているということが確認されていることは意義深い。歯根膜のない人工歯に対してはほんのわずかでもそのような機能を求めることはできないからである。

まだ追いきれていない長期にわたって良好に経過している症例あるいは将来、理想的な手術法が確立された後には、健全歯歯根膜に類似した機能の出現を期待できるかもしれない。

4. おわりに

神経学的に見ると「咬めない」現象の根底には発育の非常に早期の離乳の段階から問題がありそうである。正常な顎反射の形成ならびに成熟のためには乳歯の萌出時期から永久歯への交換時期、さらには成長期全般にわたって適切な口腔内刺激が存在することが必要不可欠であり、それが「咬む」機能の発達・完成につながるといえる。

謝辞

現在、茨城県で開業されている高宮哲二博士ならびに本学小児歯科小林博昭博士らのご好意により、お二人のご研究の一部をここに引用させて頂きました。厚く御礼申し上げます。

2

歯・歯列の発育と咀嚼機能の発達

発表者 日本大学歯学部小児歯科学教室教授 赤坂守人

1. はじめに

咀嚼運動は、人間が豊かに健康な生活を営むための基本的な働きであるため、その機能の低下、障害により身体的精神的にさまざまな影響がみられることが知られている。

咀嚼は、食物を破碎、臼磨し、唾液と混ぜ合わせて嚥下しやすい大きさと固さの食塊に形成する運動であり、この運動には顎口腔系器官すなわち歯、歯の支持組織、顎骨、顎関節、顔面筋および咀嚼筋、舌などの末梢効果器、これからおこる感覚入力系、中枢処理系、その運動出力系が総合的に働いて食物の大きさ、性状に適した協調運動が行われる咀嚼システムにより営まれる。

咀嚼システムの育成は、成人あるいは高齢者から開始したのでは手遅れであって、授乳期をスタートとする小児期に咀嚼機能を獲得、発達させる手だてが必要である。何故なら、現代の子ども達を取り巻く食環境は、咀嚼機能を正しく発達させ維持していくには決して好ましい状況にあるとは言えないからである。

そして、この時期によく咀嚼することは、小児保健の分野で大きな課題である成人病の発病時期の低年齢化、小児の肥満などの予防、抑制という面からその意義は大きい。

咀嚼機能の基本的機能が獲得される時期は、離乳期、幼児期前半にあるといわれている。また、その発達は日常の食生活を通して学習獲得されるため、とくに家庭での食生活のあり方が大きな影

響を及ぼす。これらの点を考えると、学校保健の場で咀嚼問題について取り組むことは、それなりの限界があると思われる。

しかし、保健教育上、この時期に咀嚼の意義や発達を理解させ、咀嚼機能の面から現代の子ども達の食生活を見直し、警告を発することは大きな意義を有する。

咀嚼機能の発達にとって歯の萌出による歯根膜受容器からの感覚入力が必要な役割を果たしており、この面からあらためて健全な歯の重要性が認識され、歯・歯列と咀嚼の発達との関係を知っておくことが必要である。また、咀嚼機能を育成し維持していくには、咀嚼機能を可能な限り簡便で客観的に評価する方法を持つことが指導上の面からとくに必要である。

そこで、本シンポジウムでは、最近の研究を紹介しながら、歯の萌出、歯列・咬合の発育と咀嚼機能の発達との関係について、小児に応用することが可能な比較的簡便な咀嚼機能の評価法についても触れる。

2. 乳歯より完成前後と咀嚼機能の発達

金子は、咀嚼の発達上、基本的機能の獲得期は、離乳期に相当するとしており、二木も咀嚼の発達にとっての臨界期は乳臼歯が生えそう18～24ヵ月頃であるとしている。

この時期は乳歯が逐次萌出する時期であって、

乳歯の萌出によって固有口腔の容積が増大し形態の変化がおこること、歯根膜受容器からの感覚刺激に対応した筋群の協調運動が可能になることなどが咀嚼の発達に関連している。咀嚼機能の発達に重要な離乳期を順調に進めていくには、個人差のある歯の萌出状態にあわせた調理形態を進めていくことが必要である。

歯の萌出前の下顎運動は干渉を受けることなく自由に運動が可能である。上下顎乳歯の萌出により歯の接触が開始されると、次第に下顎運動を調節する反射が形成され、下顎の前方運動が抑制され下顎の位置が決定する。特に上下顎歯の咬合接触は顎間距離を増加させたり、舌を後退させ口腔容積を増大させるなど構造的変化に関係して固形食を受け入れる準備がつけられる。

つづいて上下顎第一乳歯が萌出を開始し1歳6ヵ月頃には咬合接触する。上下顎歯の咬合接触により下顎の位置が中心咬合位からずれるのを防止するようになり、この歯の咬頭傾斜により側方運動時の左右の限界ができて下顎位の決定の助けになると考えられている。

母親のアンケート調査結果によっても左右第一乳歯が完全に萌出している幼児は萌出途上の幼児に比べ食物を良く噛む割合が多くなるとの報告がある。

現在、わが国で広く普及している厚生省離乳基

本案（1980年発表）（表1）は月齢11ヵ月が離乳の最終段階となっている。咀嚼機能の発達は歯の萌出に強く影響されることが明らかとなった現在、離乳食指導の完成期は遅くとも第一乳歯が萌出し咬合接触にする1歳6ヵ月から2歳頃までとし、萌出時期の個人差を十分考慮した指導を行うべきであろう。

咀嚼能力の評価方法の1つとしてよく用いられる方法に咬合力の測定がある。西川は咬合力計により4～5歳児の最大咬合力を測定し、20.7kgであったが、30年前に測定した林の値は25.2kgであって、現代は約5kgほど低下しているとしている。オクルーザルプレスケール法による咬合力を測定した緒方によると第一乳歯、第二乳歯の咬合力は第一大歯萌出開始期（ⅡC）までは増齢とともに増加するが、永久切歯萌出完了期（ⅢA）では減少するとしている。ⅡC期が最大値を示したのは歯根吸収が始まる前の最も安定した時期のためと考えられる（図1）。

咀嚼機能を総合的に評価する方法として咀嚼能力（率）測定がある。従来、食べ物の切断粉碎などを評価する方法としてピーナッツを用いた篩分法が咀嚼能力率測定法として用いられてきた。咀嚼運動は口腔内で食物を送り込み唾液との混和を行うものである。そこで、粉碎と混和の両機能を評価する方法として近年チューインガム法が用いら

表1 離乳基本案（1980年）

月 齢			5	6	7	8	9	10	11
回 数	離 乳 食		1	2			3		
	母乳, ミルク		4	3			2		
調 理 形 態			どろどろ		舌でつぶせる固さ		歯ぐきでつぶせる固さ		
食 品 (1回量)	I	穀 類 (g)	つぶし粥 5~10	つぶし粥~粥 30~70			かゆ~軟飯 80~100		
	II	卵 (個)	卵黄 1/4	卵黄~全卵 1/2~1~1/2			全卵 1/3~1		
		鳥 獣 魚 肉 (g)	5~10	10~20			20~30		
	III	野 菜 (g)	5~10	10~30			30~40		

表3 シーン装着時の咀嚼能力値
(乳歯列期)

被験者	全歯列シーン	第一乳臼歯欠損シーン	第二乳臼歯欠損シーン
No. 1	10.70	6.34	10.03
2	6.61	1.17	4.33
3	10.19	3.30	8.07
4	9.83	2.93	6.70
5	9.63	3.46	6.79
6	7.33	4.17	5.48
Mean	9.05	3.56	6.90
S. D.	1.67	1.69	1.99
有意差	* * *		

単位: mg/g * : P < 0.05
(長沢らより)

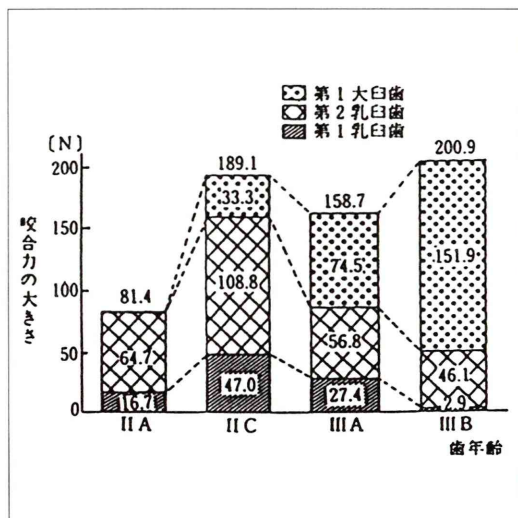


図1 咬合力の大きさの歯年齢別推移 (緒方より)

れている。

この方法はとくに小児は違和感も少なく簡便であって、集団的なフィールドにも適している。長沢らは無う蝕で各咬合発育段階別の咀嚼能力値を測定し、表2に示すような値を報告している。乳歯列では成人の値の68%であったと報告している。

乳歯列にう窩あるいは歯の欠損が生じた場合、どの程度の影響が生じるのか。長沢は乳歯列期の幼児を対象に下顎第一乳臼歯欠損あるいは下顎第二乳臼歯欠損を想定したシーンを作成し、欠損の無いシーンとそれぞれのシーン装着と比較した結果、第二乳臼歯欠損より第一乳臼歯欠損の方が咀嚼

嚼能力に影響することがわかった(表3)。

3. 第一大臼歯、永久切歯の萌出期と咀嚼機能の発達

西川は咬合力計を用いて学童の第一大臼歯の最大咬合力を測定している。男子では小学校1年生で約25kg、女子では約23kgを示し、20歳で60kgのピークに達し以降減少するとしている。また約30年前の吉松らの値と比較した結果、ほとんど変化していないが、小学校1～4年生の女子では現在の方が高い値を示したが、20歳代になると逆に低い値を示したと述べている。

緒方はオクルーザルプレスケール法により第一大臼歯の咬合力を測定し、図1に示すごとく増加率は永久切歯萌出完了期(ⅢA)から側方歯群交換期(ⅢB, 10歳7ヵ月)にかけて最大を示し、ⅢBでは同じ測定法による田口の成人(26歳)値とほぼ近い値を示したと述べている。

さらに第一乳臼歯、第二乳臼歯、第一大臼歯のそれぞれの咬合力の総和を100とした場合、ⅢBでは第一大臼歯の咬合力が70%を占め、第二乳臼歯主働型から第一大臼歯主働型へと移行していると報告している。

この時期は一般には増齢とともに咬合力、咀嚼

表2 咬合発達段階による咀嚼能力値
(チューイング法)

発達段階	人数	時間当り糖溶 出量(mg/sec)	成人との 割合(%)
乳歯列期 (4, 5歳児)	45	9.47 ± 1.36	67.9
第一大臼歯萌出開始期 (5, 6歳児)	8	9.79 ± 1.53	70.2
第一大臼歯萌出完了期 (8, 9歳児)	28	11.28 ± 1.29	80.9
第二大臼歯萌出完了期 (成人 24歳)	10	13.94 ± 0.98	100

能力が増加するが、この増加に関連する因子としては、咀嚼筋など筋力の増大、歯の咬合接触面積の増加、咬合小面の変化、歯根発育による歯根表面積の増加、歯根膜受容器及び咀嚼筋防錘の成熟、顎関節の発育による形態変化などさまざまな因子が複雑に関係している。

咀嚼能力と咬合接触面積とは正の相関にある。長沢はチューインガム法による咀嚼能力値とブラックシリコン法により測定した咬合接触面積との関係は、成人では0.65と有意な相関を示すと述べている。

土肥は上下顎第一大臼歯が咬合接触を開始する以前より4ヵ月毎に経時的に観察を行い、第一大臼歯の咬合推移に伴う咬合接触面積の変化とガム法による咀嚼能力との関係について検討を行っている。

その結果、咀嚼能力値は第一大臼歯の咬合接触前に比べ接触時及び接触後の推移とともに有意に増加を示し、この時期の学童の咀嚼能力値の増加に第一大臼歯の萌出とその後の咬合接触面積の増加の影響が大きいことを指摘している。

4. 小児の咀嚼筋活動、下顎運動について

成長発育に伴う咀嚼機能の変化は、咀嚼筋活動や下顎運動により知ることができる。咀嚼筋の発達には筋付着部の上下顎骨の発育の影響を受けて変

化し、小児での側頭筋優勢から成人の咬筋優勢に移行する(表4)ことを堀川らが報告している。

このような咀嚼筋の使い方が乳歯列期と永久歯列期で明らかに違いがみられ、ⅢA期からⅢB期が転換期であって、田村は最大咬合力もこのとき増加することを報告している(図2)。

咀嚼運動は食品の性状の大きさや相違により咀嚼リズムは変化する。咀嚼リズムは脳幹に存在するパターンジェネレーターによって形成され、また、上位中枢における運動制御系により調整され、同時に顎は腔系器官すなわち咀嚼筋防錘や歯根膜受容器、顎関節受容器などの感覚受容器からの情報が下位中枢に伝達されフィードバック

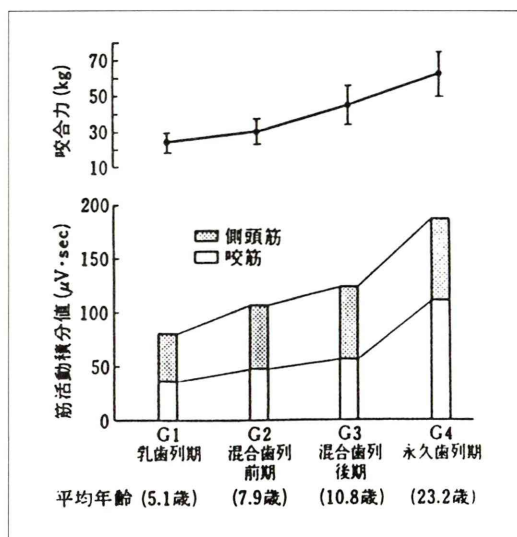


図2 瞬間最大咬合力と咀嚼筋活動(田村より)

表4 咬合発育段階各咀嚼筋の活動量の割合

規定動作 被検物 咬合 発達段階	ガム自由咀嚼			ピーナッツ自由咀嚼			マシュマロ自由咀嚼			最大かみしめ		
	TA%	TP%	M%	TA%	TP%	M%	TA%	TP%	M%	TA%	TP%	M%
ⅡA	33.3	46.1	20.6	31.2	41.4	27.4	32.0	43.5	24.5	35.4	40.1	24.5
ⅡC	29.5	42.9	27.6	30.5	40.7	28.8	31.0	41.9	27.1	32.9	39.6	27.5
ⅢA	29.4	41.7	28.9	29.2	40.5	30.3	29.4	41.7	28.9	33.9	37.6	28.5
ⅢB	29.0	41.1	29.9	29.2	39.9	30.9	29.2	41.1	29.7	30.2	36.0	33.8
ⅢC	25.4	41.6	33.0	25.7	42.3	32.0	27.0	38.9	34.1	27.6	35.4	37.0

**p<0.01 *p<0.05

(堀川らより)

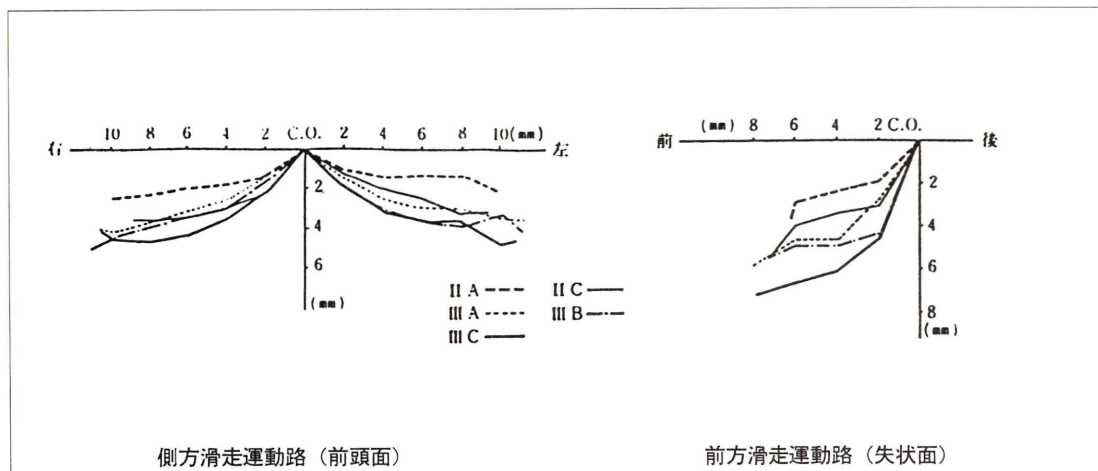


図3 小児期の下顎滑走運動 (平井らより)

信号によって調節され、リズムカルな運動を示すと考えられている。

小児も成人と同様食品の性状に応じた特有な咀嚼リズムがみられる。宮田は食品の性状が小児の咀嚼筋活動に及ぼす影響を検討し、咀嚼筋活動系は軟性弾力性食品としたカマボコ、軟性粘着性食品としたガム、硬性線維性食品としたスルメの順に大きいことを報告している。

下顎運動はさまざまな顎口腔系の機能時にみられるものであって、筋、神経、顎関節、咬合小面などとの相互関係に影響され決められる。小児の下顎運動については、近年活発に研究されてきているが、まだ十分解明されていない。

平井らはサホンビジットレーナーを用いて咬合発育段階のⅡ AからⅢ Cまでの下顎限界運動について報告している。側方滑走運動路と前方滑走運動路についてみると、図3にみられるようにⅡ Aでは両面とも直線的運動路を示し、Ⅲ A以降では下方に強く湾曲を示すようになることを指摘している。

このような特徴は、Ⅱ A期の誘導が乳前歯であって被蓋の大きさが成人に比べ浅いためであり、また、側方滑走運動のように複雑な協調運動を必要とする運動では、咀嚼筋の使い方が成人は

ど習熟していないため下顎を十分に側方に動かすことが難しいためである。Ⅲ A、Ⅲ Cになると前方滑走運動時には被蓋が深くなった永久切歯、第一大臼歯の誘導がみられ、また、顎関節窩や関節結節の形態的变化が関係しているものと思われる(図4)。

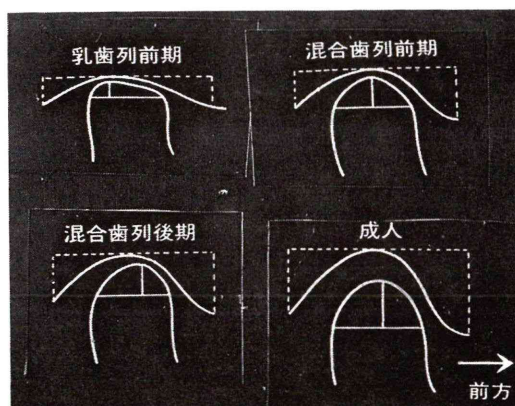


図4 下顎高と下顎頭の発育 (小椋より)

下顎運動の各ストロークの経路は図5にみられるように成人の場合は同一軌跡を示し変異が少ないのに対し、幼児の場合、各経路は不安定であって変異が多い。このような不安定さは咀嚼や顎関節形態の未成熟さにもよるものである。

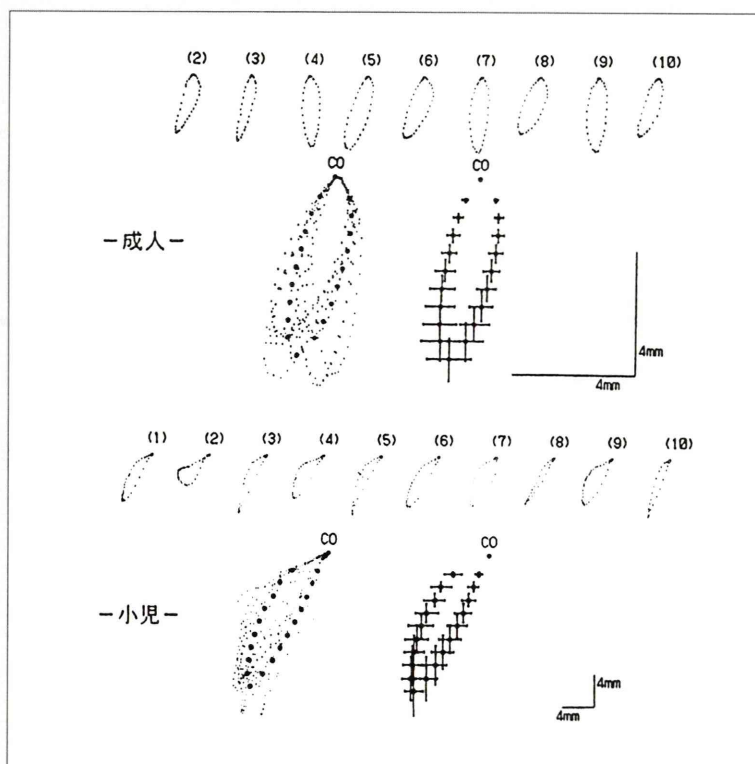


図5 成人と小児の咀嚼経路（前頭面）の比較

このような時期、習慣的な偏咀嚼があったり、部分的な歯列不正による早期接触があると下顎は安易に誘導され、比較的短期間に筋機能が順応し固定化すると、さらに下顎運動の異常を招き、形態的歯列異常や咬合異常を増悪させる。

森本は、歯根膜感覚は歯根膜を圧迫する大きさや方向によってフィードバックされる反射の大きさや反射の現れる筋の種類が異なり、すなわち咀嚼運動は咀嚼する食物の大きさや性状によって影響を受けるのみでなく、対咬する歯の咬合面形態、咬合関係によって歯根膜の受ける圧の大きさや方向に変化が起こり、咀嚼運動が反射的に調節されて反射パターンが形成されると述べている。

このようなことから歯列不正や咬合異常があると異常な反射を引き起こし、咀嚼運動のパターンにも影響を及ぼすことは、歯列、咬合異常と咀嚼

運動に関する多くの報告によっても指摘されている。

5. 食物による咀嚼評価の方法

小児の咀嚼機能の発達状態を評価する方法には、前述した様々の器材、器具を用いる方法があるが、日常、具体的な食物の可食状態によって評価する方法があるならば便利であり、また実際的方法である。

特に、咀嚼機能の育成という面から、日常生活でどのような種類のどのような調理形態の食物を摂ることが必要か、食物の大きさ、性状と咀嚼との関係を知っておくことは、食事指導という面から重要である。

(1) テクスチャー測定による食物分類

食品の物性を咀嚼の面から客観的、器械的に評価し、分類しようとする試みとしてテクスチュロメーターにより測定する報告がある。テクスチュロメーターは食物の固さ、ひずみ、凝集性、付着性の4つのパラメーターの測定が可能である。

筆者らの教室と女子栄養大調理科学研究室との共同研究では189品目の食品を測定し、表5に示すように6型の物性パターンに分け、食物をそれぞれ分類した。

(2) 咀嚼筋活動量による分類

咀嚼運動を最も反映するのは、咀嚼筋活動であり下顎運動である。食物のさまざまな物性と筋電図による咀嚼筋活動との関係について

て検討した報告は多くみられる。

筆者らの教室では前述したテクスチュロメーターによる物性値がヒトの咀嚼筋活動とどのような関係にあるかを検討するため、物性特性が異なる代表的食物11種を選び筋電図による咀嚼筋活動を測定した。

その結果、物性の固さ、凝集性、ひずみの積によって求められる値が咀嚼筋活動量と良好に対応することが明らかになり、この値を“噛みごたえ”と称して前記144品の食品について咀嚼筋活動量の大きさによって表6に示す食品群別に10段階に分類した。表7はこれらの食品分類をもとにして作製した日常の摂取食品の噛みごたえ度評価のスクリーニング調査票である。

塩野らは、咀嚼機能量の測定用に開発され

表5 食品物性による分類 (テクスチュロメーターによる測定)

食 物 型		食 物
基 本 型		かぶ(ゆで)、大根(ゆで)、人参(ゆで)、白菜(ゆで)、アスパラガス(缶)、トマト、パイナップル、スイカ、メロン、いちご、白桃(缶)、みかん(缶)、ふ菓子
I 型	グループ1	まぐろ(生)、塩ざけ(生)、ぶり(生、焼)、かつお(生)、銀だら(蒸)、フィッシュフライ、うなぎ白焼、肉だんご、ひき肉パン粉焼き、だしまき卵、卵焼き、ゆで卵黄、グリーンピース、大豆水煮、なす(蒸)
	グループ2	塩ざけ(焼)、まぐろ(ゆで、蒸、焼)、ゆでえび、イカ(ゆで)、焼豚、鶏もも(蒸ゆで、焼)、ミンチステーキ(焼)、スイートコーン、なす(生)、マッシュルーム
	グループ3	豚もも(焼、ゆで)、豚ヒレ(焼)、レバー(焼)、ささみ(ゆで)、なまりぶし
II 型	グループ1	バタークッキー、ウェハース、ブリッツ、ピーセン、甘納豆、玉ねぎ(ゆで)、枝豆(ゆで)、アスパラガス(ゆで)、黄桃(缶)
	グループ2	スナック菓子、えびせん、かりんとう、柿の種、りんご、なし、長芋、ごぼう(ゆで)
	グループ3	ソフトせんべい、カンパン、かぶ(生)、アーモンド
付着型	グループ1	じゃが芋(ゆで)、さつま芋(ゆで)、さと芋(ゆで)、かぼちゃ(ゆで)、マッシュポテト、スイートポテト、うずら豆、バナナ、クリームチーズ、納豆、コンビーフ
	グループ2	ごはん(白米、胚芽米、玄米)、うどん、ラーメン、スパゲッティー、かゆ、いろいろ、ゆで小豆、ブルーベリー
	グループ3	白玉だんご、くしだんご、もち
ス ポ ン ジ 型		カステラ、スポンジケーキ、ケーキ台、食パン、菓子パン、凍豆腐、油あげ
ゲル型	グループ1	豆腐(絹ごし、木綿)、卵豆腐、ゼリー、寒天(みつ豆)
	グループ2	ソーセージ、魚肉ソーセージ、プレスハム、さつまあげ、こんにゃく、ゆで卵白
	グループ3	つみれ、ちくわ、かまぼこ

(柳沢らより)

たゼラチンゼリーの物性を検討するため4段階の硬さと5種類の大きさと形を変えたゼラチンゼリーについて筋活動量を測定した結果

表8に示すような相関係数を得ている。

これによると体積、咀嚼回数などの因子と筋活動量との相関係数が高いことが分かる。

表6 噛みごたえ(咀嚼筋活動)による食物分類

ランク	穀物	芋・豆	肉	魚介	卵・乳	野菜	果物種実	菓子
① 0~200 ^a		豆腐(絹ごし・木綿)・さつま芋・マッシュポテト・じゃがいも・さといも			茶わん蒸し・卵豆腐	かぼちゃ(茹)・カブ(茹)・アスパラ(缶)・だいこん(茹)	メロン スイカ	プリン・ゼリー・水羊かん・みつ豆寒天
② 200~400		スイートポテト・うずら豆	コンビーフ	ぶり焼・うなぎ焼・鮭刺身・ぶり刺身	クリームチーズ・ゆで卵黄・だしまき卵	トマト・にんじん(茹)・白菜(茹)・蒸しなす・揚げなす・玉ねぎ(茹)・枝豆	パイ(缶) いちご 白桃(缶) 黄桃(缶) バナナ みかん(缶)	バター・クッキー・ウェハース・ふ菓子・スポンジケーキ・カステラ
③ 400~600	食パン	大豆水煮 納豆	ロースハム ソーセージ 肉だんご	銀ダラ焼・まぐろ刺身・さつまあげ・魚肉ソーセージ	ゆで卵白 卵焼	グリンピース(茹)		ブリッツ クラッカー ポテトチップ いろいろ
④ 600~800	うどん 即席めん	コンニャク	プレスハム	つみれ	プロセスチーズ	ふき(茹) ごぼう(茹)	なし りんご ブルーベリー	甘納豆・えびせん・スナック菓子・ソフトせんべい・羊かん
⑤ 800 ~1,000	白玉だんご	長芋	チャーシュー	かつお刺身 まぐろ焼 ちくわ 塩焼 かまぼこ		わかめ・さやいんげん*・ほうれん草*・もやし*・きゅうり・ビクルス・アスパラ*・カブ(生)・カブ(つけもの)・さやえんどう・たけのこ*・しいたけ・スイートコーン(缶)	ピーナツ	
⑥ 1,000 ~1,200	串だんご・スパゲティ	フライドポテト		モンゴイカ(茹)・かつお角煮・ゆでえび・ほたて貝(茹)		きゅうり(生)・はくさい(生)・マッシュルーム・なす(生)・レタス・ピーマン・ソーテ・きゅうり(つけもの)・だいこん(生)		
⑦ 1,200 ~1,400	もち ピザ皮	凍豆腐	蒸し鶏・チキンソテー・レバーソテー・ミンチソテー	いか刺身 身欠にしん 酢だこ		はくさい(つけもの)・らっきょう甘酢づけ・うど(生)	アーモンド・干しぶどう	かりんとう
⑧ 1,400 ~1,600	カンパン	油あげ		なまりぶし・いわしつくだ煮		酢レンコン・キャベツ(生)		
⑨ 1,600 ~1,800			豚ヒレソテー・豚モモ(茹)・牛モモソテー			セロリ(生)・にんじん(生)		
⑩ 1,800~				さきいか みりん干し		たくあん		

a : 咀嚼活動量 ($\mu V \cdot sec$), * : ゆでたもの

表 7 咀嚼機能調査票とその評価法

咀嚼機能調査票

次の食品について、下の回答項目よりあてはまるものを選んで〔 〕の中に書き入れて下さい。

記載者

本人用

〔○〕 …よく噛んで食べられる

〔△〕 …あまりよく噛めない
(噛むことがむずかしい)

〔×〕 …嫌いで食べない

1. 油あげ

〔 〕

2. いか刺身

〔 〕

3. えびせん

〔 〕

4. カステラ

〔 〕

5. かまぼこ

〔 〕

6. キャベツ生

〔 〕

7. きゅうり生

〔 〕

8. 牛ももソテー

〔 〕

9. グリーンアスパラ

〔 〕

10. こんにゃく

〔 〕

11. 食パン

〔 〕

12. スパゲティ

〔 〕

13. ソーセージ

〔 〕

他者(保護者など)用

〔○〕 …よく噛んで食べている
(噛んでいない)

〔△〕 …よく噛めないよう
(噛むことをいやがる)

〔×〕 …嫌いで食べない

14. チーズ

〔 〕

15. チキンソテー

〔 〕

16. 豆腐

〔 〕

17. トマト

〔 〕

18. にんじん生

〔 〕

19. パナナ

〔 〕

20. ピーナツ

〔 〕

21. フライドポテト

〔 〕

22. プリン

〔 〕

23. 干ぶどう

〔 〕

24. まぐろ刺身

〔 〕

25. りんご

〔 〕

食事の速さは、他のもの(子ども)に比べ

① 早いと思う

② 普通

③ 遅いと思う

咀嚼状態の評価 _____ ランク

咀嚼筋活動量による“噛みごたえ”ランクと評価法

段階 (筋活動量)	食 品	ランク 分 類
1 0～200 ^a	とうふ、プリン	1
2 200～400	トマト、バナナ、カステラ	
3 400～600	食パン、ソーセージ、まぐろ刺身	
4 600～800	こんにゃく、りんご、えびせん、チーズ	2
5 800～1000	かまぼこ グリーンアスパラ、ピーナツ	
6 1000～1200	スパゲティ、フライドポテト、きゅうり生	3
7 1200～1400	チキンソテー、いか刺身、干ぶどう	
8 1400～1500	油あげ、キャベツ生	4
9 1600～1800	牛ソテー、にんじん生	

(144食品噛みごたえ表より上記食品を選択)

表 8 各種ゼリー（全ての硬さ、形状を含む）の重量、体積、咀嚼時間、咬筋積分値の相関関係

	体 積	咀嚼回数	咬筋積分値
重 量	0.998607***	0.627500*	0.660466**
体 積	—	0.625976*	0.660259**
咀嚼回数	—	—	0.950469***
咀嚼時間	—	0.986153***	0.981644***

* : P<0.05 ** : P<0.01 *** : P<0.001
(塩野らより)

このように咀嚼筋活動量が既知のゼラチンゼリーを用いることにより簡便に咀嚼機能が

測定可能になったとしている。

6. 咀嚼の育成を考慮した日常食品の調理形態について

われわれは、日常生活で食物をおいしく楽しく食べることが大切である。また、発達期の子どもでは食物を栄養学的な面から考慮して摂取することも重要である。

筆者らの幼稚園児を対象にした調査によると、咀嚼能力に問題ある小児は、生野菜類の摂取が少

なく、また、野菜の調理が細かく切ることが多いとしている。

現代の子ども達は野菜類の摂取が少ないことはよく知られている。生野菜を千切り状にして摂取すると咀嚼回数は増加するが、摂取量は少なくな

る。一方、野菜を炒めたり、煮たりすると摂取量は増加するが、咀嚼回数は減少するという矛盾があり、実際の指導ではこのような両面を常に考慮することが必要であろう。





●座 長 日本大学松戸歯学部教授 森 本 基

シンポジウム

●報告者 日本大学松戸歯学部教授 森 本 基

幼稚園・保育所(園)部会

●報告者 日本大学松戸歯学部教授 森 本 基

小学校部会

●報告者 明海大学歯学部教授 中 尾 俊 一

中学校部会

●報告者 日本学校歯科医会常務理事 中 脇 恒 夫

高等学校部会

●報告者 東京医科歯科大学歯学部教授 岡 田 昭五郎

口腔機能部会

●報告者 東京医科歯科大学歯学部教授 黒 田 敬 之

全体協議会



司 会

日本学校歯科医会副会長

議長団

日本学校歯科医会副会長

前回開催地代表（埼玉県歯科医師会会長）

次回開催地代表（愛知県歯科医師会会長）

今回開催地代表（富山県学校歯科医会会長）

西連寺 愛 憲

木 村 慎一郎

蓮 見 健 壽

宮 下 和 人

黒 木 正 直

報 告

第57回大会採択事項の処理報告

埼玉県歯科医師会会長

蓮 見 健 壽

議 事

- 1号議案 ● 地方交付税積算基準による学校医等の手当での完全支給を要望する
 〈代表提案者〉 青森県学校歯科医会
- 2号議案 ● CO・GOならびに咀嚼機能の問題について教育的周知の徹底を要望する
 〈代表提案者〉 福島県学校歯科医会
- 3号議案 ● 学校保健委員会の設置ならびに活動の充実を強く要望する
 〈代表提案者〉 富山県学校歯科医会

第1号議案

地方交付税積算基準による学校医等の手当の完全支給を要望する

代表提案者 青森県学校歯科医会

●提案理由●

公立学校の学校医・学校歯科医・学校薬剤師の報酬（以下学校医等の手当てという）は、地方交付税の標準団体行政経費積算内容に示されている通り小学校・中学校については市町村分として、高等学校分については都道府県分として、それぞれ「教育費」の中の報酬の非常勤校医手当として積算され、国から地方自治体へ交付されている。

しかしながら、地方交付税にはその使途に拘束力がないことから一部の地域を除いては、学校医等の手当ては積算通りには支給されず、自治体の他事業へ流用されているのが実情である。

国の将来を担う児童生徒等の健康を真に願う時、児童生徒の健康を管理し種々助言指導を行う学校医等の職責を考えるならば、学校医等の手当ては、最低限地方交付税に積算されている通りに支給されてしかるべきである。

また、地方交付税には積算されていないが、私立学校の学校医等もこれに準じた報酬が支給されるべきではないだろうか。

ここに、学校医等の手当ては、最低限地方交付税の積算通り完全に支給されるよう要望するとともに私立学校の学校医等についても、これに準じた額を支給するように行政指導を望むものである。



第2号議案

CO・GOならびに咀嚼機能の問題について教育的周知徹底を要望する

代表提案者 福島県学校歯科医会

- 提案理由● 近年の疾病構造の変化あるいは国民の健康志向を受けて、歯科分野においても種々運動が展開され、日本学校歯科医会でも「CO」「GO」の設定あるいは咬合咀嚼機能の問題に取り組んでいることは評価に値する。

しかしながら、これらの問題についてはまだその趣旨が現場に不徹底であることが見受けられ一種の混乱も生じている。

そこで会員はもとより会員外の地域医療機関に従事する者あるいは学校教育関係へも周知徹底を図るため、関係機関と協力して教育的な周知徹底を図ることを要望する。

第3号議案

学校保健委員会の設置ならびに活動の充実を強く要望する

代表提案者 富山県学校歯科医会

- 提案理由● 本件と同様の協議題は、平成元年10月に開催された第53回全国学校歯科保健研究大会から平成3年開催の第55回全国学校歯科保健研究大会まで3年連続して上程され、同大会参加者の多数の賛成のもとに決議され要望してきた。

つまり健康問題についてはもちろん、近年の児童生徒の諸問題（非行・自殺・いじめ等）は、その根底に幼い時から家庭・学校・社会の十分な配慮と指導が受けられなかったことが背景にあり、それらへの対処として学校・地域・家庭等が一丸となって取り組める児童生徒を中心とした学校保健委員会の設置と活性化が必要であるとの認識に立ち、かつ学校保健委員会が学校保健法第2条「学校保健安全計画」に関わる形で、文部省体育局長通達の「学校保健法・同施行令の施行に伴う実施基準について」によって定められているにもかかわらず未設置か、設置されていても十分な活動がなされていない学校も多数見受けられる現実を踏まえてのものであった。

以後3年が経過したが、未だに改善されていない学校も多く見られるので、児童生徒の健やかな発育と心身ともにたくましい子どもの育成を目指して「学校保健委員会の設置ならびに活動の充実」を図るよう行政指導を重ねて要望する。

社団法人日本学校歯科医会加盟団体名簿（平成6年12月現在）

会 名	会長名	〒	所 在 地	電 話
北海道歯科医師会	甲斐 雅喜	060	札幌市中央区北1条東9-11	011-231-0945
札幌歯科医師会学校歯科医会	尾崎 精一	064	札幌市中央区南七条西10丁目 札幌歯科医師会内	011-511-1543
青森県学校歯科医会	立花 義康	030	青森市長島1-6-9 東京生命ビル7F	0177-34-5695
岩手県歯科医師会	高橋 俊哉	020	盛岡市下の橋2-2	0196-52-1451
秋田県歯科医師会	豊間 隆	010	秋田市山王2-7-44	0188-23-4562
宮城県学校歯科医会	松尾 學	980	仙台市青葉区国分町1-6-7 県歯科医師会内	022-222-5960
山形県歯科医師会	有泉 満	990	山形市十日町2-4-35	0236-22-2913
福島県歯科医師会学校歯科医部会	菅田雄一郎	960	福島市仲間町6-6 県歯科医師会内	0245-23-3266
茨城県歯科医師会	秋山 友蔵	310	水戸市見和2-292	0292-52-2561
栃木県歯科医師会	槇石 武則	320	宇都宮市一の沢町508	0286-48-0471
群馬県学校歯科医会	今成 虎夫	371	前橋市大友町1-5-17 県歯科医師会内	0272-52-0391
千葉県歯科医師会	石井 昭	260	千葉市中央区千葉港5-25 県医療センター内	043-241-6471
埼玉県歯科医師会	蓮見 健壽	336	浦和市高砂3-13-3 衛生会館内	0488-29-2323
東京都学校歯科医会	西連寺愛憲	102	千代田区九段北4-1-20 新歯科医師会館2F	03-3261-1675
神奈川県歯科医師会学校歯科部会	加藤 増夫	231	横浜市中区住吉町6-68 県歯科医師会内	045-681-2172
横浜市学校歯科医会	森田 純司	230	横浜市鶴見区鶴見中央5-2-4 森田歯科内	045-501-2356
川崎市歯科医師会学校歯科部会	窪田 敏昭	210	川崎市川崎区砂子2-10-10 市歯科医師会内	044-233-4494
山梨県歯科医師会	武井 芳弘	400	甲府市大手町1-4-1	0552-52-6481
長野県歯科医師会	桐原 成光	380	長野市岡田町96	0262-27-5711
新潟県歯科医師会	岡田 恒雄	950	新潟市堀之内南3-8-13	0252-83-3030
静岡県学校歯科医会	庄司 誠	422	静岡市曲金3-3-10 県歯科医師会内	0542-83-2591
愛知県歯科医師会	宮下 和人	460	名古屋市中区丸ノ内3-5-18	052-962-9101
名古屋市学校歯科医会	田熊 恒寿	460	名古屋市中区三ノ丸3-1-1 市教育委員会体育保健課内	052-972-3246
岐阜県歯科医師会	総山 和雄	500	岐阜市加納城南通1-18 県口腔保健センター内	0582-74-6116
三重県歯科医師会	中村 宗矩	514	津市桜橋2-120-2	0592-27-6488
富山県学校歯科医会	黒木 正直	930	富山市新総曲輪1 県教育委員会福利保健課内	0764-32-4754
石川県歯科医師会	竹内 太郎	920	金沢市神宮寺3-20-5	0762-51-1010
福井県学校歯科医会	天谷 信哉	910	福井市大願寺3-4-1 県歯科医師会内	0776-21-5511
滋賀県歯科医師会	諸頭 昌彦	520	大津市京町4-3-28 県厚生会館内	0775-23-2787
和歌山県学校歯科医会	辻本 信輝	640	和歌山市築港1-4-7 県歯科医師会内	0734-28-3411
奈良県歯科医師会	林 秀彦	630	奈良市二条町2-9-2 県歯科医師会内	0742-33-0861
京都府歯科医師会	鈴木 實	603	京都市北区紫野東御所田町33	075-441-7171
大阪府学校歯科医会	大内 隆	543	大阪市天王寺区堂ヶ芝1-3-27 府歯科医師会内	06-772-8881
大阪市学校歯科医会	松岡 博	543	大阪市天王寺区堂ヶ芝1-3-27 府歯科医師会内	06-772-8881
兵庫県学校歯科医会	村井 俊郎	650	神戸市中央区山本通5-7-18 県歯科医師会内	078-351-4181
神戸市学校歯科医会	橋川 司	650	神戸市中央区山本通5-7-17 市歯科医師会内	078-351-0087
岡山県歯科医師会学校歯科医部会	横山 好文	700	岡山市石関町1-5 県歯科医師会内	0862-24-1255
鳥取県歯科医師会	林 伸伍	680	鳥取市吉方温泉3-751-5	0857-23-2622

会 名	会長名	〒	所 在 地	電 話
広島県歯科医師会	松島 悌二	730	広島市中区富士見町11-9	082-241-5525
島根県学校歯科医会	田中 端穂	690	松江市南田町141-9 県歯科医師会内	0852-24-2725
山口県歯科医師会	永富 稔	753	山口市吉敷芝添3238	0839-28-8020
徳島県学校歯科医会	白神 進	770	徳島市北田宮1-8-65 県歯科医師会内	0886-31-3977
香川県歯科医師会	西岡 忠文	760	高松市錦町1-9-1	0878-51-4965
愛媛県歯科医師会	河内悌治郎	790	松山市柳井町2-6-2	0899-33-4371
高知県歯科医師会学校保健部	西野 恭正	780	高知市比島町4-5-20	0888-24-3400
福岡県学校歯科医会	有吉 茂實	810	福岡市中央区大名1-12-43 県歯科医師会内	092-714-4627
福岡市学校歯科医会	大里 泰照	810	” ”	092-781-6321
佐賀県学校歯科医会	門司 健	840	佐賀市西田代町2-5-24 県歯科医師会内	0952-25-2291
長崎県歯科医師会	宮内 孝雄	850	長崎市茂里町3-19	0958-48-5311
大分県歯科医師会	吉村 益見	870	大分市王子新町6-1	0975-45-3151
熊本県歯科医師会	鬼塚 義行	860	熊本市坪井2-3-6	092-343-4382
宮崎県歯科医師会	松原 和夫	880	宮崎市清水1-12-2	0985-29-0055
鹿児島県学校歯科医会	大殿 雅次	892	鹿児島市照国町13-15 県歯科医師会内	0992-26-5291
沖縄県歯科医師会学校歯科医会	又吉 達雄	901-21	浦添市字港川1-36-3 県歯科医師会内	0988-77-1811

社団法人日本学校歯科医会役員名簿 (任期：平成5年4月1日～平成7年3月31日)
(順不同)

役員名	〒	住 所	TEL	FAX
会 長 加藤 増夫	236	神奈川県横浜市金沢区寺前2-2-25	045-701-9369	045-784-7737
副 会 長 西連寺愛憲 (専務理事を兼務)	176	東京都練馬区向山1-14-17	03-3999-5489	03-3999-5428
” 木村慎一郎	575	大阪府四条畷市楠公2-8-25	0720-76-0275	0720-79-5231
” 西野 恭正	780	高知県追手筋1-6-3 千頭ビル2F	0888-23-5252	0888-75-3467
常務理事 立花 義康	031	青森県八戸市大工町16-2	0178-22-7810	0178-47-0372
” 郷家 智道	980	宮城県仙台市若林区南鍛冶町30	022-223-3306	022-223-3306
” 神戸 義二	372	群馬県伊勢崎市本町5-7	0270-25-0806	0270-23-5138
” 湯浅 太郎	260	千葉県千葉市中央区富士見2-1-1 ニュー千葉ビル内大百堂歯科医院	043-227-9311	043-222-0552
” 麻生 敏夫	330	埼玉県大宮市堀之内3-283-2	048-647-8504	048-647-4784
” 石川 實	178	東京都練馬区東大泉6-46-7	03-3922-2631	03-3923-0007
” 中脇 恒夫	151	東京都渋谷区上原3-9-5	03-3467-2030	03-3467-2030
” 五十嵐武美	239	神奈川県横須賀市ハイランド1-55-3	0468-48-3409	0468-49-6928
” 生駒 等	550	大阪府大阪市西区北堀江1-11-10	06-531-6444	06-533-3529
” 中森 康二	674	兵庫県明石市魚住町清水553-1	078-946-0089	078-947-5840
” 藤岡 道治	738	広島県廿日市市地御前1-9-30	0829-36-1666	0829-36-2196
” 有吉 茂實	811-32	福岡県宗像郡福岡町2745-10	0940-42-0071	
理 事 櫻井 善忠	116	東京都荒川区西日暮里5-14-12 太陽歯科	03-3805-1715	03-3801-6499
” 齋藤 浩	960	福島県福島市郷野日字上2	0245-46-6405	0245-46-6429
” 野溝 正志	316	茨城県日立市東金沢町5-4-18	0294-34-4130	0294-34-5852
” 梅田 昭夫	136	東京都江東区大島7-1-18	03-3681-4589	03-3684-2288

役員名		〒	住 所	TEL	FAX
理 事	片山 公平	420	静岡県静岡市西草深町17-6	054-253-6800	054-253-6800
"	藤井 宏次	456	愛知県名古屋市中熱田区千代田町17-8 食品ビル2 F	052-682-3988	052-682-8189
"	羽田 義彦	502-24	岐阜県揖斐郡池田町池野217	0585-45-2073	0585-45-2073
"	中島 清則	930	富山県富山市中央通1-3-17	0764-21-3871	
"	人見 晃司	520	滋賀県大津市昭和町9-16	0775-25-4307	0775-25-4307
"	浅井 計征	615	京都府京都市西京区松尾木ノ曾町58-5	075-391-0118	075-392-8166
"	篠田 忠夫	545	大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋4-3-10	06-622-1673	06-622-1673
"	岡田 誠一	652	兵庫県神戸市兵庫区神明町1-24	078-681-1353	078-681-1353
"	松下 忍	760	香川県高松市天神前5-23	0878-33-1560	0878-33-1560
"	瀬口 紀夫	893	鹿児島県鹿屋市西大手町6-1	0994-43-3333	0994-42-0616
監 事	佐藤 裕一	997	山形県鶴岡市山王町7-21	0235-22-0810	0235-22-2737
"	秋山 友蔵	310	茨城県水戸市棚町3-2-9	0292-25-2727	
"	平塚 哲夫	600	京都府京都市下京区新町通松原下ル富永町103	075-351-5391	075-351-5391
顧 問	中原 爽	167	東京都杉並区松庵1-17-4	03-3332-5475	
"	関口 龍雄	176	東京都練馬区貫井2-2-5	03-3990-0550	
"	榎原悠紀田郎	222	神奈川県横浜市港北区富士塚1-11-12	045-401-9448	
参 与	宮脇 祖順	546	大阪府大阪市東住吉区南田辺2-1-8	06-692-2515	
"	板垣正太郎	036	青森県弘前市蔵主町3	0172-36-8723	
"	西沢 正	805	福岡県北九州市八幡東区尾倉1-5-31	093-662-2430	
"	川村 輝雄	524	滋賀県守山市守山町56-1	0775-82-0885	
"	藤井 勉	593	大阪府堺市上野芝町1-25-14	0722-41-1452	
"	齋藤 昇	980	宮城県仙台市青葉区五橋2-11-1 ショーケー本館ビル11 F	022-225-3500	022-221-8466
"	高橋 一夫	112	東京都文京区関口1-17-4	03-3268-7890	
"	鈴木 實	602	京都府京都市上京区河原町通今出川西入 上ル三芳町150-2	075-231-4706	
"	松岡 博	558	大阪府大阪市住吉区住吉1-7-34	06-671-2969	
"	八竹 良清	664	兵庫県伊丹市伊丹5-4-23	0727-82-2038	0727-82-2011
"	川口 吉雄	640	和歌山県和歌山市上野町1-1-2 浅見ビル内	0734-23-0079	
"	石川 行男	105	東京都港区西新橋2-3-2 ニュー栄和ビル4 F	03-3503-6480	
"	有本 武二	601	京都府京都市南区吉祥院高畑町102	075-681-3861	
"	齋藤 尊	179	東京都練馬区土支田3-24-17	03-3924-0519	03-3921-1306
"	多名部金徳	535	大阪府大阪市旭区千林2-6-7	06-951-6397	
"	田熊 恒寿	470-01	愛知県日進市岩崎町芦廻間112-854	05617-3-2887	
"	朝浪 惣一	424	静岡県清水市入江1-8-28	0543-66-5459	

編集後記

◆小学校、中学校、高校で、「いじめ」そして「自殺」がまるで連鎖反応のように、あちこちで起きています。今後、その原因の究明、分析がなされ、防止策が講じられると思われますが、言い古された言葉で「健全な精神は健全な肉体に宿る」が思い出されます。規則正しい食事、ブラッシング等のリズムカルな生活習慣で培われた健全な肉体、そこに宿る健全な精神、と結び付けて考えるのは短絡的過ぎるでしょうか？
(佐藤貞彦)

◆会誌72号をお届け致します。65号より編集委員として参画し、先日思わぬ事で当会誌の第1号（創刊号）を見る機会がありました。この第1号会誌は学校歯科保健史話（榊原悠紀田郎著）によると、昭和31年札幌市で開催された第20回学校歯科医大会、すなわち現在の全国学校歯科保健研究大会の記録を別刷として編集して発行したものです。

このところの編集委員会では時々会誌の表紙について話題にのぼります。表紙は雑誌の顔といわれますが、これまでに5回デザインを変えて現在のものに落ち着き、昭和42年より27年間使われています。今後とも先生方のご期待にそえる充実した会誌作りを目指したいと思います。ご愛読下さいますようお願いいたします。
(松谷眞一)

◆全国学校歯科保健研究大会が、平成6年度は富山県で開催されました。58回を数えています。正に歴史と伝統を物語っています。最近は何の地で開催しても参加者が多く内容も充実しています。特に学校関係者の出席が多いのは望ましいことです。

「改革」を広辞苑で調べると、改めかえること、改まりかわることと書いてあります。戦後50年の歩みの中にも学校歯科保健は必要に応じてより良き改革を行い成果を上げています。これも関係者全ての情熱と協力の賜です。ボランティア精神に基づいた地道な活動により成り立っている学校歯科保健は、繰り返し継続し続けることが大切であり、尊いのではないのでしょうか。
(出口和邦)

◆大型の台風が北上しているニュースを気にしながら9月29日午前7時50分羽田を発った。1時間35分で富山空港に着く。開会式・表彰式に次いで富永一朗氏の記念講演は漫画ペースの話に1時間20分は早過ぎる位に終わる。次いでシンポジウムは沖縄県の学校歯科医より「顎口腔系の健全な発達を考えた歯科保健指導」が提案された。学校健診時常に考えられることである。

懇親会場は台風の接近だろうか、いつもの会場より空いているようだ。会場の魚は日本海の荒波にもまれたもので美味しかった。翌朝次第に荒くなった風雨を気にしながらそれぞれの公開授業に出席しに行った。
(菅谷和夫)

◆日学歯と学校歯科医との間の重要なパイプ役を果たしている会誌です。毎号委員が現地に出向いて取材をし、担当されている先生方のご努力で充実したものになっています。送られてくるものについては、出来るだけ目を通していただきたいと思います。そして児童生徒の健康保全に良い成果を挙げていただきたい。特に平成7年度から、学校における健康診断の改定に伴い、児童生徒健康診断票が大幅に改正となりますので是非ご協力ください。
(片山公平)

◆本号（72号）は、昨年9月29日・30日の両日富山県で開催されました第58回全国学校歯科保健研究大会の大会要項から抜粋した内容記事を主体に致しております。大会にご出席の皆様は要項をお持ちですので、より詳しい情報がおありになりますが、日学歯の全国2万1千の会員の90%以上は大会要項が手に入りません。そこで編集委員が手分けをして抜粋作業を致し、会員の皆様の日常の学校歯科保健活動にプラスになる資料として会誌に登載致しております。一方記録保存の使命も果たさせていただいてるつもりですので、大いにご活用いただきますようお願い申し上げます。
(櫻井善忠)

日本学校歯科医会会誌 第72号

印刷 平成7年2月20日

発行 平成7年2月28日

発行人 日本学校歯科医会 西連寺愛憲
東京都千代田区九段北4-1-20
TEL (03)3263-9330 FAX (03)3263-9634

編集委員 佐藤貞彦・出口和邦・菅谷和夫・
松谷眞一・櫻井善忠(担当理事)
片山公平(担当理事)

印刷所 一世印刷株式会社